

山友

創立 30 周年記念号



創立記念山行 姫神山
(2016. 9. 4)



創立記念山行 岩手山
(2016. 9. 4)

第 28 号
2016.11.26

岩手県勤労者山岳連盟



盛岡山友会

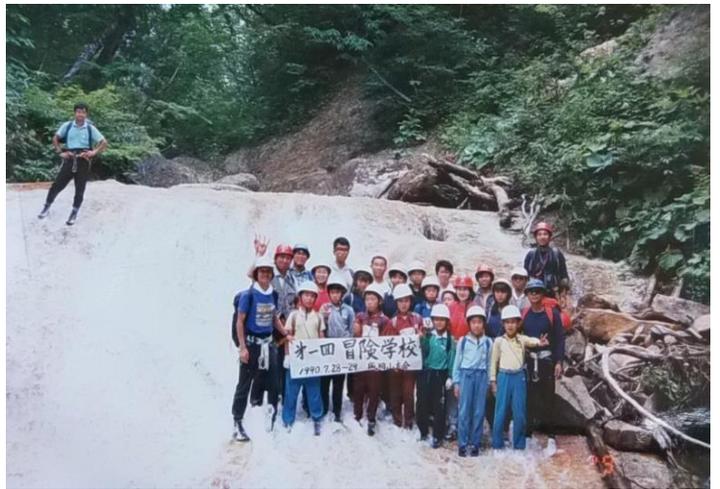


創立(1986年)～10周年(1996年)



1988. 9
猿岩
岩登リルートへの会初挑戦

1990. 7
第1回こども冒険学校
葛根田 北白沢



1992. 10
5周年記念海外山行
ネパールトレッキング



1996. 9
10周年記念登山
岩手山



10周年～20周年(2006年)



1997. 8
還暦山行 1日三山
(早池峰山→姫神山→岩手山)



2000. 12
鶏頭山

2006. 6
20周年記念山行
焼石岳(20回山行の一つ)



2006. 11
20周年祝賀会



盛岡山友会 創立 20 周年祝賀会 2006・11・25

20周年～30周年(2016年)



2008. 10
東日本女性登山交流会
岩手山

2013. 9
県連県外山行
蝶ヶ岳(常念岳・蝶ヶ岳周回)



2008. 9
県連県外山行
鳳凰三山



2010. 7
県外バス山行
南蔵王縦走

2013. 1
新年山行
兜明神岳、岩神山



2016. 4
上東山、下東山
残雪を登る

30周年記念国内山行



2016. 6
尾瀬 燧ヶ岳 長英新道コース



2016. 7
富士山 富士吉田コース



30周年記念海外山行

2016. 4
台湾 雪山、玉山



雪山山頂



雪山登山口

2016. 7
ヨーロッパアルプス シャモニーとツェルマツト



ヴァレ・ブランシェ（白い谷）氷河横断



マッターホルン朝焼け



エギュ・デュ・ミディからのパノラマ

志向別グループ

心のスケッチ山行クラブ



2013. 6
薬師岳
雨量計がある稜線でスケッチ

ウイークディクラブ

2014. 10
泥湯三山(小安岳、高松岳、山伏岳)
避難小屋～高松岳の稜線を望む



四季の山



2016. 8
和賀岳
和賀川の徒渉がおもしろい

岩手の名山歩こうかい



2015. 10
三ツ石山
三ツ石湿原の木道を進む

グループゆうゆう

2016. 3
砥森山
下山後のプラスアルファが楽しみ



県境の風



2016. 4
三界山
瘦尾根の通過

グループ銀世界



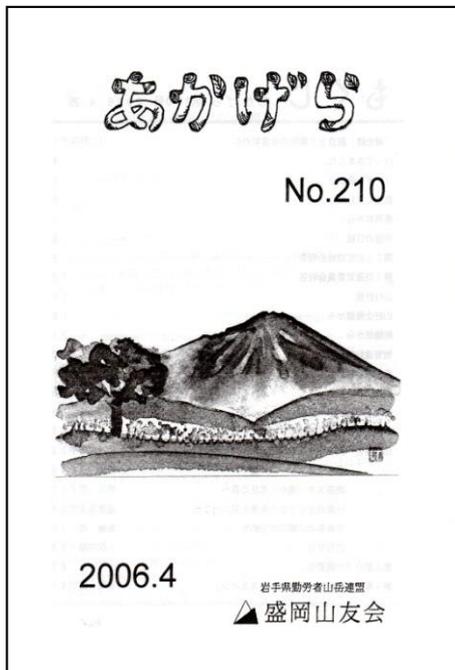
2011. 2
八幡平
雲海から昇る日の出



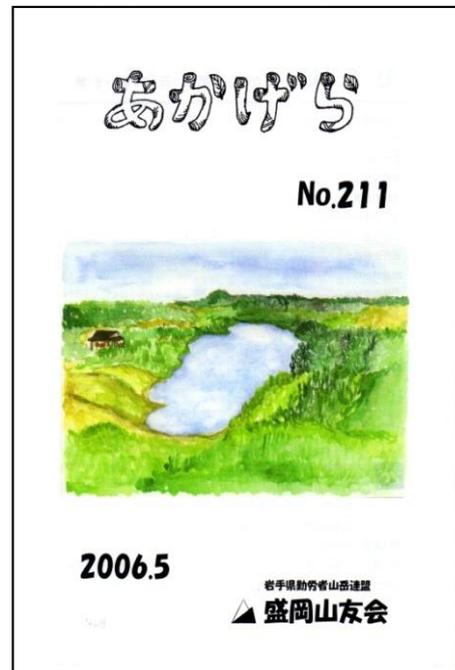
2016. 1
三ツ石山
快適な三ツ石山荘

2006. 5 機関誌「あかげら」表紙カラー化

最後のモノクロ表紙



最初のカラー表紙



自然保護活動



2011. 7
岩手山 奥の宮周辺
清掃活動

2012. 7
岩手山 清掃登山



2013. 5
早池峰山
し尿ボトル詰め、梱包



2007. 4
「小さな親切」実行章 受賞

登山教室



2016. 6
登山教室 三ツ石山

2016. 6
登山教室 鞍掛山



救命・救助講習

2013. 9 救命・救急法講習会



2014. 1 冬山救助訓練



登山技術講習



2009. 12
冬山入門講座
鶏頭山



2008. 2
アイスクライミング
川井村 大峠

2012. 5
ピッケル・アイゼン講習会
八幡平 見返峠付近

2012. 7
沢登り入門講座
小和瀬川 大沢



目 次

巻頭写真

● 挨拶・祝文

創立 30 周年記念誌発刊にあたって 会長 渡邊 健治	1
創立 30 周年記念誌発刊に寄せて	
日本勤労者山岳連盟 理事長 浦添 嘉徳	3
岩手県勤労者山岳連盟 理事長 平井 正	4
初代会長 五嶋 十三、第二代会長 扇 等、第四代会長 村山 正三	5

● 盛岡山友会創立 30 周年記念事業

□ 記念事業概要 三浦 明夫	9
□ 記念品作成報告 中村 美栄子	10
□ 記念講演、PR 展示報告 三浦 明夫	12
□ 記念国内山行・山行報告 千田 勝則	18
・ 尾瀬 燧ヶ岳 (6 月)	20
・ 富士山 (8 月)	22
・ 岩手山 (9 月)	29
・ 姫神山 (9 月)	35
□ 記念海外山行・山行報告	37
・ 台湾 雪山、玉山 (5 月)	38
・ ヨーロッパアルプス シャモニーとツェルマット (7 月)	40

● 創立 30 周年記念企画

□ 30 周年記念座談会 「盛岡山友会 30 周年 新たなる時代へ」 — 会員と共に歩む山友会の魅力と将来展望 —	49
□ 志向別山行グループの発足から 17 年を振り返る	65
□ 県境の風 活動記録	80

● 創立 30 周年記念 会員のひとこと

「山の ^{たの} しみと登山以外の ^{たの} しみ」	108
--	-----

● 寄稿 (創立 30 周年に寄せて)

山行記、エッセイ、俳句、短歌	124
----------------	-----

● 年表・盛岡山友会の 30 年

	138
--	-----

● 盛岡山友会 30 年間の役員・委員名簿

	146
--	-----

● 10 年間の山行実績

□ 創立 20 周年以降の山行実績〔会山行〕	152
□ 過去 1 年間の山行実績〔会山行〕	183
□ 過去 10 年間の海外山行一覧	188

● 盛岡山友会会員名簿

	189
--	-----

● 編集後記

	191
--	-----

● 挨拶・祝文

創立 30 周年記念誌発刊にあたって

会長、第三代会長 渡邊 健治

会創立から 30 年が経った。13 人の設立会員の一人として、結成当初から会運営に関わってきた立場で振り返ってみたい。

1986 年 9 月、県公会堂に集まった 13 人のほとんどは、無雪期の登山道歩きしか経験がなかった。岩登りや雪山は、小説や紀行文の世界でしか知らなかった。山岳会の運営ノウハウもなく、実質はハイキング主体の仲良しクラブとして誕生した。そのときは、誰も今のようないろんな総合山岳会になるとは思っていなかったろう。

変身の理由は、「老若男女、経験の有無を問わず誰でも会員に受け入れる」という会の基本姿勢にある。そのことが、個性あふれる多才な仲間を増やし、活動の領域をどんどん広げていった。そのベースには、「会員一人ひとりが主人公」という民主的な会運営があり、初心者もベテランも、若者も高齢者も、対等な立場で議論し活動できたからだと思う。

盛岡山友会は、登山愛好者の様々な思いを実現できる場として、結成 10 年足らずで会員 100 人を超える山岳会となり、存在感もうなぎ上りに高まった。この時期に、市民向けの初級登山教室や会員向けの技術講習会、機関紙「あかげら」の定期発行など、現在も続く会活動のバックボーンが出来上がっていった。

一方で、多様性が軋轢や不満を生み、事故防止対策が徹底されないなど、大世帯ならではの課題が持ち上がっていった。ハイキング(軽登山)と登山を分けて考えることを止めたのもこの時期である。会の中で見えない垣根のようなものが出来て、会としての一体感がなくなりそうだったからだ。

その中で生まれたのが、会員のレベルアップと遭難対策を担う教育遭対部だ。特に、自立した登山者の育成では、受講者だけでなく講師を担当する会員にも成長の機会を与えてきた。会員の育成は、山岳会本来の任務であり、基本技術からクライミングや冬山に至る多彩な講習は盛岡山友会の魅力となっていた。

会員数が 100 人を超えると、会員の多彩な登山要求に応えることも大きな課題となった。そこで生まれたのが「志向別山行企画グループ」だ。登山の志向を同じくする会員のグループで、誰でもいつでも作れる。目的はあくまで山行企画なので、会員全体に参加を募ることが唯一の条件だ。会員の多彩な登山要求に応える仕組みとして、現在では山行企画の中心的な役割を担っており、これも当会の魅力のひとつとなっている。

事故防止対策は、試行錯誤を重ねた。12 年前の 12 月に起きた心筋梗塞による死亡事故を契機に、山行管理の徹底と健康管理のセルフチェックに取り組んできた。山行管理委員会による計画書の審査・助言の仕組みも、紆余曲折はあったがダブルチェックが定着しつ



つある。

30周年のこの年に、長く教育遭対活動を支えてきた仲間が会を去った。その経緯はあえて述べないが、市民がつくる民主的な山岳会として夢と価値観を共有し、様々な苦難を共に乗り越えて、会発展の力となった仲間たちだ。これまで、470人余が会員となり、350人余が会を去って行った。その一人ひとりの存在があって、いまの会の姿が形作られてきた。会の長い歴史の中で、会員として活躍してくれた全ての仲間に心から感謝したい。

今年は、中心メンバーの退会や交代があった中で、30周年記念事業のほか、教育遭対部における会員の視点に立った取組など、民主的な会運営の底力が発揮された年でもあった。会員一人ひとりの力は小さいが、目指す姿を共有し力を合せたときに、予想外の大きな成果となって現れることに感動した。

登山の楽しみ方は多様だ。自己の可能性にチャレンジする体育会系の楽しみ方がアルピニズムとすれば、一方で、山の自然に浸り同化することに喜びを感じ、それを写真や絵や文章で表現するような楽しみ方もある。当会の魅力は何かと問われれば、この登山の多様性を追求するところにあると思う。言い方を代えれば、会員の技術レベルに応じた安全対策を講じながら、多様な会員の思いを分け隔てなく実現できる場であることではないか。

30年の歴史から学んだことは、会員を限定的な型にはめるのではなく、会員一人ひとりの個性を何よりも尊重し、個々の能力を引き出し、多様な思いを一つに合わせて、無限の登山の楽しみ方を追求していくこと。これが、盛岡山友会が目指すべき市民のための山岳会の姿ではないだろうか。

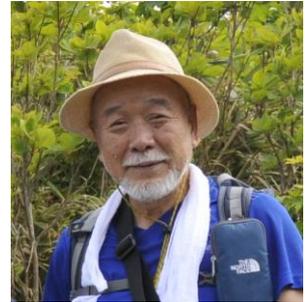
失敗から学ぶことの多さを実感した30年でもあったが、確実に会は大人に成長している。山岳会のあり方が問われる昨今なればこそ、やりがいは十分にある。新時代の市民の山岳会を目指し、さらなる成長を大いに期待したい。

盛岡山友会創立 30 周年記念おめでとうございます

日本勤労者山岳連盟 理事長 浦添 嘉徳

盛岡山友会創立 30 周年おめでとうございます。

盛岡山友会は、創立総会で「盛岡山友会 設立趣意書」を決議し、「全ての勤労者が気軽に入会でき、安く・楽しく・安全に登山するための便宜を図り、登山や自然保護等に関する研究会を開設し、県内外の登山愛好者・各種団体との交流を図る等のため」活動されておられます。そして、① 会員のレベルアップのための登山の各種基本講座、② 多彩な山行活動、③ 市民向け初級登山講座、④ 山岳自然保護活動、⑤ 遭難救助対策など「趣意書」にそって活動され、「登山は、スポーツとして勤労者の体力と健康を増進し、生活・文化を豊かにするため」の登山運動に大きく貢献されていることに対し、全国連盟を代表して心から敬意を表するものです。



日本勤労者山岳連盟は、2月の総会で「仲間の大きな輪で 築こう平和 めざせ安全登山」をスローガンに掲げました。いま、平和と登山をめぐる社会情勢は緊迫しており、日本の平和と民主主義、立憲主義が重大な危機に直面しております。全国労山の趣意書前文では、わが国の近代登山が発展する道をたどり始めていたが、「登山の正常な発展」が日本の「軍国主義の支配と侵略戦争の拡大によって著しく阻害された」ことを指摘しています。上高地の梓川沿いの広場には、日本の山の素晴らしさを世界に紹介した登山家で英国人のウォルター・ウェストンのレリーフがあります。これは1937年に設置されたものですが、太平洋戦争が激化するなか「敵国人の像を掲げるのはよくない」という軍部などの圧力によって敗戦まで取り外されてきました。ウェストンのレリーフが二度と取り外されないように、平和であってこそ楽しい登山ができる「平和と登山」のスローガンを高く掲げていくことが求められていると考えています。

盛岡山友会が、『安く、楽しく、安全に、ふるさとの山からヒマラヤまでの登山』をモットーに、登山運動をさらに発展させ、岩手県勤労者山岳連盟の中心的組織として、ますます発展されることを期待して、全国労山を代表しての挨拶とさせていただきます。

盛岡山友会 30 周年によせて

岩手県勤労者山岳連盟 理事長 平井 正

盛岡山友会 30 周年おめでとうございます。岩手県連を代表して、記念すべき 30 周年にお祝いのメッセージをお送りします。

盛岡山友会はその原則的な会活動によって、100 名を越える会員数を維持され、ヒマラヤから里山まで幅広い山行活動を展開され、岩手県の山岳団体の中に存在感を示されてきました。

何より、岩手県連の活動にとって力強い存在となっています。東日本大震災での盛岡山友会の支援活動へのお力添えは大変心強いものでした。また、学習活動や遭難対策の訓練や、県連会員の交流行事など、盛岡山友会なしには実現できなかったと思っています。県連理事会の中心として、県連会長を始め、複数の理事を派遣していただいています。今後ともよろしく願いいたします。

今、山ガールや山ボーイなど若い登山者たちが増えています。その人たちを山岳会に迎え入れ、山の魅力と安全登山について伝えていくのは私たち山岳会の大切な役割です。中高年を中心とする山岳会が多い中で、盛岡山友会はその活動を通じて、若い登山者を多く迎え入れ、平均年齢を引き下げてこられたことは賞賛に値します。

県連としても盛岡山友会のこれまでの活動に学び、若い会員たちの獲得に努力して行きたいと思っています。また、県連全体として盛岡山友会の力を借りながら、若い登山者たちの要求に応えていける力をつけていくことが必要と考えています。ご協力をよろしく願いいたします。

最後に、30 周年を迎えられ、40 周年・50 周年とますます発展されるようお祈りして、お祝いの言葉とさせていただきます。



変化して更なる進化（成長）を

初代会長 五嶋 十三

ダーウィンの「進化論」では、進化して生き残ったものは強いものや利口なものではなく「環境の変化に対応できたもの、変化したもの」と言われています。

盛岡山友会は、結成当時のハイキング的な組織から「ふるさとの山からヒマラヤまで」を目指す総合山岳会に大きく成長されました。この理由として、私は、中高年の登山ブームなど登山を取り巻く環境が大きく変わる中で、常に会員の拡大により新陳代謝を図りながら、多彩な魅力ある山行など会員の要求の実現や会員の命を守る山行管理の徹底など、様々な環境の変化に的確に対応してきた会運営の賜物と思っています。



改めて、結成当初には想像すらできなかった今日の会の成長に携わってこられた方々に敬意を表します。

また、盛岡山友会はこれまで500名近くの会員を受け入れ350名余が退会されています。これらの人達は様々な理由で退会されましたが、会運営を担った人、技術指導された人や組織的登山を経験された人であるので、新たな地で登山をスポーツとして活動し楽しんでいることと思います。いわば盛岡山友会はこれまで350名余の人材を県内外に輩出されてきたこととなります。

さて、私が登山活動に関わったのは1975年の花巻山友会の結成からです。その当時の盛岡の状況は、盛岡登山（16名）が1967年5月に設立され、1978年には5名の会員となっています。その後、1981年4月に岩手県勤労者山岳連盟主催による盛岡登山再建会議が開催されています。

1977年4月に久慈に転勤した直後の6月に、渡辺健治氏（No.2）、遠藤譲一氏（No.3）、須賀一樹氏（No.12）等と久慈山の会（18名）を設立しました。

その後、1981年に盛岡に転勤となりましたが、次第に盛岡周辺に久慈山の会のメンバーが転勤等で集まってきたので、いつか盛岡の地に登山を再建しようと話し合っていました。当時県庁所在地に登山がなかったのは岩手県だけでした。5年の月日が流れましたが、1986年4月に4人（渡辺、遠藤、須賀、小生）が集まり、久慈での教訓（転勤で活動が停滞）を踏まえ、転勤の少ない職場にも働きかけて、1986年9月10日に盛岡山友会が誕生しました。

当時、できるだけ盛岡在住の会員を役員にすることとし、私は事務局次長としてフォローすることにしていましたが、会長候補の大学山岳部出身の村山正三氏（No.7）に固辞され、設立準備会世話人の私が会長を引き受けざるを得ませんでした。渡辺氏は財政部長、遠藤氏は事務局次長となり会を支えました。その後、遠藤氏は男性合唱団コールMに専念するため退会され、現在は久慈市長として活躍されています。須賀氏は昨年11月に55歳の若さで逝去されました。

当初、注力したのは組織運営と仲間づくりで、登山技術の向上や山行管理等は二の次と

いうより取り組めない状況でした。

このような時に転勤で入会されたのが扇等氏 (No.27) です。扇氏は結成 2 年目から沢登りや岩登り教室を開催し、更に 3 年目に登山教室を 15 回 (4~11 月) 開催するなど会活動をアルピニズムの分野にまで広げていただきました。

私は 1988 年に宮古に転勤となり 3 年後に盛岡に戻りましたが、会は更に発展して会報「あかげら」の発行、冬山登山教室、初級登山教室とこども冒険学校 (夏、冬) を開催していました。このこども冒険学校には長男が計 4 回お世話になりました。小中学校行事としての登山やスキーが減っている中で、登山の裾野を広げるためにも 10 年、20 年後を見据えて (会レベルが無理なら県連行事として) こども冒険学校を再開してほしいと願っています。

最後に、組織を支え成長するためには常に新しい風となる会員拡大 (変化) が不可欠です。個々の組織の会員拡大とともに新たな組織の設立も必要です。私の想いですが、本県労山運動のトップランナーとなりました盛岡山友会が岩手県勤労者山岳連盟と連携して、八幡平市、二戸市や遠野市などの拠点都市に目を向けられ労山運動の輪をさらに広げられることを願っています。

創立 30 周年によせて

第二代会長 扇 等

盛岡山友会の創立 30 周年、本当におめでとうございます。
かつて会に身を置いたものとして、大変うれしく思います。
私は、僅か 2 年に満たない短い期間の在籍でした。その後の会の発展は、非常に目を見張る目覚ましいものでした。



この発展の要因は、どこにあるのでしょうか。何と云っても、運営委員の皆様はじめ会員の方々が、労をいとわず会活動に積極的に参加されてきていることではないでしょうか。

充実した山行活動、民主的な会運営、全員参加の会運営、安全登山の実践、自然保護活動の推進、登山の普及活動などを会の方針として、着実に進めてきた結果だと考えます。

そして、今や百数十名の会員を擁し、岩手県勤労者山岳連盟の中核団体をなす大型山岳会として、全国的にも注目されています。

山岳会といえども、その存在を維持・発展させていくことは容易ではないと思います。

そのために欠かせないことは、常に会に新しい人材を迎え、意識的に教育活動を行い、次世代を担う会員を養成していくということだと考えます。

美しい自然に恵まれた東北地方・日本、その自然に抱かれた山々。この素晴らしい大自然を舞台に繰り広げられる登山は、私達に心身共に豊かな宝物を与えてくれるものと思います。このような自然と山の素晴らしさを、より沢山の山の人達に知ってもらい、多くの仲間を会に迎え入れることは、会にとって非常に大切な仕事ではないかと考えます。

この機会に、更に充実した会活動を行い、一段と発展した会として創立 40 周年を迎えていただきたいと期待しています。

そのためにも、運営委員会を中心にして会が団結してことに当たることが肝要かと思えます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康と登山の成功、そして盛岡山友会の益々の発展を祈念してお祝いのごことばとさせていただきます。

お祝いのことば

第四代会長 村山 正三

盛岡山友会創立 30 周年及び『山友 創立 30 周年記念号』発行おめでとうございます。

30 年前、盛岡に労山加盟の山岳会が誕生したことは、非常に画期的な出来ごとでした。いわゆる町の山岳会は盛岡にもいくつかありました。しかし、どうも敷居が高く、気軽に入会できる雰囲気ではない。誰もが、いつでも気軽に入っていけるような山岳会が欲しい、という要求が出てくるのは当然のことだったのです。

1986 年 9 月 10 日、公会堂の会議室で会の設立総会が開催されました。13 名が参加して、私もその中の一人でした。会の名称は「盛岡山の会」と決めましたが、他に同名の会があることが分かり、臨時総会を開いて「盛岡山友会」に改めたのでした。会員は 30 名、70 名と増えていきました。そのことによって運営委員会や専門部の充実が図られ、やがて志向別グループによる旺盛な山行活動へとつながっていきました。機関誌『あかげら』や会誌『山友』の継続的な発行も着実に行われました。それが会の発展に果たした役割は決して少なくはありません。

一方で、盛岡に労山ができたことは、岩手の労山活動にとって極めて重要な意味を持っていました。

それまでも、釜石や胆江など全国労山創立の当初から活動してきた会があって、岩手の労山活動を活発に行ってきたいました。しかし、盛岡山友会が生まれ、山行活動と会運営をいきいきと行うことによって、岩手の労山活動のよりいっそうの活性化が図られたことは間違いありません。県連盟の役員として県全体の活動を知り得た者として、そのことは断言できるのです。

活発な山行活動とともに、安全登山を実践し、その普及に努めてきたことも特筆されます。それは単に労山にとどまらず、岩手の登山界全体に貢献することでもあったのです。盛岡山友会は、文字どおりに「里山からヒマヤラまで」の山行を実行してきた山岳会として、ひとときわ輝いて見えています。

会員が力を合わせて運営をする民主的な山岳会として、これからも 40 年、50 年と歴史を重ねていかれることを祈念しています。



● 盛岡山友会創立 30 周年記念事業

□ 記念事業概要

No.382 三浦 明夫

1. 記念講演会

日 時 : 11月8日(火) 18:00~21:00

場 所 : アイーナ7階 小田島組☆ほーる

講演テーマ : 「山に魅せられて」ポジティブに登る

講 師 : 阿部 陽子 さん

パネル展示 : 会の基本方針・会の将来ビジョン、会活動、志向別グループ活動

2. 記念品の作成

① ライトペーパーポーチ (30th 記念ロゴ入り)

② 30周年記念Tシャツ (あかげらマーク付き)

③ ロゴ缶バッチ (あかげらマーク、ローマ字 名前入り)

3. 記念国内山行

○ 尾瀬 燧ヶ岳

○ 富士山

○ 岩手山

○ 姫神山

4. 記念海外山行

○ 台湾 雪山、玉山

○ ヨーロッパアルプス シャモニーとツェルマット

5. 祝賀会

11月26日(土) 18時30分～

ホテル ルイズ

6. 記念誌の発行

11月26日の祝賀会会場で配布

□ 記念品作成報告

記念品内容

記念品① ライトペーパーポーチ (30th 記念ロゴ入り) . . . 全会員へ無料配布

- ・モンベル

サイズ：横 15.5 cm×縦 11.5 cm

色：ターコイズ (水色)

ピオニー (ピンク)

価格、作成数：1,312 円/個×150 個=196,800 円



記念品② Tシャツ (あかげらマーク付き) . . . 注文販売

- ・モンベル

商品名：“WIC.T ワンポイントロゴ”

素材：ウィックロン (ポリエステル)

・ . . . 登山時着用可

色：男性用 ディープパープル、オレンジ

女性用 パープルネイビー、カメラア (ピンク)

サイズ：S、M、L、XL

価格：3,000 円

- ・10月末まで注文受付、12月例会時配布



記念品③ ロゴ缶バッチ (あかげらマーク) . . . 注文販売

- ・手作り

サイズ：φ 43 mm

価格：100 円/個

- ・希望者には、名前入り(ローマ字)で作成



記念品作成担当

No.2 渡邊 健治、No.19 中村 美栄子、No.294 松田 希

No.19 中村 美栄子

記念品係の担当がはっきりしないままに時間が経過して30周年に突入してしまいました。このままでは記念品が何もなくなるのではないかと思い、できれば私・中村にやらせてほしいと運営委員会に申し出て了解を頂きました。さっそく担当希望者を募るべく山行時やメールで呼びかけたところ数人の希望者が出ましたが、それぞれの都合もあり最初の話し合いは事務局長代行でもある渡邊会長、松田希さんと中村の3人だけになりました。

言い出しっぺの希望としては、30周年という大きな記念の年に、今までに無かったことですが、無料で全会員に何かグッズをあげたい（この記念の年に会員であったことへのご褒美?）という思いで運営委員会に提案し了解を頂きました。

さあ〜何が良いか、予算の関係もあり悩みました。種々検討して『ライトペーパーポーチ』にいきつきました。記念のロゴ、色、字の大きさなどなど今まであまり活用しなかった感覚をフル動員したものが、今、記念誌とともに皆様のお手元に届いていると思います。お気に召しましたでしょうか? どうぞ盛岡山友会と同様、いつまでも大事に使ってもらえればと思います。

また、この他にやはり『記念のTシャツ』がほしいという声があり、こちらは注文販売として扱うことにしました。これには盛岡山友会のシンボルマークである“あかげら”を入れ、9・10月中で注文を取り、発注して12月例会時に配布することで作業を進めました。

『ロゴ缶バッジ』は、友人にお願いして手作りしていただきました。ロゴはもちろん我らが“あかげら”です。希望者には、名前（ローマ字）を入れて作成しました。会員のみなさんがいろいろな所に着けて愛用してもらえればと思っています。

色々悩みながらも記念の年に記念すべき楽しい担当となりました。

No.294 松田 希

美栄子さんよりこれまでもいろいろな依頼を受けてきたのですが、なかなか協力できずにいました。今回こそは!との思いから記念品の打ち合わせに参加させていただきました。

20周年の時に山友会のオリジナルTシャツを作りたいのですが、実現できませんでした。

今回の打ち合わせ時に会長より「Tシャツ作ろう」の一言があり、実現できてとても嬉しく思います。プリントのサイズやTシャツの色選びなど、細かな打ち合わせが思っていたよりも大変でしたが、グリーンハウスの方に親身に対応していただきました。また、Tシャツにプリントする“あかげらちゃん”マークの画像をメーカーに送る際には、高橋英里子さんに協力いただきました。ありがとうございます。

ポーチ、Tシャツが皆さんの楽しい山行に役立つことを願っています。

□ 記念講演、PR 展示報告

No.382 三浦 明夫

1. 趣旨

盛岡山友会は、2016年9月で創立30周年を迎えます。これまで470人余が会員となり、それぞれの山への思いを胸に、オールラウンドの山岳会として「安く、楽しく、安全に、里山からヒマラヤまで」のモットーを名実ともに実現してきました。

創立30周年を記念して、当会を育ててくれた岩手の山々の魅力を市民の皆様にも知っていただくため、里山から奥山まで岩手の山々を知り尽くし、著書「岩手の山150」やIBCラジオの番組等でその魅力を発信し続けている阿部陽子さんに講演をいただくものです。

2. 講師

阿部 陽子 さん 版画家〔国画会会員、(公社)日本山岳会岩手支部長〕

岩手大学特設美術科卒業 専攻科修了(版画研究室)。ケルン美術大学留学(ドイツ)。岩手芸術祭版画部門審査員、国内外版画展、個展・グループ展、受賞多数。

一方で、20代から国内外の山々を登り続ける。海外は台湾の玉山・中国の大姑娘山(5025m)・チベットのタン格拉山脈最高峰グラダントン峰(6621m)遠征では6200mに到達。岩手県山岳協会指導員としての活動をもとに「岩手の山150」(ツーワンライフ出版)を執筆。IBCラジオ放送(毎週日曜日:朝7:30~7:45)「岩手の山トレッキングガイド」で、岩手県内の山々の個性や登山の魅力を紹介し三年目になる。

3. 講演テーマ

「山に魅せられて」～ポジティブに登る～

4. 日時、場所

日時 : 11月8日(火) 18:00(開場)~20:30

場所 : アイーナ7階 小田島組☆ほーる

5. 入場料

当日 700円(前売 500円) 高校生以下無料

6. 司会、進行

司会 : 副会長 三浦 明夫

進行 : 18:45 開会 → 会長挨拶(5分) → 講師紹介(5分) → 講演(1時間15分)

→ 質問時間(20分) → 20:30 閉会

7. パネル展示

会場入口のロビーを使い、版画家である阿部陽子さんの作品(2点)の展示を行うとともに、山友会の基本方針・将来ビジョン、会活動、県境を辿る活動を継続してきた志向別グループ「県境の風」の活動成果等をパネルや写真で紹介

8. 後援

岩手日報社、盛岡タイムス社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、八幡平市教育委員会、滝沢市教育委員会、矢巾町教育委員会、雫石町教育委員会、紫波町教育委員会、岩手県勤労者山岳連盟、日本勤労者山岳連盟

[講演会ポスター・チケット]

デザイン : No.460 杉澤 瑠実子

○ 講演会ポスター、チラシ ○



「岩手山・赤色讃歌」

阿部陽子 (版画家)
プロフィール

岩手大学特設美術科卒業 専攻科修了(版画研究室)
ドイツのケルン美術大学留学
国画会会員、岩手芸術祭版画部門審査員、国内外版画展、個展、グループ展、受賞多数

一方で、20代から国内外の山々を登り続ける。海外は台湾の玉山、中国の大姑娘山、チベットのタングラ山 熊鷹高峰グラダントン峰(6800m)の遠征では6200mに到達。
(公社)日本山岳会岩手支部支部長
盛岡ロッククライミングクラブ会員
(公財)日本体育協会山岳指導員
著書「岩手の山150」(ツーワンライブ出版)
IBCラジオ放送 毎週日曜7:30-7:45
「いわての山トレッキングガイド」
岩手の山の個性や魅力、登山の楽しさを紹介して三年目になる。

盛岡山友会 創立30周年記念

岩手の山150 著者 **阿部陽子** 講演会

2016.11.8(火) 18:45~20:30
(18:00開場)

会場: アイーナ 7F 小田島組☆ほーる

入場料: 700円(前売り500円) 高校生以下無料

チケット取扱い先: ICI石井スポーツ盛岡店 (または盛岡山友会までご連絡下さい。)

パネル展示 《会場ロビーにて》

- ・阿部陽子 作品 (2点)
- ・当会の志向別グループ「県境の風」など、様々な活動を写真やパネルで紹介

〈主催〉
盛岡山友会
問合せ先:
090-4318-5128
(中村)
ホームページ
http://www.geocities.jp/morioka_sanyukai/

後援: 岩手日報社、盛岡タイムス社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、八幡平市教育委員会、滝沢市教育委員会、矢巾町教育委員会、雫石町教育委員会、紫波町教育委員会、岩手県勤労者山岳連盟、日本勤労者山岳連盟
協賛: ICI石井スポーツ盛岡店、グリーンハウス盛岡店

○ チケット ○

阿部陽子 講演会

「岩手山・赤色讃歌」

山に魅せられて



2016年 **11月8日(火)**
18:45~20:30
(18:00開場)

会場: 盛岡駅西口 アイーナ 7F 小田島組☆ほーる

入場料: 当日券 700円 (前売り 500円)
高校生以下無料

～ 盛岡山友会 創立30周年記念 ～

後援: 岩手日報社、盛岡タイムス社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、八幡平市教育委員会、滝沢市教育委員会、矢巾町教育委員会、雫石町教育委員会、紫波町教育委員会、岩手県勤労者山岳連盟、日本勤労者山岳連盟
協賛: ICI石井スポーツ盛岡店、グリーンハウス盛岡店

主催: 盛岡山友会
問合せ: 090-4318-5128

[記念講演会報告]

記念講演会は版画家・登山家の阿部陽子さんへ講演をお願いし、アイーナ7階の小田島組ほーるで行いました。当日は雨にもかかわらず、来場者約340人の盛況の中での講演でした。会場には山友会の会活動を紹介するPRパネルコーナーと共に阿部陽子さんの作品展示コーナーも設けられ、岩手山、モッコ岳、安比岳、N婦人の肖像等の版画7点を紹介展示しました。



阿部陽子さん作品展示

開始直前に垂れ幕交換のハプニングがありましたが、三浦(明)副会長の司会による阿部陽子さんの紹介、渡邊会長の挨拶の後、記念講演会が始まりました。講演概要は次の通りです。

○ 美術の勉強と山を歩き始めた頃

美術というのは自分の事は自分で決めるという大変おもしろい世界です。ある意味でほったらかしの世界であり、岩手大学での勉強ではアトリエにみんなで泊まったり、勉強のかたわら最も身近に見える岩手山へ登ったりしました。ドイツへの留学では、周りの山々よりヨーロッパ中の作品を見る事がおもしろくて、毎週末2日間車を使って学生券(約20円)で美術館を見て回りました。

○ 山岳会との関わりと山に対する自分の立ち位置

日本へ帰ってから日本山岳会に入り本格的に登山を始めましたが、正式にきちんと技術を覚えるため岩手県山岳協会の指導員会へ入る中で日本中の山にも登るようになりました。その時代の山登りとは仲が良い者同士が行くのではなく、目的を同じくする者同士がピークを落とすというもので、大きなインパクトも受けました。ピークを落とす等山に対するいろいろな選択肢の中で、自分が多くの山をもつ岩手県(1/25000地形図に約880の山名記載がある)に住んでいる事、美術の分野も続けていかなければいけない事等から今後の自分の立ち位置が決まってきました。盛岡タイムスへの岩手の山の連載は文字数1000字、写真を使わずスケッチとして月2山を行っていましたが、2011年東日本大震災の時、150山目の鮎山を最後として終了しました。



多くの来場者を迎える

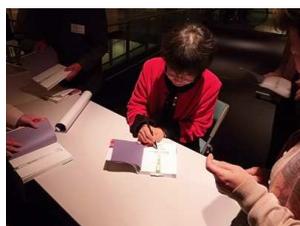
○ 岩手の山の魅力

県内各市町村の○○史を読んでも山に関する事が必ず書いてあって、岩手の山の魅力というのは3000m級の山々が連なるアルプスのように人間のにおいがしないのとは異なり、様々な事に対して人間との関わり、人間のにおいがする山々だという事です。景色だけで帰って来るだけではもったいない山々で、その山に関するいろいろな事を知るのが楽しみです。



手振りを交えて熱い講演

その他、山での多くの失敗からその失敗に対応する修正力を養えた事、三つ目の目が欲しい場所は利き手の人差し指である事、IBCラジオで1山ずつ岩手の山々を紹介している事、定点からではない立体



岩手の山150のサイン販売

世界のピカソの絵の事等たくさんの興味深いお話しやエピソードを拝聴する事ができました。講演会後は、著書「岩手の山150」のサイン販売が行われ、用意した22冊は完売となりました。講演会後のアンケート結果を見ると、講演、展示、全体の満足度が「とても良かった」と「良かった」の合計で各項目とも95%程度になっていて、記念講演会は大成功でした。



横断幕準備



垂れ幕交換ハプニング



受付



カレンダー販売



講演後、阿部陽子さんと記念撮影

[PR展示パネル]

担当 : No.433 岡 義博



会場でパネル作成する姿も



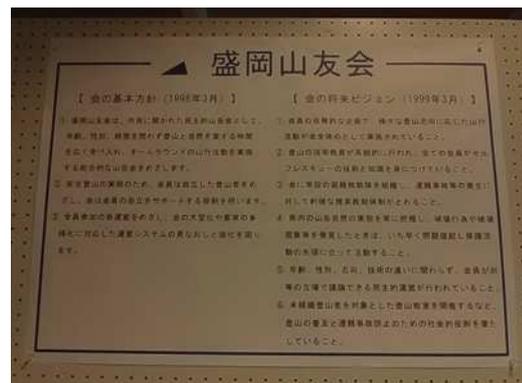
パネル展示全景

● 会活動

山友会の紹介



基本方針・将来ビジョン



① 事務局



② 教育遭対部



③ 山行企画部



④ 組織部



⑤ 会報部

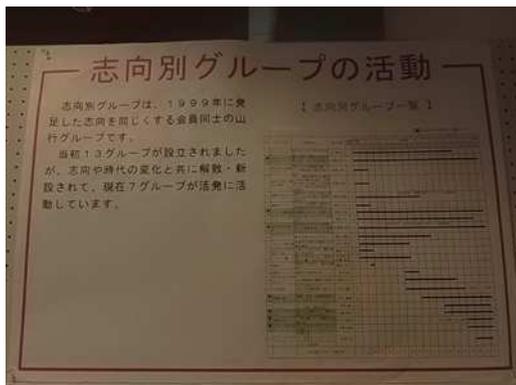


⑥ 自然保護部

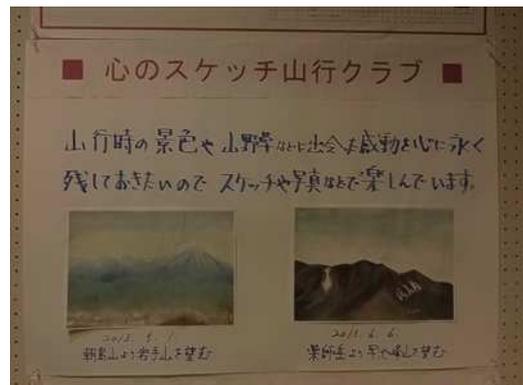


● 志向別グループ

志向別グループ一覧



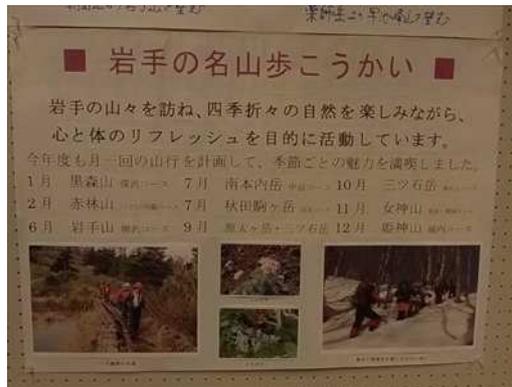
① 心のスケッチ山行クラブ



② グループ銀世界



③ 名山歩こうかい



④ 県境の風



⑤ ウィークディクラブ



⑥ 四季の山



⑦ グループゆうゆう



□ 記念国内山行・山行報告

山行企画部 No.6 千田 勝則

記念海外山行は会員の自主提案で行われましたが、記念国内山行は山行企画部でテーマを決めて行いました。

候補としてあげられたのは、利尻岳、富士山、屋久島、尾瀬・燧ヶ岳の四山です。富士山は日本一高い山として選定し、一合目から登る事にしました。また、燧ヶ岳は東北一高い山として選定し、ラムサール条約湿原に登録されている尾瀬湿原の風景と可憐な花々の鑑賞も含めて登る事にしました。それぞれの山行で、新しい体験や発見がありました。

毎年9月第1週の日曜日に行われている創立記念山行の「岩手山」と「姫神山」は、7月3日に雨天中止となった清掃登山も含めて実施しました。ガラス片等のゴミ収集重量は22.5kgでした。岩手山は当初、1コースのメンバー3名以上で7コース全部からの登頂を企画していましたが、4コースからの登山となりました。

(9月4日 創立記念山行(岩手山、姫神山)概念図 参照)

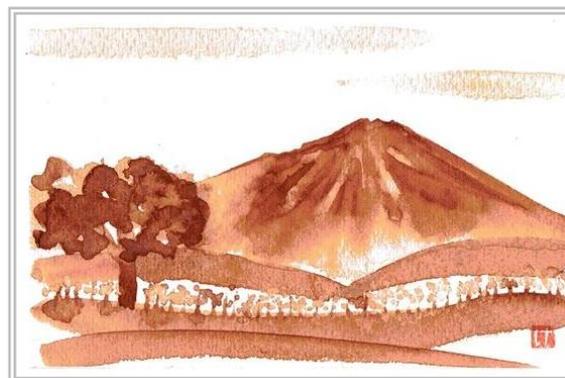
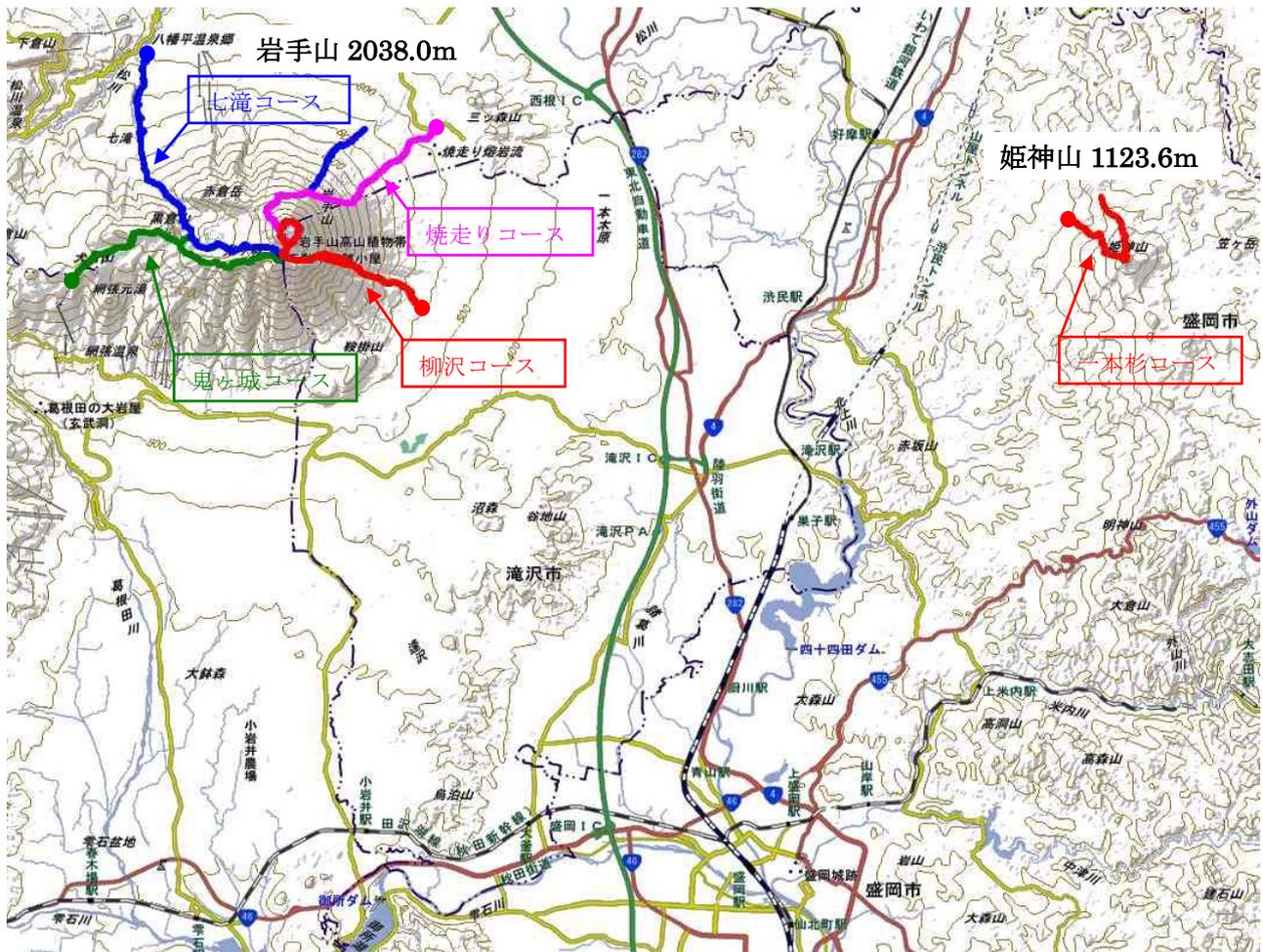
記念国内山行一覧表

No	年月日	山名	コース	参加人数
1	2016年6月24～26日	尾瀬 燧ヶ岳 2356m	長英新道コース	4人
2	2016年7月30～ 8月1日	富士山 3775.5m	富士吉田コース	14人
3	2016年9月4日	岩手山 2038.0m	柳沢コース	14人
			焼走りコース	5人
			登り 七滝コース 下山 上坊コース	7人
			登り 鬼ヶ城コース 下山 お花畑コース	1人(個人)
4	2016年9月4日	姫神山 1123.6m	登り 一本杉コース 下山 こわ坂コース	10人
			合計 延べ人数	55人



「あかげら」2013年4月号 表紙 中松祐子

2016(H28)年 9月4日 創立記念山行(岩手山、姫神山) 概念図



岩手山

30周年記念国内山行 尾瀬・燧ヶ岳

- 山行日 : 6月24日(金)～6月26日(日)
- 山域 : 尾瀬 燧ヶ岳(2356m)
- コース : 長英新道コース
- 参加者 : CL 千田勝則、SL 柚澤瑠実子、級木信子、大倉博(報告者)

6月24日朝6時25分レンタカーで、盛岡南インターを4人で出発した。あこがれの尾瀬なので胸が高鳴る。

天候はまずまず、順調に進むも長者原の事故渋滞で20分位のろのろ走る。運転は若いSさんでその後快調に進む。仙台宮城8時54分、福島9時35分通過、しかし又も本宮で渋滞に遭い1時間のロスをした。

高速道の白河中央を11時45分に降り、国道294号等を桜枝岐に向かって進む。

福島県も岩手県のように、山が多く、むしろ山が高いような気がする。民家も少なく、山道が多い。

又思っていたより東西に長い、途中昼食を取ったが3時間位掛かって14時49分、山の駅御池に到着し駐車場に車を入れる。自家用車はここで終点、次にバスに乗り20分で沼山峠に着いた。途中原生林の素晴らしい所があった。

ここから、いよいよ歩いて尾瀬の山小屋に向かう。

雨が降り出した。雨具を着てザック背負う。私は他の人より倍位荷物が多い。パッキングが下手なのか、慎重になりすぎ十分な食料、水、防寒着、余分な着替えまであり、ザックの他にバックまである。これからパッキングの仕方や、不用なものを省くように勉強し、講習も受けたい。

緩い登り坂の木道を歩き始める。金曜日の夕方なのか、向かう人も帰る人もほとんどいない、数人の人を見かけるだけだ。木道の脇には山野草が咲いているが、じっくり見る余裕がない。40分位歩き峠を越えた。尾瀬の湿原が眼下に迫って来た。ついに来たか、おお、ここが尾瀬か!! beautiful。テレビ、写真等で見ているが、実際に見ると大きさと立体感が違う。尾瀬の看板の前で記念写真を撮る。そこから宿の長蔵小屋までは、すぐそこだ、16時着。



尾瀬には電柱が建っていないのに、建物に電燈が点いていたのにはびっくりした。発電機で充電しているらしいがエンジン音がしない、不思議だ。

夕食の前に風呂に入れた、石鹸は使えずお湯は桶2杯だった。しかし山小屋で風呂に入れたのはラッキーだった。宿は昭和9年に建てた木造で窓枠も木枠であった、廊下を歩くとギシギシと音がして小学校の頃の校舎のようだった。夕食は泊まっている人が少ないせいか談話室で食べた。

夕食後隣の尾瀬ビジターセンターで、尾瀬に関する資料や写真の展示、またスライドもあった。そこで植物の名前や生息する動物等の知識を得た。又尾瀬の四季の写真は美しかった。

次の日、夜中から降っていた雨がまだ止みそうにない。宿の食堂で朝食を済ませ、燧ヶ岳に雨具を着て登る準備をする。玄関の前で記念写真を撮る、うちに雨が小ぶりになり6時出発。

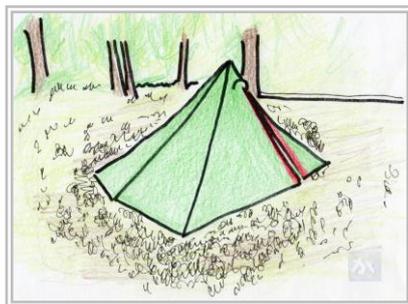
最初木道を進みその後、湿原から山の方向に向かったら山道になった。昨夜の雨の影響で登山道が川の様になっている。音がして流れている所もある。浅瀬や土の出ている所を選んで歩いて行くが、途中から靴が濡れるが気にしないで、じゃぶ、じゃぶ進んだ。7時に休憩、傾斜は緩い登り坂で、一合目7時15分、二合目7時38分、三合目8時と進む。

雨は上がったが雲が低く、霧も掛かっているので、本来、晴れていれば所々で木立の切れ目から全体が見えるはずの尾瀬がほんの少ししか見えない。

私は、単独山行では標準時間の半分で登ることを目標にしているので、修行僧のように休まず山頂を目指し、汗を流し登るだけであった。しかし山友会の人たちとは高山植物を探し、どの様な条件の所に、どの植物があるかを教えてもらった。山登りは早く登るだけではなく色々な楽しみ方があることを知った。花の名前御前橋はしっかり覚えた。

八合目9時24分、9合目9時38分、俎嶺の頂上には9時47分に着いた。残念ながら下界は霧で良く見えない。少し休み今度は一番高い柴安嶺へ向かう10時15分に着く。

行って見たいと思っていた尾瀬は、つゆが明けていないこともあり、あまり天気には恵まれなかったがグループの皆さんに親切にしてください楽しい尾瀬であった。又今度は天気の良い日に行きたいと思う。



「あかげら」2016年5月号 表紙 久保加世子

30周年記念国内山行 富士山

- 山行日 : 7月30日(土)～8月1日(月)
- 山 域 : 富士山(3775.5m)
- コース : 富士吉田コース(馬返しから)
- 参加者 : 【A班】総括L 渡邊健治、SL 遠藤千鈴子、中村美栄子、工藤敬子、山崎祐三
北田絹恵、大倉博
【B班】CL 中村数博、SL 本間典、級木信子、加藤桂子、府金志磨子、高橋陽子
萩谷義久(報告者)

あたまを雲の上に出し
四方の山を見下ろして
かみなりさまを下に聞く
富士は日本一の山

青空高くそびえたち
からだに雪の着物着て
かすみのすそを遠くひく
富士は日本一の山



[写真1 H28. 8. 1 富士山登頂の図]

冒頭の歌は私が小学校で習った「富士の山」という歌です。皆様の中にも口ずさめる方がたくさんいらっしゃるかと思います。日本でとても親しまれている山の一つだと思います。

平成28年7月30日から8月1日にかけて盛岡山友会創立30周年記念山行の一つとして富士山登山が行われました。

富士山へのお話を聞いたとき「一度登っているが、あの時の頂上は歌のように雲の上に出して、いず雲の中だったな」という思いが頭を擡げました。その時は五合目から登る御殿場ルートでした。

富士山は古来霊峰とされ、特に山頂部には浅間大明神が鎮座し、噴火を沈静化するため古くは律令国家により浅間神社が祭られ浅間信仰が確立されました。また、修験道の霊場としても古くから認められ登拝が行われるようになったと聞いています。

日本で一番高い山、木花開耶姫霊峰、修験道の霊場として古の人から登り続けられている世界遺産である富士山に、「馬返しから登る古の古道を辿って」とのうたい文句に心動かされるものがありました。とは私の参加動機です。

山行企画部の所属ではありますが、遠隔地在住なため企画立案そのものに参加していないのに、私が記録報告を書くことで良いものかとの思いもありますが、山行報告をさせていただきます。

- 天 気 : 7月30日晴れ、7月31日晴れのちガスのち夕方から夜半まで雨
8月1日夜半から霧雨のちガスのち晴れ

■ 行程：（一本は、休憩）

- 7月30日 バス移動 盛岡南インター7:00→8:20 長者原 SA8:30→10:20 阿武隈 PA10:30
→11:45 上河内 12:15→14:45 藤野 PA14:55→15:34 河口湖 IC→15:40 スーパー
OGIN016:15→16:30 民宿旅館芙蓉荘
- 7月31日 民宿旅館芙蓉荘 5:00→5:15 中の茶屋 5:30→6:23 大石茶屋跡 6:30→7:00 馬返
7:05→7:20 一合目→7:51 二合目 7:56→8:21 三合目 8:25→8:50 四合目 9:00
→9:35 五合目 9:43→10:05 佐藤小屋 10:30→11:05 六合目 11:25→11:57 一息
足休め 11:58→12:15 一本 12:18→12:30 七合目 日の出館（泊）
- 8月1日 日の出館 23:48→0:05 小屋トイレ等準備 0:18→0:52 東洋館 0:58→1:32 救護所
1:40→2:21 白雲荘 2:30→2:45 道標（3,250m） 2:50→3:22 ホテル富士山
3:28→（途中休息あるも時間記録無）→4:53 一瞬の御来光→5:30 久須志神社・扇
屋 6:20（ここからお鉢めぐり）→6:43 富士山頂郵便局 6:43→7:08 剣ヶ峰 7:20
→8:00 久須志神社 8:30→9:00 一本 9:08→9:38 一本 9:43→10:23 七合目トイ
レ 10:37→11:34 五合目登山口手前 11:39→11:55 吉田口下山 12:15→13:00 溶
岩温泉 14:30→15:03 談合坂 SA15:30→17:30 上河内 SA17:38→18:05 阿武隈 SA18:
45→（国見 SA 及び前沢 SA で休憩時間記録無）→22:15 頃盛岡南インター着 解散

○ 7月30日

今日はバス旅行です。盛岡市から山梨県河口湖町へと一日の大半をバスの移動で過ごしました。車内では自己紹介を兼ねて「自分は小さい頃（小学生）からどんな子だったか、今回の富士登山へは」と題してそれぞれの方の「おてんば・やんちゃぶり、登山暦や富士山への思い」などを聞くことができパーティとしての和が広がった感じがしました。天候に恵まれドピーカンでしたが登頂を目指す8月1日は先週から雨模様の天気予報、参加している皆が「お天道様、明日、明後日に顔を出して」って思い込み出ていました。

河口湖町では本日の夕食と明日の朝食・行動食の買出しをスーパーで行い宿へまっしぐら。



[写真2 さあ買出し何にしようかな]



[写真3 民宿旅館芙蓉荘から富士山を]

宿について女将さんから「今日は久しぶりに富士山が姿を見せています。お客さんたち運がいいねー」との言葉をいただきました。だけど本番は明日と明後日、こんな天気とはいかなくても登れるような状況であってくださいと祈るばかり。天気予報では雨といい続けるので、旗を持っての記念写真を「この場で是非と写しておこう」ということとなり、全員で写真（写真3）に入りました。天気予

報はずれてくれと思う一方で、雨だったらどうするのとの思いが皆を覆った前日でした。

夕食は、先ほどのスーパーで買い求めたそれぞれの食料(お弁当、おにぎり、カップラーメンなど等、御神酒代わりにちょっぴりお酒も(渡辺会長にはワインの差入れをいただき)ちょっぴり飲みました。

渡辺会長の以前の経験から、「富士山登山では前日あまり飲むと体調を崩すからほどほどにしておきましょう」とのアドバイスをいただいたり、明日の天気予報を見たり(予報は雨)お風呂に入ってテルテル坊主にお祈りしながら早々明日の出発に備えるのでした。



[写真4 夕食を兼ねてミーティング]

○ 7月31日

早朝おそるおそる宿の窓から富士山を見上げ晴れています。「やったー」これで本日の行程はなんと



[写真5 朝の富士山(宿にて)]



[写真6 中の茶屋到着]

か七合目まで行けるかなと皆さん安堵の朝の身支度でした。

当初の予定では、馬返から登山開始とのことでしたが中型のバスは車両の行き違いができないことからもう少し手前の「中の茶屋」からの出発とあいなりました。林間のトレースと舗装道路が並行して通じておりほとんど平らな感じでしたので途中までは舗装道路をその後林間歩道のあるきました。既に標高が高いことと林間なので風が心地よくとてもいい気分で行くことができました。



[写真7 馬返までの林間コース(車が併走)]



[写真8 馬返の案内版]

途中には以前の小屋跡地の掲示などがあり昔からの道なのだとことを知らせてくれます。一時間半ぐらいで当初予定していた馬返につきました。駐車場があり乗用車やバイクなどが止めてあり少人数での乗用車やマイクロバスならここまで入ってこれるので時間の短縮ができます。

いよいよ当初のコースの始まりです。天気は晴れで太陽燦爛なのですが樹林帯のコースからか暑さを感じません。ゆったりしたペースの中でさわやかな空気を感じながらの山行となりました。



[写真9 今は使われていない小屋]



[写真10 一合目から二合目へ]

馬返までの道でも旧跡がありましたが、五合目までの間にも随所に小屋の跡などがありさすがに世界遺産なのだなーと思いました。天気はまだまだ良く途中木々の間から遠方の山々も見えました。



[写真11 三合目 茶屋跡の掲示]



[写真12 三合目休憩地からの遠景(遠く奥秩父?)]

五合までの樹間コースはとても気持ちよい登山が続きました。登り始めてから4時間半ぐらいで五合目佐藤小屋について小休止となりました。

これからの砂塵の六合目に備えて、軽く食事したり水分補給、トイレタイムなどちょっとゆっくりしました。お漬物のおすそ分けなどいただき一日目なので食料的にも日帰り登山のときの食事タイムのようでした。

佐藤小屋を通り越して左手側に回りこんで少し歩くと樹林帯が終了します。富士山特有の木陰のない砂れき質の登山道の始まりです。



[写真13 五合目佐藤小屋]



[写真 14 砂塵の中馬も登る六合目]



[写真 15 今夜のお宿「日の出館」]

天気はドピーカン、サングラスを持っていて良かった一です。六合目で世界遺産への協力金の寄付などをして七合目の今日の宿「日の出館」を目指します。自分は知らなかったのですが、富士山では五合目から七合目まで馬に乗って行けるんだそうです。六合目の砂塵の中に人を乗せた馬を見つけた時は感動しました。人間は登りでも下りでも結構ゼイハーしながらですが馬はしないのかなーなどと思ったりもしました。そんなこんな思いを廻らしているうちに本日目標到達点「日の出館」に着きました。

宿の手続きをした後は女性陣は足慣らしにと上の方へ登山道を見に行ったり、男性陣は山小屋で冷えたビールが初めて飲めると舌鼓。その後夕食 16:00 頃まで昼寝をしたり、さらに上の小屋を目指して登り行く登山者を見ていたりそれぞれの時間を過ごしました。

五時過ぎには就寝。時折、雨が屋根をたたく音で眼が覚めたりしながらあまりぐっすり眠れませんでした。

○ 8月1日

天気は霧雨、風は無し。大きな雨粒でないし、風も無いことから行けるところまで行きましょと小屋を0時過ぎに出発しました。風は無いというものの気温は低く歩くのを止めると体が冷えてきます。

40分くらいした頃でしょうか、Fさんが一寸体調不良とのこと。ゆっくりでいいからとしばらく登り続けましたがペースが取れないとのこと。昨夜良く寝れなかったとのこと。緊急に下山ということでもなさそうとのことからSL中村(数)さんが付き添って本人のペースで登山を続けることでパーティを分けました。



[写真 16 霧雨(小糠雨)の中出発準備]

登山道は結構渋滞状態で前後の団体さんのペースでしか登れません。また、日本語より外国語の話し声が多くほんとに日本かしらと思えました。また、装備もまちまちで薄いビニール合羽で登っている人達もいて大荒れになったらどうするのかと思ったりしました。相変わらず天候は優れず冷たい霧雨です。一瞬、以前の富士登山のように上にも上がっても何も見えないのかなーとの思いがよぎりました。この調子だと上まで上がれそうだけご来光はほとんど望み薄でした。皆さんも良く眠れなかったみたいでいきりに眠いなーと言ったり、いつもの登りとは体の動きがちがいいま一つのようなでした。団体さんの行列登山に巻き込まれながら比較的ゆっくりしたペースで上り続けました。

時計を見れば日の出の時間は過ぎていきます。東の空は薄明るくなってきて霧雨もほぼ止みました。で

も雲が厚い。やっぱりお天道様は拝めないかと思いながら上り続けると5時前に本の一瞬だけご来光が差し込みました。なんと奇跡的な感動的な光景だったでしょう。登山道にひしめく人達が足を止めた瞬間でした。



[写真 17 一瞬のご来光]



[写真 18 登山道にいる皆が立ち止まる]

八合目半くらいのところでのご来光でしたのでもう少しで久須志神社へたどり着きそうです。ゆっくりのペースとは言いながら標高が高いせいか結構しんどくなってきました。心の中で「もう一寸もう一寸」と唱えながら一步一步進めるとふと鳥居をくぐりました。目の前には久須志神社「やった一着いたぞー」でした。神社前で多くの人達が記念撮影をしている場所で順番待ちをして山友会の旗と記念タイトルを持って無事登頂での記念撮影を終えました。

あまりの寒さゆえ頂上でのお休みどころ扇屋さんで豚汁をいただき握り飯を頬ばりました。お腹の中から暖まって生き返った気がしました。

大休止後お鉢めぐりに出発です。日本最高点剣ヶ峰を目指します。その頃には天候も回復し、ぐるっと見渡せます。



[写真 19 お鉢めぐり（八ヶ岳方面を望む）]



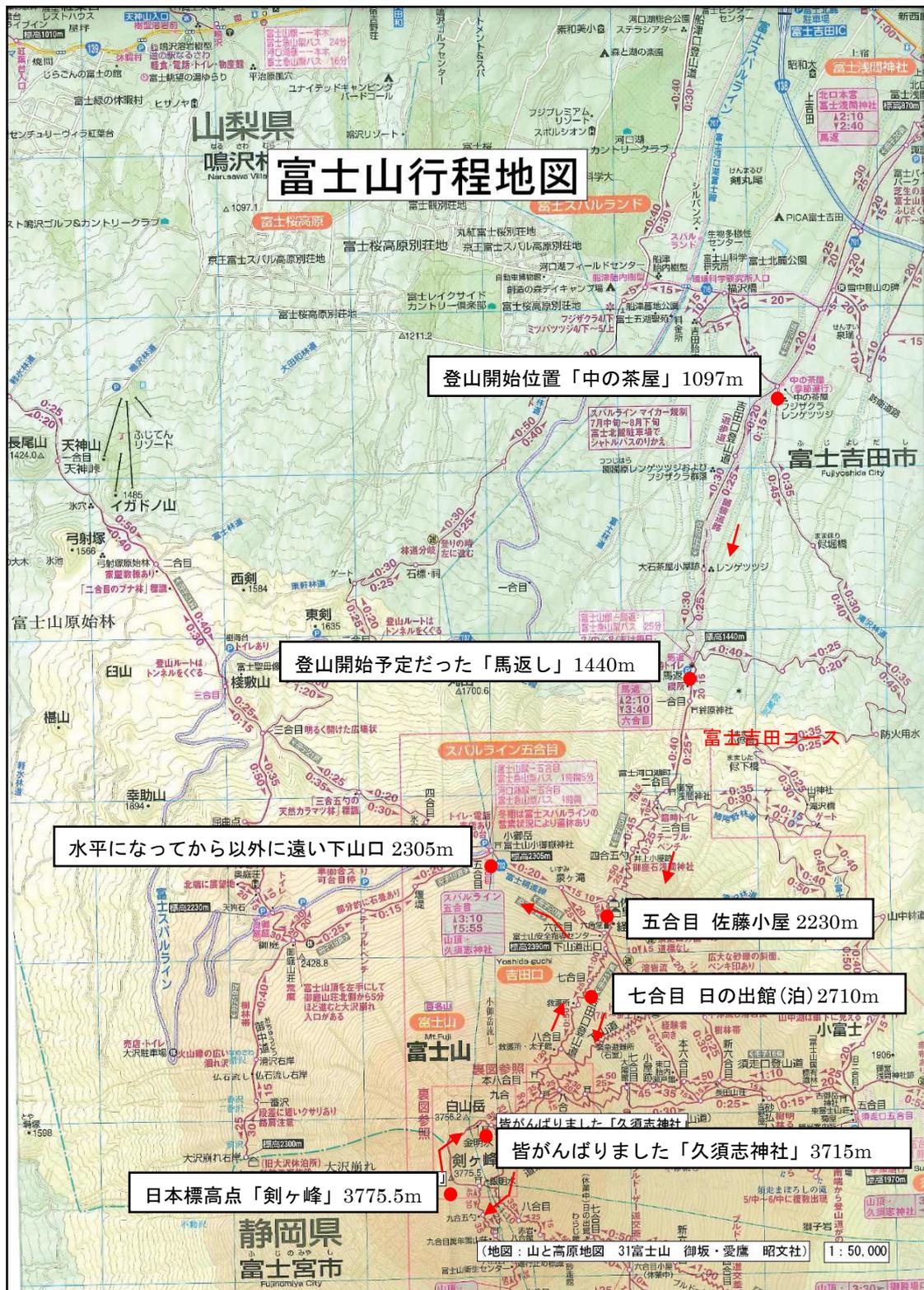
[写真 20 剣ヶ峰から駿河湾方面を望む]

お鉢めぐりでは富士山頂上郵便局からハガキを投函したり、剣ヶ峰での記念撮影をしたりしながら回ってきました。途中手を振っている人が向かってくるので良く見るとゆっくりペースでのFさんとSL中村さんが迎えに来てくれました。あ後は自分のペースが取り戻せて無事登頂できたのだと聞いて皆が安堵しました。無事一周を終え小休止後下山です。下山専用の道を砂礫に足をとられながら一路富士スバルライン五合目を目指します。下りだからあつという間に着くかと思えばさにあらず。なかなか着きません。やっと下山口に着いたのは12:00でした。本日の行動時間12時間でした。

その後は温泉（溶岩温泉）により昼食（溶岩プレートで作る焼きそば）を頂き一路盛岡を目指し無事帰ってきました。

今回の富士山は盛岡山友会 30 周年の企画ということで昨年来からいろいろと企画を練りながら漕ぎ着けた山行でした。企画立案に当たられた高橋陽子さんはじめ各担当の方本当にありがとうございました。

途中体調不良の方が出たにもかかわらず全員が無事登頂でき下山できたことは山に対する日頃の個人の取組及び会の取組の賜物だと思います。今後も無事故で楽しい登山が続けられますよう祈念します。



30周年記念国内山行 岩手山（柳沢コース）

- 山行日 : 9月4日（日）
- 山 域 : 岩手山（2038.0m）
- コース : 柳沢コース
- 参加者 : CL 熊谷久美子、SL 遠藤千鈴子、木村三、大倉博、裊地則子、吉田菊男、佐々木テイ子
北田絹恵、中村美栄子、山崎祐三、久保加世子、三澤信裕、級木信子、加藤桂子（報告者）
- 行 程 : 馬返し登山口 5:55～一合目 6:45～四合目 7:55～八合目 10:10～奥の宮（清掃、セレモニー） 11:15～12:20～頂上 12:40～八合目 13:20～一合目 15:35～馬返し登山口 16:15

絶好の登山日よりです。樹林帯の中は、湿気でむしむしと蒸れ汗が止まりません。水分補給しながら黙々と登ります。四合目から旧道にでました。岩場は何も遮るものもなく爽やかな風があり心地よく登れました。体調が悪かった木村さんにCLの熊谷さんが付き添いゆっくりと登ります。七合目までくるとあとひと踏ん張り。八合目の湧き水はコンコンと湧いてその美味しいこと疲れた体にしみてきます。何杯も飲みペットボトルに詰めこみ奥の宮に向かいます。九合目で七滝コースの陽子さん達と一緒にになりました。奥の宮ではすでに焼け走りコースの数博さん達がガラスかけらを拾い終わりそうでした。大雨のせいかけらが土の上に出ており拾いやすく感じられました。簡単なセレモニー（会長、中村さん、新人会員3名、創立メンバーの佐々木さん）は挨拶、記念写真とあと各自ごとの行動となり馬返しチームは昼食後山頂経由で無事下山しました。お疲れ様です。

木村さんも八合目でゆっくり休み体調も元に戻り良かったです。



奥の宮での30周年記念セレモニー

30周年記念国内山行 岩手山（焼走りコース）

- 山行日 : 9月4日（日）
- 山 域 : 岩手山（2038.0m）
- コース : 焼走りコース
- 参加者 : CL 渡邊健治、SL 中村数博、松田幸久、柚澤瑠実子、松田希（報告者）
- 行 程 : 登山口発 5:00 第2噴出口 6:35 ツルハシ分岐 7:40 平笠不動小屋 8:40~9:10
山頂 9:55~10:35 奥の宮 10:55~12:00 平笠不動小屋 12:45~12:55
ツルハシ分岐 13:40 第1噴出口 14:00 登山口着 15:10

「創立記念山行、どこから登る?」、「どこでもい〜よ。」「7コースから登るらしいから、足りないところに入ろうか。」とある日の松田家の会話。例会場で確認すると、馬返しと七滝は申込みが多く、御神坂は数博さんひとり。創立記念山行は3人いないと成立しないらしいので、御神坂に入ろうか…、とっていると隣に柚ちゃんがすっと現れた。馬返しにしようかと考えている柚ちゃんを御神坂に誘おうと思ったが、お盆休みに御神坂は一緒に歩いたばかり。聞くと焼走りは途中までしか歩いていないと言う。そこを通りかかった会長にどこから登るのか尋ねると、「どこでもい〜よ。」と軽い返事。数博さんに「焼走りにしませんか?」と尋ねるとこれまた「どこでもい〜よ。」えーい、みんな巻き込んで焼走りだ〜!!ということでメンバー決定。おもしろくなりそうだ♪

当日 4:45 登山口集合。まだ夜が明けたばかりの薄青の世界にくっきりと岩手山の姿が見えてきれいだ。七滝コースのメンバーが車から手を振りながら通り過ぎて行く。山頂で会おうね〜! 眠い眠いと言いながら歩き出す。9月になっても暑い日が続いている。焼走りコースはコマクサロードと平笠不動小屋から上以外は、樹のおかげで日差しが遮られ案外快適に歩けた。屏風尾根を歩いてみたい、スキーで岩手側から八幡平へ登りたい、積雪期の鬼ヶ城もいいね、盛岡側から毛無森にスキーで入るのは? など、ワクワクする話をしながら歩いているとあ〜という間に平笠の小屋に着く。小屋の周りにはガラス片がたくさん落ちているので、ここで少し清掃活動をすることにする。

30分程ゴミ拾いと休憩をして山頂へ出発する。今日は馬返しコースの久保さんと七滝コースの古川さんと無線交信の約束をしている。お鉢へ登る途中、御苗代湖が見えてきたので古川さんと呼んでみると、コールが返ってきた。メインからサブチャンネルに移動して無線交信成功!!七滝コースも順調に上がって来ているようだ。集中登山はやっぱり楽しい。山岳会にいるからこそできることだ。



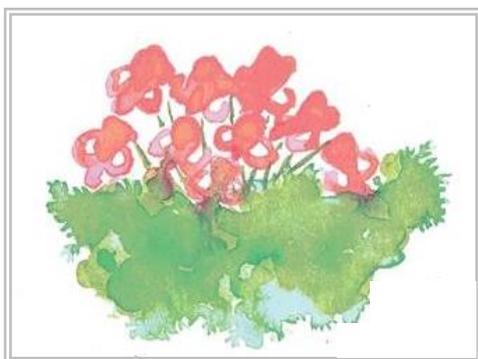
山頂に着いて記念撮影。時間はたっぷりあるので山頂でゆっくり昼食とすることにする。ここで、馬返しコースの久保さんと無線で交信。7回目まで来ているとのこと。皆に会うのが楽しみだ。天気恵まれて山でこんなにゆっくりできるなんて幸せ〜、とメンバーはニコニコだ。

奥の宮では前泊した福山さんが迎えてくれた。他のコースの皆が到着するまでガラス片を集める。皆が元気に到着して賑やかになる。やっぱり山友会はこうでなくっちゃ。清掃活動の後、皆でお参りをし、記念撮影、セレモニーと続く。盛岡山友会 30歳の誕生会だ。創立メンバーの貴重なお話しも聞けて、

30年続くことは凄いことだと改めて感じた。

12時に皆に見送られて出発。下山も順調。しかし、焼走りコースはツルハシから下が長い。コマクサロードはザレ場歩きのトレーニング。噴出口を過ぎてからも、歩いても歩いてもなかなか登山口が近くならず、次第に皆静かになる。足早に進むSLの数博さんの背中からは「ビール、ビール!!」というコールが聞こえてくるようだ。

登山口に到着して反省会。久しぶりの会山行。創立メンバーの会長、山友会が大好きな数博さん、山友会ができたころにはヨチヨチ歩きで山を歩くことになるとは思ってもいなかった柚ちゃん、そして山友会で出会った松田家の5人で山友会の誕生会に出席するための楽しい山歩きができました。



焼走り コマクサ

30周年記念国内山行 岩手山（七滝コース）

- 山行日 : 9月4日（日）
- 山 域 : 岩手山（2038.0m）
- コース : 七滝コース
- 参加者 : CL 古川孝、SL 辰巳和司、高橋陽子、野中尚之、小田春美、工藤敬子、中村篤（報告者）

- 5 : 30 七滝コース登山口スタート(中村6 : 00)
- 10 : 40 不動平
- 11 : 30 記念式典
- 12 : 15 下山開始
- 14 : 00 つるはし分岐
- 15 : 30 上坊登山口下山

目覚めるとあたりはすでに明るかった。

「!!?」

通常なら、1度目が覚めても安心して2度寝するところが、一瞬で目が覚めました。

「4時に目覚ましをセットしたはずなのに、すでに明るいのはおかしい!!」

あたりをまさぐって目覚めとして愛用している携帯電話を探しますが、見つかりません…

（しまった…どうやら携帯を忘れてしまったようだ…!）

車の時計を見ると、もうすぐ5時になろうかという時間です。

当日は4:30 西根道の駅集合だったので、万全を期して前泊して望んだのですが、まさかそれが裏目に出てしまうとは！そして前泊したことを悟られないように隅の方にひっそりと車を停めていたことがさらに裏目に出てしまいました！

一応外に出て様子を確認し、さすがに待ち合わせのメンバーがいないことを確認しつつ用を足すと、すぐに七滝コース登山口へ向かいました。

予定では、5:30 登山口発だったので、今ならそれほど遅れずスタートできるはずでした。

ほとんど山友会の山行には参加したことがなく、今日も初めて一緒に登る人達ばかりなのに、いきなりやってしまった…！

しかし、八幡平ビジターセンターに到着しても、一台も車が停まっています。

不安になりつつ看板を見てみると、登山口に小さい駐車場がある様子…

行ってみると、数台の車が停まっていました。

下の方にはロイヤルホテルがミニチュアのように見えて良い景色です。

我慢できずシャッターを押しますが、こんなことをしている場合ではありません！急いでみんなの後ろを追います。

歩いてゆくと、滝の音が聞こえてきます。

七滝です。

しかし自分はまっすぐ山頂をめざします。

カランカランと鳴る熊除けの鈴の音が気持ちを焦らせますが、休憩を省いていけばどんなに遅くても

山頂に着く前には追いつくはず…

などと考えていると、前には最初のパーティーが!!

もしや!

急いで追いつき、おそろおそろ声をかけます…

「あの一、山友会の方でしょうか…?」

「あー! 中村さん!」

野中さんが気づいてくれました!

集合時間に現れず、携帯もつながらないため、家に電話をしたところ、母親が、携帯を忘れたようだから先に行ってください。と、言ってくれたとのこと。

母親に GJ(good job)! と感謝しつつ、みなさんに平謝りです。

合流できた安心感で、疲れもふっとびます。さあ、ここからが記念山行のスタートだ! さあ行くぞ!

「中村さん合流6時50分…と…」

記録係の小田さんに、しっかり記録を残されました…

七滝コースのみなさん、その節は大変ご迷惑をおかけしました。重ねてお詫びいたします<(_ _)>。

七滝から歩いてしばらくすると、登山道の途中、事故の慰霊碑がありました。

冬山の事故でしょうか?

今では岩手の登山道はよく整備されており、道具や食料も進化していますが、昔の登山は今よりもはるかに厳しかったことでしょう。

またしばらく歩くと、沢から硫黄の匂いがしてきます。



小さいころよく入っていた八幡平の温泉の匂いです。硫黄の匂いの違いなんて考えたことはなかったのですが、岩手山の硫黄の匂いを嗅ぐとなぜだか八幡平の温泉の匂いだとすぐにわかります。

硫黄の沢を横目に見つつ登っていくと、徐々に樹林が消えて視界が開けてきます。

樹林帯歩きが苦手な自分としては、早くに樹林帯から抜けれて得をした気分です。

上から見たときは、毒ガス注意の看板のせいか、さながら命がけで県民の森の樹海に突っ込むコースという様相に見えますが、下から登ると稜線歩きのような感覚や硫黄の山の景色が楽しめるコースでした。

残念ながらお花畑コースとの合流地点で硫黄地帯は終わり、また植物が生えてきます。

このあたりは、山頂から見るとまるで社会の教科書に載っている針葉樹林帯の写真のように見えるので、個人的に「カナダ」と命名している地点です。

「カナダ」を抜け、しばらく樹林帯の登りをしていると徐々に不動平の気配がしてきます。

あの丘を越えたところが、不動平だな…と思い登ってみると…

「おおー! 広い!!!」

お花畑コースから登ったことはなかったなので、見慣れない不動平が新鮮です。



ここまでくると、山頂はもうすぐです。

9合目で、登り最後の休憩をしました。

9合目で休憩をしていると、馬返しコースのグループが登ってきました。

我々も馬返しコースと合流し、一大勢力となり他のグループとの合流場所の岩手山神社を目指します。神社前では焼走りコースの人たちが一足先にゴミ拾いをしていました。

毎年行っている岩手山の清掃登山ではどんなにきれいに拾ったと思っても、次の年には必ずビンがでてくるのだそうです。

なるほど、登山道にはゴミはほとんど落ちていませんが、ロープを少し入ると大量のガラスが落ちています。

清掃登山に参加している先輩方は慣れたもので、米袋等、割れたガラスを入れても破けない丈夫な袋を用意しています。

小屋がない時代はこのあたりがテン場だったのでしょうか？

それとも、他の場所でテントを張り、ここがゴミ捨て場だったのか？

中には古銭も出てくるので、おそらく江戸時代くらいからの習慣だったのではないのでしょうか。

当時の人はゴミを捨てた後、わざわざ律義にも上から土をかけたのかもしれないな。

そんなことを考えていると、遠い昔から人々に愛されてきた山なんだなあと、なんだかビンの欠片にも、先人達の宴会の様子が浮かんで来て、愛おしく思えてきます。

1時半から盛岡山友会30周年記念式典です。

会の創立当時の話を聞かせてもらったりと、なごやかに式は進んでいきました。

「それでは、新入会員にも挨拶をもらいましょうか！」

(まさか…)

御名答！自分にも出番がまわってきました。

なんとか挨拶を乗りきり記念式典は終了しました。

お昼ご飯を食べ終わると、他のグループに別れをつけ、それぞれのコースで下山します。

七滝コースの我々は上坊登山口への下山です。

ふもとに下りるにつれ、まだ夏のなごりを感じます。

日差しは強いものの、高原らしい爽やかな陽気で遠くの森の緑もキラキラしており、とても気分の良い日です。

県民の森にも休日を楽しむ家族連れがぼつり遊んでいます。

帰りには、冬にのみ歩くことができるという、焼走り直登コースの存在も教えてもらい、いつかチャレンジを心に決めたのでした。

帰りの車では途中で眠くなり、沼宮内で仮眠をとったら5時間も寝てしまいました。

いろいろと企画のあった今年の記念山行ですが、どこにも参加できなかったのが、岩手山には参加しようと思い、まだ登ったことのない七滝コースに参加させてもらうことにしたのですが、七滝コースが一番好きだ。という人が多いのも納得のすばらしい景色のコースでした。

同行者の優しさが心に沁みた山行に感謝、感謝です！ありがとうございました！

30周年記念国内山行 姫神山

- 山行日 : 9月4日(日)
- 山域 : 姫神山(1123.6m)
- コース : 一本杉～山頂～こわ坂
- 参加者 : CL 千田勝則、SL 府金志磨子、浦部光生、川村雅子、高橋恵美子、太田代恵久子
吉田成子、佐藤妙子、藤澤幸恵、三戸紀子(報告者)

曇り空の日曜日、参加者10名、出発前に一本杉第2駐車場のゴミ拾いを行いました。煙草の吸殻やキャンディの包み紙といったゴミが落ちていました。マナーを守りゴミはきちんと持ち帰りたいものです。山の美化・保全を意識したところから出発です。

わたくしにとっては、初めての姫神山。いつも遠くから眺めては、いつかは登りたいと想う憧れの山の一つでもありました。

ワクワクしながら一本杉コースへ進みます。見事な一本杉を觀賞し、ざんげ坂の階段を進みます。懺悔すること何かあったかなと悠長に考えている暇もなく、次第に膝はがくがく……。まさしく膝が笑う状況でした(苦笑い)。

五合目にて太田代さんから、梨の差し入れをいただき小休憩。冷たくて甘くて美味しく、「よし、がんばるぞ」と気合を入れて山頂目指します。その後も、階段、小さな木梯子、笹原道、大きな岩場を乗り越え山頂に到着。天気良ければ遮るものがない山頂からは、岩手山や八幡平、早池峰山が見渡すことができたとあろう。残念だなーと思いつつも心の中では「ヤッター、登頂」と雄叫び。

その後は記念の横断幕掲げての記念写真を撮影。その間、他の登山者からは注目の的でした。撮影を終えお昼の支度にかかります。本日のメニューは「豚汁」です。登山道で収穫した「タマゴダケ」も具材に加え、吉田さんが調理してくださいました。美味しい豚汁に心がほっこり温まります。正直、タマゴダケを見た時は、これって毒キノコ?と思いましたが立派な食用きのこだったのですね。なかなか、いい出汁が出ていて感激しました。そして、デザートには府金さんが背負ってきて下さったスイカが登場、更には浦部さんから梨の差し入れと山頂で沢山ごちそうになり、おなかも満たされ会話も弾み、また一つ楽しい思い出が出来ました。

おなかも満足したところで、改めてメンバーの自己紹介。皆様のこれからも山に登って行きたいという思いがじんわりと伝わってきました。

親睦も深まってきたところで下山へ。こわ坂コースを進みます。一瞬でしたが空が開け下界には岩洞湖の姿を見つける事が出来ました。こわ坂コース、最近の台風の影響なのでしょうか、倒木数本あり登山道を塞いでいましたが、どうにか跨いだり、くぐったり、時には急坂トラロープを頼りに難所を乗り越える事が出来ました。

やがて森林が切れて視界が目の前に広がります。曇り空から青空に変わりつつありましたが、岩手山の中腹から頂上にかけては雲がかかっており山すそ辺りしか見えず。シュンとしていると、遠くに森吉山が見えるよと教えていただき、気分は上昇。また、登山道の傍らに咲く、ウメバチソウ・ツリフネソウ・ミズヒキ・・・その他多くの花にも出会い癒されます。

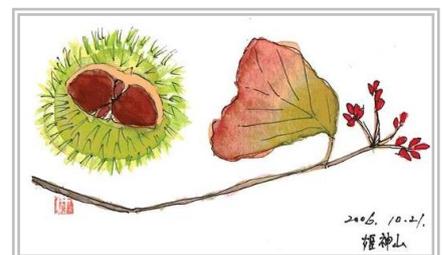
こわ坂登山口に到着、更に車道を歩くこと 30 分ほどで一本杉第 2 駐車場に無事到着です。車道には煙草の空箱、こわ坂コース登山道においては、ガラスの破片の様なもの落ちており回収してきましたが、次に訪れるときにはきれいな登山道であってほしいと願うところです。

今回の山行は記念山行と清掃登山を目的に行われました。短い時間ではありましたが、楽しいひとときを共に過ごし、思い出話に花が咲き、更なる親交が深まり、また時には道中、困難な道のりを協力して乗り越え、皆様が無事に登頂下山し、なおかつ清掃登山に励み、とっても充実した一日でありました。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

創立 30 周年おめでとうございます。



姫神山山頂



□ 記念海外山行・山行報告

記念海外山行は、会員の自主提案で下記の2山行が行われました。特に、天气に恵まれたヨーロッパアルプスの山行報告では、青空に映える雪と岩のすばらしい写真が多数紹介されています。

記念海外山行一覧表

No	年月日	山名	コース	参加人数
1	2016年4月28～ 5月5日	台湾 雪山 3886m 玉山 3952m	武陵農場～雪山 往復 上東埔～玉山 往復	5人
2	2016年7月7～ 7月20日	ヨーロッパアルプス シャモニーとツェル マツト	ヴァレーブランシェ、 ブライトホルン	2人



「あかげら」2016年2月号 表紙 中村篤

30周年記念海外山行 台湾 雪山、玉山

- 山行日 : 4月28日(木)～5月5日(木)
- 山域 : 雪山(3886m)、玉山(3952m) [台湾]
- コース : 武陵農場～雪山 往復、上東埔～玉山 往復
- 参加者 : CL 橋本久、SL 中根和子、日比野保子、熊谷久美子、加藤桂子(報告者)

日本が日清戦争で1895年に接収したという歴史がある台湾の富士山より高い玉山(新高山)、その次に高い雪山(次高山)に5人で登ってきました。

玉山は、いつか行ってみたいと思っていた所、橋本さん達がいくというので、熊谷さん、日比野さんと申し込みをしたが私は、肩の故障で病院通いとなりさらに、3月の大雪で転び玉山行きを断念したが、仲間たちの励ましで、トレーニング不足でしたが、行くことにしました。

4/28 成田空港を出発。4/28～5/5までの8日間うち山小屋。雪山2泊、玉山1泊です。台北で橋本さんの友人後藤さんと合流。電車とバスでホテルに移動。

4/29 ホテルで登山ガイドの施さん(40歳、台湾で女性のガイドは3人。日本語できます。)と合流しバスで雪山登山口となる武陵農場(登山口)へ。バスから降り荷物を整理しているとき台湾猿が橋本さんのお土産ラーメンをひっつかみ山に逃げていく。小屋の管理人が追いかけて戻ってきた。橋本さんかなりショックなようだ。管理小屋で安全注意のビデオを見て2460mのシチカ山荘へ2時間。夕食は、施さんとコックさんの手作り料理が美味しい。 ≒2時間



4/30 雪山アタック日。シチカ山荘を3時30分発。ジグザグ道。急登となる。台湾馬酔木、台湾二葉松(アカマツ)の中。高度を上げながら途中日の出を拝み展望台に、3000m越す山々が鎮座する。白い眉班の鳥(鳥金翼白眉)が食べ残しを目当てに近づいてくる。前方に険しい東山(3201m)。息切れが激しい。三六九山荘で荷物を軽くし雪山をめざす。草原。白い木の林(火事のあと)。水場。特にシャクナゲが満開で素晴らしい。樹林帯をすぎまもなく雨が降り出してきた。

雪渓をすぎカールが見えるはずだが雨で何もみえない。頂上もやっと記念写真を撮り下山。三六九山荘の夕食は雨の為炊事場で大勢の登山者混み合うなかでの食事。大変でした。 ≒12時間

5/1 今日は降りるだけで気持は楽です。5時山荘発。下りは早い。登りは足元ばかり見てたのに、改めて急な所登ったと実感しました。専用車(バス)で東埔温泉のホテルへ、ぐっすり眠れました。 ≒3.5時間

5/2 必要な荷物を持ちあとは、ホテルに預ける。専用車(バス)にて玉山登山口の上東埔駐車場へ公園事務所でパスポートチェックを受けて公園内専用車にのりかえタカタ鞍部(2610m)玉山登山口へ。登山道は山肌の斜面をトラバースしながら緩やかに登っているが、右下は見事に切れて油断はできない。モンロー断崖を経て白木林休息亭でラーメンの昼食。そこにリスが現れ食べ物を物食。全然人を恐れない。排雲山荘で(3400m)夕食を取り明日は早いので寝袋に潜りこむ。 ≒6時間

5/3 玉山アタック日。軽くおかゆを食べ2:30ヘッドランプを頼りに霧の中ガレ場を登るにつれ雨になる。風も強く頂上近くになると岩場。三点確保で慎重に鎖場も出てくる。頂上は長蛇の行列でびっくり。順番待ちおまけに雨風強くなり周り何もみえない。最悪。やっと記念写真を撮り早々に下山。

山小屋でラーメンの朝食を取り荷物をまとめ下がる。下に行くほど天気は良くなり、登山者、ツアー登山、荷揚げのポーターがどんどん登ってくる。若い人達ばかり。再び専用車で東埔温泉へ。美味しい台湾料理。天然温泉楽しみにしてたのに誰も入っていないので残念、水着まで持ってきたのに。 ≒ 8時間



5/4 専用車（バス）で台北へ。ホテルでガイドの施さんとお別れありがとうございました。楽しかったです。夕食は近場の夜市で。

5/5 専用車（バス）で予定外の観光景勝地日月槽湖により台北桃園空港へ。成田から東京間信号の故障で乗り換えた為予定の新幹線乗れなく一つ後の列車立ち席でかえりました。

雪山行程

- 4/29 雪山登山口 13:25～シチカ山荘 15:40
- 4/30 シチカ山荘 3:35～展望台 5:40～8:00 三六九山荘（朝食）8:40
雪山頂上 12:35～三六九山荘 15:30
- 5/1 三六九山荘 5:00～シチカ山荘 8:00～雪山登山口 8:40



雪山山頂



玉山行程

- 5/2 玉山登山口 9:25～排雲荘 15:30
- 5/3 排雲荘 2:30～玉山 5:20～排雲荘 6:50～タカタ鞍部 8:00～玉山登山口 12:00



玉山山頂



30周年記念海外山行 ヨーロッパアルプス・ツアー

報告者 福山 茂和、山田 潔

- 山行日 : 2016年7月7日(木)~7月20日(水)
- 参加者 : No.416 福山 茂和、No.305 山田 潔
- 山城・コース、行動

日	天候	宿泊地	行 動
7月7日	晴れ	機内	羽田に移動し深夜便でトバイ経由ジュネーブへ
8日	晴れ	シャモニ	ジュネーブからシャトルバスにて午後4時頃にシャモニ到着
9日	快晴	シャモニ	グリュ・ド・グランド・イからエルブロン往復の観光後に中間駅からモンタヴェールまで歩き登山電車でシャモニへ下った後ブレヴァンへ
10日	快晴	シャモニ	プランプラからルージュール経由でラック・ブランまで歩きルージュール経由で戻る
11日	晴れ	シャモニ	エルブロンからグリュ・ド・グランド・イまでガイド同伴でヴァル・ブランジェ氷河横断、今回のツアーのハイライトの一つ
12日	雨	シャモニ	曇り空の中グランド・モンテへ行くが雨降りのため観光のみ、山田さんは午後からモンタヴェールへ氷河見学へ行くが氷河へ下るゴンドラ動かさず断念
13日	曇り	ツェルマット	シャモニからツェルマットへ移動、ブライツホルン登頂ツアーの支払いでアルパインセンターへ
14日	曇り	ツェルマット	オーバーポートホルンへ向かうが新雪が登山道にあり危険と判断し中止、エデルワイスを鑑賞しスネーまで歩く
15日	快晴	ツェルマット	アルパインセンター主催のブライツホルン登頂ツアーに参加、ガイド1名に客5名(西洋人夫婦+私たち+岡山からの男性)で登頂
16日	快晴	ツェルマット	山田さんは改装なったヘルリヒütteへ、戻りはスタッフエルブロン経由フリまでの長丁場を歩く。私は長年の宿題(3回目)だったオーバーポートホルンへ上り、下りはブラウヘルまで歩き、このルートでもエデルワイスを確認する
17日	快晴	クライネ・シャイテック	ラウターブルネー→ウエゲン経由でクライネ・シャイテックへ移動。午後からアイガートレルを歩く(アイガー北壁の下部を歩く)
18日	快晴	機内	午前8時の一番電車でエンゲフラウヨッホにて観光。午後グリンデルワルト経由でチェリツィからトバイ経由で羽田へ向かう
19日	晴れ	羽田	深夜に羽田着後近くのホテルシャトルバスにて移動
20日	晴れ		お昼前に盛岡着

費用概算 (外食やお土産は除き基本的な費用)

項目	費用	備考 (ユーロは120円、スイスフランは110円で計算)
航空券	82,410円	エミレーツ航空
ホテル代	128,174円	シャモニ5泊の内4泊は2食付き、他は朝食なしと朝食付き、羽田ホテル込み
現地交通費	77,961円	スイス国鉄:半額パス、シャモニ:マルチパス、ツェルマット:ピークパス、シャモニ→ツェルマット、エンゲフラウヨッホ往復等
ガイド費	35,900円	シャモニ:15,000円 ツェルマット:20,900円
合計	324,445円	

1日目(9日):グリュ・ド・グランド・イに上った後、中間駅からモンタヴェールまでトレッキング

目的:高所順応及び時差になれる

行動:山麓駅での渋滞を避けるため6時15分に山麓駅着、順調に上がりグリュ・ド・グランド・イには7時前に到着する。

快晴の中、周囲の展望を楽しみ時間に余裕があるので、イリア側のエルブロン往復(28€)を行い、11日に歩くルートを上空から観察する。グリュ・ド・グランド・イに戻り、戻りのロープウェイに乗り中間駅のプラン・ドゥ・レグイ

ユにて降りる。ここからモンタヴェールまでのトレッキングを開始する。

地名	到着	出発
プラン・ドゥ・レギューイユ		10:15
展望台	12:26	12:33
モンタヴェール	13:22	

歩いた距離：6.8km

モンタヴェール到着後、登山電車で下山し、せっかくの好天なので反対側のブレヴァンゴンドラとロープウェイで上がり展望を楽しむ。

【写真】



2日目 (10日)：赤い針峰群の中腹を歩きラック・ブランまでトレッキング

目的：キュ・デュ・ミティとシャモニを挟んで反対側の赤い針峰群の中腹を歩く

行動：前日にブレヴァンは観光で上っているの、中間駅のプランプラからルジェールまで歩き、ここからチェアリフトにてアンデックスへ上がりラック・ブランまで歩きルジェールへ下る。ルジェールからはロープウェイにてプラの村へ、ここからはバスにてシャモニへ

歩いた距離：14.1km

この日のラック・ブランからの急な下りは少々疲れしました。

地名	到着	出発
プランプラ		8:48
ルジェール	10:12	10:12
アンデックス		10:31
ラック・ブラン	12:21	12:41
ルジェール	14:54	

【写真】



この日の18時半にがっ組に出向きがっさんと事前の確認(集合時間や装備、食料等について)

3日目 (11日)：エルブロンヌからキュ・デュ・ミティまでヴァレ・ブランシェ (白い谷) 横断

目的：アルプスの氷河を歩く

行動：通常であればキュ・デュ・ミティから出発しエルブロンヌまで歩くモンブラン登頂前の高所順応に利用されるツアーですが、この日は晴れていたが風が強く、戻りのゴンドラ(エルブロンヌ→キュ・デュ・ミティ)の運行の中止も予測されるためがっさんの判断で先にエルブロンヌまでゴンドラで移動しキュ・デュ・ミティまで歩く逆のルートに変更となる。

地名	到着	出発
エルブランシュ		9:02
最低高度地点 (3160m)		10:15
エギュ・デュ・ティ	13:45	

歩いた距離：6.0km

この通常の逆に歩くルートは最初のナイフリッジが下りでなく上りで少しは恐怖感が湧らぐことですが、デマリットとしては全行程約6和の内、上りが3.5和で約600mの標高差（逆だと上りが2.5和で約280mの標高差）と、体力的にはきつくなります。

装備：当初、ガイド組合のスタッフとのメールでのやり取りでは、特殊装備としてはアゼン、ピッケル、ストック、ハーネス、ヘルメットと、氷河歩きでは不要かとも思われるヘルメットも入っていた。で、実際の行程ではと言うとヘルメットは不要（ガイドさんも被ってない）、ピッケルも最後のナイフリッジの上りで私は使用（ストック一本と併用）しましたが、山田さんはガイドさんに確認し、ストック二本を使って上りました。

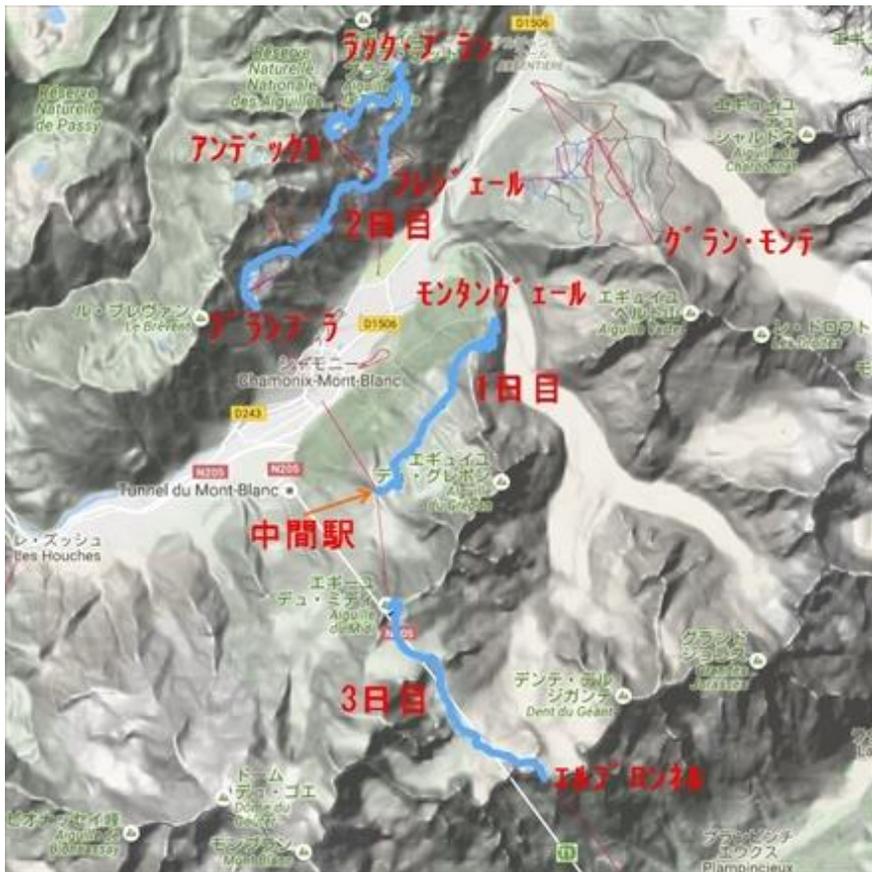
ガイドさんの装備で気づいた点は、ピッケルが非常に短くリシュ等のバンドはなし。また、ザックも25L程度と小さく、必要最小限の装備しか入ってないようでした。

【写真】



参考情報：ガイドさんの手配はシャモ、ツェルマット共に現地のホームページから問合せ、その後は通常のメールでのやり取りでした。なお、正式な手配はツェルマットは5月から、シャモは6月からです。また、ガイド費用の支払い方法もシャモは直接ガイドさんへ山行終了後に支払い、ツェルマットはガイドさんを手配してくれるアルパインセンターへの前々日までの支払いと異なっています。シャモには地元出身者のみが入れるガイド組合（私たちが利用）以外にもいくつものガイド組合があるようです。

[シェニでの山歩きの軌跡] * 青線はGPS 軌跡



余談：シェニの一泊目は朝・夕食なしのホテルでしたが、朝食をホテルで食べると17ユーロとのことでした。朝・夕食なしのホテルを探して自炊と外食（でも非常に高い！）での生活も安くあげるには良いかと思います。特にガイド同行での山行日は集合時間が早いためホテルでの朝食時間では間に合わないのので朝食なしが便利です。ホテルの予約は全てネット経由（booking.com）から行いました。二回目の利用ですが、予約間違いもなく無料のキャンセル期間もホテルによって異なりますが、非常に長い（一週間前でも無料のホテルが）です。但し早めの予約が必要です。

6日目（14日）：ウンター・ロートホルンからスネグまでトレッキング

目的：エーデルワイスの観賞

行動：当初の予定では、オーバー・ロートホルンに登頂後にエーデルワイスの観賞に行く予定だったが、予期せぬ時季外れの降雪があり危険（アゼン持ってない）と判断し登頂は中止してエーデルワイスの丘へ直接向かった。

地名	到着	出発
ウンター・ロートホルン		8:51
分岐	9:07	9:10
エーデルワイスの丘	9:59	10:25
スネグ	12:02	

歩いた距離：7.8km

スネグ到着後にツェルマットまで下り、登山電車でゴルナー・グラーテへ上がるが雲が多く眺望は得られなかった。

【写真】



新雪を被ったオーバー・ロートホルン

エーデルワイス

エーデルワイス

参考情報：エーデルワイスはツェルマットのスネグ地区以外では私は見たことがないです。もし、エーデルワイスを是非とも見たいと考えての旅でしたら7月中旬以降のツェルマットのスネグ地区をお奨めします。

7日目 (15日) : ブライトホルン (4164m) 登頂

目的 : 4千メートル峰への登頂

行動 : 山麓駅にてガイトさん及び一緒に登頂する他のメンバー (西洋人の夫婦連れ+岡山の男性) と顔合わせ後に出発地点のグレイシャー・パラダスを目指して、ゴンドラとロープウェイを乗り継いで向かう。グレイシャー・パラダスのトレ有料 (2スイスフラン)なのは知っていたので事前に手前のトロッカー・シュテークにてトレを利用する。グレイシャー・パラダスの雪原への出口付近でガイトさんによってザイルに繋がれて風が強く寒いが快晴の中を出発。しばらく歩き斜度がきつくなる手前でアゼソンの装着をする (ザイルが足下でもつれて停まったとき以外は上りで唯一の休憩)。急な雪面をジグザグに上り山頂に到着、記念写真や周りの風景を撮影後に少し下がった風を避けられる個所にて休憩し下山開始。下山もアゼソンを脱ぐまでは休憩なく、なんとか歩いて歩くがアゼソンがなくなるとガイトさんの足が速くなったのか、私が疲れてきたのか、そのスピードに付いていくのがしんどくなるが、なんとかグレイシャー・パラダスの出口まで戻りザイルから開放され解散となりました。

地名	到着	出発
グレイシャー・パラダス		8:48
ブライトホルン	10:46	10:59
グレイシャー・パラダス	12:14	

歩いた距離 : 5.5km

解散後、「氷の宮殿」や展望台にて周囲の眺望を楽しみロープウェイにてトロッカー・シュテーク経由シュワアルプにて途中下車し、ここからも周囲の眺望を楽しむ。ツェルマットに下った後アルパインセンターへ寄り「登頂証明書」(無料)を入手する。

装備 : 指示されたのはアゼソン、ストック、ハネスで当初からピッケル、ヘルメットの指示はなかった。

【写真】

		
ブライトホルンの上った雪面	山頂にて	山頂の登山者とマッターホルン
		
グアイソルン	モンテ・ローザ	展望台からのブライトホルン

8日目 (16日) : 福山はオーバーホートホルンに再トライ

山田はヘルリ・ヒュッテへ

目的 : これまで三度トライ (一度目は最後のロープウェイが運休、二度目は残雪が多く断念、三度目は先日の降雪) して山頂へ到達していないオーバーホートホルン (3415m) へ向かう。

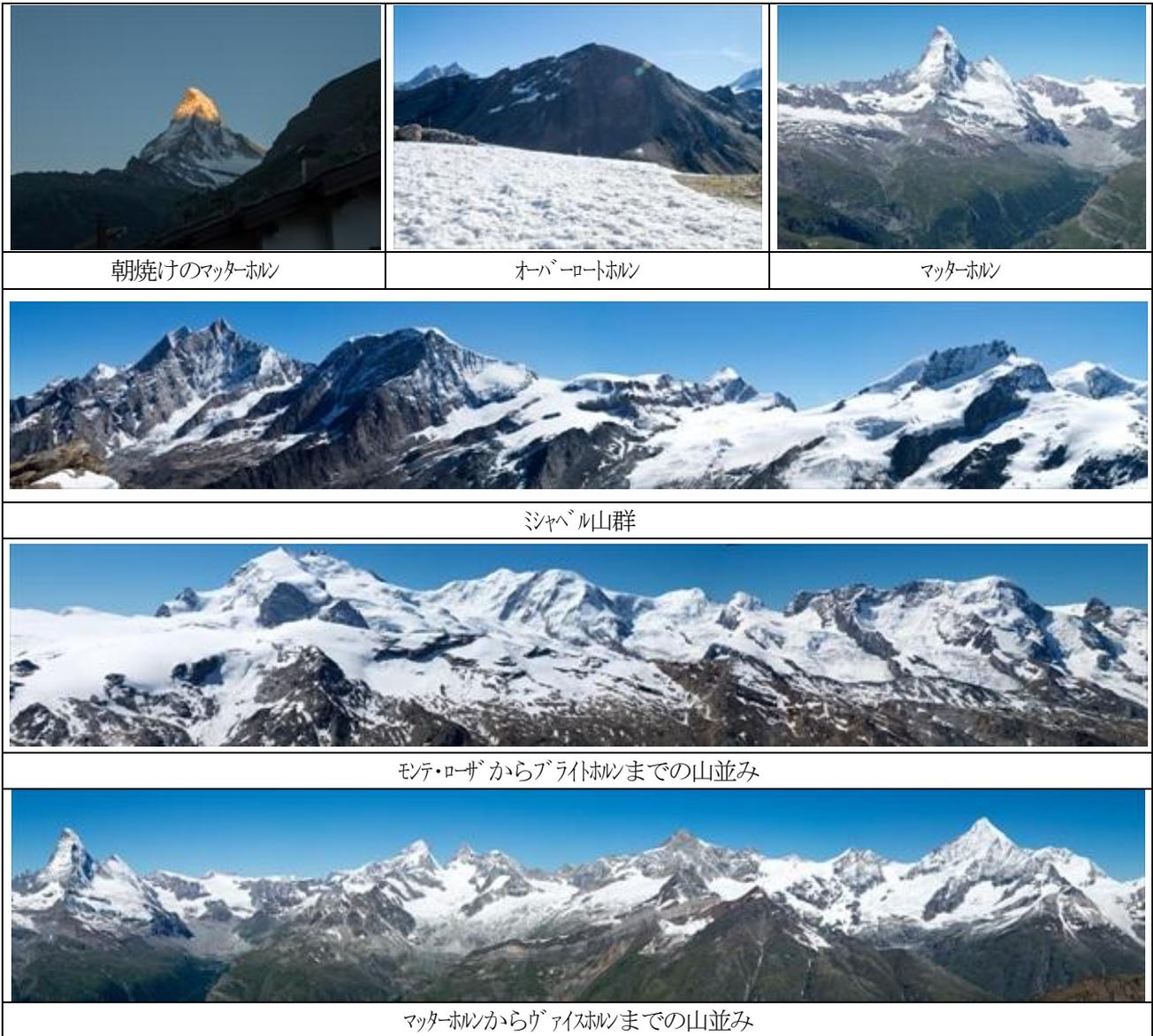
行動 : 先日の降雪も溶けていてトレスも見えていたので一人だったが問題なく上ることが出来ました。山頂からは360度遮るものがなく、特にシヤバル山群が近くに見え迫力満点であった。分岐からの下りは先日とは逆方向のグラウハルトへのルートを取り、この道でもエデルワイスの群生を確認することが出来た。

地名	到着	出発
ウンターホートホルン		8:37

歩いた距離 : 7.0km

分岐		8:55
オーバーロートホルン	10:16	10:32
分岐		11:30
エーデルワイス	11:53	12:09
ブラウヘルト	12:35	

【写真】



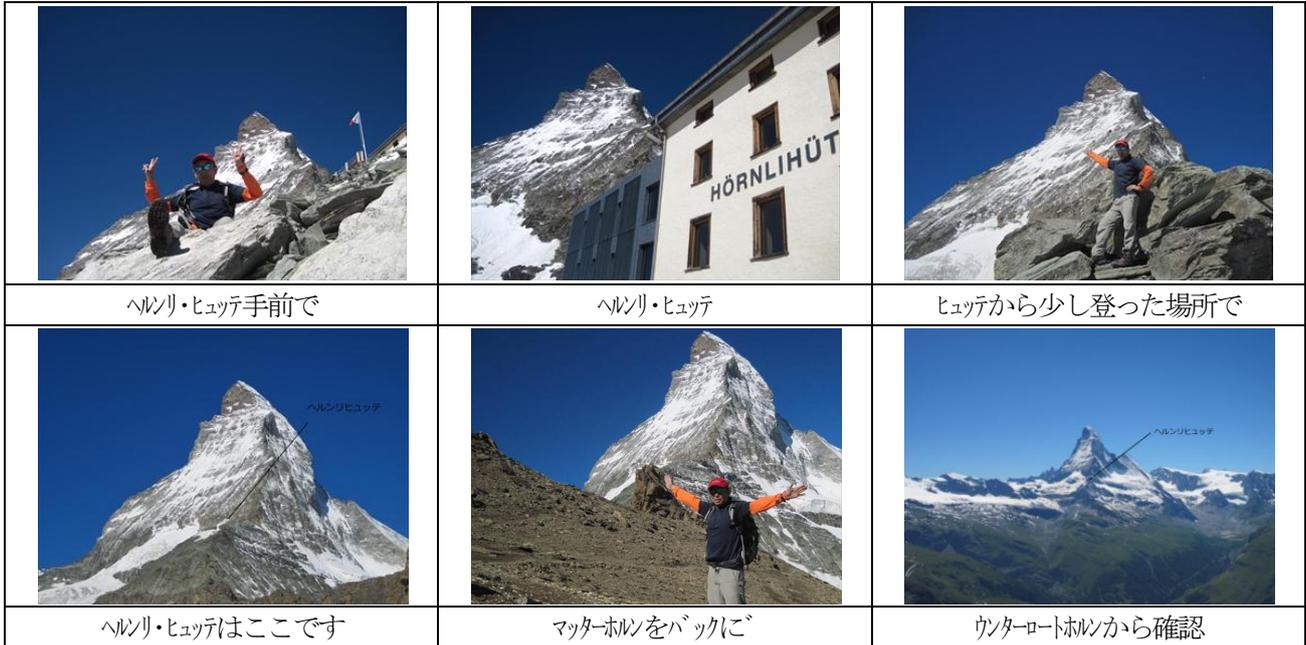
目的：マッターホルンに触る

行動：シュヴァルツェーを出発し1時間半ほど登ると雪渓があり、それを越えるとヘルリ・ヒュッテだった。物足りないのもう少し上るが観光客なので自重し、1時間ほど風景を堪能。帰りはスタッフェルプ方向に下り、フリに出る。途中カバル牛が放牧されていて、いかにもスイスの農村風景らしかった。時間があつたのでツェルマット到着後ロートホルンへ上りヘルリ・ヒュッテの位置を展望台から確認した。

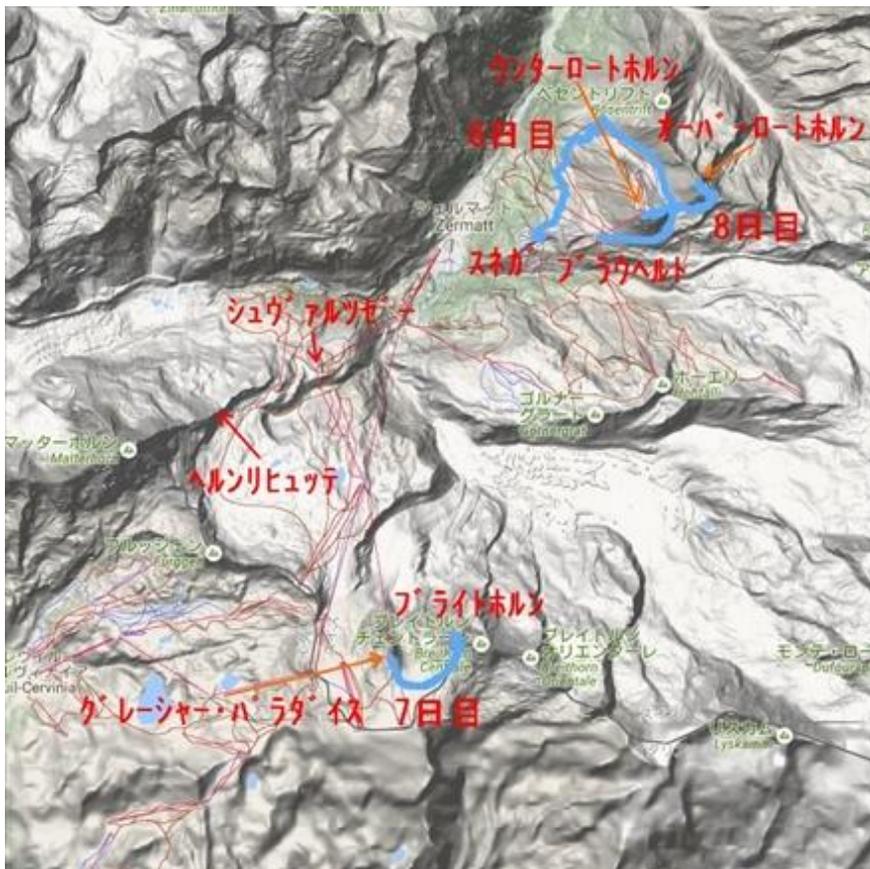
地名	到着	出発
シュヴァルツェー		8:30
ヘルリ・ヒュッテ		10:00
マッターホルン取り付き付近	10:30	11:30

スタッフェルアルプへの分岐		12:00
フリ	13:30	

【写真】



[ツェルマットでの山歩きの軌跡] * 青線はGPS軌跡



余談：スイスは物価が全てに渡って高いです。ちなみに私の生活必需品のビールは、レストランで飲むとグラス一杯（350cc）が7スイフラン掛かりますが、スーパー（COOP or MIGROS）では500ccの缶ビールが1〜2スイフランで販売しています。ただ、スーパーによっては冷たい飲み物は売っていないところもあるので、事前に購入し、部屋の冷蔵庫で冷やしておく必要があります。

また、瓶の水は飲めますが硬水なので、私たちはスーパーで2Lの6本パック等の特売品を購入し利用しました。

余談：シモン、ツェルマット、ユングフラウヨック共にアジア系の団体ツアーであふれかえっていますが、最近、目立つのがイスラム諸国からの観光客です。

9日目（17日）：アガール・トレイルを歩く

目的：ツェルマットから移動日なので、宿泊するクライ・シャイゲックから半日で歩けるアガール北壁下部のトレッキングを実施

行動：クライ・シャイックのホテルにチェック・インして駅に向かうが、駅はエング・フラウヨッホへ上る方で大混雑。私たちは一駅だけの乗車なので入っている電車に乗れるよう係員の方をお願いし、係員の方が年配の責任者の方に相談してくれたが「ダメ」とのことで、結局並ぶことになり、一時間程度炎天下の中で座席を確保できるまで待つことになりました。アガール・トレイルは前回の旅行時は、残雪が多く閉鎖されていたため歩けなかった私の宿題の一つで、初めて歩いての感想は、道は歩きやすく素敵なルートでした。

地名	到着	出発
アガール・グレッチャー駅		14:10
アルビ・グレン	16:18	

歩いた距離：6.1km

【写真】



アガール北壁（山頂は見えない）

歩くルートとヴェッターホルン

アルビ・グレンに下るルート手前の滝

参考情報：今年からエング・フラウヨッホ行きの電車の乗車システムは一日の乗車数を5千人に制限しています。また、予約ありの方（グリンの改札口）を優先的に着席させて、席の空きがあれば予約なし（黄色の改札口）の人を入れるシステムとなり、例え一駅でも立っての乗車は認めないようです。私たちも翌日のエング・フラウヨッホへの往復はネットから乗車予約（朝一番の8時）及び座席についても予約済み（往復の予約が必要で10スイフラン）でした。

[クライ・シャイックでの山歩きの軌跡] * 青線はGPS軌跡



余談：クライ・シャイックでのホテルは名前はホテルですが、部屋自体はシングルベッドが縦方向に2台と洗面台と棚だけの小さな部屋で、当然、シャワー・トイレは別です。でも、一泊朝食付きで一人60スイフランと安く、レストランでの夕食もおいしかったです。

なお、同じ日に富士国際旅行のツアーの方々もこのホテルに宿泊されていました。

余談：エング・フラウヨッホからアガールは山の陰に隠れて見えないのですが、18日に見かけた日本人ツアーの添乗員さんは、最初、山名をアガールと説明していましたが、山名表示板に山名となっていて、全く関係ない山をアガールと説明し、ツアー客の方たちも偽アガールをバックに写真を撮っていました。せめて有名な観光地から見える有名な山の名前ぐらいは正確に教えてあげて欲しいと思ってしまいました。

【 山歩き以外での写真 】

		
9日ギョ・デュ・ミディでの空中遊泳	9日ダン・デュ・ジエアン (巨人の歯)	9日右の岩峰はエル・キャピタン
		
9日イタリア側からのモン・ブラン	9日シャモニ針峰群	9日ギョ・デュ・ミディからの雪稜
		
12日ドリキン峰	18日アカーヴァント 駅から北壁を	18日アイス・メル駅から氷河を
		
18日アレッチ氷河	18日ユク・フラク	18日メヒ

夕日に焼ける山々

		
9日ホテルからモン・ブラン	17日ホテルからアカー-	17日ホテルからメヒ

● 創立 30 周年記念企画

□ 30 周年記念座談会

座談会テーマ 「 盛岡山友会 30 周年 新たなる時代へ 」

— 会員と共に歩む山友会の魅力と将来展望 —

参加者： 渡邊健治(座長 30 年)、中村美栄子(30 年)、工藤敬子(19 年)、中村数博(15 年)
久保加世子(13 年)、小野寺健一(9 年)、福山茂和(4 年)、杣澤瑠実子(1 年)
()内は会歴



渡邊: 30 周年記念座談会の座長をさせていただく会長の渡邊です。よろしくお願いします。

今日の座談会のメンバーは、男女比を同じにするとか、10 年毎の各年代からとか、会員歴の長い人から新しい人まで等を考えて会報部でお願いした皆さんですが、そのへんはあまり意識せず盛岡山友会について過去から未来まで自由にお話しをしていただければと思います。

テーマは「 盛岡山友会 30 周年新たなる時代へ 」、サブタイトルが — 会員と共に歩む山友会の魅力と将来展望 — になっています。テーマのねらいについて、盛岡山友会のこれまでの歩みとか山友会としての考え方、基本理念を説明し、その後、皆さんから一人

ずつ順番にご発言いただきたいと思えます。

盛岡山友会のこれまでの 30 年間で古くの人達はよく分かっていると思いますが、新しい人はよく分からないと思いますので、30 年間の歴史を簡単に振り返りたいと思います。盛岡山友会は、今から 30 年前の 1986(S61)年 9 月、13 名で結成されました。私はその時 33 歳でした。当時の会員の平均年齢は、だいたい私の年と同じくらいで推移していて、今、現役会員で当初からいる人の平均年齢を出すともやはり 33 歳くらいになると思います。この時から勤労者山岳連盟に加盟していま



す。結成当初は、本当に登山をがんがんやってきたような人がメンバーにはいなくて、せいぜいハイキング程度で近場の低い山、せいぜい岩手山くらいに登ればいいかなという感じで始まった会でした。ところが翌1987年3月の総会に転勤属である扇等さん(その後二代目会長)がいきなり現れて、2年目から会員向けの初級登山教室や岩登り講習会を始めて、一気に登山の幅が広がっていきました。その翌年からは初級登山教室を一般向けにして、ほとんど毎年開催して今に至っています。会員が着実に増えてきたのは、この一般向けの初級登山教室を絶やさずやってきたことが一番大きな力になっていると思います。

4年目の1989(H元)年度には、扇さんが持ち込んだ岩登りや冬山をやりたい人達と、そこまではとてもやるつもりはなく一般道を一生懸命歩きたいという人達で、趣向が分かれてきたということで、ハイキング部と技研部という2部体制になりました。岩をやりたい人達は技研部に入り、扇さんについて行って谷川岳とかあちこちの岩へ行って教わったり、時には危ない思いをしたり・・・、そういう記憶があります。

会活動の目的には自然保護も入っていますので、5年目の1990(H2)年度に自然保護部を立ち上げました。この年は葛根田の広域林道計画が持ち上がって、反対運動がにわかにはじまった時期です。結成会員で現在も会員の白藤力さんが、キノコ採りで徘徊していた葛根田周辺で、原生林内の工事が始まっているのを見ました。これは何事だということいろいろ調べた所、秋田県側まで林道を作る計画が進んでいました。葛根田のブナの林が非常に貴重なもの、いわゆる原生林と言われる今まで人の手が入っていない大事な森であるということで、林道工事反対運動を立ち上げました。それに対し会も一緒になって活動を始め、ブナを守る全国集会を盛岡で開いたり、現地調査の視察の案内役をしたりしました。

6年目の1991(H3)年度はリーダー会が設置され、現在の山行管理委員会と同じような役割による山行管理がスタートしました。5周

年では田部井淳子さんによる記念講演会を行い、会場に入りきれない500人以上の入場者があって大成功を収めました。数十万円の利益が出て田部井基金というものを作って、しばらくいろいろな所で活用したということがありました。これらをすべて話していくと本当に時間が無くなりますが、最初のころのことは皆さんよく知らないと思い少し詳しくお話ししました。

1993年は、私が40歳になった年です。会にとって遭難対策は非常に大事であるということで、最近も似たようなものを作りましたが、遭難対策プロジェクトチームを作って取り組みました。その後、学習教育活動にも力を入れるようになり、今も続けている冬山入門講座や岩登り講座を行いました。例会でのミニ講座もこのあたりから始まっています。それとどうしても話しておきたいことなのですが、1995年に機関誌「あかげら」が全国連の会報賞を受賞しました。これは中村美栄子さんが会報部をしてくれていた時、一生懸命頑張っていて、その成果が全国連盟から認められたというものです。その後10周年15周年20周年と取り組んできていますが、1999年の志向別山行グループ制度の導入が大きく取り上げられます。これは会の山行企画を志向の合う会員有志が自由にグループを作って提案するという制度です。現在も続いています。これにより様々な山行企画がたくさん出るようになりました。このことが、山行回数がどんどん増えていった一番の理由になりました。

2003年、私は50歳になりました。雪崩講習会や県連と連携した外部講師を呼んだ講習会は、このあたりから取り組み始めています。県連主導というよりも盛岡山友会の主導でそれを県連行事にして始まったということです。これらは今も継続して行っています。ホームページを作ったりもしました。2006年は20周年で、いろいろな記念行事に取り組みました。その中に記念フォーラムがありますが、これは会員で8000m峰を登った会員が3人いて、その3人で座談会形式のフォーラムをテレビ岩手のアナウンサーの方をコーディネイト役をお願いして行ったものです。

田部井淳子さんの時ほど聴衆は集められなかったのですが400人以上集まり、これも中身の濃い盛り上がったフォーラムになりました。次の年に社団法人「小さな親切」運動本部から「小さな親切実行賞」をいただきました。これは岩手山の清掃登山に毎年取り組んできたこと、特にお鉢の中のガラス拾いを20年近く続けてやってきたこと、それが認められて岩手日報に写真入りで載りました。

皆さんもご承知のとおり最近では山行回数がどんどん増えていって、昨年は547回でした。個人企画の山行が非常に多いのですが、過去最高の届け出となりました。山行管理をきちんと行ってきたということで、これも盛岡山友会の特徴の一つと思っています。それと先ほど述べた志別山行グループです。この仕組みのおかげかなと思っています。

今年は皆さんご存知の通り、冬山入門講座の取り扱いについて会員の中で議論が白熱し臨時総会まで開催するということになり、会員がまとまって抜けてしまいました。現在会員数106名になっています。これが30年間の歩みです。

盛岡山友会がどういうことを大事にしてやってきたかというのは、会員の手引きを見るとわかると思います。1998年から1999年にかけては、盛岡山友会は何を大事にしてどこを目指しているのかということ、明確にしなければいけない時期でした。会員数が100名以上を超えて大所帯になって、こんな大きな組織を動かしていくためにはこれをはっきりさせておかなければいけないということで、1998年「**会の基本方針**」①～③及び1999年「**会の将来ビジョン**」①～⑥を作りました。いずれも大事なことを言っていますが、将来ビジョンの中の③番の会に常設の救助隊を組織し、という部分は最近の登山界を見ると単独の会で救助隊を組織してそれが自主的に自立的に動くということはあまり現実的ではないのかもしれないので、このあたりは見直しも必要かなと考えています。それ以外の部分は今現在でも立派に目指すべきビジョンを示していると思っています。特に⑤番の年齢、性別、志向、技術

の違いに関わらず、会員が対等の立場で議論できる民主的運営が行われていること、という部分は大事にしたいと考えています。

民主的運営とはどういうことかということ、やはり会員一人ひとりの人格をきちっと尊重するという所がスタートラインかと思えます。少数の意見も聞きながら、対立ではなくてキャッチボールの対話による解決をしていくということが、民主的運営の一番の肝ではないかなと考えています。

最後に会員の平均年齢ですが、大体私の年齢とともに上がってきたような所があります。最近では私が63歳になって追いついて、平均年齢が私より下がっているのが嬉しいところなのですが、最近また若干上がり気味になっているように感じています。日本の山岳会の平均年齢は、日本勤労者山岳連盟・全国連も60歳を超えているようです。日本山岳会とかの方は70歳を超えているという噂もありますが、全国的に組織離れということもあって高齢化に向かっているというのが現状のようです。

少し説明が長くなりましたが私の説明はこのくらいにして、テーマを三つに分けて意見交換をしたいと思います。一つ目は、今までについてです。30年を振り返って、今の現役の会員として今私が説明した山友会の歩みも少し頭の中に入れていただき、会として現在の会について感じる事、過去の取り組みについて感想等あれば語っていただきたいと思います。会員歴の長い会員の方には、これまでの取り組みの中でぜひ残しておきたいこと等を話していただければありがたいです。早速ですが、私と同様会員歴が一番長い中村美栄子さんからお願いしたいと思います。

今までの会員活動、山行活動を振り返って

中村(美)：会の成長に繋がった出来事というのは、今会長が言われたような、やはり登山教室が一番だったかなと思います。扇さんが持ち込んだ岩登



りについても、そのころは人数が少なかった
ので、「さあ、岩登りにいくよ」って言われ
ると、「はい」って何も無しでズック靴履
いて行きました。川を越えるのに、ハーネス
も無くて。ロープの結び方は今でもわかりま
すね、目をつぶっても結べるようにしました。
岩登りは、「もっと引っ張って～引っ張って
～」って叫んで（笑い）、引っ張り上げても
らいながらした覚えがあります。会員が少な
かったので、そういうふうにみんなでワァ～
と行けたのでは、という思いがあります。

今まで自分がしてきた事をちょっと家で
見てきたのですが、こども冒険学校を6回し
ているんです。それが1990年から毎年で、
それも私にとってはすごく良かったと思
います。あのころ一番大きい子が中学1年生
ぐらいで、もう30年くらい経っていますから
子供達はもう大人になっています。それこ
そ五嶋十三（初代会長）さんの息子さんなん
かも立派な社会人になっています。夏だけ
でなく冬も続けたのですが、会員の意識とし
て次に繋げていくという意味でとても良か
ったと思います。また、ちょっとした滝登り
とかもして楽しかったなと思います。

渡邊：そうでした、こども冒険学校をやりまし
たね。冬も沢登りもやりました。どこでやり
ましたっけ？

中村(美)：冬は、姫神山で。

渡邊：そうでした、姫神山です。沢登りは葛根田
のなんと言う沢でしたっけ？ 簡単ではない
沢なんですよ。もう沢クライミングですね。

中村(美)：三ツ石山へ登る登山道の横の沢でした。

渡邊：北白沢。その後途中に林道が出来て、全然
魅力のない沢になって止めたんですけど。そ
れと、やはり子供相手ですから責任が持てな
くなってきて。厳しくて。止めてしまいました。
その当時、だんだんみんなも年をとって
きたしという意識もあった気がしますが、今
から考えればまだ若いですよ（笑い）。

渡邊：次に、工藤さんお願いします。

工藤：会の成長とは少し違うかもしれませんが、
私は長いこと組織部にいて初級登山教室に
関わってきましたが、その時に感じたことは、
講師が外部講師ではなく、会員が講師として
一般の方達を対象に講習会が出来るという

のは、本当に素晴らしい会だなと毎回思
っていました。私が
入会してから4年目
の15周年の時に、ヨ
ーロッパアルプスに行く事になって、ツアー
登山ではなかったので全てを自分達で計画
して、それもびっくりしました。そういう計
画を立てて行けるという事が。また、行って
からも会員がすごいんですよ。ガイドがつい
ていませんので、「ちょっと行って道聞いて
くる」という人もいますよ。「あああ、
この人何語で道聞いてきたの？」って。本当
に素晴らしい会だなと思いながら今まで過
ごしてきました。会の成長とはちょっと違う
事だと思いますけど。本当に盛岡山友会は素
晴らしい会だなと思っています。



渡邊：はい。すごくいいポイントに感動してい
ただいたと思います。山登りは、頂上に立てば
良いというものではないなとも思ってい
て、やはりそこに至るプロセスがすごく大事
だと思います。人の手を出来るだけ借らずに、
道を聞くにしても自分で苦労しながらやる
ところに楽しさがあるし、達成感もあるし、
それで頂上まで行ければ尚更いいのかなと
いう感じがしています。それは盛岡山友会と
してずっと大事にしてきた事ではないかと
思っています。ありがとうございます。

渡邊：それでは、中村数博さん。

中村(数)：私は会に入っ

てから30年の半分の15
年となっています。む
しろもっと長くいたよ
うな気分でしたが、
振り返ると15年です。自分の事になります
が、私は10年くらいは県境で藪漕ぎをして
いて、県境の前も盛岡グレンツェで2年ぐら
い藪漕ぎをして、入った時から藪ばかりで
（笑い）、でも実は入った時に赤林山で冬に
会ったのがぼっかクラブの人達なんです。そ
の時の自分の装備が全然ってなかったん
です。こういうのはやっぱり山をやってきた
人にちょっと教えてもらうだけでも嬉しい
ですよ。そういうものが結局自分達の成長
に繋がるし、さらに今度は後から入ってきた



人達にちょっとずつ山行で教えるのが一番いいですね。そういう事をこれからもやっていきたいと思います。いろいろと大きな活動もありました、昔はよく三山とか。いろんな意味であのころは段階がいっぱいあって、そこになんとかたどり着きたいと、上を目指したいとか思っていました。

渡邊：あの三山というのは中村美栄子さんから始めた岩手山と姫神山と早池峰山を 24 時間以内に登るといふものですね。還暦の年に。

中村(美)：誕生日が、その日でした。

渡邊：還暦はその日だったんですか？ 誕生日だったんですか、そうですか。それは初めて聞きました。そしたら次から次へと皆さんチャレンジして、四山という人もいました。

中村(数)：はい、やりました四山。でも私はずっとサポートだけして。

渡邊：四山というのは薬師岳を入れたんですか。

中村(数)：薬師岳です。そのころは、やはり皆どこかに自分でやりたい山をいっぱい持っていて、キラキラしていました。

渡邊：数博さんはどちらかという元々山育ちだから、一人で山をあちこち歩いてきたって聞いていましたが、盛岡山友会に入るきっかけというのは何だったんですか？

中村(数)：冬に赤林山へ行った時だったんです。

渡邊：一人で？

中村(数)：〇〇さんと一緒に。

渡邊：お友達と。

中村(数)：友達だったので、勝手にそのへんにあるもので、冬装備もしないで行ったんです。いろんな山に登っているうちに赤林山でばったりぼっかクラブの人と会ったんです。

渡邊：そうですね。

中村(数)：その時にいたのが、山田純さんとか、ぼっかクラブの最初の頃の佐久間隆子さん、遠藤千鈴子さん、とにかくすごい人達がいきました。私達の持っていた装備というのが、そこらへんで売っている、量販店で買ったようなワカンとかでね（笑い）。それから着るものもろくなものでなく、靴もそこそこでね。その人達にばったり会ったら、「おめだず、山やりたかったら、少し勉強したらっ！！」と。

渡邊：それ直接言われたんですか？

中村(数)：もろに言われました。

渡邊：そのぼっかクラブは今もうなくなったんですけど、いわゆる体力作りのための志向別グループなんです。

杉澤：あ、そういう特化した。

渡邊：ほとんどが女性でしたね。

中村(数)：何人かは男の人もいましたけど。

渡邊：山友会は元々女性が強い山岳会ですよ。

中村(数)：で、もろに言われるとムカッとくるんですけど。くそ～と思って（笑い）。

渡邊：今、中村数博さんは山友会になくはならない存在になっていて、いい人をゲットしてくれたなと思います。山の基本を学びたいという気持ちで入っていただいたというのは、まさしく盛岡山友会が目指す所なんです。自己流じゃなくて先輩から学びながら次の世代に伝えていくというのは、ぜひ絶やさずにやっていかなければいけないことだと思っています。

それでは、久保さんお願いします。

久保：私は入ってからずっと会報部に在籍していて一度も変わっていないのですが、先ほど「あかげら」



が全国連の会報賞を受賞したというお話がありました。

私が入った時はまだ表紙が白黒でしたし、手書き原稿だったり、切り貼りして会報を作っていた時代で、その時は会報部員が月 1 回集まって会報を作っていました。やがて表紙の絵がカラーになり、そのうちパソコン入力になり、印刷所を変えて、今のような「あかげら」の形式になりました。ちょうど私が入った次の年からホームページが開設され、ホームページを見て入って来る人も増えてきました。会報も今ではメール配信も始まって、そういう意味ではインターネットとかパソコンとかが進んできたと感じています。そんな中で山友会も広くインターネットで知られるようになり、いろいろな人が入ってくるようになって、今のような形に変わってきているのかなと感じています。

渡邊：そうですね、会報は中村美栄子さんが一番関わってきた期間が長かったのかなと思います。

ますけど。

中村(美) : 期間は長いと思います。

渡邊 : 最初は一枚ものでした。表だけか、裏表だったか忘れちゃったけど。それをずっと手書きで作ってきて、それが冊子形式になって、ワープロからパソコンになって、カラーになってという、成長の段階を一步一步、歩んできたような感じがあります。会報は会にとってはなくてはならない存在で、山岳会に限らず組織を健全に運営していくためには、組織の血液、情報を循環させるとても大事な役割だとずっと思っています。震災の時は1ヶ月発行が出来なかったのですが、それを除けば毎月発行してきたということで、会報は会にとってなくてはならない大事な存在だと思っています。ホームページもあるにはありますが、会報だけは発行を続けていかなければならないと思います。

次に、福山さんをお願いします。

福山 : 私は、入会してまだ4年なので、振り返るほどのことも無く。入った年は山行企画部でしたが、それから小田さんが組織部から移った時にトレードされて組織部にいます。組織部としての行事は少ないのですが、いざやるとなると大変で、正直登山教室とか気を使う作業が多いです。



入会して4年ですが、その前は社会人山岳会に入ったことは無かったです。大阪にいた頃は会社の山岳会にいて、転勤で花巻に来てから山には行っていましたが、会に入ってまで行くほどの頻度はなくてノンビリ暮らしていました。

山友会は、ヤマレコに記事を書いていた高橋英里子さんにどこの山岳会に入っているかを聞いたら、山友会に行っていますということで、ホームページを調べたりして、中村美栄子さんに連絡をとり、見学して入りました。見学会に行ったときは割と年輩の方が多くて(笑い) 平日の山行が多いのかなと思ったのですが、意外と平日山行が無くて日曜日が多いなあというのが、今振り返っての感想です。私にとって日曜日は少し都合が悪くて

あまり山へ行けていないのですが、組織部の一員としてやらせていただいています。来年はどうなるか分かりませんが、今年は二人が組織部に入っていて人数も増えましたので、暫く続けたいと思っています。

渡邊 : 組織部はなかなか人が定着してくれないところなんです。定着するのが良いかどうかは分かりませんが、みんなで分担して交代してやっていくのが理想ですけど、大変なんですよ。特に対外的に唯一の活動である市民向けの初級登山教室は、みなさん苦勞してやってこられていて、会長としても非常に申し訳なく思いながら、だましましやっていたというところなんです(笑い)。それについて何か話したいことは無いですか。

福山 : 組織部としては、それは無いです。

渡邊 : 会がずっと続いてきて100人規模でもう20年くらいになりますが、初級登山教室をずっと継続してきて、そこから会員が入ってきてくれたことが大きかったと思います。最近登山教室を受ける方がだんだん減ってきているように感じますが、昨年は入った方がいなかったのでしょうか。

福山 : 昨年は一人、今年は今のところ二人です。
渡邊 : そうですか、もう少し入りそうな雰囲気はありますけど。これも時代なのかなと思いつつ、時代にあったような形でいろいろ変えるものは変えていってもいいのかなと思っています。

次に、柚澤さんをお願いします。

柚澤 : はい、私もさらに振り返ることも無いのですが、昨年一年は様子を見る年といいますが、どういうものなのかなというのをさぐりさぐりで……。今年になっていきなり運営委員と事務局ということで、また今年一年もさぐりさぐりになりそうな感じです。ほんとにそんなに語ることもないのですけど。

渡邊 : 柚澤さん、さぐりさぐりと言いつつも記念講演会のチケットやチラシを引き受けてもらって素晴らしいセンスで作っているし、何をやるにも常に前向きですね。

柚澤 : そうですか。

渡邊 : そうです。自信を持って下さい。盛岡山友会がどういう会かというのは、ホームページで調べてみたのですか。

杣澤：そうです、ホームページで。

渡邊：どこが良いと思えました？

杣澤：活動している形跡があったから入りました（みんなで大笑い）。本当に、本当にそうなんです。

渡邊：動いてるなって。

杣澤：そうです。

福山：あとは、岩手県山岳協会のホームページくらいしかないから。

渡邊：今は、先ず情報を得るのはホームページですね。ホームページは、私が 2004 年に立ち上げました。この時、ホームページが無いなんて、組織を作っている限りはホームページが無いというのはホームレスだというネットホームレスという言葉があって、無理して寝ないで作りました。それからほとんど変わっていません。若干の見直しはしましたが、これを引き継いでくれる人がいると嬉しいなと思っています。

次に小野寺さん、山友会を振り返ってもらいます。小野寺さんは会員として何年になりますか？

小野寺：9年ですが、活動期間は3年くらいです。

渡邊：9年いた中で、何か感じたことを一言お願いします。

小野寺：私は今年で48歳になります。39歳の頃山に行っていましたが、みんな結婚して子供がいるとだんだん私の相手をしてくれる人がいなくなってきて、それで会に入りました。



会に入って思ったことは、結構人数がいて先ほども話があったようにいろいろな新しい会員の方も入ってきて。渡邊会長がよく新しい血を入れないと組織がだめになると話していますが、まさにそのとおりだと思います。たぶん他の山岳会では誰かリーダーがいて、この指止まれ方式でやっているところはみんなが年をとっていくとだんだん組織が腐って壊れて行くというか、その人の求心力がなくなると、たぶんその組織は終わりなと思うんです。ここはそういうことがなくて、いろいろなキャラクターの方がいて、面倒な方もいれば、お酒飲みに来ているのかなと思

う方もいるし、私みたいな幽霊もいるし（笑い）、いろいろというのがいいのかなと思っています。とりあえずこの程度で。あまり真面目な話ができないもので。

渡邊：いえいえ、なかなかいいポイントをつけていますよ。

私は会長を長くやっていますが、あまり先頭に立って引っ張っていく方ではないと思っていますので、山の方はいろいろな会員の個性豊かな人達に任せているようなところがあります。志向別グループもそれに近いような感じで、それぞれ活動してもらっているのが良いのかなと感じています。小野寺さん、そろそろそのキャラクターの強い人になってもらって（笑い）、どんどん自分の行きたい山にみんなを連れて行ってもらえればいいなと思います。

小野寺：少し時間を作って。

渡邊：そうですね。仕事が忙しいとは思いますが。

渡邊：今までは過去を振り返る話をしてきましたが、次に今の山友会の姿に思うことということで、現在の話になります。良いことでも悪いことでもいいのですが、どちらかという、今やっていて課題だなと思うことの方が多いいのかなと思います。それだけだと非常に後ろ向きになりそうなので、良いことをさらに伸ばしていく、今やっていてうまくいっていることを是非伸ばしてゆきたいとか、そのような話してもらえればと思います。それでは、杣澤さんお願いします。

今の山友会の姿について

杣澤：先ほど話した通りさぐりさぐりだったので、見たものがこういうものだったという感じで受け入れてはきましたけど、何となく30年という中でモチベーションが丁度今、下がっている時期に入っちゃったのかな、という感覚はちょっとあります。



渡邊：会として？

杣澤：そうですね。何となく私はやる気を持って

入ったけど、なんかそんなにまわりが盛り上がっている感じじゃないから、じゃ一人で引っ越えみたいところも多少あります。

渡邊：なかなかいいとこついていますね。(みんな笑い)

杣澤：で、やっぱり私はまだ技術もないので、誰か教えてくれる人を探してって感じになってしまうので、将来的には自分が教える立場になればいいと思います。

渡邊：はい、いや～なかなかきついです。(みんな笑い)

渡邊：会としてモチベーションが下がっているっていうのは、言われてみると、そういうところはあるのかなと。それは平均年齢がどんどん上がっているということもあるのかな。どうですかね・・・。

福山さん、どうですか。

福山：山友会については、30年間を考えると積み重ねてきた年輪というか、参加している人数は立派って一言かなと思っています。また、今でも里山からヒマラヤというような割と門戸というか間口が広いです。何でも受け入れるという会の方針もあるかと思うんですけど、間口の広さを感じます。昔はそれほど山の情報も溢れていなくてネットもないですから、入会して先輩と一緒にトレーニングして一緒に登るのが普通でしたけど、今は山登りの情報が溢れかえっています。山登り自体がブームになっている感じがあって、本人の山登りの趣向とか好みが多様化してきていると思います。そんな中で、会の運営自体は少し難しい時代に入っているのではないかなと個人的には感じています。その例としては、この間の冬山入門の事でもめたように里山なら冬も登ってみたいとか、岩登り自体はやらないのだけど岩稜帯を安全に歩けるような基本技術、三点確保とかの技術は身に着けたい人とか、それから冬はスキーでの入山だけとかの人が増えていますね。アイゼンとかピッケルを持っての冬山は行かないけれど、スキーでは行くというのが増えてきているということです。このへんの人をこれからどのように対応してゆくかということを会として考えた場合に大変かなという気はしています。

あと、さっきちょっと言いかけたことで、日曜日の山行が多いと言われたこと、それは組織部に入っている高橋豊さんから、「どうして土曜日に山行しないのですか？」という質問がきたんです。彼の感覚だと土曜日だと翌日が休みだから月曜日仕事に行くのも楽なのに、という思いを持っておられるみたいです。遠藤さんに聞くと、昔は土曜日は休みではなかったからいまだにそのまま日曜日に行っていますとの答えでした。私の場合は個人的なことなのですが、日曜日は家内が車を使うものですから、講習会とか行けないことの方が多いのですが、土曜日の方が私もいいのではないかなという気はしています。

渡邊：土曜日の山行が無いというのは、言われてみると確かにそうですね。

福山：本当にそうですね・・・土曜日は殆どないです。泊まり以外はないですね。

渡邊：あまり意識していなかったです。土曜日は休みじゃない人もいるのか・・・、まだそうなんですね。

久保：そう、みんなが休みというわけではないんです。会山行となると、そういう意味で日曜日になることが多いのかなと。

渡邊：そういうのもありますね。

中村(数)：いいんじゃないのかなあ、金曜日であろうが、いつでも・・・。

中村(美)：私達は時々行っていますけどね。

渡邊：今、まだ平日山行グループというのがありますね。ウイークディクラブ。

中村(数)：前はもっと活発だったような気がするのですが、そうでもないですか。

中村(美)：志向別グループが少なくなったのではないかなと思うんですけど。私達のウイークディクラブや心のスケッチ、ゆうゆうも毎月はやっているんですよ、ちゃんと。だけど、他はあまり声が聞こえてこないような・・・。

渡邊：順番が飛びますけど、今志向別の話が出ましたが、工藤さんがいくつか掛け持ちでいつも連絡担当になっていただいて一生懸命企画を出してもらっていますが、そのへんどうですか。

工藤：私、そういうふうには土曜日の山行が無いとかいう人は、自分が行きたい山を土曜日に出

して、仲間を集めて行けばいいと思うんです。例えば岩手山の網張へ行きたいと言うのであれば、自分が出して仲間を集めて行けばいいのではないかと思うのですけど。

福山：新しく入った人は、それがなかなか難しいのではないかと思います。

工藤：昔は一人一山行といって必ず自分が企画を出すことになっていた時期があったので、私達くらいの人は抵抗はないのですが、一回も出したことのない人は抵抗があるのですかね。

福山：やっぱり入ったばかりの人達はあると思います。

杣澤：そうだと思います。

中村(美)：企画するといっても、全部企画しなくても、たとえば自分が属している専門部の中で、こういう山に行きたいけどと話すとか。

杣澤：そういう場がないから。それで私、昨年山行企画部に入って、「飯豊へ行きたいです」ってしゃべったんです。どこで言えばいいか分からなかったから。

中村(美)：そうですね、そういう場所がね。

工藤：自分が山行計画を出すということはまだ出来ないというか、そこまではまだはやれないってことですか。

杣澤：個人の名前で、というとまだちょっと難しいと思います。ある程度知り合いがいてとか、何日行こうかみたいなのが、例えば何人か確約というか。全く一人でポンと出して人が来ないかもって・・・、ちょっと思うんです。名前もまだ知られていないだろうし、というのはありました。

中村(美)：確かにそうですね。最初のうちは。やっぱり専門部の誰かに話してとか。

杣澤：そうです、だれか一人位は面倒見のいい人がいるからその人に話して、という感じです。

渡邊：個人企画では、千田かっちゃんが一番に引き受けてやっていますね。一人一山行というのも、いい取り組みだなと思います。

工藤：昔、一人一山行ってありました。自分がどこの山に行きたいかということ必ず一年に一つは出すというものです。

渡邊：それをちゃんと受け取る場所、話せる場所が必要だということですね。呼びかけだけではなかなか言いだしにくいし、そういう取り

組みもいいですね。希望を取るのも毎年していたような気がします。(山行企画部でやっていました)。そのあたりはやはり山行企画部ですね。

渡邊：先ほど、福山さんから、山登りの志向も多様化して間口を広くしているけれど、なかなか会として対応がしづらくなっているのではないかという話がありました。それから杣澤さんからは会としてのモチベーションが下がっているのでは、という話もありましたが、これは少し通じるところがあるかなと思います。今の多様化した登山思考に対して、会がどう対応していくかなかなか見いだせないところ、モチベーションの下がってきている理由にもなっているのかなと思います。そのへんも含めて、小野寺さん、何か意見とか、今感じていることがあればお願いします。

小野寺：ネガティブな話になるかもしれませんが、すごく事務局、運営委員の方々の作業が多いかなと思います。同じ人がずっとやっているのではと。渡邊会長もそうですし、気の毒だなといつも思っていて、山に行かないでたぶんパソコンにかじりついているのではないかなと(笑い)。もう少しみんなが持ちまわりでやれば、少しは負担感が減るのかなと思います。私も、今年はいろいろと少しはやれることがあるかなと感じています。全く何もしていない人もいる場面で、中村美栄子さんは相当やっていて、山もやっているので凄いなと思います。みんな、たぶん山に入って楽しくなれるというのを目指していると思うので、忙しい事務で暗くなるのは、なるべく避けたいなと思っています。

渡邊：はい。本当は運営委員会というのは楽しくないといけないですね。そういう運営委員会に最近出来なかったというのは、私としても残念だし、反省しているところがあります。山にも行かずに頑張っているという風に言ってもらいましたが、最近は行くようにしています(笑い)。山に行かないのはいやになってしまいますから、やっぱり。(そうですね)誘っていただければ断らないというのを基本にしていて、機会があれば手を挙げて行きたいなと思っていますので、そこは

あまり心配しないで下さい。山に行った分また頑張れますから。寝不足になる部分はありますが、年齢のことも考えて健康に留意しながらやっていきたいと思っています。先ほどモチベーションの話がありましたが、モチベーションというのは私が会長で、運営委員会がそういう雰囲気醸し出してしまっているのかなという気もするのですが、もしそうだとすれば、私自身も今言ったように山に一生懸命行くようにすれば、会の雰囲気も変わってくるのかなと思っています。

久保さん、そのへんのことで何かお願いします。

久保：私も先ほど、柚澤さんがモチベーションについて話していましたが、そうだなと思う部分があって、何年か前は確かに盛り上がっていたのかなと感じます。何で今少し下がり気味なのかなというところはありますが、それとは別に、個人山行が増えているということはまた逆にいうと、決して悪いことでもないのかなと思っています。それだけ自立しているといえるかどうかはまた別ですが、個人でその人が行きたい山に行けるようになってきているというところもあるのではないかなと思っています。最近、結構中央の山に行っている方が多くなってきている感じがしますし、自分も行く機会が増えています。そういった意味では、会の一つとする「自立する登山者を指す」という意味のところ近づいているというか、そういうところに繋がっている部分でもあるのかなと感じたりしています。

渡邊：はい、そうですね。確かに自立する登山者を指しましょうとあって、個人山行を否定してはいけないと思いますね。どんどん行ってほしいと思うし、会としてやるのは事故を未然に防ぐということで、山行管理をやっているの、そういう関係がきちんと出来れば、これは悪いことではないかなと思います。

それでは、数博さんお願いします。

中村(数)：私はここ何年間かずと登山教室のリーダーをしたりサブをしたり、引率とかサポート、いろいろなことをずっとしてきていますが、その時来た人達はみんな山友会に入ってみようかなという思いで来ている人が、結

構多いと思います。で、入会した後、あれっという間にいなくなる人が結構います。せっかく山友会に期待して入ってきて、上手くとりあげられない。その繰り返しの様な感じで、どうすればいいのかなと思ながら毎年やっているようで……。せっかく入って来た人、山へ行きたくて入って来ている人、いろいろやりたくて入って来ている人、その人達をうまく育てたり、励ましたり出来ればいいなといつも思います。なかなか自分でそれが出来ないのですが、うーん、その度に思います。

渡邊：柚澤さんも若干それを感じているのかもしれませんが。入っていただくのですが、なかなか定着してくれないというのは数年続いているようなところがあります。10人のうち何人くらいでしょう、少し長く会員としてやっていただいているのは、せいぜい2人位でしょうか。

中村(数)：そう2人か1人になってしまいます。あれ・・・あの人は・・・やめたよ・・・って。「あいや～そうか、やりたくて入ってきたのになあ」というように。

渡邊：それは、会として大きな課題ですよ。それも運営委員会の中で、総会の前に話が出ているのですが、なかなか上手く変えていく仕組みになっていかないというのが悩みです。

中村(数)：最初はやっぱりサポートしかないのかなと思っています。連れてってもらおう山行がどうのこうのと言いますが、最初はしょうがない気がします。その中で育てるというようにして。

渡邊：ある意味、連れてく山行だってあってもいいのではないかと。今までは連れてってもらおうというのは駄目だよ、だめだよって言っていました。いい意味でもあるのだけれど、ある意味ちょっと突き放しすぎているというか・・・。

中村(数)：一人ずつ過去を振り返ると、入った時に誰か仲間がいれば別ですけど、一人で入ってくると、やっぱり誘われるのを期待していますよね。

渡邊：柚澤さんどうですか、やっぱりそれを期待しますか？

柚澤：まあ大人なので（みんな笑い）、自分がや

りたいことは自分からという考えは一応持っていたので、誘ってもらおうとは思ってはいなかったです。誰か、やっぱり誰か面倒見の良さそうな人を見つけて、その人と一緒にという感覚ですかね。

中村(美)：経験だよ。入会するまでの。

杣澤：そうですね。それもあるかもしれないです。

渡邊：久保さんは、どうですか？入ったことを思い出してみ。

久保：私はぜんぜん山の経験がなくて入ったのですが、何人か知っている人がいたので、最初はその人と一緒に行っていました。いきなり知らないところにポンと入るのはすごく不安があったので、知っている人が行く山行に行きたいと思いましたし、山の経験がなかったので、自分が行けそうな山でないと行けない。あまり高いところは行けないし、そういった山行が出てくるのを探してというところもありました。ただ、私はどうしてもスキーがしたかったので、そういった意味では先ほどの杣澤さんではないですが、目的がハッキリしていましたので、そこは頑張れたかなというのはあります。でも、やはり声をかけられると嬉しいのは嬉しいですね(笑い)。正直、誘ってもらうのも嬉しいなというのはありました。

渡邊：今でも私も悪い気はしないですね(笑い)。そういう関係はやはり大事にしたいと思います。いつまでも頼られるのは問題ですが、そうやって少しずつ覚えていってもらえればいいのかなと思います。

久保：出来るだけ後輩は誘ってあげられたらいいなと思っていますけど、今は。

渡邊：それでは、工藤さん、今の山友会を見てどうですか。

工藤：先ほど福山さんがおっしゃったように凄いいとは凄くて、間口がすごく広がっていると思います。そこには安全登山に対して自立した登山者もいるのですが、例えば私が山行計画を出して、打ち合わせに新しい方がくれば、「個人必携の中で持っていないものは何ですか」と聞くようにして、「磁石とか地図は持ってきて下さい」と話しているんです。あと「ツェルトとか細引きはだんだんに揃えて下さいね」ということはお話するのですが、

1年以上2年以上経った方でも、「私はそういうのを使う山には行かないから」と言って、まだそれらを持ってない人が結構いるんです。

それから先ほど久保さんの方から個人山行が多くなっているのではという話がありましたが、今まで名山なんかでもアルプスを企画して山行計画を出したりしていましたが、2、3年前から、それこそ間口が広がったせいなのか、一緒に行って、「ああ、どうしよう」と思うような方が参加すると、私達も怖くて……。それで、「あかげら」に出さないで仲間で行こうっていうように2、3年前からなってきたんです。間口が広がったことによって、怖い部分が出てきたようにも思います。

渡邊：なるほど。間口自体はもともと広がったんです。全て受け入れるということではあったのですが、どうしてそのような、いわゆるレベル差も含めてギャップができてしまっているのでしょうか。誰か……。

中村(美)：私、そのへんとても感じるのです。悪いですけど、男性の高齢者に多いのかなと(笑い)。自信があるのですね。それで人のいうことに耳を傾けない(性格ですね・笑い)。だから(耳が痛い・笑い)、会社とかなんかで、そういうのが吹っ切れないのかなって思ったりするんですが、よく分からないです。自己流というか、自分流で事を進めようとする。それに対して私はやっぱり言えない、私が年上であってもです(笑い)。だから、工藤さんが申込先になっていて、断るのにどうしようかって……。例えば冬山に行く時、里山に行く時でもかんじきを持っていないし冬山の装備も持っていない、「それでは、ちょっと……」と言って断ったんですけど、そういう時も断りづらさを感じます。

モチベーションが下がっている感じというのは、自分がずっと会の運営に携わってきていて離れてから3年目になるのですが、なにか、みんなとの繋がりが全然無い感じがします。新しい人の時、この人誰？あの人誰？って聞くんですが、全然話もしたことないし声をかけたこともない。お互いを知りたいなって、自己紹介だけではなくもっと知りたい

なって思う時があるんです。だから、例会でもう少し交流が出来ないのかなあと思います。新しい人のちょっとした5分くらいの山に対する思いとかの話が聞けたらいいと思います。それから・・・。

渡邊：まだ、いっぱいありそうですね。はい、この際どうぞ。

中村(美)：次の成長を目指しての時に言います(笑い)。

渡邊：今、工藤さんの話を受けて、男性の高齢者のことで(笑い)。

中村(美)：男性だけではなくです、ごめんなさい、女性も(笑い)。

渡邊：女性もいます？いますね(笑い)。

中村(美)：います。

渡邊：やはり、平均年齢が上がってきているというのも一つあるのかなと思います。自分自身もそうならないようにしたいと思うのですが、歳をとるとどうしても頭が固くなってしまいうのは誰もが認めるところです。自分自身もちょっとそういう危険性感じるのですけど。そこらへんをどのようにしていったらいいのだろうというのが大きな悩みです。自分はそうならないようにしようとは思いますが、少なくとも、人の考えを変えさせるということはなかなか出来ません。歳をとればとるほど、それはまず不可能に近い。そういった中でやはり、登山というのはどうしてもリスクや危険を伴うことなので、その辺を気付いてもらうような、自ら気付いてもらえるような取り組みはないのかなと思います。自分で気付いてもらうことが一番大事かなと思うのですけど。

それから、会員相互の繋がりが希薄になっているのではないかという話が美栄子さんからありました。これも、今後の会の運営の仕方にもつながってくる課題かなと思います。

さて、それでは未来の話です。美栄子さん、先ほど話足りなかったようなので、その未来の話を、繋がる話をお願いします。

山友会の成長を目指して



中村(美)：ビジョンと関係は無いのですが、今日古い記念誌をぺらぺらっと見ていたら25周年の若い人達の座談会があって、「わあ～、なんだこんなこと言っていたんだ」と思って、それが実現されていけばすごく良かったのにとおっしゃったんです。松田幸久さんが言っていた個人的な講習会、技術でも何でもですが、例えば、地図読みがとても上手い古川さんに、地図読みをお願いして山で実際にしてもらったとか、無線機の講習を菅原さんと一緒に山や机上でしたとかです。登山教室だけではなく、そんな講習会をしたらいいんじゃないかなということが出ていて、それがあれば良かったなと思いました。

それからホームページの表紙のブログのことですが、最近新しくなりましたがその前はずっと同じものが出ていましたので、どんどん変わっていけば、外の人にも知ってもらえていいのかなと思います。高橋英里子さんが言っていますが、自分でブログに出せない時は、私のところにちょっとしたコメントと写真を送ってもらえれば出しますとのことですので、これからそれを利用したらいいのではと思います。山友会では、こんな山行もしています、あんな山行もしていますと、どんどん出していけばいいと思います。昨年の11月からずっとアイゼン・ピッケルの講習会のものが続いていて、変わらないかなあと見ていたのですが、最近二つばかり富士山とかが出ました。ちょっとした山行でも何か面白いものがあったら写真を撮って、それを英里子さんに送って載せてもらってもいいと思います。

渡邊：5年前の話なので(笑い)、今してくれるかどうか分からないですけど。でも、出来る人にやってもらうというのも一つの手ですね。

ブログは基本的には誰でも書き込めるというのがみそなんです、上手く出来ない人もるので、それは誰かしてもらおう人を決めてお願いするというのもいいかもしれないです。

福山：それは、僕がしてもいいですよ。ブログに入れるのは簡単だから、写真と文章だけ送ってもらえれば。

渡邊：それは、早速実行、実践してもらっていいですか。嬉しいです。

中村(美)：ちょっとした山行でも、志向別山行でも。

福山：県境なんか、いいんじゃないですか。

杉澤：いいですねえ。

中村(数)：もうちょっとで終わりますよ。(笑い)

福山：終わった時、大々的に。

中村(数)：もう、その次があります。

渡邊：そう、もう次考えているのですか？

中村(数)：次、考えています。(おお～)(笑い)
なかなか人が行けない山ってあるじゃないですか。みんなが知っていて行けない山。

福山：行けない山・・・。行きたいなあ。

杉澤：行きたいですね。

中村(数)：東根の後ろの西東根山とか。

折角、藪で鍛えているんだから・・・(笑い)。

渡邊：それでは、数博さん、その考えている企画等を紹介していただけますか。

中村(数)：そうですね、県境も終盤になって、今年いっぱいか来年で終わる予定です。今までやってきた仲間が、次は何をやったらいいかわからないというのは、これまた淋しいものです。知らない山で、一生懸命考えて、地図を見て、そして達成できた時すごくワクワクするんです。だから、それを無くしてしまうとすごく悔しい気がしますし、自分としても淋しいです。この間、会員のある人が言ったんですけど、県境にのめり込んでしまったら他の山へ行けないとかまで言って・・・(笑い、一般道は歩けない、笑い)。何か、ここでプツリというわけにはいかないのです。毛無山とかは沢からというものもあるし、七折れ滝の近くとか季節を変えて、行っていない山ってまだまだありますよ、人が入っていない山。遠くから見てあぁいい形だなあとかいう山もあります。あそこは誰も行ってないだろう

な、そういうところも是非行ってみたいと思っています。

渡邊：なるほど、いやあ魅力ありますね。いわゆる藪山とか誰も知らないような山、どこにも紹介されてないような山をみつけてですね。

中村(数)：そうすると、新しい山友会として幅が広がって行くと思います。

渡邊：いや、ホント新しい山友会の境地が開けてきますね。いいと思います。期待したいです。
それでは、工藤さん、どうですか。これからに向けて。

工藤：杉澤さんがおっしゃった、モチベーションが下がっているのかなというお話ですけど、山行回数を見るとここ三年ぐらい500回を上回って増えている状況なので、個人的には、そのようには感じないんです。山に登りたい人が入っている会だと思しますので、山行回数が伸びているということを見ると、モチベーションが下がっているのとはちょっと違うのかなって感じています。

それと、先ほど言いましたが、あまりに広い間口の人達の下の方という失礼な言い方ですけど、もう少し押し上げるにはどんな方法でどうすればいいのか、それが出来ればもっともっと会が発展するのかなと思います。

渡邊：今、工藤さんから、どうしたらいいだろうかという話が出ましたけど、これに関してどなたか。久保さんは首をかしげていましたけど・・・。

久保：私も同じように思っています。具体的な方法はまだ無いのですが、いろいろな人達がネットとかを見て入ってきて、昔とは違う山岳会になってきている中で、多様な考えを持って入ってきたその人達に、これから会がどのように対応していったらいいのかというのは、会の方針としてある程度考えていく必要があると思います。合わせていくという方法もあるし、山友会はこういう方針なんですとドンと打ち出してしまう方法もあると思います。この間の冬山入門講座の時もそう思いました。そういうところをこれからいろいろ模索していかざるをえないと思います。

渡邊：はい。

福山：それに関連してですが、昔、私達が会社員

だったころは社員旅行とかが多かったんです。会社として何百人とかバスで行ったり、船に乗って行ったりする泊まりの旅行が多かったのですが、最近ほとんど無いですね。要するに、世の中が個人主義と言ったらおかしいんですけど、要は一人ひとりが自立というか、そんな社員旅行なんか行きたくないというような風潮になってきていて、そういう方が会員として入ってくるから、まとまった会山行とかになかなか行かなくなったんじゃないかなという気がしています。だからバス山行も集まりが悪いですし、個人個人が自立してきたというのが大きい要因なのかなという気がしています。

渡邊：なるほど。世の中変わってきているというのは間違いないですね。良いように変わるか、悪いように変わるかは別にして、常に変化しています。それに山友会自体がどのように対応していけばいいのか、久保さんから出たように、今の流れに沿って山友会が変わって行くべきなのか、それとも山友会が今までしてきたことを守って山岳会はこうあるべきだということを守り詰めていくべきなのか。そのへん、みなさん他に考えている方いますか。柚澤さんどうですか。

柚澤：単純に継続させるというのであれば、柔軟に、その時代の流れに合わせるというのがまず良いと思います。個人主義について、私は割と若い方の世代なので、その気持ちはよく分かりますけど、何かを学ぶとなった時は上の人達と一緒に行動する機会がないと機会さえ失ってしまいます。今みたいに個人山行で自立していますでいいのかもしれないですけど、新しい人が入れない。上の人が育てるという意識を持って新しい人を受け入れてくればいいのですが、仲間同士というだけになってしまうと成長は難しいのかなと思います。先ほど美栄子さんが言ったように、講習会しか学ぶ機会が無いことになってしまいます。私は、入る前までは山行に参加すれば何かしら学べると思っていたのですが、講習会以外だと何か教えようという感じの空気にはならなくて、普通にお友達と山行って帰ってくるのとあまり変わらないなって正直感じました。

渡邊：それは、なかなかいいところをついていますね。

今、柚澤さんから若い人の代表として話してもらいましたが、時代の流れというのはありますね。それに沿った形で変わっていくというのはそれは良いと思うのですが、やはり会員として入ってきた動機というのは何か得るものがあるから、学びたいからだだと思います。そういう機会まで奪われてしまうのであれば、それは全然意味が無いことになりません。具体的に、講習会以外で学ぶことが無いというのは、これは数博さんがいつも一番言っていることで、日常の山行でそのリーダーなり少しベテランの人が新しい人に教えるような、意識的に教えるような山行を日常的にしていくべきだなあとと思います。そのあたりを数博さんがよく話していますが、数博さん何か思っていることがあればお願いします。

中村(数)：今、柚澤さんが言ったことは確かに、あっ、そうかと思いました。講習会だととりあえず全員に対してしますが、それ以外となると確かに難しいですね。私も結構いろいろな山に行っているんだけど、大体同じようなメンバーですよ。新しい人が入ってくればいいんだけど、なかなか入ってこない。別に、あなたは無理ですよとかは無いですけどもね。行きたいなら行きましょう、という気持ちです。それも新しい人達だと言にくいのかなと思ったりします。どこをどうすればいいかなとは思ってはいるんですが、なかなかその具体策が見つからないです。だから、意見はもっといろいろ聞いてみたいと思います。何かヒントになればいいです。

渡邊：数博さんはもう提案してるようなものなんです。日常のところで、勉強できるような、そういった会の雰囲気なり、仕組みなりを作っていければいいと思うんですけど。小野寺さん、アイデアマンとして何かお話し下さい。(笑い)

小野寺：松田希さんから山行に誘われた時に「大人の遠足にいきましょう」と言われたのですが、大人の遠足っていい言葉だなんて思いました。だから、よく考えればみんな大人の遠足なんですよ、ヒマラヤに行くのも里山に行くのも。そこでみんなと楽しくやればいい、

たぶん目指すべき姿ってそこじゃないかなって思っています。大人の遠足なのに、しかも面して運営委員会やってもつまらないし、何か知らないけど仲たがいで分かれてもつまらない。真面目な方が多いのかもしれないけど、私はいつもチャカしてばかりなんですけど。もうちょっと面白く、なんていうんでしょうか、先ほどの力量のない人が行くという話も、山に行ってはね返されて帰ってこればいいのではないのでしょうか。合羽忘れました、靴壊れました、サヨウナラって帰ってくれば、それはそれで一生の思い出になるような気がします。私がそうでしたので(笑い)。だから、持ってこなかったからだめというものも有りですが、じゃあ、やってみたらというのも、それはそれで面白いかなと。(面白いですね)。山登りは遠足だと思っていて、真面目にやって会からは絶対に事故は起こさないというのも理想的でいいのですが、若いうちは当たって砕ける系も面白いかなと思います。会の雰囲気をもっと明るくしたいですよね。

渡邊：明るくなるよう頼みます。(笑い)

小野寺：楽しく、そして最後は笑ってさようならって感じがいいですね。

渡邊：そこは、変わっていきましょう。みんながそういう気持ちになれば会の雰囲気は明るくなりますから。いや、面白いですね。とにかく楽しく、山に行くのも楽しく、運営委員会も楽しくないと来たくないし。何か楽しみがあって運営委員会へ来るとか、山に行くとか。そこで、学びは失敗して学ばばいいという。それはある意味、包容力だと思うんです。(小休憩)

渡邊：運営委員会も飲みながらやると楽しいかもしれないですが、歳をとるとなかなかお酒の方も飲めなくなっていて。(笑い)

小野寺：今、例会はここ勤労福祉会館でしていますが、前の杜陵老人福祉センターの方が畳に座るのですぐ集まるとかできました。そこが何となくもったいないなって、あれはあれでいい味があったなと思います。隣の部屋の下手な詩吟を聞きながら……。(笑い)

渡邊：そのあたりも、どんどん変えていっていいと思うんです。いろいろ改善しようと思って

変えたりしているのですが、うまくいかなかったら元に戻せばいいと思っています。

小野寺：例会を馬返しの登山口でするとか(大笑い)、登りたい人は登るとか……。あの東屋で(笑い)。何か面白いことをやりたいですね。

渡邊：昔、結構面白いこと考えてしていたような気がするんですけど、最近ちょっと固くなりすぎているのかもしれないですね。

中村(美)：納山祭も泊まりでやっていたんだよね。(あ～)

渡邊：納山祭、東八幡平にある自炊旅館の清風荘というところでみんなで料理を作って泊りがけで、(盛り上がりそうですね)(朝まで飲んで話して、次の日山に行きたい人は山へ行つて)(ビールパーティも、下の橋の近くで)(花見もしました)、そうそう、中津川の川原でビールパーティをやりました。結局、会員数が増えて料理とか準備するのがすごい負担になって、それでどこか飲み屋さんでやろうということになったんです。

中村(美)：最初のころは、午後年休取って岩手公園にお花見の場所取りに行きました。寒くて、寒くて……。(笑い)

小野寺：でも、それって覚えてますよ、たぶん。それはそれで楽しいです。飲み屋でやると忘れちゃうけど。(笑い)

渡邊：三つ目のテーマの結論は、「楽しく思い出に残ることを(大笑い)、山でも運営委員会でも考えて企画してやろう」というような結論みたいですね。

小野寺：姫神山の山頂で、運営委員会やるので(大笑い)、12時集合とか。(笑い)

渡邊：そういういろいろなアイデアをどんどん出してもらえるような雰囲気じゃないと。言った人が損する雰囲気ではだめですね。

渡邊：過去、現在、未来ということで、自由にお話いただきました。先ほど結論的なことが出ましたけど、人数が多くなろうが、どうであろうが、やはり楽しい会でなければいけないということです。一人一人が楽しく感じてもらえるような会でないと、盛岡山友会は魅力を失っていくという気がします。そのためには小野寺さんのような人がどんどんこういうところに出て、運営委員会でもどんどん

発言してもらおうとか、杣澤さんのように常に前向きな考えで行動してもらおうとか、そんな人達をどんどん増やしていくことが大事だなと思っています。中村美栄子さんが、今までずっとそのようなことをしてくれましたので、そこに学びながらやって行けば、盛岡山友会はまだまだ発展するような気がします。

最後にみなさん、盛岡山友会の5年後、10年後をイメージして、こんなふうになって欲しいなあということがあれば、是非発言して欲しいです。10年後、平均年齢は10歳上がっているというのではだめです（大笑い）。70歳になりますからね。年齢の話をする、美栄子さんとかに怒られますけど。（笑い）

中村(美)：考えられません、10年後は。（笑い）

渡邊：いや、ひょっとすれば、まだ元気で頑張っているかもしれないですね、美栄子さんは。どうです杣澤さん、一番若いので、まだ10年後も20年後も、30年後も大丈夫だと思いますけど。

杣澤：10年後と言わず、本当に中村美栄子さんのような存在になりたいと思います。

渡邊：素晴らしい。

杣澤：やっぱり、母のような人っていないと……。盛岡山友会は女性が強いということなので、そちらの方がたぶん上手くいくのかなという感じがします。

渡邊：どうですか、男性陣は？。（笑い）

福山：現状を見ても、やはり女性の方が活発ですよ。個人山行は別にして、会山行を見るとほとんど女性です。

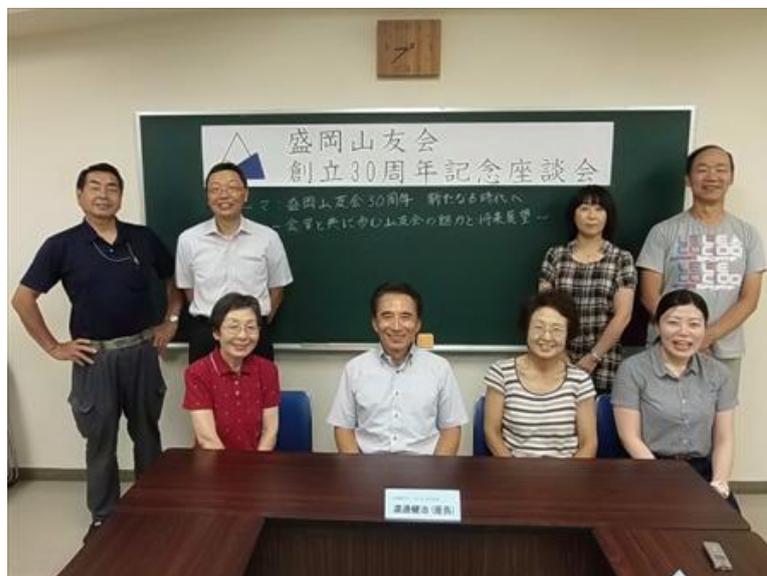
杣澤：工藤さんとかそのお仲間達が、すごく難しい山とか、その年代の人達はなかなか行かないような山ばかり行っていて、一番元気のある世代なのかなあとと思います。（笑い）

渡邊：もう、決まりですね。中村美栄子さんのことは、ずっと山友会の母って呼んできてたんですよ。ここで、母のようなという言葉が出てきたのには、本当にビックリしています。杣澤さんはよくみてくれてるなあと思いました。

中村(美)：そんなことないですけど。

渡邊：山友会にとって本当に母のような存在だと思います。美栄子さんがいたから頑張ってこられたようなところがあります。やはり女性ですね。世界平和についても女性が強ければ戦争が無くなるのと同じように、盛岡山友会も女性がどんどん活躍してくればいつまでも存続できるのかなと思います。楽しい山岳会として続く気がします。

本日は貴重なご意見、楽しいお話をいただき大変ありがとうございました。



□ 志向別山行グループの発足から 17 年を振り返る

1. 志向別山行グループの発足

元事務局長(2000～2013 年度) No.19 中村 美栄子

会の大型化に伴い会員の山行志向が多様化している事に対し、会員一人ひとりの顔が見え、様々な声をくみ上げるシステムを目指して 1999 年の総会に「志向別山行グループ」の創設が提案され、承認されました。それは、全会員の任意による志向別グループの結成を呼びかけるものでした。

志向別グループは、志向を同じくする者同士で任意にグループを作り、会員は自由意思でグループに所属する事ができるもので、運用方針は次の通りでした。

〔 志向別グループ制の運用方針 〕 (1999 年 定期総会資料)

1. 会員は志向を同じくする者同士で任意にグループを作る事ができる。
2. グループの代表は、結成にあたって届け出るものとする。
3. グループへの所属は、会員の自由意思による。また複数のグループへの所属も妨げない。
4. グループでは、グループの目的に沿った山行の企画立案を行う。
5. グループで企画する山行は会員全体を対象とし、原則としてあかげら紙上で公表する。
6. グループの代表は、山行企画部の一員として部会等に出席し、年間計画との調整を行うと共に、グループの意見、要望及び提案を伝える役割を担う。
7. 山行企画部は、グループ間の山行企画の調整と会の方針に沿った山行企画を立案するため、年 3 回 (4 月、8 月、12 月) 山行企画会議を開催し、原則として向こう 6 ヶ月間の山行計画を決定する。

総会において例示された志向別グループは次の 11 グループでしたが、これらを基本として最終的に別表のように 13 の志向別グループが誕生し新しい企画の山行活動が始まる事となりました。

【 総会で例示された志向別グループ 】

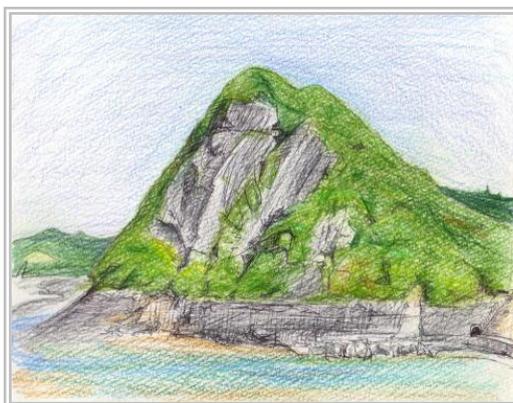
- ① 里山グループ
- ② 植物観賞グループ
- ③ 写真・スケッチグループ
- ④ 無線グループ
- ⑤ 名山めぐりグループ
- ⑥ 藪山・峠歩きグループ
- ⑦ 平日山行グループ
- ⑧ 山スキーグループ
- ⑨ アルパイングループ
- ⑩ 海外トレッキンググループ
- ⑪ 気象研究グループ

創立 20 周年では「記念座談会のテーマ」が活発な活動をしてきた志向別グループに関するものとなり、志向別グループからの参加者 7 名で今後に向けての熱心な話し合いが行われました。

創立 20 周年記念座談会テーマ

『 飛躍の山行活動 10 年を振り返って 』 ～ 志向別山行グループの課題と今後の展望 ～

今までに設立された志向別グループは 23 グループですが、2016 年 10 月時点で活動中のグループは 7 グループです。設立当初から 17 年間ずっと活動を続けているグループには、「心のスケッチ山行クラブ」、「グループ銀世界」、「岩手の名山歩こうかい」があります。「ウィークディクラブ」は解散した「平日山行グループ」と同様の趣旨で再出発したものです。「四季の山」は、「冬の星座」から活動目的を大きく広げて生まれ変わったものです。「県境の風」は岩手県境 487 km の踏破まで残り約 26 km とあと少しですが、達成後は新しい企画・グループをすでに考えているようです。今の時代を反映しているような感がある「グループゆうゆう」もあります。各グループに対して年間を通し多くの参加者が有り、志向別グループは山友会会員の思いを捉えているといえます。



「あかげら」2015 年 9 月号 表紙 田中弘美

2. 志向別グループの歴史

志向別グループ一覧表

1/2

● : 2016年10月時点での活動グループ

No	グループ名	活動目的	初年代表	活動年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
					年度 1999 H11	2000 H12	2001 H13	2002 H14	2003 H15	2004 H16	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28
1	ぼっかくらぶ	体力とレレニンのための山行	泉 貴美子	14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	● 心のスケッチ山行クラブ	● 個人の思いを様々な方法で映し出し、心に自然を感じる	伊藤 英子	17	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	海外山行を夢見るグループ	海外の山の体験談を聞いたり、情報収集や事前学習を行う	沼崎 栄子	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	訪ねてみたい賢治の足跡	詩人、童話作家である賢治の作品の舞台を訪ね、自然の美しさや厳しさを実感しつつ、数々の秀作の原点を探る	佐藤 忠夫	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	国際交流グループ ハーモニー	盛岡地区に在住の外国人留学生と山行を通じて国際交流を行う	阿部 好晴	9	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	無線クラブ	アマチュア無線の交信及び危急時の活用等を研究する	横田 正人	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	● グループ銀世界	● 冬期間に山スキーを楽しむ	菅原 史也	17	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	クライミングクラブ	岩登り等のクライミング技術のレベルアップ	橋本 久	16	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9	● 岩手の名山歩く会	● 岩手県を中心に四季折々の風景を楽しむ、自然の中でリフレッシュする	中屋敷 敏彦	17	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
10	平日山行グループ	曜日を定めず山行する	鈴木 勝世	10	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11	グループ雲と風	気象学の学習と実践による観天望気	今村 昭男	7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
12	汗をかいて汗を流そう会	山登りで汗をかき、麓の温泉で汗を流す	横田 正人	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13	グループ敷	敷山や峠を中心に、地図を頼りに敷こぎ山行を行う	江刺家 誠 佐藤 敏和	7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

・各年度の4/1時点(総会資料等から作成)

 : 2016年10月時点での活動グループ

No	グループ名	活動目的	初代代表	活動 年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
					年度 1999 H11	2000 H12	2001 H13	2002 H14	2003 H15	2004 H16	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28
14	滝巡り	滝登りではなく、隠れた滝巡り	横田 正人	1		■																
15	盛岡グレンツェ	盛岡市の境界を歩く	山田 純	2							■											
16	ネイチャリソング グループ	山の動植物の観察と学習	岩井 久子	7							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
17	冬の星座	冬山の泊まり山行 (冬山入門講座終了後のス テツプアツプ)	川村 勝江	8							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
●	18 県境の風	青森、秋田、宮城県境をト レースする	中村 数博	10							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
19	ラウンド・ト レックカー	ピークハントにこだわら ず、山域・地域を巡る	下机 勉	7							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
●	20 ライク クイズ	里山から縦走まで、曜日 定めず平日に山行する	工藤 敬子	7							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
●	21 四季の山	一年を通じて、四季の山を 楽しむ	中村 美栄子	4																		
●	22 グループゆうゆう う	のんびりゆったり、山+α を楽しむ	千葉 喜秋	4																		
23	ラウンド・アド ベンチャー	年間を通じてクライミング ・沢登り・アイスクライ ミングを行い、リードクラ イマーを目指す	大林 完	3																		
—	—	各年度のグループ数合計		—	13	13	9	9	9	9	12	10	10	9	8	10	10	9	9	10	9	9

・各年度の4/1時点(定期総会資料等から作成)

3. 志向別グループの設立経緯と活動状況

■ 心のスケッチ山行クラブ

代表 No.196 工藤 敬子

心のスケッチ山行クラブは、“山が与えてくれる感動を心に留める”ために立ち上げた志向別グループです。活動期間を暖かい時季（5～10月）だけとし、冬期間は休眠しています。

景色や花をスケッチしたり写真を撮る事によって、いくらかでも永くその感動が心に記憶されることを願って活動しています。

【 最近1年間の山行 】

山行日		山名、コース		参加人数
H28	5.31(火)	田代山 945.4m	サン燦道入口～三曲山～三方沢山～田代山 (スケッチ)～駒木立山～サン燦道入口	3人
	6.10(金)	茶臼岳 1578.3m	茶臼口コース (キヌガサソウ鑑賞・撮影)	3人
	7.26(火)	大深岳	松川温泉から大深山荘往復 (お花畑でお花鑑賞・撮影)	4人
	8.4(木)	八幡平	藤七温泉から嶮岨森往復(嶮岨森でスケッチ)	5人
	9.8(木)	六角牛山 1294.3m		中止
	10.6(木)	三ツ石山 1466m	網張温泉から往復	中止

【 最近1年間の参加者 】

No.19 中村美栄子、No.196 工藤敬子、No.288 級木信子、No.281 北田絹恵
No.459 三澤信裕



ウサギギク

グループ銀世界は山スキーで雪の銀世界を楽しむ人たちのグループです。

志向別が発足した時に早速結成されました。それまでも、盛岡山友会で山スキーを愛する人たちは活動していましたが、グループ銀世界ができて一層活動が活発になったようです。

銀世界の活動期間は毎年12月から残雪の5月頃までです。12月は新人のオリエンテーションを兼ねた定例会、レスキュー訓練、1月は区界・岩神山での新年山行、三ツ石山への初級コース、雪崩講習会受講、2月は八幡平樹氷ツアー&陵雲荘泊り、3月・4月は秋田駒や焼石・栗駒などの残雪ツアーや八甲田山、蔵王などの県外ツアー、5月は豪快に鳥海山、月山の大滑走ツアーなどを行っています。なお、10月末には薪を山小屋へ荷揚げするのが慣例となっています。

銀世界の恒例スキーツアーで最も参加者の多いのが八幡平樹氷ツアーです。毎年2月中旬の樹氷が最も美しくなる時期に、陵雲荘へ1泊して樹氷見学します。以前は岩手側の旧八幡平スキー場から行きましたが、同スキー場が休業してからは秋田側の秋田八幡平スキー場からとなりました。過去にはホワイトアウトで、小屋まで届かずに途中でテント泊やら雪洞泊りもありましたが、今は陵雲荘まで行けないことはなくなりました。陵雲荘でのグルメと酒の晩餐は格別です。

銀世界のメンバーを分類すると、滑走派～滑ることが一番、ルートファインディング派～地図とにらめっこ、自然観察派～樹氷・ダイヤモンドダスト・兔トレース、動画派～滑りながら動画を撮ってネットにアップ、グルメ派～小屋での食事が命、などなどそれぞれの楽しみ方があります。

銀世界のメンバーは、雪が降るとニンマリします。甚だしいのは、雪がなくなると同時に全く休眠状態(＝山登りもしない)になる会員もいます。「春よ来い」ならぬ、「雪よ来い」の状態です。近年スキーをやる会員は増加しています。スキーを格安で購入できる方法も銀世界メンバーになればそっと教えてくれます。さあ、みんなで雪の上を滑ってみませんか。

【 最近1年間の山行 】

山行日		山名、コース	参加人数
H27	12.27(日)	レスキュー訓練 網張スキー場	20人
H28	1.9(土)	岩神山 1103.0m、新年山行 ウォーキングセンターから	9人
	1.9(土)	八幡平 1613.3m 秋田八幡平スキー場から	1人
	1.10(日) ～11(月)	三ツ石山 1466m 網張スキー場から往復	7人
	1.11(月)	三ツ石山 1466m 網張スキー場から往復	8人
	1.16(土)	姥倉山 1517.3m 網張スキー場から往復	4人
	1.17(日)	下倉山 1166.4m 下倉スキー場から	5人

山行日		山名、コース	参加人数
H28	1.31(日)	レスキュー訓練 網張スキー場	18人
	2.6(土)	鎌倉森 1316.7m 網張スキー場から	2人
	2.7(日)	貝吹岳 992.4m 仙岩トンネルから	8人
	2.11(木)	三ツ石山 1466m 網張スキー場から往復	2人
	2.27(土)	大深岳 1541.4m 下倉スキー場から	2人
	2.28(日)	姥倉山(1517.3m)～黒倉山(1570m) 網張スキー場から	7人
	2.28(日)	姥倉山(1517.3m)～県民の森m 網張スキー場から	2人
	3.5(土)	稲庭岳 1078.0m	5人
	3.6(日)	八幡平 1613.3m 秋田八幡平スキー場から	1人
	3.12(土)	鎌倉森(1316.9m)、網張周辺	11人
	3.13(日)	岩手山(2038.0m)不動平 網張スキー場から	1人
	3.20(日)	三ツ石山(1466m)～大深岳(1541.4m) 松川温泉から	4人
	3.21(月)	秋田駒ヶ岳(1637.4m)横長根 仙岩トンネルから	4人
	3.26(土) ～27(日)	大荒沢岳～沢尻岳(1260m)～モッコ岳(1277.4m)～五番森(1047.5m)～貝吹岳(992.4m)～仙岩トンネル	4人
	3.27(日)	源太ヶ岳 1545m 松川温泉から	3人
	4.2(土) ～3(日)	遠島山 1262.7m	3人
	4.10(日)	青松葉山 1365.3m 蓬峠から	4人
	4.10(日)	湯殿山 1500m 月山スキー場から	1人
	4.16(土) ～17(日)	八幡平 陵雲荘泊	5人
	4.23(土)	八幡平 黒谷地～茶臼岳(1578.3m)～アスピーテライン	1人
5.8(日)	鳥海山塊 笙ガ岳 1635.3m 鳥海山吹浦口付近から往復	1人	

【 最近1年間の参加者 】

No.2 渡邊健治、No.119 加藤英悦、No.178 山田純、No.234 古川孝、No.279 松田幸久
No.294 松田希、No.301 久保加世子、No.305 山田潔、No.323 三浦良夫、No.341 武田秀雄
No.350 木村一、No.354 菊地良夫、No.356 木村三、No.357 渡部彩子、No.358 石川享子
No.365 府金志磨子、No.370 本間典、No.378 高橋英里子、No.380 大峠茂喜
No.382 三浦明夫、No.385 小田嘉洋、No.414 齋藤睦男、No.416 福山茂和
No.417 村田真司、No.419 小泉岳央、No.420 徳永光保、No.444 大森信慈、No.454 小原耕
No.458 舟越茂雄、No.460 柚澤瑠実子

■ 岩手の名山歩こうかい

代表 No.268 熊谷 久美子

岩手の山々を訪ね、四季折々の自然を楽しみながら、心と体のリフレッシュを目的に活動しています。毎月一回の山行を計画して、季節ごとの山の魅力を満喫しています。

志向別グループ発足当初からずっと活動を続けていて、今年度で 18 年目に入ります。グループ名は設立当初「岩手の名山歩く会」でしたが、山の会の中にまた会があるのはおかしいという事で 2003 年 7 月に「岩手の名山歩こうかい」へ名称変更しました。“歩こうよ!” という呼びかけの意味も持っています。

【 最近 1 年間の山行 】

山行日		山名、コース	担当者	参加人数
H27	10.4(日)	三ツ石山 1466m 滝ノ上コース	加藤	7 人
	11.3(火)	女神山 955.8m 尾根コース～県境コース	千田	7 人
	12.20(日)	姫神山 1123.6m 城内コース	熊谷	6 人
H28	1.17(日)	黒森山 837.3m 深沢コース	高橋	8 人
	2.11(木)	赤林山 855m つどいの森コース	級木	8 人
	3.27(日)	室根山 895.4m 蟻塚公園コース	本間	中止
	4.17(日)	貝吹岳 992.4m 仙岩トンネルコース	千田	中止
	5.1(日)	赤林山 855m つどいの森コース	工藤	中止
	6.12(日)	岩手山 2038.0m 柳沢コース	北田	10 人
	7.10(日)	南本内岳 1486m 中沼コース	熊谷	10 人
	7.24(日)	秋田駒ヶ岳 1637.4m 8 合目から	千田	4 人
	9.25(日)	源太ヶ岳 1545m・三ツ石山 1466m 松川温泉周回	日比野	5 人
	10.9(日)	太平山 1170.4m 宝蔵コース～旭又コース	級木	中止

【 最近 1 年間の参加者 】

No.2 渡辺健治、No.19 中村美栄子、No.6 千田勝則、No.70 遠藤千鈴子、No.125 中根和子
 No.196 工藤敬子、No.250 日比野保子、No.268 熊谷久美子、No.281 北田絹恵
 No.288 級木信子、No.307 加藤桂子、No.341 武田秀雄、No.356 木村三、No.358 石川享子
 No.364 吉田菊男、No.370 本間典、No.373 高橋陽子、No.385 小田嘉洋、No.421 小田春美
 No.433 岡義博、No.454 小原耕、No.455 大倉博、No.459 三澤信裕



カタクリ

「 県境の風 」は丁度 10 年前の春、盛岡市境踏破に続き、岩手県境 487 km を踏破しようという仲間が集まりスタートしました。現在、残り 26km 程度となっています。しかし残されたコースはアプローチまで 2 時間以上かかり、そこから県境に登るため 2 時間、県境は密集した竹藪等を歩くというのが現状となっています。一例を上げると、今年の 9 月 3 回の山行はクマの巣と言われている岩手、青森、秋田 3 県の県境がある四角岳・中岳（八幡平市・田子町・鹿角市）付近を歩いていますが、それぞれの実県境踏破距離は 1.1 km、0.3 km、0.6 km とあまり距離を延ばすことができないでいます。

当初はこの 30 周年を目途に終了することを目指し、昨年・今年とグループ銀世界の応援をいただき、ロングコースをコラボして予想以上の成果を上げてきました。その後、残雪期を狙って距離を伸ばそうとしましたが、今年の雪解けは早く、いかんせん藪には勝てない状況にあります。それでもメンバーの士気は高く、昨年から老若男女・新メンバーも加わり、以前は月 1 回の県境歩きを月 2 回・3 回と実施しています。

昨年中岳で下山遅れを出したとき「 体力のあるエキスパート的な人（選りすぐりのメンバー）により距離を稼ぐのが良いのではないか 」というアドバイスもいただきましたが、私的には「 時間がかかっても、誰でもが行ける方法で、安全にこの踏破を完了したい 」と思っています。一番心配なのはメンバー最年長の私だから・・・。

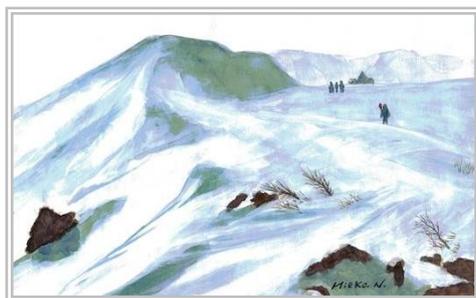
願わくば来年の遅くない時期に完全踏破し、みんなで美酒を味わいたいです。

【 活動状況 】

30 周年記念企画 「 県境の風活動記録 」 参照

【 最近 1 年間の参加者 】

No.125 中根和子、No.128 川村雅子、No.196 工藤敬子、No.234 古川孝
 No.250 日比野保子、No.267 中村数博、No.268 熊谷久美子、No.277 松田徹
 No.281 北田絹恵、No.289 級木信子、No.307 加藤桂子、No.358 石川享子
 No.365 府金志摩子、No.370 本間典、No.372 辰巳和司、No.373 高橋陽子
 No.382 三浦明夫、No.385 小田嘉洋、No.419 小泉岳央、No.421 小田春美、No.433 岡義博
 No.454 小原耕、No.455 大倉博、No.458 舟越茂雄、No.460 杉澤瑠実子、No.454 中村篤



冬の岩手山

■ ウィークディクラブ

代表 No.196 工藤敬子

ウィークディクラブは、退職してから平日も暇をみつけて(?)山に登りたいので立ち上げた志向別グループです。曜日を定めず、自分達の都合の良い日にその時期に行きたい山へ行っています。

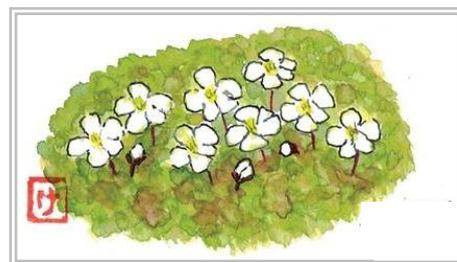
主に里山が中心ですが、時には縦走やロングコースにも挑戦しています。

【 最近1年間の山行 】

山行日		山名、コース		参加人数
H27	10.15(木)	駒頭山 940.0m	鉛温泉スキー場から往復	4人
	11.5(木)	石上山 1038.1m	鳥居から往復	6人
	12.23(水)	赤林山 855m	矢巾温泉から往復	6人
H28	1.15(木)	東根山 928.4m	ラ・フランス温泉館から往復	5人
	2.25(木)	姫神山 1123.6m	城内積雪期限定コース	4人
	3.10(木)	金勢山～蝶ヶ森山 224.6m～殿ヶ武士山～鑪山 390.1m		5人
	4.14(木)	岩手山 2038.0m	柳沢コース	6人
	5.19(木)	七ツ森(宮城県)	松倉山～撫倉山～大倉山～蜂倉山～鎌倉山～遂倉山～(たがら森)～笹倉山	6人
	6.18(土)	早池峰山 1913.4m	門馬コース	6人
	7.7(木)	岩手山 2038.0m		中止
	8.25(木)	三ツ石山 1466m	網張スキー場から往復	4人
	9.13(火)	安比岳 1493m～茶臼岳 1578.2m		中止

【 最近1年間の参加者 】

No.19 中村美栄子、No.196 工藤敬子、No.250 日比野保子、No.281 北田絹恵
 No.288 級木信子、No.364 吉田菊男、No.370 本間典、No.372 辰巳和司、No.421 小田春美
 No.458 舟越茂雄、No.459 三澤信裕



早池峰山 イワウメ

■ 四季の山

代表代理 No.250 日比野 保子

「四季の山」は、最初は冬季間だけ小屋泊まりをして山行を楽しむという事で作られたグループです。その時は「冬の星座」という名称でした。その後、夏にも一泊しながらの山行をしたいと、「四季の山」に名称を変えて活動するようになりました。日帰り、小屋泊まり、テント泊など近隣の山を中心に月一回のペースで活動をしています。

今年は、天候や参加者が少ない等で中止となった山行が多く有りました。また、県外山行は5月3日(土)～4日(日)に東北の山：鳥海山(弘川コース)を計画しましたが、ゴールデンウィークのためか参加者が少なく実施できませんでした。

今後も魅力ある企画をたてるようにしていきたいと考えています。

【 最近1年間の山行 】

山行日		山名、コース	ひとこと	参加人数
H27	11.22(日) ～23(月)	岩手山 2038.0m 柳沢コース	八合目避難小屋で一泊	6人
	12.12(土) ～13(日)	五葉山 1341.3m	中止	—
H28	1.10(日) ～11(月)	鶏頭山 1445.1m 岳から往復	頂上直下で引き返し、避難小屋泊まり	6人
	2.21(日)	箱ヶ森 865.0m 猪去から往復	テント泊予定を日帰りに変更	5人
	3.20(日) ～21(月)	八幡平 1613.3m 陵雲荘泊	雪崩の情報が有り、取りやめ	—
	4.23(土) ～24(日)	三ツ石山 1466m 滝ノ上コース	参加者が無く、取り止め	—
	5.3(火) ～4(水)	鳥海山 2236m 弘川コース	参加者が少なく、取り止め	—
	6.26(日)	早池峰山 1913.4m 縦走コース	雨天中止	—
	7.23(土)	五葉山 1341.3m 赤坂峠コース	石楠花荘の状態を見る	4人
	8.28(日)	和賀岳 1440.0m 高下口コース	徒渉は、ふくらはぎくらいまで	10人
	9.22(木)	焼山 1366.1m 周回コース	ベコ谷地にリンドウが咲いていた	7人

【 最近 1 年間の参加者 】

No.19 中村美栄子、No.70 遠藤千鈴子、No.76 新田俊博、No.140 石澤妙子
No.196 工藤敬子、No.223 阿部好晴、No.250 日比野保子 No.267 中村数博
No.268 熊谷久美子、No.281 北田絹恵、No.288 級木信子、No.364 吉田菊男
No.373 高橋陽子、No.414 齋藤睦男、No.447 千葉和佳子 No.454 小原耕
No.459 三澤信裕、No.470 藤澤幸恵



「あかげら」2016年10月号 表紙 柚澤瑠実子

山の初心者から、体力に自信がないが山登りを続けたい気持ちがありましたら、まずは“ゆうゆう”に参加しませんか！ 山行中や下山後のお楽しみもあります。ゆうゆうは、そんな山登りをしています。

★ 山友 第26号(2014(H26)年) 志向別グループ活動報告 代表 千葉喜秋 から転載 ★

グループ「ゆうゆう」はスタートして3年目に入った。初め4、5人程度だった参加者も最近では10人近くになることもあり、存在が認められたのかと嬉しくなる。

グループをつくるきっかけは、七時雨山からの下山途中、中屋敷さんがもらした言葉である。同年輩の二人が仲間に迷惑をかけたくないと退会したとの話だった。

縁あって入会した以上、車椅子に乗る直前まで山登りを続けたい。それなら迷惑をかけそうな会員同士が集まれば良いと考えた。

山選びも星一つクラスの難度の低い山にする。ゆうゆうらしい山行の典型は昨年4月の国見山登山だろう。北上市展勝地の東に位置する国見山は高さ244メートル。ゆうゆうならぬヨレヨレ登山にはピッタリの山だった。

ゆうゆう山行には初回以来、プラスアルファをつけることになっている。山登りに何かもう一つの楽しみを加えることだ。土地の名物料理を味わう、名所旧蹟を訪ねるなどである。

国見山のプラスアルファは北上川珊瑚橋そばの枕流（ちんりゅう）亭での昼食。咲き始めた展勝地の桜を見ようともせず、花より団子の名物、油揚げ料理を味わった。

ゆうゆうに定着させたいと思うのは、すみやかな撤退である。不調のメンバーが出たら即、引き返す。このために大事なことは、足手まといになったと体調の良くない会員に負い目を感じさせないムードづくりだ。

引き返したらプラスアルファを目指す。プラス分の魅力を高めることもムードづくりには大切だろう。

ゆうゆうは必ずしも迷惑をかける同士の山行とは限らない。里山や低い山には高山と違ったそれなりの味がある。迷惑者だけではなく、迷惑者予備軍や若い人たちの参加を期待しています。



【 最近1年間の山行 】

山行日		山名、コース	ゆうゆうの楽しみ	参加人数
H27	11.3(火)	氷上山 874.7m	セルフレスキュー訓練のため中止	—
	12.3(木)	砥森山 670m	“ゆうゆう” 冬休み	—
H28	1月	—	“ゆうゆう” 冬休み	—
	2月	—	“ゆうゆう” 冬休み	—
	3.29(火)	砥森山 670m 向田瀬口から往復	道の駅の食堂で、昼食とサービスの コーヒをいただきました	8人
	4.12(火)	羽山 599.9m 岩沢取水口(新道)から往復	下山後は、ミズバショウ、ショウジ ヨウバカマの花々の群生を愛でま した	8人
	4.21(木)	万寿山 409.6m 台温泉口から一周	花を虫めがねで拡大して見ると、別 世界でした	8人
	5.28(土)	田代山 945.4m 高原口から往復	山の恵み、ワラビの収穫 (和賀には かなわないが！)	6人
	6.27(月)	薬師岳 1644.9m 小田越から往復	道の駅“はやちね”でお買物	5人
	7.19(火)	二ツ森 621.3m 根反登山口から往復	温泉には入れなかったが、藪こぎ山 行でした	4人
	8.22(月)	堺の神岳 1319.0m 和井内登山口から往復	「車の藪こぎ」と「風の駅で食事」 と「道の駅でのお買い物」	7人
	9.9(金)	茶臼岳 1578.3m ～前森山 1303.8m	雨と風で中止、残念	—
	10.9(日)	黒森山 837.3m	雨で中止、ドライブのみ	—

【 最近1年間の参加者 】

No.19 中村美栄子、No.109 浦部光生、No.128 川村雅子、No.196 工藤敬子 No.252 高橋恵美子、No.281 北田絹恵、No.345 山崎祐三、No.358 石川亨子 No.367 太田代恵久子、No.396 吉田成子、No.423 小川優子、No.433 岡義博 No.450 佐藤妙子、No.459 三澤信裕
--



八幡平

4. 志向別グループの将来展望

No.2 渡邊 健治

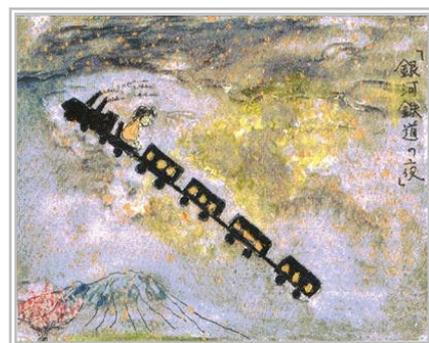
志向別グループが出来たのは、いまから 17 年前になる。当時は、会員数が急増した割に会山行の企画が少なく、会員から不満や要望が強かった。100 人以上の会員の山行欲求に応えるには、現実問題として山行企画部だけでは無理があった。そこで出たアイデアが、志向の合う会員で自由にグループを作ってもらい、山行企画を会に提案してもらおうというものだった。目的はあくまで山行企画のグループであり、山行実践のグループではない。

グループは届出だけで結成も解散も自由だ。唯一の条件は、山行企画を会全体にオープンにすること。そうは言っても、志向が一致する会員のグループとなれば、山へ行くのも同じメンバーになることも多い。山行企画をオープンにしている、閉鎖的なグループにならないければ、それはそれで構わない。これまで 23 のグループが立ち上がり、現在は 7 グループが活動している。

志向別グループが会の中で定着した理由はいくつかあると思うが、何よりも「会員が主人公の会運営」を実践していることにあると思う。会員が自ら山行企画を考え、会の仲間に提案し、ともに実践する楽しさは、連れて行ってもらう山行にはない何かがある。企画するには試行錯誤で頭を使う。取りまとめの労力もかかる。それでも、苦勞して目的を果たしたときは、何ものにも代えがたい達成感がある。これは、企画した者の特権だろう。

志向別グループの将来展望はと問われれば、それはあなた次第ですよと答えたい。志向別グループは会員の自由意思で作れるのだから、グループが増えるのも減るのも、活動が活発化するのも停滞するのも、会員の山への思いがそのまま反映するからだ。

しかし、確実に言えることは、志向別グループが会の山行活動の中心を担ってきたことであり、その考え方や仕組みは、盛岡山友会らしさの象徴として、いつまでも続いて欲しいと思う。会員の皆さんの山への熱い思いに期待したい。



「あかげら」2011年5月号 表紙 照井信男

□ 県境の風 活動記録

志向別山行グループ「 県境の風 」誕生まで

No.277 松田 徹

平成 16 年年明け時期、山行企画部では「 一人一山行 」をスローガンに山行回数をいかに増やすかの活動方針を模索していました。当時山行企画部長の Y さんが温めていた企画で盛岡市境界線をたどる山行を志向別グループとして立ち上げてはどうかという提案でした。その企画提案に、山行企画部員を中心として賛同者が集まり志向別グループ「 盛岡グレンツェ 」が誕生しました。グレンツェ (Grenze) とはドイツ語で境界を表します。登山道がほとんどなく、地図と磁石と現地判断を駆使して山を歩く言ってみれば登山の原点的な山行です。ヤブ漕ぎ、沢の渡渉、沢詰め、読図、登山前の調査、バリエーション山行の宝庫です。

平成 16 年 4 月、盛岡グレンツェの山行が始まりました。当初月 1 回ペースの予定でしたが、天候中止や夏場のヤブ漕ぎなどで苦戦が続きました。秋ごろから回数が増し、ヤブが雪に覆われる冬こそ境界山行の時期と感じ月 2~3 回ペースで実行されました。結果、平成 17 年 6 月 5 日最後の山行となり、実質 1 年 2 か月で終わってしまいました。終わってみればあつという間で、参加者メンバーも不完全燃焼の感が否めなかったようです。

平成 17 年 11 月、「 盛岡グレンツェ 」終了祝賀会 (ご苦労さん会) が市内某所で開催されました。「 盛岡グレンツェ 」山行回数 23 回、山行参加者 30 人、延べ参加者 166 人です。登山道のないヤブ漕ぎ山行、山の副産物 (山菜・きのこ)、地図の読み込み、ガイドブックに載っていない自分たちで切り開く山行に新たな魅力を感じた人が多かったようです。

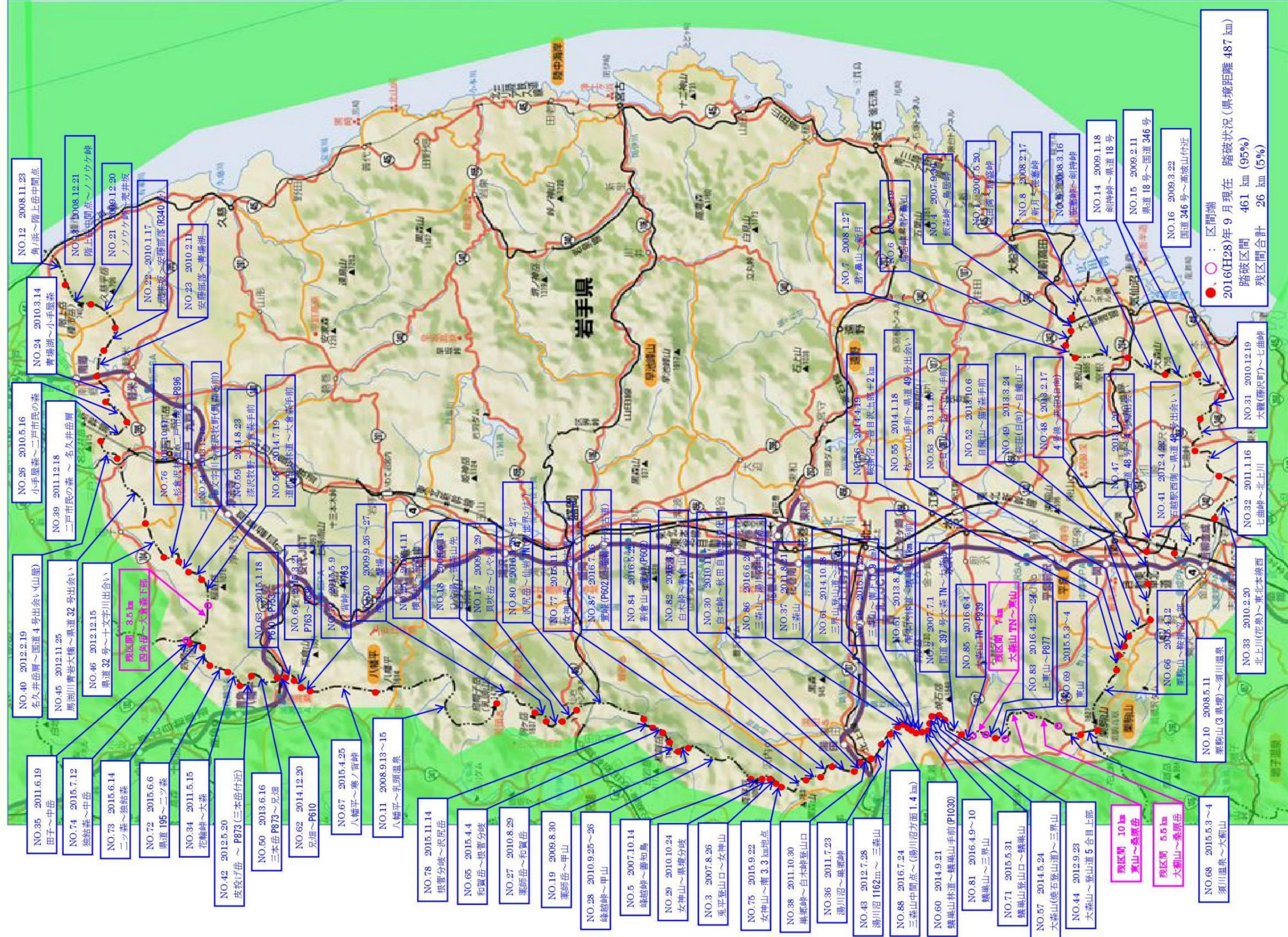
酒の席での雑談、この後どういう山行する? どんな山行したい? 渡邊会長から、「盛岡市境が終わったのなら、岩手県境でも始めたら」の一言がきっかけとなり「 県境の風 」がスタートしました。平成 18 年 1 月 1 日に玉山村が盛岡市と合併するので、「 盛岡グレンツェ 」玉山ヴァージョンをやりたい人もいたようでしたが。そのような経緯で岩手県境を歩くことが決まりました。

設立会合が有志により開催され、グループの名称を「 県境の風 」としました。誰の案かは覚えていませんが。今後の山行計画を月に 1 回程度で決めスタートしました。ポリシーはゆるりのんびりいこう。外的要素 (30 周年に間に合わせる) に左右されない。会全体で楽しんで歩こう。

そのような経緯があつて平成 18 年 5 月 20 日「 県境の風 」第一回山行が、宮城県境 広田湾国道 45 号線から始まりました。



【 県境の風 山行全体図 】



山行日 : 2007年5月20日(日) 天気 : 晴れ
コースタイム : 7:10 都南大橋 → 9:00 飯森峠 → 9:50 登山開始 → 14:25 笹長根山頂 → 17:00/18:00 飯森峠 → 21:25 都南大橋

始まりの始まり

2006年に旧盛岡市境を歩くグレンツェが終わり、その打上げの飲み会があった。その時、次は岩手県境に挑戦しようという事になってグループ「県境の風」が立ち上がった。幾分はアルコールの勢いもあったかも知れない。

その記念すべき第1回目の山行が、宮城県境である陸前高田市の海辺から約8km内陸に入った飯森峠までのコースに決まった。峠に車を1台デポして移動し、県境の国道45号から出発した。眼下に海を見て、道路からすぐに崖になっている所から木につかまりよじ登った。この日の最高地点519mの笹長根山を目指して行く。高い所を目指す時はコンパスで方向を定めて、県境のしるしを見つけながら行くので案外迷わない気がする。ただし県境のしるしは統一したものがある訳でなく、杭を見つけて確かめながら進む事になる。今の様にGPSがある訳でない。地図とコンパスを駆使して進むのだが、里山は似たような枝尾根が入り組んでおり違う尾根に入っては戻りを何度か繰返した。

3～4時間歩いた頃山中の少し開けた所で、今まで見たことのない立派なシドケの大群に出会った。誰も来ることのない山中である。皆夢中でシドケ採りをした。それから違う尾根に入っては戻りで、春の陽の長い時期ではあるが予定の下山時刻が迫っている。まだまだシドケの畑は続くが思わず「よそ見をしないで。シドケは見るな」と言って歩いたものだ。二度と行けない場所にあるあのシドケは、今頃どうなっているだろうかと思出すことがある。

その後の三陸大震災で、陸前高田の町はすっかり変わってしまったが、あの県境の山はどうなっているのだろうか。



NO.9 笹塞峠～剣持峠

No.268 熊谷 久美子

山行日 : 2008年3月16日(日) 天気 : 曇り
コースタイム : 5:00 都南大橋 → 7:10 室根新月駅 → 8:20 笹塞峠発 → 9:55 太田山山頂
→ 11:05 大森山山頂 → 13:10 剣持峠 → 16:40 都南大橋

岩手県側は一関市室根町 — 宮城県側は気仙沼市です。藪漕ぎの多い県境歩きの中で、県境の60%ほどが防火帯で木や草が刈り払われている。県境上に太田山（だいたやま）、大森山と三角点のある山が二つあり確認ができる。



前回降りた笹塞峠からの上り口、境界杭を探して歩きます。



現在地の確認は怠りません。



防火帯が県境になっている。
山を大切にしている事が分かる。



所々に境界杭がある。

大森山から剣持峠まではつつじの曲がりくねった枝が四方八方に伸び、やはり藪漕ぎになりました。歩きやすい防火帯の県境に感激した山行です。海岸が近く、歩きながら気仙沼湾も見えます。県境歩きには、繋ぐ楽しさや未知の楽しさを感じます。

山行日	： 2009年3月22日(日)	天気	： 曇りのち雨
コースタイム	： 6：00 都南大橋駐車場 → 6：10 盛岡南 IC → 8：15 一関 IC → 8：30 国道346号線出発地点 → 9：30 論山 → 12：30 国道346号線出合 → 13：50/14：00 大籠小学校前 → 16：30 都南大橋駐車場		

コンパス、地図読みを学ぶには志向別山行グループの「県境の風」の山行に参加し地形図と現地の地形を見比べ、更にコンパスで進行方向を確認しながら隣県との境界を藪漕ぎ覚悟で辿っていく形態を経験することが一番身に着くとのお誘いを受け今回の山行に参加を申し込む。

打合せで参加メンバーがそれぞれ役割を分担し、当日は都南大橋側の駐車場に集合した11名が3台の車に分乗し、今回の出発地点藤沢町の国道346号線県境に向かう。サポート隊2名と別れ舗装道路から両側田んぼの作業道を進み、県境部の山斜面に取り付く早春の山は見通しが良く明るい。高低差の少ないピークを何回か越え尾根を辿り手作りの青い標識のある論山に到着する。笹で覆われた山頂からの展望は残念ながら良くない。

県境は足元が藨などで煩い部分もあるが、防火帯のように刈り払い整備され部分も多く歩き易い。山頂を離れ尾根沿いに進み、沢沿いの急斜面を下るとサポート隊が出迎えてくれ合流に感激する。沢沿いの土手には、福寿草やイチゲ、オオイヌノフグリの花が咲いており眺めながら昼食を取る。また周囲には葉わさびやノカンゾウあり自然の恵みに与る。そのまま沢沿いを進み途中反対側に渡渉し国道346号線に架かる橋のたもとの県境部に到着する。ここからは暫く国道346号線を進み途中県道295号線に入る。



県道沿いにはキリシタン殉教地公園とか平山牧場などがあり横目で見ながら通り過ぎる。今日の終了予定地に近づく頃になると雨が落ち始めるがさほど濡れることなく大籠小学校前で山行を終了する。以上山行報告書の様になりましたが、初めての「県境の風」で(1)藨やバラなど足元が煩い藪の場合スパッツが有効である。(2)県境は刈り払い整備している個所、植林など植生で区分けしている個所、尾根、沢などで区分けしている個所、隣市町村の境杭など様々な形態であること知った。(3)山行途中進路確認のためその都度コンパス、地形図を使用しその度地形図と実際の違いを確認する。



(4)山野草を楽しみまた自然の恵みを収穫できることなど多く学習する事が出来、今後の参加も希望した。

山行日 : 2008年11月23日(日) 天気 : 晴れ

コースタイム : 6:15 滝沢 IC → 8:30//8:55 角の浜 → 9:45 国道45号 → 10:35 八森

→ 13:00/13:30 階上岳山麓 → 17:07 階上岳放牧場 → 18:00 角の浜 → 20:50 滝沢 IC

怪我の功名

総勢15名で、青森県境の海岸から階上岳(種市岳)山麓までの県境歩きに挑んだ。まず海拔0メートルの太平洋に手をひたし、記念撮影の後、「縣堺石」を確認して出発した。車3台が要所に先回りして合流しながら進むことにした。川幅1~2mの二十一川沿いが、青森県と岩手県の県境となっている。川の左右を行ったり来たり、田畑の畦道を歩き三陸鉄道や町道と交差し、車組三人の出迎えを受けながら国道45号まで進む。



わたくし事ではあるが、1980年前後7年間種市町で暮らしたので目にする風景が懐かしい。八森の町道を過ぎると二十一川は沢のように狭くなった。杉林の中、藪やノイバラの多い斜面を上り下りしながら時折は林道を歩く。迷いながらも階上岳山麓で三人と合流し、昼食後放牧場を目指してそれぞれ出発する。岩手県側は放牧地になっており有刺鉄線が張り回されている。その脇を登っていく。標高280m付近から、やせ尾根の急登となり笹藪と低木に難儀しながら三角点451mまで進む。松林で県境には1m高の土盛りが続き、境界の杭を確認しながら歩く。P443付近まで平坦な尾根で背丈の高い笹藪やイバラが跳ねて顔に当たる。15:25にP443付近で、一人で1時間半かけて藪を漕いで来た中村(数)さんと合流できた。そこからは中村さんを先頭に車の二人と合流できる道にでる電波塔を目指し歩く。延々続く県境の土盛り周辺は笹藪で2、3日前に降った雪が残っており、夕方になり気温も下がって寒い。

16:30日没となりヘッドランプをつけての行動となった。前の人を見失わないように必死に藪をこいでいると笹が跳ねて眼に当たった。17:00藪を抜けると10cmほど積雪のある電波塔に着いた。眼下に広がる八戸の夜景が綺麗だった。雪道を放牧場まで下って車で待機していた松田さん齋藤さんと合流して帰路に着いた。



翌日、眼科で診察を受けた。笹が眼に当たり充血がひどい。それまで眼の病気にかかった事がなく老眼が気になる程度だった。ところが「充血は大したことではないが、緑内障ですよ」との診断である。緑内障は自覚症状がほとんどなく全く気がついていなかった。その時以来8年間、定期的な診察と目薬を続けている。眼科に行かなければ気づかないうちに病状が進行していたかも知れない。まさに怪我の功名である。忘れがたい山行のひとつとなった。

山行日 : 2009年8月30日(日) 天気 : 曇り
 コースタイム : 5:00 雫石運動公園 → 6:30 登山口 → 6:55 ぶな台 → 7:30 滝倉
 → 8:20 倉方 → 9:15 薬師岳 → 10:40 大甲 → 12:10 甲山(昼食) → 14:2 登山口

前回雨で中止になった和賀山塊の薬師岳から大甲・甲山(曲り甲)までの秋田県との県境を約 3.5k m 歩く行程である。

雫石運動公園に集合し、秋田の真木林道を進んで甘露水口に向かう。駐車場には立派な避難小屋があり、ここから 1 km ほど歩くと甘露水口がある。冷たい水で喉を潤して見事なブナ林の中をつづら折りに進み、ぶな台、滝倉と進む。

倉方を過ぎると尾根に出て見晴らしが良くなった。これから行く薬師岳・大甲・甲山と円を描いたように尾根が連なって見え、形の良い山容が見えてきた。

先頭を歩いていると登山道に何やら赤と黄と黒のカラフルな布きれのような物が見える。近づいてよくよく見るとヘビである。30cm位の長さでポコンと大きなお腹をして石の上から動こうとしない。ヘビの苦手な私は進むにも進めず、モタモタしていると見兼ねたKさんが足で踏み音をたてて追い払おうとしてくれる。だが『食後の日向ぼっこを邪魔するな』とでも言いたげに、なかなか動こうとしない。話しには聞いていたが、本当に飲み込んでしまふんだと感心するやら、気持ちが悪いやら・・・。

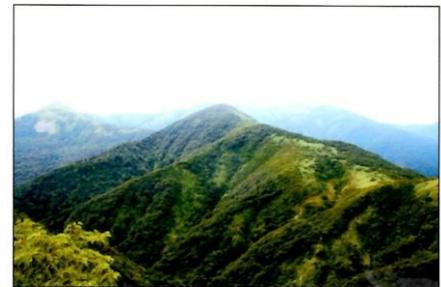
やっとのことで道をあけてもらい進むことができたが、ほんの一瞬の出来事でありながら物凄く長く感じられ、ドッと疲れが出た。気を取り直して笹に覆われた登山道を進むが、あの光景が頭から離れず何とも後味が悪い。今日は私にとって災難の日である。

やっとのことで薬師岳に到着した。いよいよ此处からが今日の目的である県境歩きの始まりである。

薬師分岐まで戻り大甲を目指して左手に進む。登山道は荒れていて歩きにくいのが 1 時間半ほどで大甲に到着する。薬師岳・和賀岳と見晴らしが良く、これから進む甲山も尾根から少し内側に入り良い形をして見える。

甲山分岐からは道が無く本格的な藪こぎとなり、竹藪をかき分け、ハイ松にしがみ付きながら進むこと 40 分、ようやく甲山山頂に辿り着いた。展望が良く今日登って来た薬師岳、その奥の和賀岳方面、そして、北へと続く中ノ沢岳への稜線を眺めながら昼食をとった。

絶景を惜しみながら県境から離れ、すずみ長根口を目指し下山する。二度の渡渉も無事に通過し甘露水口に到着した。私にとって稜線の美しさと驚愕の出来事の忘れられない山行となった。



甲山登山道から、手前から大甲山、薬師、和賀岳

山行日 : 2010年5月16日(日) 天気 : 晴れ
 コースタイム : 6:50 滝沢 IC → 8:00 軽米 IC → 8:45 小手屋森登山開始 → 9:50 上野場
 →10:35 P259 → 15:40 R359 号出会 → 16:00 市民の森

6:50 清々しい朝、8人が2台の車に分乗し滝沢 IC から軽米 IC 経由で前回の終点地小手屋森に予定どおりの時間に到着する。

GPSはCL(高橋)が持ちトランシーバーはSL(熊谷)とサポート(中村・松田)が持ち、サポートの2人と別れ登りやすい所を探して登山開始。少しの間は藪こぎとなるが歩く事30分P194で、サポートと出会う。ここからの県境は民間の畑になっているので岩手県側の道路を歩き9:50上野場でサポートと再会する。上野場神社で次のポイントを確認すると259Pまでは一般道歩きになる。



P259までは満開の桜と桃の花が咲いていて、その下には一面にタンポポが咲いていた。誰もが満面の笑顔でお花見気分になっている。楽しくて疲れない。

P259からは田んぼのわきを通り沢沿いに歩く。田んぼの淵にはニンソウが満開に咲いて励まされた。又、沢沿いには色々な山菜が生えていてCLに教えてもらい収穫を楽しむ。が、それもつかの間今までと一変し、沢の上は右も左も急斜面で林の様相。必至で左の急斜面を登り林道に出た。林道に沿って地図やコンパスで方向を合わせて進んでいたが違ったようだ。



尾根に上がり念入りに方向を確かめる。尾根から林道沿いに下りやっと鉄塔下に着く。R395号出会に向かい15:40サポートと嬉しい再会となった。ここから全員で市民の森に移動する。皆で展望台に登り一安心しながら、今歩いてきた県境や軌道を確認した。最初は楽だったが後半は大変な山行だった。

今日の県境は藪あり、お花見あり、山菜あり、急斜面ありといろいろ変化があった。帰りは金田一経由一戸 IC から滝沢 IC に向かって帰った。疲れているなか車を運転してくれた方、本当に有難うございました。



山行日 : 2010年9月25日(日) 天気 : 曇り
 コースタイム : 9/25(日) 7:25 峰越峠 → 10:05 鹿の子山 → 13:55 南風鞍 → 14:40 風鞍幕営
 9/26(月) 7:45 風鞍 → 9:30 中ノ沢岳 → 11:00 甲山 → 13:05 和賀岳登山口

もう6年も前になるんですね。原稿を依頼されてから数すくない参加の中から真昼峰越峠～和賀山塊甲山縦走を選びました。

メジャーではないがそこそこ健脚者向きで一泊しなければ踏波できないコースで、一度歩きたいと思っていたのでドキドキワクワクの参加でした。

登山道は不明の箇所もあったが、道は比較的しっかりし、標識もきちんと有り迷う事はありません。でも和賀山塊の奥深い山懐を歩くのですから半端ではありません。急登、急坂、大、小18のアップダウンを繰り返し体力勝負の世界です。

色付き始めた山々を眺めた時には思いがけず山の恵みを収穫したり、はたまたよもやま話に花を咲かせ和気あいあいの尾根歩き、今思い出しても楽しい山行でした。

女神山と和賀岳をつないだ14.3kmの道のりは決して楽なものではありませんでしたが、仲間がいるから歩ける喜びは、長丁場の辛い歩きもそれが充実感となり次回へ繋がって行くのかなあと思います。それで、この山行は思い出深い山の一つでもあります。

県境歩きは何度か参加していますが何時も歩きやすいとは限らず、むしろ歩きにくい方が多く時には身の丈もある笹藪をかきわけたり、深い雪原のラッセル、地図と磁石では状況判断が難しい中で、幾多の困難や苦労があったと思いますが今やGPSという文明の利器が大活躍で時代の流れというか便利な世の中になったものをつくづく感じ入りました。

時には(何でこんな大変なことをやろうと決めたんかね)ふと思う時があるが、決めたことを忠実に実行している面々には、責任感ともの凄いパワーそしてチャレンジ精神を感じ脱帽である。立ち上げから参加しているメンバーにとっては会にとっても個人にとっても素晴らしい財産であり、限りないパワ



一の源でしょうか。私にとってもちょっぴりパワーと幸せを戴きました。県境バンザイ。



NO.31 大籠（藤沢町）～ 七曲峠

No.128 川村 雅子

山行日 : 2010年12月19日(日) 天気 : 曇り
コースタイム : 6:00 盛岡インター → 7:05 一関インター → 8:30 登山口 → 10:35 P277 → 13:35 P317 → 15:40 登山口 → 18:15 盛岡着

岩手県藤沢町と宮城県登米市東和町の境界を歩きました。ピストン山行ではないので、途中と到着にはサポートが必要なので松田さん、中村さんが担当してくれました。途中で会う予定で出発しました。12月も半ばで肌寒さはありませんでしたが、県南なので雪はありませんでした。標高は高くはありませんが次第に藪になり、かき分けながら歩き、登り道にもなっているので疲労も出てきました。15分程で境界石を見つけてホッとしました。

9:45 P271mに着きました。周囲は雑木林で景色は良くありませんでした。さらに10:35 P277mに到着。標高は低いものの、何度ものアップダウンの繰り返しで、疲れが出てきました。その後は境界石も見つけれない時もあると、あちこちと捜して歩きました。楽しいひと時の昼食後、再び出発するも、道をそれて歩いている事に気づきました。捷友さん、西村さんがカーナビ、磁石を使って確認をしました。もときた道へ戻りましたが、下ったのを登りなおす時は「せっかくここまで来たのに・・・」と恨めしくなりました。



13:35 P317m近くになると、笛の音が聞こえてきました。蚕飼山の麓から入ってきたサポートの松田さん、中村さんと再会しました。この辺になると急登が続く山には雪も見られるようになりました。肌寒さも感じるようになりました。2人が入ってきた蚕飼山は、宮城県登米市にあり、418mの頂上か

らは天気の良い時には栗駒山、太平洋、室根山が見渡せる展望地なそうです。又、バードウォチングや森林浴でも人気のある山なのだそうです。



ここからは七曲峠に向かいましたが、急登が続き里山の厳しさを味わいました。その後は防火帯になっており歩きやすくなりました。七曲峠に到着した時はすでに日没が始まっておりました。雪が積もっていたならば、県境の杭も発見するのが困難だったろうと思われました。天気にも恵まれて順調な行程の山行でした。

NO.34 秋田県 花輪峠 ～ 皮投岳 ～ 大森

No.307 加藤 桂子

山行日 : 2011年5月15日(日) 天気 : 曇りのち晴れ
コースタイム : 6:30 滝沢 → 8:30 花輪峠 → 8:55 P863 → 9:26 P1016 取付き → 9:40 P1016 分岐
→ 10:10/10:30 皮投岳頂上 → 10:45 P1016、県境分岐 → 11:30 尾根戻り返し
→ 12:20/12:50 P784 → 14:20 大森山 → 16:00 女平車デポ → 18:00 滝沢

皮投岳は伝説の山でいつか行って見たいと思っていました。県境の山で何回も計画が出ていたがゲートが開いていないとの事で中々実行できませんでした。なかなか若い人が参加してくれない中今回は、20代のHさんとガイドのMさんの2人が県境初参加です。雪渓もあり初心者のHさんは雪に慣れていないらしく進めない。軽アイゼンをつけ頂上へ。頂上は360度展望も素晴らしい。来たかきがありました。大森山からの急下降でロープをだしてHさんをフォローし今までのレスキュー講座の講習が役立ちました。県境は何が起きるか分からない事だらけそんな事を切り抜けながら皆で励ましあって進む。そんな「県境の風」が楽しいです。





NO.45 国道4号線青岩大橋（二戸市）～ 県道32号出会

No.307 加藤 桂子

山行日：2012年11月25日(日) 天気：晴れ
 コースタイム：5:45 滝沢IC集合 → 7:05 青岩大橋 → 7:30 川コーナー → 7:55 山入り口
 → 10:40 野サカイ → 11:00 大羽澤手前 → 11:30/55 昼飯 → 12:25 高压線下
 → 13:00 県道32号出会い → 13:30 金田一温泉 → 15:30 滝沢IC解散

現地到着後、馬淵川沿いの走行を検討。今日は 旧奥州街道の藪ヶ坂入口より山行開始だ。サポート本間さんと分れる。駕籠立場（昔街道を通る旅人・カゴ・馬が足を止め休憩した）展望台で展望後走行。



9:10 雪の八甲田連邦を望む

舗装道路に出たため車で移動すぐに大羽沢手前で藪へ入る。

11:30/40 昼食

12:25 送電線鉄塔148号通過

13:00 県道32号に出会う

今日は本間さんが途中で何回か合流しサポートとなる

旧奥州街道の藪の中で →



山道に入ってまもなく鳥かごが目についた。何で山の中に？そば迄行ってびっくり。カスミ網を仕掛けているのです。はじめてみました。シジュウカラ2羽が引っかかってもがいていました。もちろんカスミ網の販売、使用すべて禁止され違反すると罰金が課されます。鳥の捕獲も同じです。簡単に手で破れ1羽はうまく逃げたがもう1羽がカスミ網からはずれない。もがけばもがくほど網は絡んでくる。やむをえずシジュウカラをそっと手に持ち（昔から小鳥をかっていたので、扱いかたには慣れています）足に絡んでいた網を丁寧にほどき逃がしてやりました。おとりの鳥はハギマシコで、後でこれも逃がせばよかったと思いました。野鳥の闇取引や、カスミ網も売っている店もあり高値で売買できる闇ルートがあるようです。とんでもないことです。でも見つかる怖いので急いでその場をはなれました。学術研究目的や野鳥の会の保護調査目的では、届けをだして認められています。

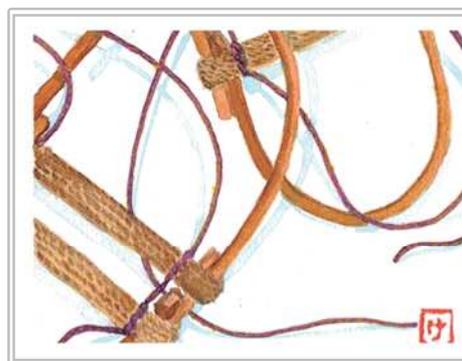
私は、以前鳥かごにシジュウカラ、スズメ、ヤマガラをかごに入れて庭の木に吊るしてある家を見たことがあります。その後見た時は、鳥かごは空っぽでカスミ網が仕掛けてありました。完全に違法ですね。腹がたちます。山野草もそうですが高値で取引ができるので裏のルートで儲けて環境保全などまったく考えてもみない。いやです。



おとりのカゴ



シジュウカラ



「あかげら」2011年11月号 表紙 工藤敬子

NO.46 県道 32 号 ～ 十文字川出合

No.196 工藤 敬子

山行日 : 2012年12月15日(日) 天気 : 晴れ
コースタイム : 6:30 滝沢 IC → 7:20 一戸 IC → 8:00/10 県道 32 号登山開始 → 10:20 休憩
→ 10:40~12:00 道迷い → 12:15/35 P423 昼食 → 13:10 十文字出合
→ 15:55 サポート合流



自分の出身地と青森県との境なので是非歩きたいと思い参加した山行でした。休憩後積雪をだいぶ歩いたらもどに戻ってしまい、コンパスをすべて直し再度歩いたら、また元に戻り、最初は小さく回り、次に大きく回り、道迷いをした不思議な山行でした。(○部分)

道路に出ても歩けども歩けども、迎いの車と会うことができず(十文字川出合とサポートとの合流地点 6km 2時間)、疲れて自分が不機嫌になっていくのが自分でもわかり、何とかしてくれと叫びたくりました。

後で私たちと迎いの車が背中合わせに歩いていたことがわかりました。県境に初めて参加した H 氏は、この山行で懲りて県境には以後参加しないと、その通りになりました。とにかく達成感もなくつらい山行だったという記憶しかありません。

(十文字川出合いですぐ右に行くべきものを広い道路が見えていた 20m位先から右に進んだため)

NO.57 大森山(焼石登山道) ～ 三界山

No.373 高橋 陽子

山行日 : 2014年5月24日(日) 天気 : 晴れ
コースタイム : 5:30 都南大橋 → 7:10 大森山トンネル → 7:30 登山開始 → 9:30 大森山
→ 10:30 前回地点 → 12:40 三界山 → 14:00 胆沢川横断、夏道 → 16:00 分岐
→ 17:20 大森山トンネル → 19:20 都南大橋

三界山への夏道は藪が濃い事が予想され、冬期通行止め解除を待って、大森山トンネルから三界山に向けて出発する。所々雪が融けた夏道に行く。夏道を外すと竹藪になり歩きにくい。後ろから仙台の4人パーティが追いついてきた。聞くと昨年も三界山に来たが時間切れで断念し、再挑戦との事、力の有る人達だと思って見送る。途中アイゼンを装着しているパーティを追い越し、県境の大森山の方に向かう。仙台パーティは、夏道通り胆沢川へ下りて行くのが見えた。大森山を越え、下で休んで



いる所へ仙台パーティが後から来る。夏道より県境の方が短縮になっていたようだ。

三界山の直下にも私達の方が先に来て休んでいる所へ、仙台パーティが追いつき、そのまま焼石登山道を三界山の東側に向かって進んで行った。中村さんが「あの雪渓を登ってみよう。駄目だったら戻ろう」と言う事で登り始める。最初は緩やかだった雪渓が、徐々に急斜面となり、アイゼンをしっかり雪に踏みしめて登る。斜面がきつく雪崩れば大変な為、回避出来るようブッシュのすぐ側を登る。



何とか急斜面を登り、山頂はすぐそこだ。仙台パーティはもう山頂に着いているのだろうと思い

ながら藪の中に入る。笹、低木、ツル、最悪なブッシュに足は取られ、手は取られ、思うように進まない。160mを40分もかかってやっとブッシュを抜け、山頂に出る。山頂は3畳ほどで平坦、その中に小さな花々が所狭しと咲き誇り、360度の素晴らしい景色を見渡すことが出来た。仙台パーティが着た様子はなく、下を見下ろしても4人の姿は見えなかった。



ここから先の蟻巣山の方向を見て、果たしてこの県境が繋がるのだろうか、気が遠くなる思いだった。登って来たブッシュと西側の急斜面を避け、東側の尾根を下る。

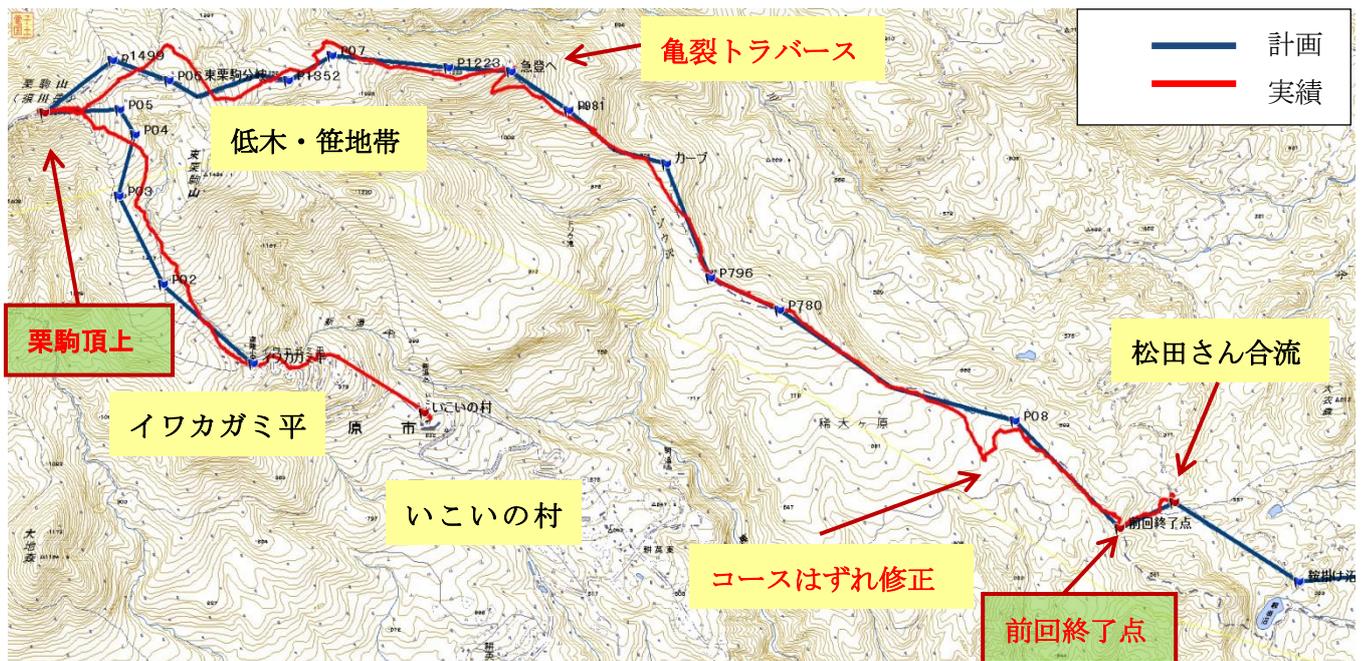
胆沢川まで下り、振り返って三界山を見ると、東側斜面も西側斜面とそれほど変わらない急斜面の雪渓となっていた。まだ余力のあるうちに西側斜面を登ったのが正解だった。

三界山までの長い長い道のり、西側急斜面の雪渓、これらをクリアして登った感動が、下山後もしばらく思い返され、心に残る山行となった。



山行日 : 2015年4月12日(日) 天気 : 晴れ
 コースタイム : 5:45 盛岡南 IC → 7:30/8:00 いこいの村 → 9:00 イワカガミ平 → 11:15/50 栗駒山頂上
 → 13:00 P07 → 13:40 急登 → 15:40 前回終了点 → 16:15 舗装道路 → 盛岡南 IC

集合場所までは強いガスもあったが、高速道にのるとガスも晴れ朝日がまばゆい。今日はいい山行になりそうだ。いこいの村に到着したが、期待していたゲートは閉まったままなのでイワカガミ平まで2km程歩くことになる。ミーティングでサポートの松田さんに雪の状況によっては進めずこの辺りに戻ることになる旨、伝え出発する。頂上直下付近まで進むと斜面もきつくなり右へ迂回し、歩数を数えながら進む。栗駒山頂上はさすがに冬景色だ。岩手の山に加え、遠く鳥海山も望める。しばらく頂上からの展望を楽しむ。



大パノラマを満喫した後は、この大ゲレンデを独り占めだ。いよいよ滑走開始。緊張で胸が高鳴る。殆ど氷状態の斜面を転倒しないよう気をつけて滑り出すが、ガリガリと音がし怖い。先ほどの胸の高鳴りとは程遠い緊張感だ。ようやく斜面が緩やかになった付近から厚いガリガリの氷が最中状態に変わってきた。あまり沈まないの雪質は気にならない。避難小屋を左に見てしばらくおいしい斜面を進む。滑りを楽しんだあとの斜面は低木や笹が邪魔して滑るところではない。SLは右や左・上り下りとコース取りに苦労しながら、我々県境の素人をグングン引っ張ってくれる。もう少し雪があれば最高の山



スキーコースだ。今年は雪解けが早いらしく、1~2週間早かったら本当に爽快な滑りができただろう。

低木・笹藪地帯を抜けるとまた恰好の斜面となった。1300m付近の崖崩れの所で現在地を確認すると県境より離れていることに気づき、進路を修正する。スキーは距離移動が早いので、きめ細かく確認しながら進まなければならないと反省す



る。P07 付近からのコースは尾根上と谷を左に見て進めばいいことからルートファインディングが順調になることが予想され、また斜面も雪も安定してきたため、サポートの松田さんと連絡を取り、予定通り岩手県側へ移動してもらおうと伝える。

高度 1200m位の所で急登に差し掛かり下を覗くと大きな口を開けた亀裂がある。200m程右側にトラバースして進む。下から見ると 5m程の断崖で横に 100m以上の溝となっている。

所々トラバースをしながら進むが、長く滑りやすい斜面もあり疲れも吹き飛ばす。しばらく左の谷を見て進み緩い斜面も出てきて、滑るより歩くところも多くなる。終了点の手前で小さな沢を右に越えてからコースを外れたことに気づき修正する。

前回終了点の 100m手前で雪がなくなりスキーを背負う。

・・・間もなく一年前に付けた赤布と県境の札を確認。

無事松田さんとも合流。



体調不良だったが SL が引っ張ってくれたおかげで日が落ちる前に予定区間を下ることができた。

古川さん有難うございます。府金さん・本間さん・松田さんお疲れさまでした。

やっと 太平洋から栗駒まで宮城県境が繋がった。

バンザーイ

みなさん有難う。

いこいの村 ~ 頂上	歩き	4.5 km	標高差	800m	時間	3 : 15
頂上 ~ 前回終了地点	滑走	11.7 km		1000m		4 : 25

山行日 : 2015年4月25日(日)	天気 : 晴れ・曇り
コースタイム : 9:30 八幡平山頂発 → ふけの湯分岐 → 11:45/12:10 呱子森(昼食)	
→ 14:55 H03 地点 → 16:15 H04 地点 → 16:50 寒ノ背峠 → 17:30 松田車地点	

アスピーテ閉鎖で一週間延期。雪が残っているか心配だった。見返峠からスキーを付けて山頂へ。広大な山頂は見渡す限り雪を被っていてほっとした。雪質は固いバーン状のところもあれば、融けかかってザクザクしているところもあり、滑走時には要注意だ。

ふけの湯分岐から目指す寒ノ背峠は、真北に連なる山浪の奥だ。大きく深呼吸をして、なだらかな斜面に滑り出す。今日の山中は3人だけ。SLにはぐれないよう必死についていく。

呱子森手前 P1060 付近。立ちはだかる雪斜面を登ろうにも斜度がきつく、左手を迂回することになった。進むごとに笹が立ち上がっている。雪から雪をつないで進むのも限界となり、スキーを担いで尾根へ這い上がる。

11時40分尾根上の広いブナ林で昼食。静まり返った白銀の世界。風が緩やかに木々を揺らして通り過ぎる。至福の時間・・・、自分が今ここに居るという不思議・・・。長めの休憩で元気回復したものの、まだ半分だ。

午後の部スタートから10分ほど経ったところで、下降急斜面だ。降りられそうな緩斜面を探すが、どこも急。しかたなく横滑りをしながら降りることになった。斜面の半分ぐらいまで横滑りし、ここからは大丈夫だろうとターンしたその瞬間、態勢が崩れ数回転して大木のホールへ突っ込んだ。左のスキーは外れホールの上部に突き刺さる。肩を強打したがなんとか無事。この状態から起き上がるのが大変、15分はかかったろうか。斜面下では古川さん、小田さんが待っている。後で聞くと結果的に3人とも転んだということだった。

気を取り直して進むと、更に急な崖斜面が待ち構えていた。三浦雄一郎なら、いや山友会の三浦さんならかっこよく滑るでしょうけど・・・。ここでも迂回路が見つからず、スキーを担いでキックステップで降りることになった。初経験でドキドキだったが、慣れてくるとキツツキになった気分が結構楽しかった。

2時頃、右側林道に沿って下りその先から尾根に上ることにした。進むにつれスキーの先に笹が刺さって進路を阻む。引き返して30分のロス。5回以上シールを着脱していると、さすがにスキーを外すのが億劫になってきた。シールもザックも雪でびしょびしょ、疲れて集中力も欠如。

どの地点だったか記憶が定かでないが、うまい具合に尾根沿いに雪が残っており、最後のロングコースを楽しんだ。4時ごろ高度700メートルまで下がり、さすがにその先に雪はなく、スキーを脱ぐ。

ここからは初春、目を引くピンク色はカタクリの群落だ。寒ノ背までカタクリを愛でながら進むと、間もなくサポートの松田さんの声が近付いてくる。

寒ノ背峠にやっと到着。県境区間14.2km。7時間20分。この達成感は一生涯の宝物になるだろう。



山行日 : 2015年5月31日(日) 天気 : 雨
 コースタイム : 4:50 都南大橋 → 6:00 湯田 IC → 6:55/7:15 蟻巣山林道(登山開始)
 → 11:05 蟻巣山頂上 → 15:15 蟻巣山林道(登山開始) → 都南大橋

蟻巣山の思い出

蟻巣山～三界山への山行は 2015年5月中旬に計画するも、[概念図・ルート図] 道路閉鎖と雨で中止になり、改めて5月31日に実施する事になったのですが、出発した時すでに小雨で、秋田県側は9時には雨も上がる予報でしたが益々ひどくなり、県境手前の道路も雪で埋もれ、おまけに落石で通行出来ない状況でしたので手前に車をデポし、県境峠まで歩き、今回は蟻巣山まで登る事に・・・

県境上の蟻巣山に向かって登り始めましたが、藪が深く厳しくなかなか進めないで、沢の雪渓を登り、なんとか尾根



に達することができました。尾根の急登には雪が無い為竹を掴み、足よりも手に力が入った登りでした。県境の杭は2ヶ所確認できましたが、頂上の三角点は発見できませんでした。誰が登ったろうか付近にテープが有りました。我々もテープを付けて、次回はここからか?の印を付けて下山。

帰りは多少迷いながらの下山でしたが、雨の中で昼食をとり、後半の藪こぎで登ってきた時に付けたピンクのリボンを藪の中から発見した時には、思わず“あったぞー”と蟻巣山をバックに記念写真。そのあとは残雪の沢を快適に下山して・・・とに角、三界山は遠いなーと言うのが感想で、三界山への山行を不安な思いで車に戻る。



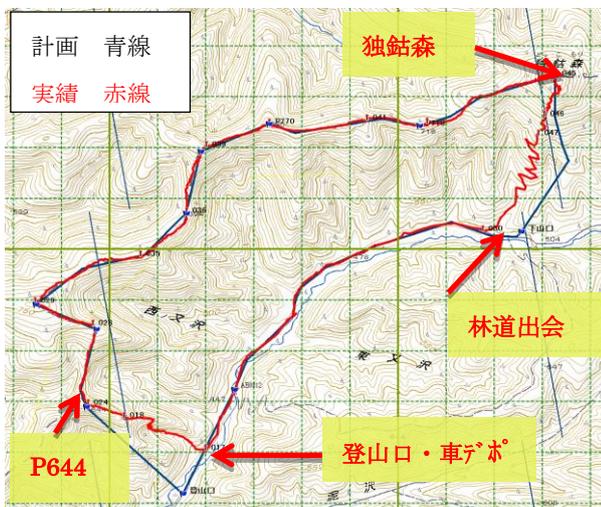
そして2016年4月9日～10日の再チャレンジで合居砂利から蟻巣山そして三界山に到達した時には、残雪のおかげで登りやすく昨年の大変さはうそみたいでした。この事で、山行には登る時期とタイミングが大事だという事を思い知らされた次第です。



NO.73 ニツ森(P644) ～ 独鈷森

No.421 小田 春美

山行日 : 2015年 6月 14日(日) 天気 : 晴れ
 コースタイム : 6:50 滝沢 IC → 7:10/7:20 茂谷地林道駐車場 → 8:25 P644 → 9:15 P760
 → 11:15 P770 → 11:55/12:20 P718(昼食) → 13:20 独鈷森 → 14:40 作業道出会
 → 15:10 茂谷地林道出会 → 15:50/16:05 車駐車地 → (反省会) → 17:15 盛岡



独鈷森の「独鈷」とは何のことだろう。辞書には「密教の道具」とある。両端の尖った金剛杵…らしい。では山名の由来は？東北森林管理局のHPには「山の形が独鈷に似ているところから」と記載。ウームどこが？よくわからない。ネットによると長野や熊本に「独鈷山」があり、いずれも弘法大師が「独鈷」を埋めたり投げつけたりしたのが名前の由来らしい。とすれば形状(円錐状に突起した急峻な斜面の山)が似ているというより、古い時代に高僧と大切な仏具とが関係していた…なんて考えるほうが楽しい。

今回はニツ森(P644)からその独鈷森を目指す。

(鹿角市と八幡平市の境界)

前回の藪の濃さにたまげ「県境はもうナシで良いや」と思っていたが、次の目標点まで継ぎたい、という誘惑に負け参加することにした。

茂谷地林道から涸れ沢を登り前回付けたピンクのテープにたどり着く。さあ、これからが本番だ。今回は相変わらずの太い竹藪に加え、熊からのご挨拶がたくさんある。お昼寝場所が2、3か所、排泄物や足跡、たった今食べたであろう筍の残り。なんだか藪の向こうから私たちが窺っているような気さえる。筍を吹く。大声を出す。ストックを叩く。そこで私は両手に筍を数本ずつ持った。「万が一、出てきたらこれを投げつけよう。熊が筍に気を取られている間に逃げようじゃないの」それでも藪漕ぎに必死になっている間に、その筍も手からこぼれ落ちてしまった。後で皆にその話をしたら同行のHさんも「私も同じことを考えていた」と言う。男性陣には「そんなことしたってダメ、ムダ」と言われ大笑いになった。

予定より早めに各ポイントを通過、いよいよ独鈷森の急斜面に取りつく。なんとも手ごわい藪だ。両



手両足でよじ登る。13時20分、予定より50分早く頂上に着く。

やったね！頂上も藪や立ち木で見通しは悪い。

ひときわ目立つ木の高さ3m位の処におなじみの青い山名標識が設置されてあった。藪歩きグループのプレートだ。みんながんばっているなあ。

下山も両手両足を存分に使い慎重に進む。頂上直下の藪を抜けると伐採地に出た。これがまた歩きにくい。急斜面に倒れた幹や枝が縦横に横たわり足場が悪い。苦戦

しているとNさんが伐採跡をたどり作業道を発見。ようやく気持ちにゆとりが戻り話も弾む。予定をクリアしたのと無事だったこと（当然のことだけれど）で満足度は100%。そうそう、おいしい蕨も採れたので120%になりました。

高齢者のわりに朝が遅い我が家。以前は真っ暗な早朝に眠い目をこすりながら県境目指して出かけてゆく夫を「物好きだごど」と思いながら送り出し、私はもうひと眠り…。

それなのに気が付けばもう20回も県境の山行に混ぜていただいております。単に「熊よけ要員」のつもりが、点が線になる楽しさを少しばかりわかる様になったのかもしれない。

そして487kmの県境をあと26.7km残す

(2016/09/15 現在)まで、およそ90回を歩き継いできた諸先輩、特にNさん、Mさん、Kさんに心から敬意を表します。



NO.74 独鈷森 ～ 中岳 (下山遅れ)

No.267 中村 数博

山行日 : 2015年7月12日(日) 天気 : 晴れ

コースタイム : 5:00 滝沢インター → 7:30 奈良助沢林道(P557 登山口) → 9:00 独鈷森

→ 10:10 カーブ (AA1255) → 12:15 P804 → 15:00 P915 → 17:15/30 中岳

→ 18:00 下山道へ入る → 18:20 下山折り返し戻る → 19:10 鹿角の方面からも戻る

→ 19:20 松田さんへHELP → 20:00 十文字分岐 → 21:4 下山口

→ 22:00 松田さん合流 → 0:35 車引き取り合流 → 1:35 滝沢インター解散

花輪峠、独鈷森下のY字路に車をデポ。秋田側から登山開始。沢を登るが斜面がきつくロープを使う。尾根に周り、頂上直下で藪が深くガレ場もあり、木につかまりながら9:00独鈷森に到着。前回は岩手側を登りここで終わったが、今回はここがスタートラインだ。藪は深いが、皆元気に出発する。



P804 で昼食、ここで約半分まで来た。ほぼ予定通りだ。P915 がすぐ近くに見え、隣に中岳が見えた。ここで引き返すより前に進む事を皆で決める。空は青く、稜線は濃い緑の絨毯を敷いた様に見える。けれどもここからの尾根は痩せ尾根で、しかも竹が太くなかなか進めない。やっと P915 に着く。ここからは頂上が近くに見え、中岳に行けば登山道が有る。もうすぐだ。竹の高さは低くなるが、びっしり生えなかなか前に進めない。斜面もきつく時間ばかりが過ぎる。最後の竹藪をかき分け 17:15 中岳山頂に着く。傾きかけた太陽に染まる 360度の展望は素晴らしい。全員、心の底から万歳を叫んだ。もう藪は終わりだ。あとは登山道を下るだけ。



地図では奈良助沢に行く道がある。立派に刈り払いされている登山道を四角岳の分岐から秋田側を下る。

2キロ下った所で GPS を持つ Y さんが、もっと中岳近くに登山道があったはずとの事で、引き返す。分岐らしい所にピンクテープが付いているが、あまり人が歩いた形跡が無い。300m 進んだ所で登山道が無くなり、これ以上進むと危険と判断する。当初の計画より遠くにはなるが、広い登山道を下り、車をデポした秋田側に戻る事にする。3~4キロ下った所で人が歩いた形跡が無い事に気づく。近くに分岐があるはずなのに無い。竹の子採りに入ったような跡は何カ所かあるが、登山道らしき道は無い。GPS で見ると道が途中で無くなっている。19:30 これはまずいと思い、会長に TEL し、松田さんには四角岳登山口に来て欲しい旨を話す。

日が暮れて不安そうなメンバーも見られた。各自ヘッドランプを付け今来た道に戻る。四角岳分岐に 30 分ほどで着いた。それまでに全員ほとんど水を飲み尽くし、H さんの非常用の水を皆で少しずつ飲み、岩手県側の登山道を下る。この道は何度も歩いた道で、メンバーの中にも歩いた人がいるので、不安は無い。途中の沢で水を飲む。生き返った心地だった。メンバーも元気になり、休息を取りながら下山する。



やっと四角岳登山口に到着。

21:00 松田車と出会い“助かった”と思った。Hさん、Oさん二人を乗せ、車を取りに行く。往復の距離が60キロ位ある。残ったメンバーで作業用の林道を歩く。空には星が瞬き、鶴（ぬえ）と思われる鳥の鳴き声がある。ここではどこでもビバーク出来、朝になれば作業車も来ると思い、少しずつ村の方に進む。やっと携帯の通じる所まで来て3人に連絡するが返事が無い。0:00を過ぎて連絡が取れず、地元のタクシーや八幡平のタクシーに連絡するが、居場所が分からないと断られ、諦めて歩く。3人とも通じないのはおかしい、何かあったのでは・・・と悪い想像が頭をよぎる。



会長に連絡した直後に松田さんと連絡が付き、本当に安堵する。他の2台も到着。夜道で道が分からず探していた為、時間がかかったとの事だった。全員車に乗り、無事帰宅する。

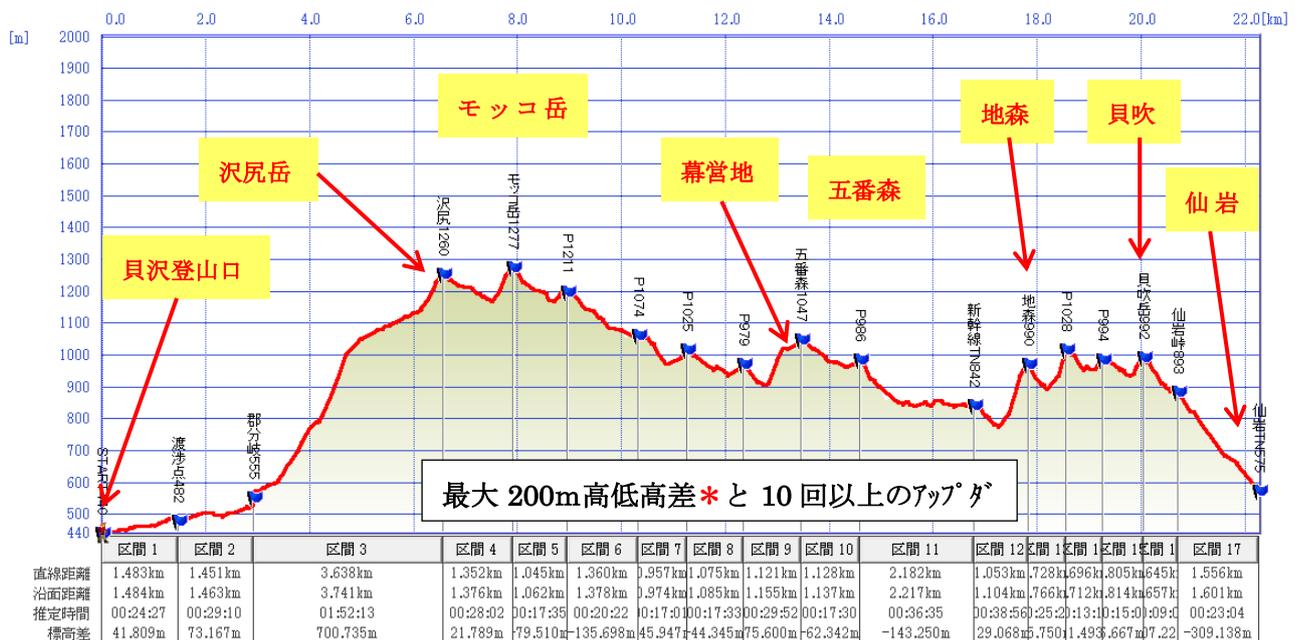
長い長い一日だった。

NO.80 沼尻岳 ~ 仙岩トンネル (銀世界コラボ)

No.234 古川孝

山行日	2016年3月26日(土)~27日(日)	天気	晴れ
コースタイム	26日 5:30/6:40 繋P/貝沢口 → 11:20/40 沼尻岳(スキー隊仙岩へ) → 貝沢口繋へ(峠へ) → 12:45 モッコ岳 → 15:25 五番森手前幕営地(泊) スキー隊 27日 4:00/6:10 出発 → 7:10/25 五番森 → 11:00/20 地森 → 12:20/30 P1026 峰 → 13:40 貝吹岳 → 14:00 仙岩峠 → 15:00 仙岩トンネル到着(峠へ) 出迎え		

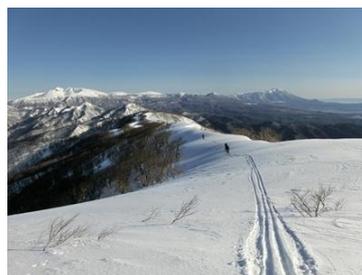
私は県境の風にはこれまで残雪期に山スキーで県境踏破に協力してきた。去年は和賀岳～根菅分岐、栗駒岳から南コース、八幡平から北コースの3コースを歩いた。今回県境の風最大の難所でもある、22kmの超ロングコース沼尻岳～貝吹岳を小田さんの詳細データも検討し、4人のメンバーが1泊2日で行くこととなった。



出発当日は県境の風の多くのメンバーが沢尻岳まで一緒に登って見送っていただいた。ここからが、実際の出発点である。最初のモッコ岳は大きな山であるが、全員足並みそろって登る。無線交信してサポート隊から食料（ラーメン）を受け取っていないことが判明、あわてて手持ち食料を確認する。

行く手を眺めると県境に雪庇が延々と続いている。ほどなく、天候が小雪まじりで暗くなる。雪庇で行く道がない！と思いきや、回り込んで滑り込む。スキーに雪が着いて団子になる。シール用ワックスを塗るが難儀するスキーもでる。五番森まで長かったが、手前鞍部でテントを張ることとした。食料はうどん 6 人分あったので、朝に 2 人分を回し、ラーメン無い分を補った。

二日目は出発が 6 時すぎであった。今日も快晴である。すぐに五番森の急登、笹で歩きにくい。それでも、おとといの降雪がなければ、さらにひどかったと思われる。登り切ると五番森は 360 度の快晴の大パノラマが広がっている。ここで携帯メールが通じ、待っているサポート隊小田さんに報告できた。しばらく行くと、急下降のやせ尾根で、雪庇があまりついてなく、スキーを担いで下りる。そのあとも何か所かやせ尾根が続き、その都度スキーを担ぎ、慎重に進む。



地森の手前まで下降となり、そこからの登り（標高で約 200m）がきつかった。重いザックが肩に食い込む。ようやく地森頂上に着く。昼食とし、しばし休む。予定時間より早かった。しかし、その次のピークを見るとかなりの傾斜とやせ尾根が見え、準備に気合が入る。

次の 1026m 峰が核心部最難関であった。地森からの尾根続きはブッシュ、その鞍部ではスキーを使ったが、すぐにやせ尾根登りになりスキーを担ぐ。快晴、風はない。次第に傾斜がきつくなる。かろう



じて付いている雪の幅が1mくらいか。両サイドは見事に切れ落ちている。途中立木が邪魔し越えるのに難儀する。雪を踏み抜く、バランスを崩すなどあれば、滑落必死の中、先頭の小泉の踏み跡を全員慎重に登りきり、まずはホッとする。予定より大きく時間を費やした。

1026m峰からはロングなスキー滑走の後もアップダウンがあり、貝吹岳の手前でまたスキーを担ぎ、ようやく貝吹岳に到着した。ここまで長かった。そこから仙岩峠まではツボ足トレースに沿って滑る。そこでシールを取ってスキー滑走モードとなる。サポート隊が待っている仙岩トンネル入り口まではあとすこしだ。トンネルのうえでサポート隊が出迎えてくれていた。



ありがとう、ようやく踏破することができた。

今回の山行は、厳しい山行だったが、時期、天候等の自然環境にも恵まれ、無事役目を果たすことができた。県境の風でもなければ行くこともないコースだったが、このコースに挑戦できたこと、かつ踏破できたことに感謝したい。

「県境の風」とは、まさに「未知なる世界への挑戦」でもある。

NO.83 かみとうざん 上東山(1116m) ~ しもとうざん 下東山(1117.2m) ~ P877m

No.372 辰巳 やすし 和司

山行日 : 2016年4月23日(土) 晴れ ~ 4月24日(日) 濃霧 → 快晴
 コースタイム : 4/23 5:00 御所湖 → 7:10 秋田県 R342号 天江(林道駐車位置)、7:25 登山開始 → 8:15 登山口(三合目) → 12:00 上東山 → 13:20 1075m、テント泊
 4/24 5:10 テント場 → 5:20 下東山 → 7:15 P877m → 9:15 下東山 → 9:35 テント場、撤収 → 11:10 上東山 → 13:45 三合目 → 14:35 駐車位置 → 17:20 御所湖

【 概念図 】

今回の目標は秋田県境の東山付近から大森山トンネル方向へトレースを付ける事です。県境グループとしては今までに無い山中泊です。積雪期泊なので共同・個人とも荷物が多くなりますが、早朝御所湖に集合して荷物分担をし、登山口となる秋田県側の天江(てんごう)へ向かいました。今年はかなり雪が少ないのですが、残雪で車は林道の途中までしか入れません。三合目から雪の無い登山道に入ると、イワウチワ



やキクザキイチゲがきれいに咲いていて和まされます。敬子さんにはブナの新芽を教えてくださいました。やがて雪の尾根へと変わり、途中から夏道を外れて積雪期のみの展望地1020mに上がります。晴れた空に、めざす上東山、下東山が対岸に聳え立ち、その左側には2週間前にトレース(今回のメンバー中5

人も参加)した蟻巣山から三界山の稜線、焼石岳の山並みははっきり見え、絶景をみんなで楽しみました。よく締まった雪の尾根を快適に進んで岩手県境に到着です。上東山の南斜面は雪が無く、夏道がはっきり見えています。大変な急登を重い荷物を背負って喘ぎながらやっと山頂へ上がります。ここから先は夏道がなく、激しい藪を鞍部へ下り、雪の急斜面を登り返してテント場の台地に到着しました。荷物をおろして、気になっていた博さんの大きく膨らんだザックの中身は、奥さんと買った大量の食料・飲物、衣類とわかりましたが、次からは半分にするようです。夕食は陽子さん工夫の軽量化と試験調理もしたじゃがりこポテトサラダ、乾燥豆腐のビーフシチュー載せ等でお腹いっぱいになりました。外で景色を堪能しながら美味しい物を喉に通していた数博さんがとてもかわいい小動物を見つけました。下山後、典さんの調べで天然記念物のヤマネ（山鼠、冬眠鼠）とわかり、びっくりです！

翌朝は3時に起きて朝食と出発準備を終え、濃霧の中を出発です。何も見えない下東山を越え、標高差230mの急な下りに入ります。雪稜の後、右側の沢に落ち込む雪の急斜面を避けて激しい藪を真っ直ぐ下りて行きます。辛い藪を下りきるとやがてP877mで、青空が広がってきました。振り返ると下東山がくっきり見えています。帰路での藪を考えると今回はここまでです。代表の嘉洋さんが、到達点に日付をマジックで書き込んだピンクテープを付けます。来年の残雪期にこのテープに再会できればいいなと思って山行を終えました。東山は展望抜群で、県境ではなく山登りそのものでもたいへんお勧めの山です！



到達点 P877m (後ろは下東山)



天然記念物ヤマネ (テント場付近)



「あかげら」2013年11月号 表紙 中村数博

● 創立 30 周年記念 会員のひとこと

😊の愉しみ・登山以外の愉しみ😊

祝 30 周年!

山友全員寄稿

- Q1. あなたにとっての『山の愉しみ』を教えてください。山に登る前、登っている最中、下山後、これがあるから楽しいと思うことを教えてください。
- Q2. 『登山以外の愉しみ』趣味、好きなことについて教えてください。

A1. 山の愉しみは何かと問われても、ストレートすぎて難しい。何事も理屈っぽく考える性格なので、どこの山のどのコースに登るのかも納得できる理由が必要で、自分なりに見つかったときは愉しみが一気に膨らむ。実際には、目的なしに山に行くことはない。仮にそんな気持ちで山に入ったら事故を起こすからやらない。目的が定まるまでの未知の何かを求めるワクワク感も、愉しみのひとつかもしれない。

山に登っている最中の愉しみは、天気が悪くても悪くても太古の昔につながる大自然に浸かれること。新緑、残雪、紅葉、雪化粧など四季折々の美しさに加えて、岩稜帯などの人を寄せ付けない険しい山の姿を目の当たりにしたときの高揚感も格別だ。そして、その感動を分かち合える仲間が傍にいれば最高だ。気持ちが通じ合う仲間と時間を過ごすことが本当の愉しみなのかもしれない。

下山後の愉しみは、汗を洗い流した後の一杯のビールと数日続く筋肉痛、それに体重計の針を見ることか。

A2. 登山以外に興味を引くものはたくさんあって、仕事も含めて好奇心旺盛である。ただし、これといって自慢できるような趣味はない。しいて言えば、子供のころから機械いじりが好きで、今でも時間があれば車の内装を引っ剥がして、セルフでグレードアップを楽しんだりしている。

趣味ではないが、20年前に家を建てたときに敷地の四方を生垣にしてしまい、否が応でも毎年2回刈込をする羽目になった。そのおかげで、生垣の刈り揃えは庭師並にうまくなったと思う。

私にとって、仕事も家庭も山友会も人生そのものなので、いつまでも好奇心旺盛に残された時間を愉しく好きなように使いたいと思っている。

No.2 渡邊 健治

A1. 私の山登りのきっかけは、山野草の紫色のシラネアオイとの出会いです。それからは、カメラを買い、写真を撮り、本で名前を調べアルバムに整理しているうちに、ますます花へのあこがれが強くなり、今では変り花、八重咲、多弁花、ミドリ花、アルビノの花、等々…。葉では、斑入り、縞、覆輪（ふくりん）、丸葉、カラス葉、等々…。

No.6 千田 勝則

A1. ある時は、一步一步自分の足取りを確認しているとき、またある時は、快晴のもとおしゃべりをしながらおにぎりを頬張るとき、花々に会えたとき、今までに見たことのない光景に出会ったとき、下山後の疲労感と共にヤッターという充実感などなど。

A2. 始めたことは途中で投げ出さない！！ を モットー(?)に、俳句、絵画、コーラスなどそれぞれ理由をつけてやっていますが、感性のなさ、能力のなさに、愉しみというよりは苦しみになることもあります。奥を極めたい思いだけは十分にありますが…。

その他、編み物・縫い物など、針を持つと幸せを感じます。読書も好きですが、歳のせいかすぐ眠くなり、内容もすぐ忘れて何度も読み返したりしています。

No. 19 中村 美栄子

A1. はじめに自己紹介を少し。もともと北上市出身で、山友会に創立 2 年目くらいにいました。すぐ関東に転勤になり、このたび岩手に帰り、約 30 年ぶりに会に入らせてもらっています。

私にとっての「山の愉しみ」は、何より森林の木々を眺めること。葉の緑や木肌の美しさ。その先が青空だったりするとさらに美しい。特に好きな木はぶな。ナラ。ナナカマド。ぶなは関東では、森林限界あたり 1000m 付近にあるのが常識でしたが、滝沢にきたら、近所の森林公園などに平気でありました。あの木には静かなエネルギーを感じます。ナナカマドは関東にはあまりありません。実家に帰るたびにナナカマドをみては、よだれがでる感じでした。登山は木々を眺めつつ、やはり頂上到達が楽しみ。そこから見える景色が当然好きです。

A2. 木々のあるところをうろうろ散策すること。近所が森林なので、クマに会わないくらいの感じでちょっと探検中。(ちょっと危ない)

千葉にいるときに山がないこともあり、護身術、整体を少し習いました。護身術はぜんぜんできませんがその場での運動にはちょっといい感じ。整体は腰痛、五十肩くらいは自力で治せます。

人生つまったときに、他の偉大な人々が残した偉大な言葉に出会うことが楽しみ。その時の状況にぴったりだったりする言葉とか。

No. 35 石原 房子

A1. 山での愉しみはやはり食事のときです。レシピを聞いて帰ってから自分で作ったりすると、得した気分になります。

No. 70 遠藤 千鈴子

A1. やはり山に登る前の計画を立てることだと思う。まだ登った事のない山について、地図を前に打ち合わせをし、当日となって山行がどのように展開するか、が楽しみです。

A2. JR 大人の休日を利用した旅行です。7 月初め 3 泊 4 日の旅行をしましたが、箱根 1 泊・上田 2 泊で「小田原城」・「信州上田城・松代海津城」のほか、長野郊外の「戸隠神社」を廻ってきました。

No.109 浦部 光生

A1. 最近では山仲間に使われての山行が多くなりましたが、心の交流が嬉しくてお邪魔虫存在で参加しています。

もう一つは、個人山行です。その時の目的を持って(トレーニング、山野草撮影等)マイペースで登れる事が精神的に楽です。山を独り占めにすることが多く、山と会話しながらのひとはたまりませ〜ん。

A2. 現在は、写真クラブ2つ、山のクラブ2つ、パソコンクラブ2つ、空手クラブ（二段取得）、ドイツリース創作（講師資格）、書写クラブそれぞれに思い入れがあって止められなくしています。その他、友達との交流も忙しいです。

何よりも勤めている児童養護施設の子供達との関わりに生きがいを持っています。（おまけで孫の成長も）季節の手づくり（梅干し・たくあん等）をバザーで売ったりして施設に還元しています。

No. 128 川村 雅子

A1. 自分で計画する山行は山の地図やネットで調べます。一人で丹沢へ。二度計画までしましたが、まだ実現できていません。近いうちに行ければと思っています。登山中は天候に恵まれ展望が良ければ最高ですね。

冬の山は登山中に苦しいあまり後悔ばかりです。でも、登り切ったときの達成感は何とも言えません。自分の体力的にも苦しい山行でも下山後また行きたくなるのが不思議ですね。山に対して食欲ではありません。同じ山に（北アルプス）何度でも行きます。自分の技量、体力に合う山行を細く長くがモットーです。

A2. パッチワーク歴は35年です。中でも息子の結婚式に作成したリングピローが唯一の自信作です。年齢と共に針を持つ時間が少なくなり材料に埋もれて生活しております。体力が衰え登山出来なくなった時のためにも大事にしたい趣味です。

No. 140 石澤 妙子

A1. ① 仲間との会話。車中での会話、登りながらの会話、又休憩中の会話など人生（？）の参考になることもあります。

② 達成感をあじわうこと。県境で前回につなげたときや、つらい山行程達成感があり、うれしくなります。

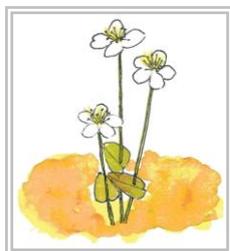
A2. ① 絵を描くこと。自分の感じたことを表せた時は、うれしいです。

② 和裁。着物を縫っていてだんだん仕上がっていく段階がたのしいです。

No. 196 工藤 敬子

A1. 16・7年前、山に登り始めた頃は頂上でのビールと下山後の温泉が楽しみでした。その後長年登っていて、いろいろな経験をしました。真っ青な空、どこまでも続く雲海、真っ白な樹氷の世界、紅葉の錦、冬の大三角、環水平アークやブロッケン現象、高山の花々の愛らしさ、泊り山行での酒と語り、ホワイトアウトでのルートファインディング、etc. これからも、多くの山や縦走コース、山スキーも未知のコースを開拓し、終盤の人生を大いに楽しんでいきたいと思っています。

A2. いよいよフリータイムライフが待っていますので、100名山以外では小説デビュー、ヨガ or 太極拳、囲碁・ゴルフの復活、野菜作り、全国行脚、ボランティアなど楽しみですね。あと、88か所お遍路と仏教・修験道の道～老けていられないですね。でも、今一番はまっているのがフィギアスケートで本田真凜です。



ウメバチソウ

No. 234 古川 孝

A1. 何と言っても山頂に立った時の達成感が喜びです。登る前に打ち合わせをして、山行の気持ちが高まります。メンバーと顔を合わせるにより一緒に登る喜びが共有できると思います。主としてピークハントの登山が多いのですが、縦走が好きです。振り返れば歩いたコースが続いていて人の足はすごいと思わされます。一步一步であそこからここまで進んだのだと思うと我ながらほめたい気持ちになります。

下山後の愉しみは何と言っても温泉です。足の疲れもとれますし、汗っかきの私は汗を流しきっぱりすると、次への活力が湧いてきます。

A2. 今は着物を着る機会を増やしたいと着付けを習っていて、その仲間との交流が楽しいです。

No. 250 日比野 保子

A1. ① 登山道の無い山 この山をどこから登るか？地図を見て、沢から？尾根から？竹やぶの中？コースをイメージする。

② 登っている最中は常に周りを見て、もしここでハプニングがあり山に登れない場合とか、下山出来ない場合どこでビバークするか？水は？メンバーの安全とか考えて歩く。食糧になる物とか。

③ 下山後は地図を見て自分の歩いた道を GPS とかでみる。帰ってからはビール、風呂が決まり。

A2. 山菜採り、きのこ採り、陶芸。

No. 267 中村 数博

A1. 登っている最中は高山植物を見るのが楽しみです。下山後はビールを飲むのが楽しみです。

A2. NHKの朝ドラを見ることです。猫と遊ぶことです。

No. 268 熊谷 久美子

A1. 登る山が決まったら、その山の情報（特に地形図）を徹底してリサーチする。登山中は、登山ルートと地形図と周りの尾根や山を見比べ景色を楽しみとする。下山後は、近くの温泉で汗を流し帰宅後のビールと地図上の振り返りを楽しみにしています。

A2. 地図が大好きで、行ったことのない場所の地図を眺めながらその場所を想像し、実際にその場所に行って検証する。その延長線上に楽しみとして旅行があり、登山があり、ドライブがあり、温泉があります。

その他趣味・楽しみとして音楽（j a z z）・推理小説・外食・酒も好きなものです。

No. 277 松田 徹

A1. 登山でもクライミングでも初めて行くところや初めての時期はとてもワクワクする。登る前にたくさん調べ、安全に登れるようにトレーニングと準備をする。無事に登れた時の満足感がたまらない。2回目に同じところに行くときは1回目より怖い。3回目からは飽きてくる。何度も行ったところでも、そこに初めてチャレンジする人に同行するのも好きである。その人の努力で成功したときは自分のチャレンジのような満足がある。

A2. 日曜大工や裁縫、登山道具の修理や改造など手仕事が楽しい。盛岡の古い町並みの説明看板を読むのが好き。ポーッとTVを見ながら焼酎を飲むのがいい。

No. 279 松田 幸久

A1. 登山前日は、皆のペースについていけるか、足がつかないか不安だったり、興奮したりして眠れない事もありますが仲間と出会い助けられて登山出来る事に感謝し、毎回楽しみにしています。入会してから何年間も歩くだけで精一杯でしたが今では少しずつ草花や周りの景色を見る余裕が出来てきました。大地のパワーを頂き季節の変化を感じながら登ることが本当に楽しいです。

頂上では登らなければ見ることが出来ない絶景に出会えた時、山友会に入会して本当に良かったと思っています。登山は私の現在の心を癒してくれる大切なものです。もう暫くは元気で歩きたいので皆さん宜しくお願いします。

A2. 土があるごくごく小さい庭に牡丹・クレマチス・薔薇・金木犀等を植えて楽しんでいます。昨年からゴーヤを育てていますが今年は思いどおりの緑のカーテンを作ってくれ実も沢山なりました。

玄関まわりや車庫まわりには、プランターや鉢で季節の花を育てています。冬、家の中に入れるものもあり大変ですが春が来て再び花が咲いてくれると生きがいを感じます。今一番感激しているのは、工藤さんから5~6年前に頂いた月下美人が大きくなり毎年大輪の花を咲かせてくれることです。今年一度に15個の花が咲きみごとでした。花の世話をしている時が至福の時です。

No. 281 北田 絹恵

A1. 晴れた日の稜線歩きが愉しみです。お花をみたり、景色を眺めたり、現実を離れて、何処までも続く稜線をトットコ、トットコと歩き続けたいです。一種のアルツ〇〇〇〇ですね。

A2. 今、絵を趣味にしようと取り組んでいます。ところが、どのような絵を描こうか、何を描けば良いのか、その段階で悩んでいる状態です。残念ながら、まだまだ“愉しみの趣味”の域には入っていません。いつの日か、『これが私の世界です』と言えるものがみつかるでしょうか？

No. 288 級木 信子

A1. 記録を読むことが好きです。標高の高さや知名度の高さに拘らず、むしろマイナーな山歩きや登る人の思いを感じる記録に出会うのが愉しいです。山友会の山行報告書を読むのも愉しめで、会の財産だと思っています。記録に影響されて計画を立てることもありますが、初めての山の計画は迷うこと（このコースタイムで歩けるか？、天気が悪かったらどうしよう？、装備はこれでいいか？ etc.）が多く愉しい時間ではありませんが、ここで手をぬいてはいけないので頑張ります。

山行中はメンバーとの他愛のないおしゃべりや食べることに愉しみを感ずります。普段から食べる方だと思いますが、山でもよく食べます。なので、前日の行動食の買い物は愉しい時間です。ただし、自分にとって挑戦の山行の時は緊張や辛さが先に立ち、愉しさを感じられなかったりもします。最も愉しさを感じるのは、そういう厳しい山行を無事終えて自宅に帰った後に、山行を思い返してニヤニヤしている時です。

A2. 料理。仕事にしている割には上手くもなく、ごくごく普通のものを作って喜んでいきます。小さな事にクヨクヨする性格なのですが、料理をしていると集中するので、些細な悩みから開放されます。得意なものは赤飯・おこわ、煮物です。この夏のヒットメニューはきゅうりのピクルスとトマトジャムでした。

No. 294 松田 希

A1. 気持ちがリフレッシュできること、です。景色、花、山ご飯、珈琲、おしゃべり、温泉、達成感、果ては疲労感も愉しみであり、それらにより嫌なことも「まあ、いいか・・・」と思えるようになり、リフレッシュできることが「山の愉しみ」です。

- A2. お寺や神社を巡り、御朱印をいただいたり仏像を見るのが好きです。一番好きな仏像は、京都は広隆寺の弥勒菩薩半跏像。仏像を見ていると、やはり、気持ちが穏やかになる感じです。ちなみに、富士山、月山、鳥海山の山頂で御朱印をいただきました。

No. 301 久保 加世子

- A1. 日本の山は2万5千分の一の地図に載っているもので1万6千余りと星の数ほどあり、登ったことの無い山の頂からはどんな景色が見えるのだろうと想像するだけで楽しくなります。未踏の山にはどんな花が咲いているのか、どんなトラップが潜んでいるのかと想像し、色々計画を練り、実際踏破した時の達成感は何とも言えません。

登っている時は疲労との戦いですが、花、鳥、木、土、岩、動物、雲、星、気象等の知識が広がれば、疲労を吹き飛ばし、もっと楽しい登山ができるかなと感じています。登山後の疲労回復の温泉は極楽極楽。帰宅し、写真の整理と山行記録の保存は、山登りの過程を振り返り楽しい思い出となります。〇〇年後、病に伏せた時、病床で過去の山行記録を読みながら若かりし日々を振り返り再起のエネルギーにしたいと思っております。

- A2. 食欲を満たすために、家庭菜園で食物を作ること。種をまき収穫する喜びはもちろんです。家庭菜園は一度に多量の収穫となるので、保存食作りも楽しいです。漬物・梅干・干し柿・ドライフルーツ・塩漬け・酢漬け・砂糖漬け・・・いずれも家族には好評を得ませんが・・・

歩く事は野山はもちろんです。ドライブや街歩きも楽しんでいます。目的も無く街の空気に触れ、店先の商品を見ながらそぞろ歩きするのが楽しいです、決して買いませんが・・・ただ人が多いと人に酔って疲れます。

リメイク、リフォーム、リサイクルするために色々な物を集めています（捨てられません）。家族からはゴミの山と言われますが、普通の用途以外の使い方を発見する楽しみがあります。

No. 305 山田 潔

- A1. 登る前は道具を準備しながら山行をイメージする。途中はいかに効率よく登り下りが出来るか考えること。下山後は皆ビール、ビールが楽しみというが私はビールが苦手です。無事下山し帰ってこられたことが、嬉しいです。別世界に行ってきたという心のリフレッシュが楽しいです。

- A2. ① ヨガは定年後始めて10年、体に無理をかけているのは知っています。体をいやすため、呼吸法で少しずつですが気持ちがリフレッシュします。痛くともヨガでなおり病院へいかなくて済むのは良いことです。

② 編物は、昔からやっていましたが仕事が忙しく、寒くなるにつれ手が編物をしたいとムズムズしてきますが、我慢してきました。今では昔のようにセーターやカーディガン等、大作は出来ません。年をとるにつれ目も見えなくなり、勘で手を動かしています。思ったように出来上がったときは嬉しいです。それを目指し編み続けています。

No. 307 加藤 桂子

- A1. スキーを履いていること（登りでも下りでも平らでもいい）。

- A2. 食べること、寝ること。



ハヤチネウススキソウ

No. 323 三浦 良夫

A1. 風景や高山植物の花の写真撮影です。

『山の愉しみ』を想像してみました。パウダースノーの斜面を思いっきり滑り、派手に転げることを…。

A2. 『あかげら』に掲載できない、藪こぎと沢登り、(山菜、キノコ採りと釣り)及びスキーです。

No.341 武田 秀雄

A1. 晴天を想定

- ① 頂上に立った時、遠くにどのような山々が見えるか想像する事。
- ② 山野草を見ながら山を登る時。
- ③ 次はどの山にするか等々。

A2. 家庭菜園での野菜作り等々。

No.345 山崎 祐三

A1. ① クライミング時には、目の前にある岩壁のどこにホールド(手掛かり)があるのか? どのスタンス(足場)に足を置けば良いのか? と登る事に集中し夢中になれる愉しみがある。

② 沢登り時には、次々と現れてくる滝をどのように攻略するのか、直登するのか? 巻くのか? 等パズルを解くような愉しみがある。

また、沢の中でターフを利用してビバークする時には、焚き火を囲んで普段の生活の中では味わう事が出来ないような美味しい食材を味わう愉しみがある。

・岩魚の刺身 ・山菜のテンプラ ・キノコ汁 ・岩魚の握り寿司 ・ウドの焚き火焼き

③ バックカントリースキー時には、新雪を滑る爽快さとスピード感を愉しむことが出来る。また、雪化粧した美しい山々の姿を眺める事が出来る愉しみがある。

④ 一般的な登山時には、愉快的仲間たちと一緒に語らいながら登り、景色を眺め、花を眺め、頂上で美味しいお握りを食べる愉しみがある。

A2. ① 人間のバランス感覚に依存する遊びが好きです。

・ウィンドサーフィン ・バイクでのツーリング ・スキー

② 海釣り、溪流釣り、ゴルフ、庭木の手入れ

③ 夢は、仕事をリタイアした後に山岳ホームレスになる事です。

・春先は山菜が取れる山にブルーシートを張って過ごし

・夏は岩魚が釣れる沢の中にブルーシートを張って過ごし

・秋はキノコが取れる山にブルーシートを張って過ごし

・冬は自宅で冬眠をする。

しかし、仕事をリタイアした頃には、身体が老化して気力も低下しているかも知れないので、単なる夢で終わる可能性が高い。

No.350 木村 一

A1. 住んでいる所から見える山に登った時は、下山後しばらくは、その山を見るたびに、「あの山に登った。あの雪渓を滑った。」などと眺めるのが愉しいですね。そして登った山から見えている山に興味をわいて、あの山まで歩いてみたい、あの尖がった山は何、こっちの真っ平らな山は登れるのか、途中で見た他のコースも歩いてみたい等々が山歩きの原動力のようです。

A2. 読書というか、活字読み。電車の吊り広告や、雑誌の欄外、一行広告まで読むタイプです。(しばらく電車の吊り広告を読むような生活していませんけど)

No.357 渡部 彩子

A1. 四季折々の動植物や景色、自然現象に出逢える事！

A2. ・ 食べた事のない食材やおみやげを見つけて食す事！又は料理すること。
・ 古布等に触れる事…お着物等々にまつわる品々に触れ、先人達の丁寧で高い技術に出逢えた時はとっても幸せです。

No. 358 石川 享子

A1. ・ 登山道や頂上からの眺め

月並みですが、山に登らなければ見ることができない景色を見ることができるのが、登山にはまったきっかけの一つです。

・ 何も考えない時間

登山にはまったきっかけのもう一つが、山に登っていると、ひたすら登ったり、下ったりすることに集中して、それ以外のことを考えることが無いということが心地良かったことです。下界にいと常に何かしら考え事をしていますが、登山以外で、このような何も考えない時間があるという経験はしたことがありませんでした。

この他にも「山の愉しみ」は色々ありますが、主なもの2つを挙げさせていただきました。

A2. ・ スポーツ観戦

野球やサッカー等をメインに色々見ます。昔は、大きなイベント（日本シリーズ、サッカーワールドカップ、スーパーボウル、オリンピック等）は欠かさず見ていたような記憶がありますが、今は時間帯があえば見る感じです。

・ 読書

精読派ではなく、多読派です。興味の赴くまま色々な分野の本を読んでいました。（「読んでいました」と過去形なのは、学生の頃は結構本を読んでいたのですが、最近はあまり読まなくなっているからです）

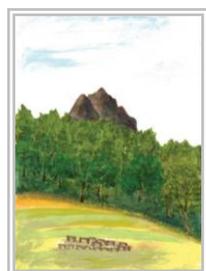
・ ドライブ

車を運転することが好きなので、ただ車を走らすことだけを目的に遠出したりします。

No. 362 戸田 新

A1. 雨に降り込められてずぶぬれになった山行、カンカン照りでバテバテになった山行、ホワイトアウトで道に迷ってしまい冷や汗をかいた山行などなど、いろんなトラブルに遭遇したりしますが、最後にはそんなことをみんなひっくるめて、仲間と一緒に「ガハハと笑える」ことです。

A2. 日曜大工でウッドデッキを作りました。夏にバーベキューをしたり、花火をしたり、テントを張ってくつろいだりなど、山になかなか行けないので、ちょっとしたアウトドア気分を味わっています。



兜明神岳

No. 363 小野寺 健一

- A1. ・ 花には詳しくない。それでも入会 9 年にもなると多少は覚え、「早池峰でエーデルワイスに逢えるかな」と、季節には心躍るものがある。切り立った岩場で何万年もの風雪に耐え命の営みを繰り返しているその奇跡の姿に、苦しい登りも心がほぐれる。ここ 5 年会えないでいるのがイワウチワ。あの薄桃色の清楚な花びらを八方山で目にしたきりだ。来春こそはと思う。
- ・ これまではテン、キツネ、至近距離でのホシガラス、ライチョウ親子など可愛い動物との出会いは心が和む。でもクマやヘビは遠慮したい。昨年県境で行った女神山、クマの寝床らしき草地を通過した時は心臓の鼓動が速くなったっけ・・・。
 - ・ 山頂で三角点にタッチしたら、お昼を食べながらの山座同定も楽しい。展望図を作成できればいいのだが、その技術もない。山の名前を覚え次の目標にしたいが、まだまだ登っていない山の多いこと。
 - ・ 最近では、地図でコースを調べたり、GPS に入力しておく事前準備も結構愉しく思えるようになった。帰ってから GPS で、滑ったコースの軌跡を確認するのも楽しい時間となる。
 - ・ 下山中、登山口に近付くにつれ、空腹も手伝って夕食のメニューが気になってくる。やっぱり下山後、程よく冷えた一杯のビール、これが最大の愉しみかな。無事に登れた山行に感謝しながら。

- A2. 市民農園を借りて、いささかの野菜を育てている。勿論無農薬、時には肥料をやるのも忘れ無肥料。雑草だらけの放任畑だがなんとか遅く実ってくれる。トウモロコシは収穫直前にタヌキ様の食事となり、ショックだった。キャベツやレタスも形は悪いがなんとか育った。虫食いでも、「農薬ゼロです」なんて自慢してみたりして。この 7 月にはジャガイモを収穫、次は白菜、大根の種蒔と続く。<畑のおばちゃん>は、雨にも負けず、風にも負けず日々忙しくて、山に行く暇がない。

No. 365 府金 志磨子

- A1. 山行が決まればわくわく感と不安もありますが、山頂にどの様な展望があるかを想像して登るのも良いものです。登る最中、花々を見ると感動します。また、山の恵みがあればと期待もあり愉しみのひとつです。

山頂から遠くの山並みが見ればいいですね。景色を眺めながら食事、なにか飲むのが一番。今年小屋泊まりも愉しみました。来年も出来ればと思っています。

- A2. 好きなことは、博物館、昔の建物の見学、古い映画を見ること。

No. 367 太田代 恵久子

- A1. その時その時でやってきた山登りの形態が変わってきました。今の愉しみは、歩行中は地図、コンパスを使うようにして、下山後に家でその日歩いたルート of GPS を開いてみる時です。特に残雪期は道が雪で隠れていて自由にルートを取る事ができるので、思い通りに歩けたかどうかを GPS で見る時の愉しみは何倍にも増加します。残雪期に目印テープが連続して付いている時は、がっかりします。初登時の状態からハーケンがたくさん打ち足されてグレードが下がるのと同じで、愉しみは少なくなってしまう。

- A2. たまのジョギングの時に雫石川の太田橋下に寄って川原の石ころを見る時です。いろいろな色や大きさ、形のものがあります。これらは地球の中のマントルから出てきて、やがて海まで流れて行くだろうもので、その成因や循環に大きな不思議を感じます。今は時間が無いのですが、仕事や家の事から開放されたら川原の石ころを勉強してみたいなあと思っています。

No. 372 辰巳 和司

- A1. ・ 登る前は絶対あの頂上に立ちたいと思う。ただ、グループで行く時は足をつって皆さんに迷惑をかけなければいいが…と思う。
・ 登っている最中は、あと1時間で頂上に着く、登りはあと1時間だけ、この1時間を楽しんで登ろう…と思うようにしている。
・ 下山後、温泉に入るのが楽しみだ。最近では下山後まっすぐ家に帰ることが多く、ちょっぴり淋しいが…。
- A2. まだまだ始めたばかりだが、お茶（裏千家）と茶花を習っている。奥が深く、やればやるほどむずかしい。

No. 373 高橋 陽子

-
- A1. 山に登る前：地図を準備したり、参考になる山行の記録をネットサーフィンして探し、妄想登山にふけること。

登っている最中：辛かったり、苦しかったりすることも多いのに、山が嫌いにならないのは何故でしょうか。苦しんで登った山ほど、ここに来なければ眺めることができない景色への感動が大きくなるのかもしれませんが。日常生活空間を離れて、山で出会う山野草や高山植物、野鳥、景色、匂い、空気、風、山で味わうコーヒーや食事、すれ違う登山者、仲間とのたわいのない会話、山登りにまつわる困難さも自分自身の知識と技術を身につけて少しずつ乗り越えていけること、全てが『愉しみ』です。

ほぼ日帰り山行しかしていませんが、これからは山小屋で星を眺めたりの泊まりや、食事が美味しいという山小屋目的の山行を試みたり、前泊か後泊で温泉泊まりのなんちゃって泊まり山行もしてみたい。日帰りも体力をつけてロングでしてみたい。…などと、妄想がどんどん広がるのは、下山後の楽しみでしょうか？

- A2. 山以外の趣味は小説を読むことだったのですが、今は読む暇がなくてお休み中です。美味しいコーヒーを飲むことが好きで、モカが好きなのですが、最近ではケニアがお気に入りです。下手の横好きで、ボルダリングも毎週末に楽しんでいます。いつまでたってもレベルがあがらないのは、やっぱり重いせいでしょうか…。本当はリードをやりたいのですが、技術と体力とチャンスがありません。

八幡平の樹氷を見たくてスキーを始めたのですが、ゲレンデスキーも楽しいですね（というか、まだ山に行くレベルではありません→ということで、登山以外の愉しみでいいでしょうか？）。ああ！もしかして、最大の趣味は、芋焼酎かもしれません!?

No. 378 高橋 英里子

-
- A1. 私は山に登っていて、設問のような愉しみを強く感じたことはありません。比較的高い山は、登っている途中は健脚でない私としては苦しみ・苦行でしかない。でもピークでの嬉しさはいいですね。若い時から山歩きはしていますが、山友会に入ってからというもの格段にその回数は多くなりました。が、なんだろう愉しみは。

「今日は岩手山五合目を頂上としよう」とそこから引き返してもそれはそれで嫌ではない。県境の計画書を書くことが多いが、個々の計画でのワクワク感はない。あと何回かで500kmを踏破できる、出来そうだ。出来たときは皆でお祝いして、その時皆はどんなふうに喜ぶだろう…。と想像するのがいい。山小屋での夕食、下山後の乾杯、県境踏破後の打ち上げ。早い話が皆でわいわい言いながら、ビールを飲みながら苦行の話をするのがいいのかな。

A2. 青山町にスーパーダイエーがあったころ、オレンジ・ワンというスポーツクラブができた。今から22～23年程前で、私もまだ40代の末頃。会社の同僚に誘われ一緒に通うようになり、同僚はやめたが、あまり乗り気でない連れも引き込み、現在も続けている。当時はエアロビクスとプールをやっていたが、現在はスタジオでエアロビクスとステップ台の昇降をやっている。昔と比べスタジオのレッスンはダンス系の踊りが多くなったが、私は前述の2種目を週2回とヨガを週1回やっている。20年前と比べエアロビクスに参加する男性も多くなった。よく「(男のくせに) エアロビクス? 踊るんですか」と聞かれますが、競技エアロとは違うし、今まで踊りと思ったことはない。連れとの間では“体操”と言っている。ヨガは人気があり、様々なプログラムがあるが、私は基本のヨガをやっている。これはストレッチ代わりにいいし、腰痛が1回で治ることもある(私の場合の腰痛は椎間板腰痛でなく筋痛)。

近頃はジムのプログラムが全体的に難度も強度も易しくなってきたため、歳を重ねてきた者としては参加し易くなってきたが、さみしく、物足りない気もする。これはクラブの方針だろうが、人を多く集めるためにはやはり易しい方がいいのだろう。クラブ滞在年数が長くなってきて手抜きも身に着きチンタラやっけてしまっている。登山のトレーニングにはならないが、さほど病院のお世話になっていないので生活習慣病には少し効果があるように思われる。でも、ビールがあるからなー。

No. 385 小田 嘉洋

A1. 沢山運動したから今日は大丈夫と安心して食べる「高カロリー」のお菓子。

A2. 折り紙。パーツを組み合わせて作るくす玉づくりは、無心になれ、時間を忘れます。

No. 410 中松 祐子

A1. 山に登る前だけではないですが、普通の旅も含めて計画段階が楽しいです。昔に比べればネットから色々な情報を引き出せますから計画をたてるのも非常に楽にはなりましたが、最後はその情報を結びつけて、いかに楽しい旅にするかが計画立案者の腕の見せ所です。計画の立案が上手くいけば、その山あるいは旅の1/3は終わった様なものです。

山登りだけに特化して考えると、私の場合の愉しみは「非日常に自分を置く」ことだと思います。山頂からの景色も、普段は見かけない高山植物も全て私にとっては「非日常」と言えます。

A2. ① 山登りも含めての海外旅行

これも「非日常に自分を置く」ことだから大好きですが、先立つ物(預金)の目減りも激しくなり、しばらくは温和しくしては！！ただ、旅行でも見て歩くだけの旅行は余り好きではなく、なにかを自分でやる旅(だから山登り)が好きです。

② スキー

50年近く前に従兄弟にもらったスキー道具で初めて滑って以来のオールド・スキーマーです。途中で長い(20年近い)ブランクもあったのですが、山友会に入って最初の新年山行で銀世界の皆さんが滑っているのを見て、山スキーで再デビューしましたが、登りで体力を使い果たすのか、技術がないのか、板が悪いのか(笑い)なかなか新雪を軽やかにとは行かないのです。自分の身一つで時速30キロ近いスピードの「非日常に自分を置く」ことで得られる快感に、雪が降るのが待ち遠しいです。

③ スキューバ・ダイビング

フィンやウェットスーツも処分したのでこれから潜ることはないとは思いますが、一時スキューバ・ダイビングに嵌まっていた時期もありました。これも「非日常に自分を置く」ですが、自分の重たい体が海の中では浮くという重力「0」の世界での浮遊感が魅力的でした。

No. 416 福山 茂和

A1. ずばり、山行途中の昼寝と下山後(たまに行動中)の温泉です。素晴らしい昼寝場所や野湯を見つけた時はついつい長居してしまい、その後の行動に支障が出ることも・・・やれやれ。

A2. 暑がりの為、夏季はもっぱら沢で毛バリ釣りをしています。釣り歴は、そこそこですが、腕は一向に上がりずで、釣った魚の数は気にせず、のんびりと岩魚や山女魚と戯れています。岩手の美しい溪流に身を置いているだけでうれしくなってきました(たくさん釣ればさらに楽しいですが…)。雨の日はプールによく通います。得意種目は平泳ぎの遠泳です。それ以外では月に1,2度のゴルフ(こちらままったく上達しません)と岩石・鉱物採集かな。鉱物好きの方いらしたら情報交換しませんか。

No. 420 徳永 光保

A1. どの山であれ、頂上で達成感を味わうまでの道程は何と苦しいことか。喘ぎながら高みを目指していると、だんだん空が近くなってくる。あの空をつかみたい！新緑の青空だったら言うことなし。赤や黄色の葉をつけた梢の間からからのぞく空もまた格別だ。それまでの苦しさが楽しさに変わる瞬間を満喫する。

頂上で景色を堪能したら美味しい食事だ。粗末なおにぎりでも十分。果物があればシ・ア・ワ・セ。さあ下山だ。一步目を踏み出す時の嬉しいこと。きつい登りは、もう無い。「慎重に、慎重に」と自分に言い聞かせる。下山口で考えるのは「今夜の肴」。「今日の山行」を振り返りながらいただく「一杯」のために。えっ、一杯じゃないだろうって？…… 皆さんと一緒にですよ。

A2. 怠け者なので何もしません。

No. 421 小田 春美

A1. 山頂での眺めや森林を歩いている時の木漏れ日等、景色を見ていると心が和み自然に感謝。振り返ってこんなに歩いたんだという驚き。自分の足に感謝。一緒に行く方々のニコニコ顔。普段はなかなか難しい顔をした方の表情がほがらかになっている。

登った後の温泉の気持ちよさ。安心感、解放感。

A2. 読書。ミステリー。数年前から、アガサ・クリスティーの本をすこしづつ、ゆっくりと読破中です。

No. 423 小川 優子

A1. 山の愉しみとは？

と聞かれても即答できません。自然の中をただひたすら無心に登山をして、頂上まで何とかたどりつけた時の達成感は格別であり、山できれいな空気を吸いながらでの食事もとってもいい気分です。下山後の温泉に入る事ができれば、なおさら最高の気分で帰宅できます。

A2. 木彫を少し楽しんでます。

といってもなかなか上達せず、山に登れなくなった時に、何か静の趣味を持っていけば～との思いで、現在は何となく続けています。

No.433 岡 義博

A1. 登る前に登る山や山域に思いを馳せること。登っている最中は四季の変化、その日の気象の変化など日々変わる中、自然に抱かれているのだと感ずること。下山後は無事に帰れたことに感謝しつつ風呂で汗を流しビールを飲むこと。

A2. 読書「本の数だけ学校があり、教師がいる」という言葉を読んだことがあります。テレビ、ラジオ、講話でない世界が広がります。

No. 441 萩谷 善久

A1. 1979年、神奈川県秦野市に転勤。東京の山岳会をやめ、登り口まで自転車を漕いで行ける、地元丹沢の沢登りを楽しんでいる頃だった。深田久弥著「日本百名山」文庫版を購入した。筑波山が百名山なんてと思い、文庫本は長いことお蔵入り。18年後、1997年4月岡山に転勤、引越しの荷解きで文庫版を手にし、西日本に百名山が11峰しかないことに気が付く。

岡山にいるうちに登ろうと思ったのが百名山つぶしの始まりであった。以来20年弱、全く登山をしない年もあったが、細々と百名山登りをしてきた。このため、この20年間の愉しみは、百名山を登ったあと、古い文庫版の地図の百名山を赤く塗りつぶすことになった(写真)。2016年8月、北ア水晶岳登頂。ついに残すところ御嶽の黒文字のみとなった。多くの犠牲者を出した御嶽の噴火(合掌)。山の神は、私に最後の愉しみを暫く先まで残してくれた。



A2. 最近の愉しみは、猫の額ほどの畑で野菜を作ること。低農薬・低化学肥料で多品種・少量・長期収穫に日々頭をひねっている。今日現在の収穫可能野菜は、インゲン、ニラ、トマト、空心菜、紫水菜、京水菜、小葱、ネギ、小松菜、からし菜、きゅうり、ピーマン、シシトウ、オクラ、サンチュ、パセリ、セロリ、サニーレタス、モロヘイヤ、シャンツァイ、サラダ菜、ゴーヤ、ベビーリーフ、ルッコラ、サラダ菜の25種である。後2週間もすれば、ホウレン草、春菊、ヤーコンが加わる。

昨冬は、二重にビニルトンネルをかけて、冬季もほうれん草、雪菜を食べることに成功した。春から秋にかけての我が家の野菜自給率は8割ぐらいか。苗代、種代、地代、労賃を考えると全く割に合わない。しかも虫食いで、形が悪いとくるが、鮮度抜群の野菜を食すことは何よりの愉しみである。

No. 444 大森 信慈

A1. 山に行っているときは、すべてを忘れていような気がします。目の前に広がっている山の格好、空、木々、岩、花々、等々は、どれをとっても、自身の身も心も浄化してくれるような気がします。この先々、何度山行を重ねられるか、どんな山々に出会うことができるか、どんどん出かけていってみたいと思っています。

A2. 知らないところに出掛けて行って、綺麗な景色に出会うこと。美味しいものを見つけること、食べること。(こりゃ、失敗なんてことも多々ありますが…)

自転車(ロードバイク)で長距離を走ること。風を感じて、自分のエネルギーで100kmも先に行けるのは、ドーパミンがジャブジャブの快感です。過日、牡鹿半島1週のロードも愉しみました。

No. 454 小原 耕

- A1. ・ 登る前 高い山の上から下界を見下ろせるかとわくわくする。いやなことも忘れる。
 ・ 登っている最中 登ることだけに集中し、1分でも早く登るように努力すること。
 ・ 下山後 ほど良い疲労により、良く食べ、良く眠り、明日も頑張るぞと思う。
- A2. ・ ランニング 健康と体力維持のため。
 ・ 野球 プロ野球、高校野球、六大学野球等、見るのが大好き。

No. 455 大倉 博

- A1. 山に登る前、山行計画を与えられたら山の案内書、山岳地図で樹木や花の種類を知り、急登、ガレバ箇所登山道の状態も調べ、気象の心配もし、山の状態をイメージしながら楽しみに登山当日を待つ。

登っている最中、私は夏山が好きで登山口から青々とした樹林帯に入るとオゾンが充満し、生気が蘇る思い。急登、ガレバは必死の思いの山行だが途中、息を整えながら休息も取り山頂に辿り着けばほっとする。頂上から他の名山、緑の樹海、湖の青い湖面を堪能すれば充足感で満ち溢れる思いに浸る。

下山後、満足した疲労感を味わい映してきた写真をパソコンで拡大し改めて山の景色を愉しみ次の計画を期待する。

- A2. 数年前から短歌に凝っていて「あかげら」7月号でも紹介したが、下手の横好きだが自己流に好きな様に詠んでいる。今年、運よく盛岡商工会議所主催『たくぼくの短歌（うた）』の年間奨励賞頂く。

また登山と関係はあるが、ほぼ毎日健康のために高松の池から北山、三ツ割方面、時に愛宕山、岩山にかけて6~8kgの荷を背負い朝散歩を行う。

No. 459 三澤 信裕

- A1. 私の山での愉しみの一つは「景色」です。眺めの良い稜線からの景色を見ていると、どこまでも延々と歩ける様な気がしてきます。今までの山行で（といっても、ほぼ東北の山しか行っていませんが・・・）一番好きなのは飯豊連峰の稜線歩きです。まだ一部しか歩いていないので、端から端まで歩き通すのが目下の目標です。残雪と花・夏の深緑・秋の紅葉・冬の静かな雪原。自然は、同じ場所でも1年を通して違う表情を見せて、我々を楽しませてくれます。

そしてもう一つ、割と単独でもよく歩く私にとって、他の登山者と会話をする事を愉しみとしています。基本的には人見知りで口下手な方ですが、お話をするのは嫌いではないという謎の性格の持ち主です。山屋さんにはお話し好きの人が多く、「どちらからですか？」から始まって、今まで行った山や面白エピソードにエライ目に遭った話、などなど山談義に花が咲きます。日常では、他の旅行者といきなり会話をする事など、ほとんどありませんので、登山者ならではの一期一会を楽しんでいます。

どんなに登りが辛くても、急な下りで泣きたくなる事があっても、ヘトヘトになって辿り着いたその先に一瞬でも喜びがあるから、だから山はやめられない。



八幡平

A2. 私の好きな事(もの)

- ・ 猫(=^・^=)・・・種類は詳しくありません。今は空前のネコブームらしいですが、ふてニャン系の不細工な愛嬌のあるネコが好きです。実家で飼っている猫は、中に小さいおじさんが入っているのか？と思う程、人間らしい猫です。
- ・ 寝ること・・・早寝遅起きで人一倍よく寝ているみたいです、朝は苦手で周りにご迷惑をお掛けしています。登山向きではありませんね～。寝てばかりいるとなんだか人生を損している気がするので、短くても平気な人が羨ましいです。
他にあまり書くような趣味も無いのでこの辺で・・・。

No.460 柚澤 瑠実子

A1. 人は快樂を感じるものに対して中毒になってしまうという。山に登る際の反復される単純運動による無思考状態になる感じも好きだが、なにより、山に入ると普段鈍っている五感が覚醒されていく感覚が、たまたま好きだ。

山は景色が良いので、もちろん視覚で楽しめるのだが、それにプラスされて空気や水の美味さ、太陽の光、マイナスイオンのシャワーなど、味覚や触覚という感覚だけでは説明できない、体全体が悦びを感じているのがわかる。そして、自分が山で一番好きな日が沈むとき。その時間を味わえるから日帰りより泊りの山行の方が好きなのだ。普段味わうことのない感覚がよびおこされる。その感覚をまた味わいたくて山に行く。立派な登山中毒の完成である。

A2. 山以外というか、実は私の一番好きな趣味は、山ではなく旅行だったりする。もともと、山をはじめたきっかけも旅の延長ではじめたのであった。ヨーロッパアルプスの景色に憧れていたのだが、試しに日本アルプスに登ったところ、あまりに楽しすぎて山にはまってしまったのである。(笑)

行きたい山は、もちろん世界中にたくさんあるが、それ以上に行きたい場所がたくさんあって困る。海外登山をしてみたいが、山に登ると代わりに旅行を犠牲にする必要がでてくるので、貧乏症の自分としては、なかなか思い切って海外登山を計画に入れることができない。しかし、ひそかにエベレスト山頂に立ってみたい願望はいまだに持っていたりする。誰か一緒に登りましょう。(笑)

No. 461 中村 篤

A1. 登る前は、「どんな山か」をウェブサイトで情報収集し、山の歴史や由来などを知ることでその山がグッと身近なものに感じワクワクしてきます。

山へ入ると、吹き出す汗を拭い、きつい山道を息を切らしながら一步一步進んでいきますが、山へ踏み込んだ時の空気のおいしさ、鳥のさえずり、木々のおい、遠くから聞こえる谷川の音、心地よい風、足元に咲く可憐な山野草に出会うと心が癒され、もうひと踏ん張り前向きになります。そして山の頂に立った時の満足感は言葉に言い尽くせない喜びを感じます。また、季節の移り変わり、気象の変化によっていろいろな顔を見せる山は魅力的です。

下山後の愉しみは、登れた自分を褒めながら？家飲みでしょうか。たくさんの自然を満喫し心身ともにリフレッシュ。明日の活力につなげています。

A2. 「盛岡さんさ踊りパレード」に参加することです。

三年程前に地元の町内会で、太鼓・踊り手・笛の参加者を新規募集していたので、前々から横笛をやってみたくと思っていた私は講習会に行くことにしました。約九か月、週一回のペースで練習に参加。1番「統合さんさ踊り」、2番「七夕くずし」、3番「栄夜差踊り」、4番「福呼踊り」、「通り太鼓」の順にマスターしていきました。吹いても出なかった音が次第に出るようになり、低音から高音も出せるようになりました。

指使いも覚えようやく楽譜無しで吹けるようになったところで、いざ踊ろうと思ったら笛と踊りがバラバラで踊れません(苦笑) 笛に集中すると踊りが出来ず、足元を意識すると笛の手が止まり、

ちぐはぐな動きに苦戦しました。それでもどうにか人様の前に出られるようになったわけですが、さんさ踊りは見るより参加したほうがもっと楽しく熱くなれます。ちなみに私と同じ時期に講習会に参加された函館市在住の方が居り、函館から通って太鼓を習得されました。その方もそれから毎年パレードに参加されています。登山でもいろいろな方と出会いがあると思いますが、さんさ祭りも人と人をつなぐ縁をもたらす場となっているのではないのでしょうか。

No. 465 三戸 紀子

A1. ・ 山に登る前

一番は打ち合わせ時の顔合わせです。私は入会したばかりなので、メンバーがどんな方か、知り合っていくことが楽しみです。また、まだ揃えていない山登りの備品をお店で探したり、ドラッグストアでお菓子や常備食を選んでいるときも期待でドキドキです。

・ 登っている最中

山に入り、しばらくすると流れる、鳥の声や風で揺れる木の音が、日常から離れて気持ちがりセットできるため、癒されます。また、頂上付近を歩いている時に、下界では時期が過ぎてもう見る事ができない、花や木が茂っている風景を見る事や、お昼にみんなで集まって食べる時に、コンビニで買ったおにぎりがとてもおいしく感じる事に幸せを感じます。上り下りしている最中も、歩幅を調節して歩くので、アスレチックをしているようで、先頭に遅れを取らないように無我夢中で歩く感じが好きです。(上り下りが多すぎるともちろんバテてきますが…)

・ 下山後

皆さんの感想を聞く事により、自分が気づかなかったその山のいいところに気がつくことができるので、とても刺激になります。個人的には、スマホで撮った風景や花の写真を見る事で、その山に登ったときの事をよりリアルに思い出す事も楽しみです。また、いただいた集合写真を見る事により、何気ないときに自分はどのような表情をしているか、疲れのせいか眉間にシワが寄っている写真がないかどうか、日々の自分の反省のためにチェックしています。

A2. 天気のよいときに、近所の河原と土手を歩く事です。山に登っているときと若干似ていますが、草がゆれる音や、川のせせらぎを聞く事で、その日あったことから気持ちを切り替えられます。 (もちろん、切り替えが難しいときもありますが)

また、映画を鑑賞した後に、カフェでコーヒーを飲みながら、映画の内容について考えたり、感想を話し合ったりしてのんびり過ごす事もたまりません。

No.470 藤澤 幸恵

A1. 私が山に登るのは、自然の風景を見ながら歩いているうちに、山と一体化できるような気がするからで、登る前はその期待が愉しみでもありますが、初心者なので心配と半分です。下山後は、撮った写真を見て山行を振り返りつつ、ゆっくりするのが愉しみです。(ビール等あればなおよし)

A2. 音楽が好きで、昔は楽器の教室に通ったりしていました。最近は温泉に入るのが愉しみです。写真を撮るのも好きです。

No. 471 柏木 幸代



「あかげら」2016年3月号 表紙 級木信子

● 寄稿（創立 30 周年に寄せて）

山行記、エッセイ、俳句、短歌

姿見駅から旭岳

No.6 千田 勝則

2016年7月16日

北海道新幹線開業後初乗車で、新函館北斗駅。夜行バスで、うつらうつらしながら札幌駅。特急で旭川に向かう。見慣れた景色を眺めながら旭川駅。レンタカーの受付で待たされる。（時間がもったいない）ようやく車でコンビニに寄り旭岳温泉駐車場着。ロープウェイで姿見駅着。

標高 1600m、正面に見られるはずの旭岳はガスで見えず。右側のコース行く。さっそくエゾツガザクラ、キバナシャクナゲ、イソツツジ、チングルマ、マルバシモツケ、小低木の花にまじってショウジョウバカマ、ミツバオーレン、ゴゼンタチバナ、少し進むとエゾコザクラの群生。圧巻なのはチングルマの白とエゾコザクラの赤とのカーペット。見とれながら、石の階段につき登りとなる。脇にはメアカンフスマとイワブクロを見ながら姿見池に着く。避難小屋の石室もあり池のふちにはエゾツガザクラの群生。風が少々吹いている。ここから頂上への登りとなる。

ひたすら火山礫の尾根を登る。コース中最もつらい場所だ。何合目と書いてあるので気分的にはやわらぐ。イワツメクサが見られる。稜線の上部を目指して行くと徐々に傾斜が増し、やがて尾根の右に回り込んで、なだらかな肩に出る。

目の前の斜面をひと登りすると、北海道最高峰 2290m の旭岳に立つ。ガスで展望なし。下山中花畑でキタキツネに会う。初めて登ったのが 1989 年山友会山行。計 7 回の登頂となりました。

十勝岳温泉から富良野岳

No.6 千田 勝則

2016年7月17日

高度差が 642m、エゾルリソウ、フタマタタンポポなど珍しい花もある。

十勝岳温泉車道の脇に車を置いて出発する。

最初は広い散策路になっていて安政火口まではハイキング気分で行ける。右側の方に山頂が見えている。途中からガスで見えなくなってくる。安政火口を左に見て沢を渡り、中位の石の上を歩き沢を渡る。上ホロ分岐 ここまで花は、マルバシモツケ、ウコンウツギ、エゾクワガタ この先チシマキンバイソウを見ながら雪渓を進み雪が解けたばかりの登山道にはショウジョウバカマ。

エンレイソウ、エゾヒメイツゲ、ジムカデ、イワウメ、コメバツガザクラ、登山道のふちは、目の高さである。エゾコザクラ、エゾツガザクラ、アオノツガザクラ、ハクサンナズナ等、高山植物を見ながら登りそして尾根に出る。三峰山との鞍部である。右に頂上に向かう。

そこら一面のお花畑、コマクサ、ウスユキトウヒレン、ホソバイワベンケイ、エゾノハクサンイチゲ群生。

ザラザラ滑りやすい ジグザグに登り稜線の花畑に出る。チングルマ、コイワカガミ、キバナシャクナゲ、ハクサンチドリ、ウズラバハクサンチドリ、トカチフウロ、コケモモ、フタマタタンポポ。

ちょっとした平坦地に出る。柵にロープが張ってあり、この下にエゾルリソウが咲いていた。ここは咲く地域に当たる。登山者も覚えている人は立ち止まって見ていく。私の目的はこの花を見ることなので良かったです。

足が心配なので下山を考えると、ここであきらめ、登りでは時間がなかったので、写真撮影が出来なかったのも、下山は写真を撮りながらゆっくりと下る。

エゾシマリスも見られた。私にはナキウサギの声は聞こえなかった。

花はこの他にも、いっぱいありました。

《 もう 80?? 》

No. 19 M. N.

今年の新年山行時、**六甲山縦走**の話聞き、亡き親友の思い出もあり、懐かしさを感じていた六甲に行って見ようかと思立った。まったく全従できるとは思ってもいなく、ただ行って見よう…だけだった。万全の準備はしたもののもちろん明るいうちに下山するつもりだった。それがなんと素晴らしいサポートのお陰で、14時間近いアップダウンをやり遂げて、温かいお汁粉の待つゴールに汗か涙か分からないうるうる目で辿り着いてしまった。

富士山は登るものではない眺めるものと決めていたのに、30周年記念に1合目から登るという計画を聞き、それなら と、またもや向う見ずにも手を上げてしまった。17年前に登った富士山とは違う山かと思うほど、様変わりしていることに驚くばかりだった。

富士山はやはり眺める山である！！ 睡魔と空腹に苦しみながらもなんとか登れた。

これも**去年の岩手山**のお陰かと納得した。年間計画ではないが、高齢の自分に何か目標をと思い、去年は身近な岩手山に何回登れるかやってみようと思立った。会の友人たちと、又は一人で。晴れた日、曇った日、下山時に物凄い雨に降られた日。1週間とおかずに見る花々の・木々の変化。今まで気が付かなかった多くのことを見・感じる事ができた。そして自信(?)も付いた。自分のペースでじっくり歩を進めればまだ登れる。これがいつまで続くか分からないが……。

いくつになったの? と聞かれるが、咄嗟に自分の歳が出てこない。○7? ○8?
あ一面倒くさい、四捨五入して80にしましょう!!!

俳句

眺むるに登るバカあり富士の山

季節はや八幡平にトンボ群れ

山の日や山姥ひとり登りゆく



木曾駒ヶ岳・御嶽山登山

No 109 浦部 光生

「岩手の名山歩こう会」の会山行として 2009 年 9 月に実施されたもので、当時は No.160 中屋敷さんを中心に山行の計画が盛んであり、何回も会合を開き実施されていた。

9 月 4 日（金）

盛岡駅 7:30 分発→大宮乗り換え→長野→塩尻→岡谷→駒ヶ根（バス）→しらび平
→千畳敷→宝剣山荘（泊まり）

9 月 5 日（土） 宝剣岳、木曾駒ヶ岳

宝剣山荘→宝剣岳→木曾駒ヶ岳頂上→乗越浄土→千畳敷→しらび平（バス）
→駒ヶ根→岡谷→塩尻→木曾福島（タクシー）田の原山荘（泊まり）

9 月 6 日（日） 御嶽山

田ノ原山荘 5 時 30 分発→途中朝食→王滝頂上山荘→御嶽神社奥社→剣が峰（お鉢巡り）
→二ノ池→九合目（覚明堂）、昼食→八合目（女人堂）→飯森高原駅（ロープウェイ）
→鹿の瀬駅（タクシー）→木曾福島駅→長野→大宮→盛岡駅 20:56 分着

メンバーには御嶽山の経験者がいなかったと思う。No.103 佐久間さんが二の池付近を走り回りルートを探してくれたのには感謝。とにかく山の規模が大きくロープウェイまでの下りも長く疲労でダウン寸前。ただ期間中好天に恵まれ無事完走。ジャンボタクシーを予約していたので終点で待っていてくれた。

2 年前御嶽山が噴火し、58 名の死亡者があったことが新聞で報道された。山荘からの登山道は広くよく整備されており登山客も多い。あの御嶽頂上山荘付近での犠牲者が多かったようである。噴火前の現場を見ているので感慨無量である。



「あかげら」2011 年 9 月号 表紙 千葉善秋

遙かなる思い出

No.128 川村 雅子

ここ一年に満たない間に、大切な山の友を亡くしました。雪が溶け、私の好きなピンクに染まる桜道を歩き、熱射に腕を焼きつかれながら歩いた夏の山、今はコスモスが風の中をしなやかに揺らいでおります。間もなく風が、木の葉を空高く舞い上がらせる日も間近です。あっけないほどの四季の移ろい。立ちすさんでいれば前に進めない。それでも割り切れないこのやるせなさはなんなのだろう。

・・・ 須賀一樹さんの事 ・・・

山友会に入会したのは23年前の事でした。一番大切な人を亡くして暗闇から抜け出せなくていました。なんとか前に進まなくてはと思い始めた頃、山友会会員だった伊藤富枝さんから入会を勧められました。話を聞きに伊藤さんの勤めていた事務所に行きました。児童相談所と一緒の建物だったので、一人の男性が奥の書庫に出入りするのが見えました。それが一度ならず、二度三度と繰り返していたので可笑しさがこみあげてきたのを覚えています。それが須賀さんであり、山友会のベテランとも知りました。

冬山の訓練もしていただき、妥協のない厳しさに泣く思いを何度もしてきました。岩や雪山の似合う須賀さんが、県連交流山行で五葉山に登った時、私は疲れて声も出ずにいましたが、須賀さんはポケットに手を入れて、まるで平地を歩いているように、おしゃべりをしながら登る後姿が眩しかったのを覚えています。五葉山の頂上で小さな花を見つけました。誰も気かけずに見過ごされていました。それがリンネソウと分かりました。須賀さんは転勤を機に山友会を退会されました。



リンネソウは、スイカズラ科 (APG 植物分類体系第2版ではリンネソウ科)に分類される植物。本種のみでリンネソウ属を構成。スウェーデン生まれで植物分類学の父といわれて、分類学の基礎を築いたカールフォン・リンネ (Carl von Linné 1707-1778) が、この花を「私の花」と呼んで愛好して、リンネシア・ボラリス (Linnaea borealis L.) と自分の名を冠して名付けましたので、和名もそれに因んでいます。なお、日本では茎が二股に分かれて花を付けることから「メオトバナ (夫婦花)」とも呼ばれています。

その後も五葉山でリンネソウに出会うと、なぜか須賀さんを思い出すのでした。児童

養護施設に勤務する私は、仕事上でもお世話になってきました。複雑な問題を抱える子ども達の対処に誠実にかかわってきてくれました。事務官から福祉司の資格を取られた努力にも敬服しました。

晩婚でしたが3人のお子様にも恵まれて、順風満帆に過ごされていると思っていました。仲間との山歩きの中で須賀さんの話題になり「今は仕事が忙しくて山歩きは出来ないようだが又、山に戻ってくるはずだとね」と話ははずみました。訃報を知ったのは、その数日後でした。

山友会の土台に、しっかりと須賀さんの存在のある事を、私は決して忘れません。

・・・ 中屋敷勝子さんの事 ・・・

長い付き合いでしたが、物静かだった勝子さんとの最初の出会いは思い出せないのです。20年も前になりますが、千田勝則さんがリーダーで行った礼文島・利尻島の山旅は忘れられないものでした。

レブンウスユキソウが目当てだった私は、気持ちも高揚していて、利尻では一つ手前の駅で降りてしまい、あわててタクシーで終点の利尻駅に向かいました。私のいない事に気づかないメンバー達の中で、勝子さんは私を見つけてほっとした様子でした。きれいな花の旅は強烈な印象でした。

中屋敷夫妻は車を運転しなかったため、一緒の山行では、私の車で送迎が多くありました。山野草を育てていたため、寄る度に見るのが楽しみでした。

その後、やはり千田さんの計画で大雪山の山行がありました。麓の宿に泊まり出発の朝に千田さんが思わぬ怪我をしてしまいました。状況を察して勝子さんが「私が千田さんと一緒にいるから、皆は予定通りやって」との言葉に、感謝でいっぱいでした。数年後に千田さんが勝子さんを誘ってリベンジしてきたようです。



区界のアズマギクは一面に咲き誇ります

勝子さんが体調を崩されてからは、家にお顔を見に行くことが多くなりました。きっと又、一緒に歩けると思っていました。写真クラブで区界の『アズマギク』の撮影に行った折、勝子さんの危篤を知りました。アズマギクはまだツボミ状態でした。間もなくして勝子さんは亡くなりました。

数日後、満開のアズマギクを訪ねました。なぜかアズマギクは私の好きなエーデルワイスやウスユキソウの脇で、ひっそりと咲いているのを今まで見てきました。区界には、勝子さんを偲んで、アズマギクを毎年訪ねることでしょう。



「あかげら」2009年7月号 表紙 熊谷浩子

18/30 の思い出と感謝

No.234 古川 孝

今年盛岡山友会は 30 周年になったが、私は 47 歳で入会したので 18 年目に入っていることになる。私は殆ど山登りを知らないで入会したので、この間多くの人に会い、多くの人から山のことを教えられ、多くの人と山を楽しんできた。私の盛岡山友会での記憶をたどって、山の先達を思い出してみたい。

平成 11 年に初級登山教室の修了山行、受講生だった私のチームは CL 下机勉さん、SL 沼崎栄子さんだった。スタッフとして伊藤英子さんがいたが、伊藤さんが山行中気を使っている話しかけてくれたことがうれしかった。その伊藤さんに誘われて早池峰山に登った。スケッチ山行とかで随分のんびりした山行でお茶を飲んだり絵を描いたりし頂上には行かなかった。この山登りもあるんだなと思った。その帰りのバスで入会を決めた。田中均さんと一緒に入会だった。

入会しても冬山は怖い？と思っていたが、中屋敷敏彦さんから「古川さん、雪の鞍掛に行きませんか？」と声をかけられ、ワカンを借りて行ってみたら思いのほか楽しかった。中屋敷さんのお陰でその後の冬山に繋がった。入会後の専門部は組織部だった。ある日当時組織部長だった阿部好晴さんから「冬の山は男のロマンだ」との話聞き、すぐその気になって思い切ってテレマークスキー一式を買った。まず、鶏頭山での冬山入門講座だった。出発時点でオーバーグローブが必要とわかり、泉貴美子さんに借りた。

平成 14 年 1 月三ツ石スキーツアーがグループ銀世界デビューであった。この時は銀世界代表の菅原史也さんだった。銀世界が結成されて 2~3 年目の頃で、三ツ石の帰りにはツェルトビバーク訓練も行った。翌年山田純さんから「古川さん、八幡平行きましょう」と誘われていよいよ憧れの樹氷ツアーだった。1 回目は元会長の村山正三さんが CL で、村山さんのラッセルが心強かった。2 週間後の樹氷ツアーは当時 70 歳を超えていた多田昭久さんも参加した。多田さんは当時まだ珍しい G P S も操作し、源太森まであと 328m と出して驚いた。

18 年の中で懐かしい人がいっぱいいました。入ったころに世話になった佐藤由美子さん、話が上手でみんなを笑わせる佐久間隆子さん、正論をいう鈴木勝世さん、入会直後歩いた無線の横田正人さん、スキーも一緒にした内記巖さん、照井信男さん、ダンスを踊った岩井久子さん、訓練のため朝 4 時に起きる府金めぐみさん、組織部だった細川泉さん、菊池明子さん、古澤和子さん、白神から通ってきた七戸正孝さん、そして私が誘って入会した高橋捷友さん。辞めた人にもいい人が沢山いました。

これからも色々な出会いがあると思います。もう少しこの会に居させてください。

山の日と還暦とジャンダルム

No.305 山田 潔

今年はどうとう還暦を迎えた。還暦と聞くと急に年を取ったような気がするが、何年も前からわかってきたこと。私の中では還暦を迎えると壮年期が終わり、高齢者の仲間入りをするのかと思っていた。そこで心残りなのがジャンダルム（奥穂高岳西南西にあるドーム型の岩稜 3163m）で



間ノ岳から見た西穂高岳

ある。若かりし頃、槍穂高登山で初めて見た時に、その存在感に圧倒され「いつかは（若いうちに）登りたい」と心の片隅にくすぶっていた。高齢になると、気力・体力が衰え、なかなか登れなくなると思い、2~3年前からはジャンダルムに登るための計画を練りパートナーを探していた。そのうちに還暦という私のタイムリミット（平成28年8月15日）が近づいてくる。おりしも今年8月11日が山の日と制定され国民の祝日となった。この日

が最後のチャンスか？と思い、狙っていたが、ちょうど8月上旬は天気が安定しているので、思い切って決行することとした。西穂山荘に前泊して、11日の山の日に西穂から奥穂へ縦走し、ジャンダルムに立つ計画である。コースタイムは10時間の長丁場で、体力は持つのか？登山道はしっかりしているのか？前後して歩く人がいるのだろうか？と多くの不安はあったが書籍やネットで状況を調査し、「山田さんならできる」とはじめさんの言葉に後押しされて挑戦した。以下に山行記録の一部です。

5:35 西穂高岳 2909mに着くとすっかり明るくなり、日の出がいつだったのか歩行に集中していてわからなかった。ここで腹ごしらえと水分補給して奥穂高を眺めると、そんなに遠い気がしなかった。計画はここまで3時間だったが2時間で歩いてきた。先行者は4~5人で、間の岳に取りついて



間ノ岳山頂

いる人もいた。鎖場があるはずと思って下るが難なくクリアする。岩尾根を登ったり下ったりを繰り返しながら次第に高度を上げていく。緊張して歩いていたせいか、次のピーク赤岩岳山頂は確認でき

ずに、いきなり 2907m間の岳に着いた。



逆層スラブ

6:40 てっぺんの岩に間ノ岳と書いてあるだけのピーク、足場が悪い。W氏（ピークごとに写真を撮ってもらった若者）が間もなく到着して、写真撮影しピークから降りるが、浮石に鎖場で慎重にならざるを得ない。ゆっくり一歩ずつ慎重に降りる。間天のコルに着くと、天狗岳へ向かう逆層スラブの登りがある。ここも有名な所だが、鎖が取り付けられてあり、鎖



天狗岳

を頼りに登るとあっという間に登り切ってしまった。平べったい岩が幾重にも下向きに重なり合っているので鎖が無ければかなり苦勞するところだ。最後の鎖場を乗り越えると 2909m天狗岳山頂の道標があった。振り返ると間ノ岳の荒々しい姿が見え、行く手には大きく谷に落ち込んだ道が続いている。ここから天狗のコルまでが大下りだ。浮石、落石に注意しながらまた慎重に歩を進めた。鎖が付いているとホッとして鎖に頼ってしまい、早く降りられる。鎖

が無いと手懸かり足がかりを確認してから手足に体重移動するため時間がかかる。

8:15 天狗のコルに到着。出発してから5時間弱なので計画より早いペースで来ている。ここからの登りは長く厳しいので、腹ごしらえをして水分補給もした。こうした広場ではザックをおろし休憩できるが、今日のコースでこのようにホッとできる場所は少ない。したがって、ハイドレーションシステムは水分補給に大いに役立った。天狗のコルからの長い登りに取付くと、手懸かり、足場は見つかるが、浮石かどうかは触れてみないとわからない。また、先行者や対向者が上にいるので、いつ落石に遭うかわからない。という不安が付いて回った。下を見ると谷底まで見えるので、手の先足の先ばかり見ながら登りつめた。コブ尾根



天狗のコルより信州を見る

上高地

岳沢小屋

の頭にたどり着こうとしたとき、岩の穴からオコジョが出たり入ったりして和ませてくれた。ごつごつした岩を登っていくと、ついにジャンダルムが目の前に現れた。ヌッと、かまぼこのような形で、大仏の頭のようにごつごつしたものだ。ちょうど鎖に取り付いている人がいたので、登頂ルート確認のためしばらく見ていた。斜め右にルートのようなものが見え、登りやすそうに見えた。ジャンダルムの基部に行くためのひと下りが、足場が遠くなかなか難しかった。基部に取りつくと鎖が垂れ下がっていたが、一枚岩で足場が無く、10 cm程のピンが2本打ちこまれており腕力で登った。ルートと思いき斜め右上に登ると行き止まりで絶壁になっており、左下に巻いてから改めて上を目指すルートだった。



ジャンダルム取付きの鎖場



10:00 ようやく念願のジャンダルム山頂 3163mに到着。空は快晴 360度の眺めだ。奥穂高山頂は手が届きそうなところにあるが、間に深く暗い谷があった。東から奥穂高、穂高山荘、涸沢、北穂高、槍ヶ岳、燕岳、立山、剣、薬師、黒部五郎、笠ヶ岳、そして今まで歩いてきた縦走路、焼山、乗鞍、御岳、遠くに北岳、甲斐駒、富士山、日本の山の中心にいるようだ。ジャンダルムの天使と記念撮影して眺望を楽しんだ。西穂高上空にはヘリ

リがホバーリングして、人影らしいものを釣り上げていくのが見えた。その時「ラク」と大声と共にガランゴロンと落石の音がした。向かいのコブ尾根の頭にいる人から「大丈夫か！」と大声がした。落石があったらしいことは判ったが状況が分からなかった。しばらくして、ピークごとの休憩時によく一緒に休んでいた単独行の女性Tさんが山頂に登ってきて、「私のザックに落石が当たっていった」と話をした。近くにいた60歳ぐらいのザックを背負ったお兄さんが大変すみませんでしたと謝っていた。ザックが重いらしく、つい落石を起こしたらしい。女性は鎖につかまっていた時でとっさに首をすくめることしかできなかったという。音が大きかっただけに大きい岩だったらしい。目の当たりに落石に遭遇し改めて気を引き締めた。ジャンダルムから奥穂に向かうルートは、西から東へジャンダルムの南基部を回るようにトラバースルートが刻まれている。垂直な岩場に約30cm程の足場があり、下は切れ落ちていて鎖はない。大きな手懸かりはあるが、下を見たら動けなくなるので、手懸かりと足置場だけを見ながらゆっくり抜けた。振り返るとジャンダルムが雄々しく見えた。こちらから見るのが雄大で素晴らしい。これからが本日の核心部ロバの耳・ウマノセだ。ロバの耳の肩から飛騨側をトラバース気味に岩稜を歩いた後、ほぼ垂直に下降する。鎖があれば安心し頼れるが、無い所は、手探り、足探りで手懸かりとなる岩を探す。視線は下を向くので否が応でも谷底に続くガレ場が見える。谷底が見えると吸い込まれそうになるの



ロバの耳を下る登山者

奥穂高岳



で、できるだけ間近の手懸かりだけを見て下る。しかしそれだとルートがよくわからないので、時々視線を谷の下に移すと、本当に足がすくんで、四点がっちり確保となってしまふ。今日のルートで一番恐怖心を抱いたところだった。下ると今度は登り返しだ。ガラガラの岩を、岩を落とさないように、スリッパしないようにゆっくり登る。移動距離は10cm単位だ。ウマノセの基部に着くと、カタカナでウマノセと書いてある。登山者を見ると、確かに馬にまたがるように岩にまたがりながら登っていく。両側が切れてナイフリッジとも言われている場所だが、登りなので恐怖感は少ないはず。いざ取付くと、しっかりした手懸かりと足の置き場があり、それほどでもない。ちょうど飛騨側からの風が強く、飛騨側に巻いた時は風に振り下ろされないよう緊張したが、信州側に来ると全く風が無い。30mほどの距離のナイフリッジであったが、登っている時より、登った後振り帰って見た時の方が高度感と岩の鋭さで怖かった。

12:30 出発して9時間（休憩含み）、奥穂高岳山頂3190m到着すると多くの人々が山頂での記念写真の順番待ちだった。ジャンダルムを眺めながら西穂高からの縦走路に思いをはせ、パフォーマンスの若者W氏と、単独行の女性と3人でしばらく登頂の成功をたたえながら休憩した。

今日は山の日が制定されて初めての山の日。上高地には皇太子が来て式典を行っているという。山の日をたたえて、日の丸を掲げて奥穂高岳山頂で写真を撮った。最後に穂高山荘に下る鎖場、はしご場を慎重にクリアして14:30穂高山荘に着くと駆けつけた安倍総理と握手で山の日を祝った。

ウマノセを登る登山者



奥穂高山頂で山の日を祝う



安倍総理??と



遠い追憶の中の登攀 御神楽山前ヶ岳南壁登攀(霧来沢奥壁)

No.350 木村 一



前夜遅く登山口に到着し、仮眠用に設営したテントの中で目を覚ますと薄い霧に包まれ、周りの牧歌的な雰囲気と共に、一瞬メルヘンの世界に迷い込んだ錯覚に陥ってしまうような朝を迎えた。

1ヶ月前にここを訪れた時には目の前を流れる霧来沢は濁流と化し、怒り、暴れ狂っていた。我々は降りしきる雨の中霧来沢の徒渉が出来ずに、濁流と化して大石が互いにぶつかり合っ

て発する音を聞きながら呆然とし、水の恐ろしさを思い知らされたのが昨日のような気がする。その時には、沢沿いに上流に移動し、たまたま沢に掛かっていた倒木を利用して無事に霧来沢を渡ることが出来、無事に帰ることが出来た。帰路、霧来沢奥壁を見ると第1スラブから第8スラブに滝が掛かり、その幻想的な光景はまさに幻の大滝といった表現が当てはまる光景でした。

霧来沢の左岸につけられた踏み跡から沢床に降り遡行して行くと、沢幅一面に岩床が広がり清流が洗う様に流れている所が出て来てくるが、そのナメの上を水に濡れながら登って行くのが実に気持ちが良い。更に登るとコバルト色をした岩の間を清流が曲線を描いて流れている所が出てきた。その清流を跨ぐようにしに左にと遡って行くと突然目の前に岩壁が現れてきた。霧来沢奥壁の登場だ。第1スラブから第8スラブまでの広がりには圧巻です。今日は絶好の登攀日和なので2パーティーに分かれて第5スラブと第6スラブに登る予定で左俣に入って行った。沢の狭い所を抜けるとそこが第5スラブの取付きらしいので登攀用具を身に付け、MとWとNの3名が第5スラブを、私と新人のRが第6スラブとに分かれ、頂上での再会を約束して登攀を開始した。岩は乾いており、ホールド、スタンスが豊富なのでロープ無しで登る事にし、魚のウロコのようなフレーク状のスラブを右に左にと攀じる事が出来る。しかし、ルートファインディングを誤ると進退窮まる事があるので十分な注意が必要だ。ロープ無しで休憩もしないで順調に攀じるので、フクラハギが痛くなってしまいが実に爽快な登攀だ。岩は硬く落石の心配も無く、岩登りの醍醐味が満喫出来る登攀を続けた。登攀開始から1時間位登ったので第5スラブパーティーの様子を見る為に第5スラブと第6スラブの中間尾根に立って第5スラブを覗くと、第5スラブパーティーが大休止しているのでコールをかける。第6スラブの上部は草付が多くなるので、中間バンドを利用して第5スラブまでトラバースして合流した。



ここから見上げる上部の景観は、ここが 1200mにも満たない高度の山とは信じられない。稜線付近の木々の紅葉と相まって岩の白さが目に眩しく感じられる。御神楽岳の本当の良さは登った者にしか分からないだろう。ここには重装備の登攀用具は不要であり、先鋭的な登攀は出来ないかも知れない。しかし、遥か遠くを望む気持ちと、高みへの憧れ、未知への興味があれば充

分だし、御神楽岳とはそんな山だと思う。大休止後、更に登攀を続けるとスラブが急に傾斜を増して滝状のところが出てきたので、ここでロープを取り出し 2 本繋ぎあわせて約 60mの登攀でテラスに着く。更に上は 50m位のフェースが待ちかえているが、正面は岩が脆そうなので左のリッジに取り付いた。岩は硬くホールド、スタンスは豊富で高度感があり、快適に攀じると稜線に飛び出した。会津、奥只見の連山が一望に出来、それらの山々が紅、黄に彩られ、一瞬、後続の確保を忘れてしまう程だ。メンバー全員が終結後大休止をし、かすかに付けられた踏み後を辿り、杉山ヶ崎尾根を駆けるように下降した。

下降途中で山ブドウをヘルメット一杯取り、深まる山の秋を味わいつつ、御神楽岳と 1 日中楽しく遊ぶ事ができた事を、山の神に感謝しながら無事に下山し帰宅の途についた。

1978 年 10 月



「あかげら」2012年11月号 表紙 高橋英里子

盛岡山友会のおもいで

No.410 中松 祐子

創立 30 周年、おめでとうございます。

盛岡山友会に入会したとき、今の私を全く想像できませんでした。平日は家と会社の往復、そして週末は編み物（たまに折り紙）の超インドアな私が登山を始めるなんて。それも山岳会に入るといふ私の選択に両親は大変驚きました。周りの心配はお構いなしに様々な講習会に休むことなく参加し、充実した日々を過ごしました。

ひょんなことから?! 3年目に事務局長をすることになり、状況は一気に変わりました。例会やら入会者の問い合わせなど、人前が出るのが苦手なのに、逃げられない状況になっていました。よく考えれば当然のこと、事務局長は会の窓口です! 何故引き受けたのか・・・あの時の自分に聞いてみたいくらいです（タイムマシンがあったらなあ）。

あまりに私がワタワタしているの、見かねた周りの方々に沢山フォローしていただきました。ありがとうございます。いたらぬ事務局長で大変ご迷惑をおかけしました。

しかし、事務局長をつとめたおかげで今の私がいるのであって、決して無駄ではなかったと強く感じます。盛岡を離れ毎週のアドベンチャーの朝練にも参加することがなくなり、あの皆さんと過ごした楽しい時間が夢だったのではと感じますが、これからどこを目指すのかというくらい揃えた山道具を見るたびに、夢ではなかったんだと安心します。何よりもかけがえのない仲間巡りに巡り合えたこと、一生の宝物です。短期間にぎゅぎゅっと盛岡山友会を堪能することができました。

事務局長を引き受けたからには最低でも 3 年は頑張ろうと決めていたのに、諸事情によりあっという間に山友会を去ってしまいました。何もわからない新人を抜擢して下さった心広い皆さん、本当にありがとうございます。

盛岡山友会の今後ますますのご発展をお祈りいたします。



2016年3月 北の大地に翔たくの会

短歌

三澤 信裕

薬師岳硬き岩場の花崗岩クロゴケハート平和を祈る

薬師岳に山行した際、山頂付近ロボット雨量計側に縦横100cm×高70cmの花崗岩表面に15cm四方のハート形したクロゴケを偶然にも発見。私は勝手ながら「薬師ミサワクロゴケハート」と命名する。因みにクロゴケは高山地帯に繁殖するそうです。

クロゴケと並んで



三陸の松の断崖雄大や極楽浄土潮風トレイル

国立公園三陸海岸は緑の松の断崖が青い太平洋に延々と続き景色が雄大で色のコントラストが艶やか、まさに極楽浄土。これと並行する潮風トレイルは景色を愉しみながら歩きたい。

夏山の八幡平は人盛り緑の風が頬に爽やか

国立公園で百名山の八幡平は、この時期バスツアーの観光客と登山者が多く裏岩手、緑の樹海が壮観でまたオゾンに満ちた吹く風が頬に爽やか。

炎天下難行苦行岩手山至極の美味さ御成り清水や

炎天下、やつとの思いで八合目に到達し御成り清水をがぶ飲みしてやっと生きた心地がする。氷水のように冷たい湧水は今まで経験したことのない美味さ。

改めて山友会の意義を知るマナーテクニク人に優しく

山行時のマナー、テクニク、自然保護、清掃活動等のボランティア、また、会員、会員問わず登山者に優しく接する事。以上の事等を実践する事が盛岡山友会の意義と理解し、また実践して来たので会が三十年の長きに渡って続いたと思います。

年表・盛岡山友会の30年 (1986(S61)～2016(H28)年)

1/8

年	月 日	盛岡山友会の動き
1986年 (S61)	8月 9日	第1回設立準備委員会開催 (全5回)
	9月 10日	盛岡山友会 (仮) 設立総会 (於: 公会堂)
	9月 24日	「会則」「運営規定」の決定、会員数13名 第1回臨時総会及び第1回例会 (於: 公会堂)
	10月 4～5日	「会則」の一部改訂
	12月 10日	盛岡山友会結成記念登山 (岩手山・馬返し往復) 納山祭・忘年会 (於: 車屋)
1987年 (S62)	1月 14日	ボーリング大会・新年会 (於: 光フェアレーン)
	3月 23日	第1回定期総会 (於: 公会堂)
	4月 30日	「会則」の一部改正 会員数27名
	7月 15日	お花見 (於: 岩手公園)
	7月 15日	ビアパーティ (於: 車屋)
	10月 3～4日	1周年記念パーティ (於: 東日本レクリエーションセンター)
	11月 28～29日	納山祭 (於: 東八幡平 清風荘)
12月 16日	忘年会 (於: 車屋)	
1988年 (S63)	1月 20日	ボーリング大会 (於: 光フェアレーン)
	3月 23日	第2回定期総会 (於: 公会堂)
	4月 13日	「運営規定」の一部改正「山行時の自家用自動車使用に関する規定」の制定 会員数30名
	5月 1日	第1回登山教室開催 (以下11月まで全15回)
	5月 7日	盛岡山友会ニュース第1号発行
	5月 7日	お花見 (於: 樽兵衛)
	7月 3日	清掃登山 (岩手山)
	7月 20日	ビアパーティ (於: 馬賊)
	9月 25日	盛岡山友会ニュース第4号から「あかげら」と改称
	10月 1～2日	2周年記念キャンプ (於: 相の沢キャンプ場)
	11月 26～27日	納山祭 (於: 東八幡平 清風荘)
12月 21日	忘年会 (於: 車屋)	
1989年 (H元)	3月 22日	第3回定期総会 (於: 勤労福祉会館)
	4月 12日	「会則」「運営規定」「山行規定」の一部改正 会員数40名
	7月 1～2日	第2回登山教室開催 (全4回)
	7月 10日	清掃登山 (岩手山)
	7月 10日	ビアパーティ (於: 馬賊)
	9月 30～10月 1日	3周年記念キャンプ (於: 網張キャンプ場)
	9月 27日	冬山登山教室開催 (全4回)
	12月 9日	会報「山友」創刊
	12月 9～10日	納山祭 (於: 東八幡平 清風荘)
12月 20日	忘年会 (於: 樽兵衛)	

年	月 日	盛岡山友会の動き
1990年 (H2)	3月 23日	第4回定期総会（於：勤労福祉会館） 「会則」「運営規定」「山行規定」の一部改正 会員数 47名
	6月 30～7月 1日	清掃登山（岩手山）
	7月 25日	ビアパーティ（於：啄木亭）
	7月 28～29日	第1回こども冒険学校開催（於：葛根田）
	8月 30日	5周年記念事業準備委員会発足
	9月 28日	4周年記念パーティ（於：かけ橋）
	10月 13～15日	ブナ原生林、自然を守る全国集会支援参加
	12月 8～9日	納山祭（於：東八幡平 玉川邸）
1991年 (H3)	3月 27日	第5回定期総会（於：杜陵老人福祉センター） 「会則」「運営規定」「山行規定」の一部改正 会員数 50名 会友 4名
	4月 11日	第3回登山教室開催（全3回 於：勤労福祉会館）
	6月 2日	初級登山教室修了山行（秋田駒ヶ岳）
	6月 30日	清掃登山（岩手山）
	7月 5～7日	5周年記念国内山行・尾瀬隧ヶ岳
	7月 19～20日	5周年記念国内山行・大雪山
	7月 27～28日	第2回こども冒険学校開催（於：葛根田・北白沢）
	9月 20～24日	5周年記念国内山行・燕岳、槍ヶ岳
	12月 7日	5周年記念誌「山友第3号」発行
	12月 7～8日	納山祭（於：東八幡平 清風荘）
1992年 (H4)	2月 19日	5周年記念講演会・田部井淳子「私の登山人生」（於：盛岡劇場）
	3月 27日	第6回定期総会（於：杜陵老人福祉センター） 「会則」の一部改正、会員数 69名
	5月 14日	第4回登山教室開催（全4回 於：勤労福祉会館）
	6月 7日	初級登山教室修了山行（岩手山）
	7月 5日	清掃登山（岩手山）
	7月 29日	ビール祭り（於：中津川富士見橋下）
	10月 10～11日	創立記念キャンプ（於：焼石岳ツブ沼キャンプ場）
	10月 17～25日	5周年記念海外トレッキング・ネパール
11月 28～29日	納山祭（於：東八幡平 清風荘）	
1993年 (H5)	1月 20日	5周年記念写真展（於：盛岡中央郵便局窓口ホール）
	2月 20～21日	第3回こども冒険学校開催（於：馬返しキャンプ場）
	3月 25日	第7回定期総会（於：杜陵老人福祉センター） 「会則」「山行規定」「山行時の自家用自動車使用に関する規定」の一部改正 会員数 88名
	6月 8日	第5回登山教室開催（全4回 於：勤労福祉会館）
	6月 27日	初級登山教室修了山行（岩手山）
	7月 4日	清掃登山（岩手山）
	7月 28日	ビール祭り（於：中津川富士見橋下）
	10月 2～3日	創立記念キャンプ（於：馬返しキャンプ場） 登山（岩手山）

年	月 日	盛岡山友会の動き
1993年 (H5)	10月 13日 12月 4～5日	新入会員オリエンテーション（於：杜陵老人福祉センター） 納山祭（於：東八幡平 清風荘）
1994年 (H6)	1月 8～9日 3月 23日 5月 24日 6月 19日 7月 3日 7月 22日 7月 30～31日 10月 1～2日 10月 12日 11月 25～26日	第4回こども冒険学校開催（於：姫神山キャンプ場） 第8回定期総会（於：杜陵老人福祉センター） 「会則」の一部改正 会員数 94名 第6回初級者登山教室開催（全4回 於：勤労福祉会館） 初級登山教室修了山行（岩手山） 清掃登山（岩手山） ビール祭り（於：中津川富士見橋下） 第5回こども冒険学校開催（於：葛根田キャンプ場） 創立記念キャンプ（於：馬返しキャンプ場） 登山（岩手山） 新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館） 納山祭（於：東八幡平 清風荘）
1995年 (H7)	3月 22日 4月 26日 5月 21日 5月 23日 6月 18日 7月 2日 7月 22～23日 7月 26日 9月 30～10月 1日 10月 23日 11月 26～27日	第9回定期総会（於：杜陵老人福祉センター） 会員数 100名 第1回10周年記念事業実行委員会（於：勤労福祉会館） 「あかげら」、労山会報賞受賞 第7回登山教室開催（全4回 於：勤労福祉会館） 初級登山教室修了山行（岩手山） 清掃登山（岩手山） 第6回こども冒険学校開催（於：葛根田キャンプ場） ビール祭り（於：中津川富士見橋下） 創立記念キャンプ（於：馬返しキャンプ場） 新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館） 納山祭（於：東八幡平 清風荘）
1996年 (H8)	3月 27日 5月 21日 6月 16日 6月 30日 7月 13～30日 8月 2日 9月 28日 10月 13日 10月 22日 11月 30日 11月 30日	第10回定期総会（於：杜陵老人福祉センター） 会員数 102名 第8回登山教室開催（全4回 於：勤労福祉会館） 初級登山教室修了山行（岩手山） 清掃登山（岩手山）（雨天中止） 10周年記念海外山行・スイスアルプス ビール祭り（於：中津川富士見橋下） 会創立10周年祝賀会（於：ホテルメトロポリタンNW） 10周年記念登山（岩手山） 新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館） 創立10周年記念講演会（於：県民会館） 納山祭（於：仁王会館）
1997年 (H9)	2月 19日 3月 26日 5月 19日～ 6月 15日 7月 6日 7月 9～23日	「あかげら」100号発行 第11回定期総会（於：杜陵老人福祉センター） 会員数 109名 第9回初級登山教室開催（全4回 於：勤労福祉会館） 初級登山教室修了山行（岩手山・馬返し） 清掃登山（岩手山） リーダー養成講座（座学 於：勤労福祉会館）

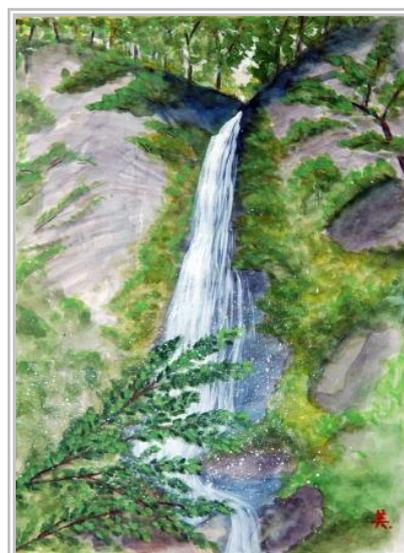
年	月 日	盛岡山友会の動き
1997年 (H9)	7月 30日	ビール祭り (於: 中津川富士見橋下)
	9月 4日	新入会員オリエンテーション (於: 勤労福祉会館)
	9月 28日	新入会員歓迎山行 (栗駒山縦走)
	10月 4日	創立記念キャンプ (於: 焼走りキャンプ場)
	11月 29日	納山祭 (於: 東八幡平 清風荘)
1998年 (H10)	3月 25日	第12回定期総会 (於: 杜陵老人福祉センター) 会員数 115名
	5月 21日～	第10回初級登山教室開催 (全4回 於: 勤労福祉会館)
	6月 14日	初級登山教室修了山行 (岩手山・馬返し)
	6月 25～7月 23日	リーダー養成講座 (座学 於: 勤労福祉会館)
	7月 6日	清掃登山 (岩手山)
	7月 30日	ビール祭り (於: 中津川富士見橋下)
	9月 4日	新入会員オリエンテーション (於: 勤労福祉会館)
	10月 3～4日	創立記念キャンプ (於: 焼走り (みゆき荘)) 創立記念山行 (松川～三ッ石) (松川～大沢)
11月 28日	納山祭 (於: 東八幡平 清風荘)	
1999年 (H11)	3月 25日	第13回定期総会 (於: 杜陵老人福祉センター) 会員数 124名
	5月 17日～	第11回初級登山教室開催 (全4回 於: 勤労福祉会館)
	6月 20日	初級登山教室修了山行 (秋田駒ヶ岳)
	9月 9日	新入会員オリエンテーション (於: 勤労福祉会館)
	10月 2日	創立記念山行 (鞍掛山)
11月 27日	納山祭 (於: 勤労福祉会館)	
2000年 (H12)	3月 25日	第14回定期総会 (於: 杜陵老人福祉センター) 会員数 133名
	5月 8日～	第12回初級登山教室開催 (全5回 於: 勤労福祉会館)
	6月 18日	初級登山教室修了山行 (秋田駒ヶ岳)
	7月 2日	清掃登山 (岩手山)
	7月 23日	新入会員歓迎山行 (乳頭山)
	8月 30日	新入会員オリエンテーション (於: 勤労福祉会館)
	9月 30日	創立記念前夜祭 (於: 湯田町 ゆう星館)
	10月 1日	創立記念山行 (女神山)
11月 25日	納山祭 (於: サザンパレス)	
2001年 (H13)	3月 23日	第15回定期総会 (於: 杜陵老人福祉センター) 会員数 121名
	5月 17日～	第13回初級登山教室開催 (全5回 於: 勤労福祉会館)
	6月 9日	初級登山教室修了山行 (秋田駒ヶ岳)
	6月 5～15日	15周年記念海外トレッキング (アラスカ)
	6月 17日	初級登山教室修了山行 (秋田駒ヶ岳)
	7月 7日	清掃登山 (三ッ石山)
	8月 21日	新入会員オリエンテーション (於: 勤労福祉会館)
	9月 30日	創立記念 15山一斉登山
	11月 12日～	創立 15周年記念写真展 (於: 岩手銀行本店 他)
	11月 16日	創立 15周年記念祝賀会 (於: サザンパレス)

年	月 日	盛岡山友会の動き
2002年 (H14)	3月23日 5月16日～ 6月9日 7月7日 8月21日 9月29日 11月15日	第16回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数123名 第14回初級登山教室開催（全5回 於：勤労福祉会館） 初級登山教室修了山行（秋田駒ヶ岳） 清掃登山（岩手山） 新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館） 創立記念山行（岩手山） 納山祭（於：サザンパレス）
2003年 (H15)	3月26日 5月15日～ 6月22日 7月6日 9月7日 9月17日 11月19日 11月22日	第17回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数129名 第15回初級登山教室開催（全5回 於：勤労福祉会館） 初級登山教室修了山行（秋田駒ヶ岳） 清掃登山（岩手山） 創立記念山行（岩手山） 新入会員オリエンテーション（於：杜陵老人福祉センター） 県連交流山行（五葉山） 納山祭（於：国立岩手山青年の家）
2004年 (H16)	3月24日 5月13日～ 6月20日 6月26日 6月27日 9月5日 9月15日 9月27日 11月19～20日	第18回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数122名 第16回初級登山教室開催（全5回 於：勤労福祉会館） 初級登山教室修了山行（秋田駒ヶ岳） 清掃登山（岩手山） 県連交流山行（五葉山） 創立記念山行（岩手山） 新入会員オリエンテーション（於：杜陵老人福祉センター） 盛岡山友会ホームページ開設 納山祭（於：雫石町網張 んっく）
2005年 (H17)	3月23日 5月16日～ 6月19日 6月22日 6月26日 7月3日 9月4日 9月7日 11月18日	第19回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数135名 第17回初級登山教室開催（全5回 於：勤労福祉会館） 初級登山教室修了山行（秋田駒ヶ岳） 「あかげら」200号発行 県連交流山行（五葉山） 清掃登山（岩手山） 創立記念山行（岩手山） 新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館） 納山祭（於：エスポワールいわて）
2006年 (H18)	4月6日 5月16日～ 5月24日 6月18日 8月30日 9月3日 11月3日 11月25日	第20回定期総会（於：勤労福祉会館）会員数131名 第18回初級登山教室開催（全5回 於：勤労福祉会館） 「あかげら」211号から表紙カラー化 初級登山教室修了山行（秋田駒ヶ岳） 新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館） 創立20周年記念岩手山登山 創立20周年記念フォーラム（於：アイーナホール） 創立20周年記念祝賀会（於：ホテルメトロポリタン）

年	月 日	盛岡山友会の動き
2007年 (H19)	4月 5日	第21回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数132名
	5月15日	第19回初級登山教室／机上講習（全5回 於：勤労福祉会館）
	6月 3日	県連交流山行（氷上山）
	6月17日	初級登山教室／実技山行（秋田駒ヶ岳）
	7月 8日	清掃登山（岩手山）
	8月29日	新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館）
	9月 9日	創立記念登山（岩手山・姫神山）
	11月30日	納山祭（於：岩手第一ホテル）
2008年 (H20)	4月 3日	第22回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数130名
	5月15日	第20回初級登山教室／机上講習（全5回 於：勤労福祉会館）
	6月 1日	県連交流山行（氷上山）
	6月15日	初級登山教室／実技山行（秋田駒ヶ岳）
	7月 6日	清掃登山（岩手山）
	8月20日	新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館）
	9月 7日	創立記念登山（岩手山・姫神山）
	11月21日	納山祭（於：ステラモンテ）
2009年 (H21)	4月 2日	第23回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数127名
	5月14日	第21回初級登山教室／机上講習（全5回 於：勤労福祉会館）
	6月21日	初級登山教室／実技山行（秋田駒ヶ岳）
	7月 5日	清掃登山（岩手山）
	8月19日	新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館）
	9月 6日	創立記念登山（岩手山・姫神山）
	11月27日	納山祭（於：サンセール盛岡）
2010年 (H22)	4月 8日	第24回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数117名
	5月13日	第22回初級登山教室／机上講習（全5回 於：勤労福祉会館）
	5月26日	「あかげら」259号から紙作業を無くして電子ファイル化
	6月13日	初級登山教室／実技山行（秋田駒ヶ岳）
	7月 4日	清掃登山（岩手山）
	8月18日	新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館）
	9月 5日	創立記念登山（岩手山・姫神山）
	11月26日	納山祭（於：こずかた）
2011年 (H23)	3月11日	東日本大震災
	4月27日	「あかげら」3・4月合併号として4月に発行、登山教室無し
	7月 3日	第25回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数116名
	8月31日	清掃登山（岩手山・姫神山）
	10月10日	新入会員オリエンテーション（於：勤労福祉会館）
	11月26日	創立25周年記念登山（岩手山・姫神山） 創立25周年記念祝賀会（於：北ホテル）
2012年 (H24)	4月 5日	第26回定期総会（於：杜陵老人福祉センター）会員数109名
	5月27日	第23回初級登山教室／机上講習（於：西部公民館）

年	月 日	盛岡山友会の動き
2012年 (H24)	6月10日	初級登山教室／第1回目実技山行(鞍掛山)
	6月24日	初級登山教室／第2回目実技山行(秋田駒ヶ岳)
	7月8日	清掃登山(岩手山・姫神山)
	7月31日	新入会員オリエンテーション(於:勤労福祉会館)
	8月26日	新入会員歓迎山行／第1回(栗駒山)
	9月2日	創立記念登山(岩手山・姫神山)
	10月28日	新入会員歓迎山行／第2回(後生掛温泉～焼山～玉川温泉)
	11月30日	納山祭(於:青胡椒)
2013年 (H25)	4月4日	第27回定期総会(於:杜陵老人福祉センター) 会員数110名
	5月26日	第24回初級登山教室／机上講習(於:西部公民館)
	6月9日	初級登山教室／第1回実技山行(鞍掛山)
	6月23日	初級登山教室／第2回実技山行(秋田駒ヶ岳)
	7月7日	清掃登山(岩手山・姫神山)
	7月31日	新入会員オリエンテーション(於:勤労福祉会館)
	8月28日	新入会員歓迎山行／第1回(秋田駒ヶ岳～黒湯温泉)
	9月1日	創立記念登山(岩手山・姫神山)
	9月29日	新入会員歓迎山行／第2回(八幡平～大沼)
	11月27日	「あかげら」300号発行
	11月29日	納山祭(於:東日本ホテル)
	11月29日	「山友」をB5版からA4版・電子ファイル化(山友 第25号)
2014年 (H26)	4月3日	第28回定期総会(於:勤労福祉会館) 会員数118名
	5月25日	第25回初級登山教室／机上講習(於:西部公民館)
	6月8日	初級登山教室／第1回実技山行(鞍掛山)
	6月22日	初級登山教室／第2回実技山行(秋田駒ヶ岳)
	6月25日	「あかげら」307号からメール配信開始
	7月6日	清掃登山(岩手山・姫神山)
	7月30日	新入会員オリエンテーション(於:勤労福祉会館)
	8月24日	新入会員歓迎山行／第1回(姫神山)
	9月7日	創立記念登山(岩手山・姫神山)
	9月28日	新入会員歓迎山行／第2回(八甲田山)
	10月29日	山行リーダー会議(於:勤労福祉会館)
	11月28日	納山祭(於:ホテル ルイズ)
2015年 (H27)	3月29日	救助隊ミーティング(於:西部公民館)
	4月2日	第29回定期総会(於:勤労福祉会館) 会員数116名
	5月24日	第26回初級登山教室／机上講習(於:西部公民館)
	6月7日	初級登山教室／第1回実技山行(鞍掛山)
	6月21日	初級登山教室／第2回実技山行(三ツ石山)
	7月5日	清掃登山(岩手山・姫神山)
	7月9日	県連お花鑑賞(交流)山行(源太ヶ岳)
	7月29日	新入会員オリエンテーション(於:勤労福祉会館)
	9月6日	創立記念登山(岩手山・姫神山)

年	月 日	盛岡山友会の動き
2015年 (H27)	11月 4日	山行リーダー会議 (於: 勤労福祉会館)
	12月 2日	納山祭 (於: ホテル ルイズ)
2016年 (H28)	4月 6日	第30回定期総会 (於: 勤労福祉会館) 会員数109名
	4月 28～5月 5日	創立30周年記念海外山行・台湾 雪山、玉山
	5月 22日	第27回初級登山教室/机上講習 (於: 西部公民館)
	6月 5日	初級登山教室/第1回実技山行 (鞍掛山)
	6月 19日	初級登山教室/第2回実技山行 (三ツ石山)
	6月 24～26日	創立30周年記念国内山行・尾瀬
	7月 7～20日	創立30周年記念海外山行・シャモニーとツェルマット
	7月 29日	新入会員オリエンテーション (於: 勤労福祉会館)
	7月 30～8月 1日	創立30周年記念国内山行・富士山
	8月 11日	東北奥羽ブロック協議会交流山行ー山の日を皆で祝うー 栗駒山
	8月 31日	創立30周年記念座談会 (於: 勤労福祉会館)
	9月 4日	創立30周年記念登山 (岩手山・姫神山) 7/3雨天中止の清掃登山も含めて実施
	9月 25日	登山教室参加者フォローアップ登山 (八幡平～大沼温泉)
11月 8日	創立30周年記念講演会・阿部陽子 (於: アイーナ 小田島組ほーる)	
11月 26日	創立30周年記念式典 (於: ホテル ルイズ)	



「あかげら」2010年8月号 表紙 中村美栄子

盛岡山友会 30 年間の役員・委員名簿

1/6

年度 役職名		1986年度 (S61)	1987年度 (S62)	1988年度 (S63)	1989年度 (H元)	1990年度 (H2)	1991年度 (H3)
会 長		五 嶋 十 三	五 嶋 十 三	扇 等	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治
副 会 長		佐々木テイ子	佐々木テイ子	中村 美栄子	中村 美栄子	中村 美栄子	中村 美栄子
チーフリーダー		—	—	—	—	—	下 机 勉
事 務 局 長		阿 部 誠 一	阿 部 誠 一	小 原 正 幸	小 原 正 幸	中 村 玲 子	佐藤 由美子
事 務 局	次 長	遠 藤 譲 一	及 川 広 美	及 川 広 美	及 川 広 美	佐藤 由美子	中 村 玲 子 遠藤 千鈴子
ハイキング部 (1986～1988 山行部)	部 長	山行部			千 田 勝 則	千 田 勝 則	千 田 勝 則
	副部長 副部長	千 田 勝 則	千 田 勝 則	千 田 勝 則	佐々木テイ子	佐々木テイ子 藤 井 幸 夫	佐々木テイ子 互野 美香子
技研部 (1986～1988 山行部)	部 長 副部長 副部長				下 机 勉 須 賀 一 樹	須 賀 一 樹 橋 本 久 村 中 健 太	須 賀 一 樹 橋 本 久 村 中 健 太
組 織 部	部 長 副部長 副部長	村 山 正 三	中村 美栄子	高 谷 泰 光	平 間 正 子 佐 藤 誠	下 机 勉 今 村 昭 男 江 刺 家 誠	江 刺 家 誠 外 村 道 夫 赤 羽 和 久
会 報 部 (1986～1992 情宣部)	部 長 副部長 副部長	吉 田 聡	吉 田 聡	阿 部 誠 一	阿 部 誠 一 高 野 裕 一	外 村 道 夫 千 田 三 義 柴 田 勝	今 村 昭 男 千 田 三 義 柴 田 勝
自然保護部	部 長 副部長 副部長	—	—	—	—	小 原 正 幸 平 間 正 子 新 村 弘 子	小 原 正 幸 平 間 正 子 新 村 弘 子
財 政 部 (1993 から 事務局)	部 長 副部長	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	川 村 秀 子 外 村 道 夫	国 久 重 徳 川 村 秀 子	国 久 重 徳 川 村 秀 子
サブリーダー		—	—	—	—	—	渡 邊 健 治
遭 難 対 策 プロジェクト チーム	チーフ サブ チーム	—	—	—	—	—	—
会 計 監 事		多 田 久 夫	遠 藤 譲 一	遠 藤 譲 一 多 田 久 夫	村 山 正 三 多 田 久 夫	阿 部 誠 一 多 田 久 夫	村 山 正 三 多 田 久 夫
県 連 事 務 局 長		—	—	—	—	—	—
県 連 理 事		—	—	—	—	渡 邊 健 治 中 村 玲 子 国 久 重 徳	須 賀 一 樹 今 村 昭 男 国 久 重 徳
県 連 会 計 監 事		—	—	—	—	—	—

役職名		1992年度 (H4)	1993年度 (H5)	1994年度 (H6)	1995年度 (H7)	1996年度 (H8)
会 長		渡 邊 健 治	村 山 正 三	村 山 正 三	村 山 正 三	村 山 正 三
副 会 長		中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子
チーフリーダー		下 机 勉	渡 邊 健 治	須 賀 一 樹	須 賀 一 樹	下 机 勉
事 務 局 長		佐 藤 由 美 子	立 花 昌 幸	立 花 昌 幸	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治
事 務 局	次 長	遠 藤 千 鈴 子	佐 藤 由 美 子 —	佐 藤 由 美 子	佐 藤 由 美 子	佐 藤 由 美 子
		立 花 昌 幸		神 幸 子	加 藤 志 緒 里	遠 藤 千 鈴 子
ハイキング部	部 長	今 村 昭 男	今 村 昭 男	伊 藤 富 枝	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子
	副 部 長	塚 田 浩 子	千 田 勝 則	千 田 勝 則	今 村 昭 男	阿 部 立 子
	副 部 長	伊 藤 富 枝	伊 藤 富 枝	吉 田 聡	伊 藤 富 枝	今 村 昭 男
	副 部 長				阿 部 立 子	
技 研 部	部 長	国 久 重 徳	下 机 勉	渡 邊 健 治	下 机 勉	高 橋 尚 子
	副 部 長	橋 本 久	国 久 重 徳	国 久 重 徳	高 橋 尚 子	村 中 健 太
	副 部 長	村 中 健 太		高 橋 尚 子	坂 田 純 一	神 幸 子
組 織 部	部 長	五 嶋 十 三	五 嶋 十 三	下 机 勉	立 花 昌 幸	神 幸 子
	副 部 長	新 田 俊 博	新 田 俊 博	阿 部 立 子	新 田 俊 博	立 花 昌 幸
	副 部 長	神 幸 子	神 幸 子	川 村 勝 江	佐 藤 孝 吉	新 田 俊 博
	副 部 長				千 田 勝 則	千 田 勝 則
会 報 部 (1986～1992 情宣部)	部 長	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	浦 部 光 生	浦 部 光 生
	副 部 長	藤 田 祐 孝	藤 田 祐 孝	藤 田 祐 孝	藤 田 祐 孝	藤 田 祐 孝
	副 部 長	佐々木テイ子		浦 部 光 生	川 村 雅 子	米 内 雅 子
自然保護部	部 長	千 田 勝 則	塚 田 浩 子	塚 田 浩 子	遠 藤 喜 美 栄	遠 藤 喜 美 栄
	副 部 長	江 刺 家 誠	江 刺 家 誠	江 刺 家 誠	江 刺 家 誠	石 澤 妙 子
	副 部 長	遠 藤 喜 美 栄		赤 前 充 洋	塚 田 浩 子	今 井 光 子
財 政 部 (1993から 事務局)	部 長	鈴 木 亮 一	—	—	—	—
	副 部 長	川 村 秀 子				
	副 部 長	和 山 好 子				
サブリーダー		渡 邊 健 治	須 賀 一 樹 吹 田 徹 久 橋 本 久	吹 田 徹 久 橋 本 久	吹 田 徹 久 中 村 美 栄 子	橋 本 久 高 橋 尚 子 中 村 美 栄 子 渡 邊 健 治
遭 難 対 策 プロジェクト チーム	チーフ サブ	—	須 賀 一 樹 吹 田 徹 久 下 机 勉 今 村 昭 男 渡 邊 健 治 橋 本 久 扇	橋 本 久 吹 田 徹 久 須 賀 一 樹 渡 邊 健 治 下 机 勉 千 田 勝 則	橋 本 久 須 賀 一 樹 下 机 勉 阿 部 立 子 吹 田 徹 久	橋 本 久 下 机 勉 高 橋 尚 子 中 村 美 栄 子 渡 邊 健 治
会 計 監 事		村 山 正 三 多 田 久 夫	菅 野 文 也 多 田 久 夫	菅 野 文 也 多 田 久 夫	鈴 木 勝 世 菅 野 文 也	鈴 木 勝 世 菅 野 文 也
県 連 事 務 局 長		—	—	—	—	高 橋 尚 子
県 連 理 事		今 村 昭 男 佐 藤 由 美 子	須 賀 一 樹 立 花 昌 幸	村 山 正 三 須 賀 一 樹 立 花 昌 幸	村 山 正 三 須 賀 一 樹 立 花 昌 幸	村 山 正 三 立 花 昌 幸
県 連 会 計 監 事		鈴 木 亮 一	新 田 俊 博	藤 田 祐 孝	鈴 木 勝 世	鈴 木 勝 世

役職名		1997年度 (H9)	1998年度 (H10)	1999年度 (H11)	2000年度 (H12)	2001年度 (H13)
会 長		村山正三	村山正三	村山正三	村山正三	村山正三
副 会 長		中村美栄子	中村美栄子	中村美栄子 下机勉	下机勉	下机勉
チーフリーダー		下机勉	高橋尚子	高橋尚子	高橋尚子	渡邊健治
事務局 長		渡邊健治	渡邊健治	渡邊健治	中村美栄子	中村美栄子
事務局	次 長	石澤妙子 遠藤千鈴子	石澤妙子	石澤妙子 佐藤由美子	泉貴美子 伊藤英子	泉貴美子 伊藤英子
	部 長 副部長 副部長	佐藤由美子 阿部立子 千田勝則	中村美栄子 千田勝則 山田純	渡邊健治 中屋敷敏彦 山田純	菅原史也 山田純 中屋敷敏彦	中屋敷敏彦 菅原史也 中根和子
教育遭対部	部 長 副部長 副部長	高橋尚子 山田純	下机勉 高橋尚子 神幸子	下机勉 橋本久 菅原史也	下机勉 新田俊博	下机勉 安井俊二
	部 長 副部長 副部長	新田俊博 菅原瞳	佐藤由美子 横田正人	佐藤由美子 中村美栄子 新田俊博	佐藤由美子 沼崎栄子 阿部好晴	阿部好晴 神幸子
会 報 部	部 長 副部長 副部長	浦部光生 伊藤英子 浅沼はる代	田中弘美 伊藤英子 浦部光生	田中弘美 浦部光生 浅沼はる代	田中弘美 浦部光生	田中弘美 浦部光生 岩井久子
	部 長 副部長 副部長	江刺家誠 大河原清 外村道夫	江刺家誠 新田俊博	江刺家誠 遠藤喜美栄 藤谷真紀子	今村昭男 江刺家誠 立花昌幸	江刺家誠 立花昌幸 駒井蓉一
リーダー会	サ ブ	渡邊健治 下机勉 高橋尚子 佐藤由美子	中村美栄子 下机勉 渡邊健治 佐藤由美子 江刺家誠	中村美栄子 下机勉 渡邊健治 佐藤由美子 江刺家誠 橋本久	下机勉 渡邊健治 江刺家誠 佐藤由美子 中村美栄子	下机勉 江刺家誠 佐藤由美子 神幸子 中村美栄子
	会 計 監 事	鈴木勝世 佐藤忠夫	鈴木勝世 佐藤忠夫	鈴木勝世 佐藤忠夫	鈴木勝世 佐藤忠夫	鈴木勝世 佐藤忠夫
県 連 理 事 長		村山正三	村山正三	村山正三	村山正三	村山正三
県 連 事 務 局 長		高橋尚子	高橋尚子	高橋尚子	高橋尚子	—
県 連 理 事		立花昌幸 下机勉	立花昌幸 下机勉	立花昌幸 下机勉	立花昌幸	立花昌幸 佐藤由美子
県 連 会 計 監 事		鈴木勝世	鈴木勝世	鈴木勝世	鈴木勝世	鈴木勝世

役職名		2002年度 (H14)	2003年度 (H15)	2004年度 (H16)	2005年度 (H17)	2006年度 (H18)
会 長		村 山 正 三	村 山 正 三	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治
副 会 長		下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉
チーフリーダー		渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治
事 務 局 長		中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子
事 務 局	次 長	石 澤 妙 子 新 藤 啓 子	石 澤 妙 子 新 藤 啓 子	石 澤 妙 子 川 村 勝 江	石 澤 妙 子 川 村 勝 江	石 澤 妙 子 級 木 信 子
山行企画部	部 長	内 記 巖	山 田 純	山 田 純	松 田 徹	松 田 徹
	副部長	菅 原 史 也	松 田 徹	松 田 徹	山 田 純	熊 谷 久 美 子
	副部長	今 野 由 美 子	桑 原 み ゆ き	桑 原 み ゆ き	桑 原 み ゆ き	外 村 道 夫
	副部長		菅 原 史 也	菅 原 史 也	熊 谷 久 美 子	
教育遭対部	部 長	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉
	副部長	安 井 俊 二	長 谷 川 江 利 子	長 谷 川 江 利 子	田 中 均	田 中 均
	副部長	正 木 博 美	宮 古 齊	宮 古 齊		鈴 木 浩 一
	副部長			田 中 均 久		
	副部長			松 田 幸 希		
組 織 部	部 長	阿 部 好 晴	阿 部 好 晴	阿 部 好 晴	古 川 孝	古 川 孝
	副部長	菊 池 明 子	古 川 孝	古 川 孝	阿 部 好 晴	久 保 田 敬 子
	副部長	久 保 田 敬 子	久 保 田 敬 子	久 保 田 敬 子	久 保 田 敬 子	山 田 潔 功
	副部長	細 川 泉	古 沢 和 子	古 沢 和 子	山 田 潔 功	瀧 澤 功
会 報 部	部 長	田 中 弘 美	田 中 弘 美	浦 部 光 生	浦 部 光 生	浦 部 光 生
	副部長	浦 部 光 生	浦 部 光 生	田 中 弘 美	田 中 弘 美	田 中 弘 美
	副部長	岩 井 久 子	酒 井 くに 子	酒 井 くに 子	柴 田 勝	柴 田 勝
	副部長		星 出 康 子		久 保 加 世 子	久 保 加 世 子
自然保護部	部 長	川 村 雅 子	川 村 雅 子	川 村 雅 子	日 比 野 保 子	日 比 野 保 子
	副部長	小 林 喜 恵	照 井 壯 太 郎	日 比 野 保 子	川 村 雅 子	川 村 雅 子
	副部長	工 藤 良 美	日 比 野 保 子	遠 藤 喜 美 栄	三 浦 義 秋 子	三 浦 義 秋 子
	副部長		内 記 巖	照 井 壯 太 郎	級 木 信 子	岡 沼 紀 子
リーダー会	サ ブ	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉
		安 井 俊 二	村 山 正 三	村 山 正 三	江 刺 家 誠	江 刺 家 誠
		江 刺 家 誠	江 刺 家 誠	江 刺 家 誠	古 川 孝	古 川 孝
		高 橋 尚 子	高 橋 尚 子	中 村 美 栄 子	田 中 弘 美	田 中 弘 美
		中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子		田 中 均	田 中 均
会 計 監 事		鈴 木 勝 世	駒 井 蓉 一	高 原 則 夫	高 原 則 夫	高 原 則 夫
		駒 井 蓉 一	柴 田 勝	駒 井 蓉 一	駒 井 蓉 一	駒 井 蓉 一
県 連 会 長		村 山 正 三	村 山 正 三	村 山 正 三	村 山 正 三	
県 連 理 事 長		村 山 正 三				
県 連 理 事		下 机 勉	下 机 勉	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治
		高 橋 尚 子	江 刺 家 誠	江 刺 家 誠	江 刺 家 誠	江 刺 家 誠
県 連 会 計 監 事		鈴 木 勝 世	鈴 木 勝 世	鈴 木 勝 世	鈴 木 勝 世	鈴 木 勝 世
			小 林 喜 恵	川 村 雅 子	川 村 雅 子	川 村 雅 子

役職名		2007年度 (H19)	2008年度 (H20)	2009年度 (H21)	2010年度 (H22)	2011年度 (H23)
会 長		渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治
副 会 長		下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉
チーフリーダー		渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治
事 務 局 長		中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子
事 務 局	次 長	石 澤 妙 子 級 木 信 子	石 澤 妙 子 級 木 信 子	石 澤 妙 子 級 木 信 子 戸 田 新	石 澤 妙 子 府 金 志 磨 子	石 澤 妙 子 府 金 志 磨 子
	部 長 副 部 長 副 部 長 副 部 長 副 部 長 副 部 長 副 部 長	下 机 勉 田 中 均 鈴 木 浩 一	下 机 勉 田 中 均 戸 田 新 小 野 寺 健 一	下 机 勉 田 中 均 小 野 寺 健 一 石 川 享 子	下 机 勉 田 中 均 戸 田 新 長 谷 川 江 利 子 松 田 希 祐 佐 藤 祐 子 高 橋 英 里 子 守 谷 正 子	下 机 勉 田 中 均 戸 田 新 長 谷 川 江 利 子 松 田 希 祐 佐 藤 祐 子 守 谷 正 子
山 行 企 画 部	部 長	松 田 徹	松 田 徹	松 田 徹	古 川 孝 子	古 川 孝 子
	副 部 長	熊 谷 久 美 子	熊 谷 久 美 子	西 村 豊 男	石 川 享 子	中 村 数 博
	副 部 長	外 村 道 夫	中 根 和 子	今 村 昭 男	加 藤 桂 子	松 田 徹 子
	副 部 長		加 藤 桂 子	武 田 秀 雄	中 村 数 博 子	工 藤 敬 子
組 織 部	部 長	工 藤 敬 子	工 藤 敬 子	工 藤 敬 子	今 村 昭 男	塚 本 真 理 子
	副 部 長	瀧 澤 功 雄	齋 藤 重 雄	齋 藤 重 雄	齋 藤 重 雄	石 川 享 子
	副 部 長	齋 藤 重 雄	塚 本 真 理 子	竹 田 紀 男	竹 田 紀 男	長 谷 川 江 利 子
	副 部 長	塚 本 真 理 子	高 橋 捷 友	照 井 信 男	塚 本 真 理 子	松 田 徹
会 報 部	部 長	柴 田 勝	柴 田 勝	久 保 加 世 子	久 保 加 世 子	久 保 加 世 子
	副 部 長	久 保 加 世 子	久 保 加 世 子	菊 池 彩 子	浦 部 光 生	浦 部 光 生
	副 部 長	浦 部 光 生	浦 部 光 生	日 比 野 保 子	渡 部 彩 子	菊 池 重 顕
	副 部 長	岡 沼 紀 子	岡 沼 紀 子		照 井 信 男	高 橋 英 里 子
自 然 保 護 部	部 長	日 比 野 保 子	日 比 野 保 子	高 橋 捷 友	本 間 典 子	武 田 秀 雄
	副 部 長	川 村 雅 子	川 村 雅 子	川 村 雅 子	川 村 雅 子	川 村 雅 子
	副 部 長	北 田 絹 恵	北 田 絹 恵	本 間 典 子	日 比 野 保 子	日 比 野 保 子
	副 部 長	西 村 豊	西 村 豊	加 藤 桂 子	工 藤 敬 子	山 崎 祐 三
リ ー ダ ー 会	サ ブ	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉	下 机 勉
		江 刺 家 誠	江 刺 家 誠	松 田 徹	田 中 均	田 中 均
		松 田 徹	松 田 徹	久 保 加 世 子	古 川 孝 子	古 川 孝 子
		久 保 加 世 子	久 保 加 世 子	田 中 均	久 保 加 世 子	久 保 加 世 子
			中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	
			中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	中 村 美 栄 子	
			松 田 幸 久	松 田 幸 久	松 田 幸 久	
				石 川 享 子	石 川 享 子	
会 計 監 事		高 原 則 夫 高 駒 井 容 一	高 原 則 夫 高 駒 井 容 一	高 原 則 夫 古 川 孝	高 原 則 夫 江 刺 家 誠	高 原 則 夫 江 刺 家 誠
県 連 会 長		村 山 正 三	村 山 正 三	村 山 正 三	渡 邊 健 治	渡 邊 健 治
県 連 理 事		川 村 雅 子	川 村 雅 子	川 村 雅 子	川 村 雅 子	川 村 雅 子
		江 刺 家 誠	江 刺 家 誠	日 比 野 保 子	日 比 野 保 子	日 比 野 保 子
県 連 会 計 監 事		外 村 道 夫 柴 田 勝	中 根 和 子 柴 田 勝	照 井 信 男 中 根 和 子	照 井 信 男 中 根 和 子	江 刺 家 誠 照 井 信 男

役職名		2012年度 (H24)	2013年度 (H25)	2014年度 (H26)	2015年度 (H27)	2016年度 (H28)
会長		渡邊健治	渡邊健治	渡邊健治	渡邊健治	渡邊健治
副会長		下机勉	下机勉	下机勉 長谷川江利子	下机勉 長谷川江利子	三浦明夫
チーフリーダー		渡邊健治	渡邊健治	渡邊健治	山行管理委員長 渡邊健治 渡邊健治	
遭難救助隊長		—	下机勉	下机勉	下机勉	—
事務局 局長		中村美栄子	中村美栄子	高橋祐子	高橋祐子	成瀬寛
事務局	次長	石澤妙子	石澤妙子	石澤妙子	石澤妙子	石澤妙子
	次長	府金志磨子	府金志磨子	府金志磨子	小野寺健一	小野寺健一
教育遭対部	部長	長谷川江利子	長谷川江利子	長谷川江利子	長谷川江利子	三浦(明)兼務
	副部長	田中均	田中均	田中均	田中均	木村一
	副部長	松田幸久	高橋英里子	小島奈緒子	小島奈緒子	中村数博
	部員		小島奈緒子		下机勉 中村数博	
山行企画部	部長	千田勝則	千田勝則	千田勝則	千田勝則	千田勝則
	副部長	古川孝	古川孝	古川孝	古川孝	古川孝
	部員	熊谷久美子	熊谷久美子	福山茂和 山田潔	山田潔	山田潔
組織部	部長	小田嘉洋	小田嘉洋	小田嘉洋	福山茂和 戸田新	福山茂和
	副部長	遠藤千鈴子	遠藤千鈴子	遠藤千鈴子	戸田新	戸田新
	部員	太田代恵久子	太田代恵久子	太田代恵久子	吉田成子 小川優子	小川優子
会報部 (2013～2015 広報部)	部長	久保加世子	久保加世子	久保加世子	久保加世子	辰巳和司
	副部長	辰巳和司	辰巳和司	辰巳和司	三浦明夫	三浦良夫
	部員	菊池重顕	高橋祐子 菊池重顕	菊池重顕 三浦明夫	土屋ひろみ	三浦明夫
自然保護部	部長	山崎祐三	工藤敬子	工藤敬子	岡義博	岡義博
	副部長	本間典	本間典	本間典	成瀬寛	大倉博雄
	副部長	級木信子	級木信子	級木信子		舟越茂雄
	部員	川村雅子	日比野保子	岡義博		
	部員	日比野保子				
部員	北田絹恵雄					
部員	武田秀雄					
リーダー会	サブ	下机勉	下机勉	古川孝	山行管理委員会	
		田中均 古川孝 久保加世子 中村美栄子 松田幸久 長谷川江利子	田中均 古川孝 久保加世子 中村美栄子 松田幸久 長谷川江利子	久保加世子 長谷川江利子	(副)古川孝 中村数博	三浦明夫 木村一 古川孝 福山茂和 小田嘉洋 岡義博 大倉博寛
会計監事		大峠茂喜 江刺家誠	大峠茂喜 江刺家誠	大峠茂喜 江刺家誠	大峠茂喜 江刺家誠	大峠茂喜 江刺家誠
県連会長		渡邊健治	渡邊健治	渡邊健治	渡邊健治	渡邊健治
県連理事		川村雅子	本間典	本間典	田中均	村上明枝
		日比野保子	日比野保子	田中均	村上明枝	成瀬寛
		江刺家誠	田中均	村上明枝	成瀬寛	千田勝則
県連会計監事		中村美栄子	中村美栄子	中村美栄子	中村美栄子	中村美栄子

* 2016年度は、2016年10月末現在。

● 10年間の山行実績

□ 創立20周年以降の山行実績〔会山行〕

〔2006年1月～2015年12月〕

【2006年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月3日	鞍掛山	放牧地周遊	4
2	1月3日	鞍掛山	左回りルート	15
3	1月7日	三ツ石山	網張ピストン	5
4	1月8日～1月9日	岩手山	馬返しコース	10
5	1月9日	岩神山	ウオーキングセンターピストン	5
6	1月21日～1月22日	鶏頭山	岳ピストン	11
7	1月22日	南昌山	矢巾温泉ピストン	8
8	1月22日	東根山	ラフランスロピストン	6
9	1月28日～1月29日	八幡平	八幡平スキー場ピストン	6
10	1月29日	姫神山	一本杉～山頂往復	7
11	1月29日	奥入瀬		4
12	2月4日	岩手山麓	相ノ沢～馬返し往復	7
13	2月5日	赤林山	矢巾温泉ピストン	14
14	2月11日～2月12日	東根山	ラフランスロ～山頂往復	6
15	2月12日	朝島山	中央コース～山頂～立石神社	5
16	2月19日	桐ノ木沢山	桐ノ木沢ロピストン	16
17	2月26日	高洞山	上米内駅～山頂往復	6
18	2月26日	桐ノ木沢山	桐ノ木沢ロ～山頂～区界	8
19	2月26日	奥入瀬		4
20	3月5日	箱ヶ森	猪去沢ピストン	14
21	3月12日	岩手山	御神坂コース	6
22	3月18日	姥倉山	網張スキー場～姥倉山～県民の森	4
23	3月18日～3月19日	早池峰	岳～鶏頭山往復	5
24	3月19日	東根山	ラフランス温泉～山頂～水分神社	21
25	3月25日～3月26日	兜明神岳・岩神山	兜山荘～兜明神岳～岩神山往復	6
26	3月26日	姫神山	一本杉～山頂～こわ坂	8
27	4月9日	穴目ヶ岳	湯沢鹿沢ロ～山頂往復	15
28	4月15日	御駒山・大土が森	国立少年自然の家～山頂往復	5
29	4月15日	青松葉山	逢原峠～山頂往復	3
30	4月23日	裏岩手連峰	松川温泉～三ツ石山～大深岳～源太ガ岳～松川温泉	3
31	4月23日	安倍館山	櫃取～安倍館山～櫃取湿原	18
32	4月29日	八幡平	見返り峠～八幡沼周辺周遊	5
33	4月29日	八幡平	見返り峠～八幡平頂上～蒸ノ湯	6
34	4月29日	三ツ石山	松川温泉～山頂往復	13
35	4月30日	七時雨山	七時雨山荘ピストン	13
36	4月30日	鶏頭山	岳ピストン	5
37	5月2日～5月5日	雲取山・筑波山	鴨沢ロ～雲取山～三条の湯～登山口、筑波山駐車場～女体山～男体山～登山口	9
38	5月3日	眺望山、梵珠山	東ロ～眺望山～西ロ、マンガンコース～梵珠山～サワグルミコース	3
39	5月6日～5月7日	三ツ石山	松川温泉～山頂往復	6
40	5月14日	月山・とどが崎	白浜～とどが崎往復、月山登山口～月山往復	9

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
41	5月17日	七時雨山麓・鹿角街道	不動の滝～七時雨一里塚～牧舎～車之走峠～老人憩の家	10
42	5月21日	六角牛山	峠口～山頂～中沢口	9
43	5月21日	氷上山	玉山コース往復	9
44	5月25日～6月19日	マッキンリー(6194m)	タルキートナ～LP～ABC～デナリパス～山頂	3
45	5月27日	平庭高原	第一駐車場～ワインハウス	12
46	6月4日	五葉山	赤坂峠コース	25
47	6月11日	秋田駒ヶ岳	国見温泉ピストン	8
48	6月11日	男鹿三山(真山、本山)	真山神社～真山～本山～門前	3
49	6月11日	安家森(1239.1m)	袖山牧場口～安家平～遠別岳～安家森～安家平～登山口	9
50	6月18日	秋田駒ヶ岳	国見温泉ルート	19
51	6月18日	栗駒山	須川コース	7
52	6月18日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	9
53	6月22日～6月25日	妙高山、火打山、高妻山	笹ヶ峰～富士見平～黒沢池ヒュッテ～大倉乗越～高谷池ヒュッテ	4
54	6月25日	真昼岳	峰越口往復	6
55	6月25日	焼石岳	中沼コース	17
56	7月8日	薬師岳	小田越～山頂往復	6
57	7月15日～7月17日	尾瀬ヶ原(燧ヶ岳)	長蔵小屋～長英新道～燧ヶ岳～見晴・第二長蔵小屋 第二長蔵小屋～山の鼻～鳩待峠	24
58	7月16日	早池峰	河原ノ坊～早池峰～鶏頭山～岳	8
59	7月16日	女神山	尾根コース～山頂～県境コース	4
60	7月23日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越、小田越往復	12
61	7月23日	八幡平	赤川口～茶臼岳～安比コース分岐～安比岳～安比温泉～赤川口	10
62	8月4日～8月6日	富士山	吉田ロピストン	14
63	8月19日 ～8月20日	秋田駒ヶ岳	小柳沢	8
64	8月20日	和賀岳	真木溪谷～薬師～小杉山～小鷲山～和賀岳往復	9
65	8月20日	早池峰	小田越ピストン	7
66	8月27日	乳頭山	秋田駒八合目～笹森～千沼ヶ原～乳頭山～黒湯	21
67	9月2日 ～9月3日	岩手山	網張～鬼ヶ城～山頂～八合目泊～山頂～お花畑～網張	7
68	9月3日	岩手山	上坊コース	8
69	9月3日	岩手山	馬返しコース	18
70	9月3日	姫神山	一本杉コース	7
71	9月3日	岩手山	網張コース	6
72	9月9日 ～9月18日	ヨーロッパ・アルプス	ヘルンリ小屋、ゴルナー氷河とモンテローザ小屋、テテバルナルダハイキング	10
73	9月10日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越、小田越ピストン	9
74	9月17日 ～9月18日	南八幡平(源太ヶ岳、八瀬森、大白森)	松川温泉～源太ヶ岳～八瀬森～大白森～大釜温泉	9
75	9月20日	大荒沢岳(1,313m)	貝沢ロピストン	6
76	9月23日 ～9月24日	鳥海山	矢島(祓川)コース	12
77	9月29日 ～10月1日	北アルプス(槍ヶ岳)	上高地～槍ヶ岳～新穂高温泉	4
78	10月1日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	11

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
79	10月7日 ～10月9日	奥秩父(金峰山、瑞牆山)	大弛峠口往復、瑞牆口往復	9
80	10月14日	東八幡平 県民の森	県民の森～七滝往復	16
81	10月15日	三ツ石山	松川温泉～山頂往復	12
82	10月15日	牛形山	夏油温泉～山頂往復	4
83	10月15日	焼山	後生掛温泉～焼山～玉川温泉	16
84	10月21日	姫神山	一本杉コース	10
85	10月29日	岩手山	柳沢コース	7
86	10月31日	白岩岳	入角沢口～白岩岳～白岩薬師往復	12
87	11月4日	三ツ石山	網張～三ツ石山荘～松川温泉分岐	8
88	11月5日	岩手山	馬返しコース	17
89	11月5日	八幡平	見返り峠ピストン	9
90	11月19日	岩手山	柳沢コース	15
91	11月19日	宇霊羅山・音床山	金山林道口ピストン	13
92	11月23日	二ツ森(一戸)、男神岩・ 女神岩(馬仙峡)	登山口～二ツ森北峰往復、夫婦岩口～馬仙峡 展望台周回	15
93	12月3日	岩手山	馬返しコース	14
94	12月9日 ～12月10日	五葉山	赤坂峠コース	13
95	12月10日	つどいの森		15
96	12月16日 ～12月17日	鶏頭山	岳コース	14
97	12月23日	赤林山	岩鑄コース	18
98	12月23日	網張スキー場	網張スキー場スキーセンター～兎平往復	10

【2007年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月2日～1月6日	キナバル山(マレーシア) 4,095.2m	コタキナバル～パークヘッドクォーター～山小屋 (泊)～山頂往復	8
2	1月3日	岩手山	岩手高原～鬼ヶ城稜線往復	3
3	1月3日	鞍掛山	右回り周回コース	15
4	1月8日	岩神山	区界ウォーキングセンター～山頂往復	11
5	1月13日 ～1月14日	岩手山	馬返しコース	11
6	1月13日 ～1月14日	三ツ石山	網張スキー場～三ツ石山荘～山頂往復	9
7	1月21日	朝島山	中央コース～山頂～立石神社	9
8	1月28日	姫神山	一本杉コース	5
9	1月28日	東根山	ラフランス温泉口ピストン	11
10	2月4日	屋棟岳	西森ハウス～安比高原牧場	12
11	2月4日	相ノ沢牧野	牧野内周遊	3
12	2月4日	たたら山	公民館コース	11
13	2月4日	岩手山	馬返しコース	8
14	2月10日	桐ノ木沢山	桐ノ木沢口ピストン	5
15	2月11日	南昌山	矢巾温泉～山頂往復	5
16	2月11日 ～2月12日	岩手山	網張スキー場～お花畑～山頂往復	3
17	2月17日 ～2月18日	八幡平	八幡平スキー場～頂上往復	10
18	2月17日 ～2月18日	八幡平	八幡平スキー場ピストン	5
19	2月18日	八幡平	八幡平スキー場ピストン	3

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
20	2月18日	朝島山	中央コース～山頂～立岩神社	4
21	2月18日	桐ノ木沢山	桐ノ木沢口ピストン	10
22	2月24日	森吉山	阿仁スキー場～山頂往復	8
23	2月25日	高洞山	上米内駅～山頂往復	9
24	3月4日	相ノ沢牧野	相ノ沢駐車場～牧野周遊	3
25	3月4日	八幡平	八幡平スキー場～茶臼岳～大長根～柏台	4
26	3月10日	乳頭山	孫六温泉～山頂往復	5
27	3月17日	三ツ石山	網張コース	3
28	3月17日 ～3月18日	早池峰	岳～鶏頭山～中岳付近	6
29	3月18日	姫神山	一本杉～山頂～こわ坂	13
30	3月25日	万寿山	花巻広域公園～山頂往復	7
31	4月8日	岩手山	馬返しコース	6
32	4月8日	犬倉山	網張コース	5
33	4月8日	深山、鹿狼山	山寺生活センター口、鹿狼温泉口	4
34	4月8日	栗駒山	いこいの村～イワカガミ平～山頂往復	6
35	4月14日 ～4月15日	岩神山、青松葉山	区界ウオーキングセンターピストン	6
36	4月15日	青松葉山	松草・蓬原牧場口ピストン	5
37	4月15日	青松葉山	櫃取口ピストン	2
38	4月27日	七時雨山	車之走峠～山頂～七時雨山荘	13
39	4月29日	眺望山、梵珠山	東口～眺望山～西口、サワグルミコース	3
40	4月29日	八幡平	頂上～蒸の湯温泉	12
41	5月1日	東根山	あずまね温泉口ピストン	5
42	5月2日 ～5月5日	丹沢山、大菩薩嶺	大倉尾根～鍋割周回、上日川峠～時計廻り周回	8
43	5月3日 ～5月6日	飯豊連峰	石転沢～北股岳～飯豊本山～飯豊鉱泉	6
44	5月4日	アポイ岳	幌満登山口ピストン	3
45	5月13日	和賀仙人山(882.2m)	仙人コース	7
46	5月13日	八幡平	八幡平見返り峠付近	12
47	5月20日	笹長根山、飯森山	広田湾～笹長根山～飯森山	9
48	5月26日	月山	姥沢口	7
49	6月2日	田代山、駒木立	西根登山口～田代山～駒木立往復	7
50	6月3日	早池峰	河原ノ坊～早池峰～鶏頭山～岳	4
51	6月7日	薬師岳	小田越口～頂上往復	5
52	6月10日	大荒沢岳	貝沢口ピストン	13
53	6月10日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース	6
54	6月16日	七時雨山	七時雨山荘ピストン	6
55	6月17日	早池峰	河原ノ坊～頂上～小田越	12
56	6月17日	秋田駒ヶ岳	国見温泉ルート	20
57	6月24日	焼石岳	中沼コース	14
58	6月30日	姫神山	一本杉コース	7
59	7月1日	岩木山	八合目～山頂往復	4
60	7月1日	大森山	大森トンネル脇～大森山登山道出合い	7
61	7月4日	秋田駒ヶ岳	金十郎長嶺コース	3
62	7月7日 ～7月8日	岩手山	焼走りピストン	7
63	7月8日	岩手山	上坊コース往復	11
64	7月8日	岩手山	馬返しコース	21

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
65	7月14日 ～7月17日	大雪山	すがたみ登山口～朝日岳往復、銀泉台～赤岳～小泉岳～白雲岳～赤岳～銀泉台、層雲峡ロープウェイ～黒岳往復	4
66	7月21日 ～7月22日	種差海岸、階上岳	葦ヶ崎～種差海岸～キャンプ場、大開平～階上岳往復	9
67	7月22日	烏帽子岳	平ヶ倉口～千沼ヶ原～烏帽子岳～白沼～滝ノ上温泉	6
68	7月22日	早池峰	小田越コース	10
69	8月6日	女神山	女神山登山口～山頂～県境コース～登山口	7
70	8月18日	斜里岳	清岳荘登山口～山頂往復	3
71	8月19日	早池峰	小田越コース	9
72	8月19日	和賀岳	高下コース	11
73	8月25日	早池峰	河原ノ坊コース	6
74	8月26日	焼山	後生掛温泉～焼山～玉川温泉	16
75	8月26日	真昼岳、女神山	兎平～女神山往復	11
76	8月30日 ～9月2日	北アルプス(常念岳、燕岳)	一ノ沢口～常念岳～大天井岳～燕岳～有明荘	13
77	9月9日	岩手山	上坊コース	15
78	9月9日	姫神山	一本杉コース	8
79	9月9日	岩手山	柳沢コース	13
80	9月14日	高下岳	高畑コース	4
81	9月22日 ～9月24日	北股岳	飯豊山荘～梶川峰～門内岳～北股岳往復～門内小屋～丸森尾根～飯豊山荘	5
82	9月23日	秋田駒ヶ岳	小柳沢	6
83	9月30日	八森平山	飯森峠～八森平山～鳥居峠	6
84	9月30日	早池峰	小田越コース	13
85	10月6日 ～10月8日	浅間山・草津白根山	天狗温泉口ピストン他各登山口往復	9
86	10月6日 ～10月8日	裏岩手(岩手山～八幡平)	焼走り～岩手山～三ツ石山～大深山～八幡平	7
87	10月7日	片羽山(雄岳)	金山口ピストン	4
88	10月13日	奥産道(松川大橋)	松川大橋～分岐往復	17
89	10月14日	八幡平	八幡平ビジターセンター～蒸の湯	4
90	10月14日	真昼岳	峰越峠口～北真昼岳～真昼岳～兎平～善知鳥口	7
91	10月14日	栗駒山	須川温泉～昭和湖～栗駒山～中央コース～いわかがみ平	23
92	10月16日	東根山	ラフランスコース	6
93	10月20日 ～10月21日	姫神山	一本杉コース	24
94	10月21日	愛染山	箱根峠口ピストン	4
95	10月28日	岩手山	馬返し～四合目往復	28
96	11月4日	岩手山	馬返しコース	21
97	11月10日	姫神山	一本杉コース	6
98	11月23日	岩上山(遠野)	綾織口コース	12
99	12月1日 ～12月2日	遠島山、遠別岳	遠島山荘～山頂往復	8
100	12月2日	岩手山	馬返しコース	19
101	12月9日	岩手山	馬返しコース	6
102	12月9日	君が鼻山	鳥居峠～君が鼻山～君が鼻登山口	10
103	12月15日 ～12月16日	鶏頭山	岳コース	21

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
104	12月16日	つどいの森		11
105	12月23日	鬼ヶ瀬山(724m)	根田茂ロピストン	14

【2008年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月3日	鞍掛山	相ノ沢口(右周りコース)	13
2	1月3日	鞍掛山	左回りコース	6
3	1月6日	岩神山	区界ウオーキングセンター～頂上往復	9
4	1月6日	岩手山	柳沢コース	8
5	1月12日 ～1月13日	氷上山	玉山コース	7
6	1月13日	大松倉山	網張スキー場～双子林間コース	11
7	1月18日	朝島山	右回り周回コース	6
8	1月19日 ～1月20日	岩手山	馬返しコース	10
9	1月20日	桐ノ木沢山	桐ノ木沢ロピストン	6
10	1月20日	東根山	ラフランス温泉～山頂～水分神社	14
11	1月26日	三ツ石山	網張スキー場ピストン	8
12	1月27日	君が鼻山	君が鼻登山口～君が鼻山～中谷峠～関根	7
13	2月9日 ～2月10日	岩手山	網張コース	4
14	2月10日	石神山	区界ウオーキングセンター～山頂往復	6
15	2月10日	奥入瀬		6
16	2月10日	岩手山	馬返しコース	4
17	2月13日	太田薬師	猪去沢林道～山頂～神楽殿	3
18	2月16日 ～2月17日	東根山	ラフランス口～山頂往復	4
19	2月17日	奥入瀬		4
20	2月17日	笹森山	新月～笹森山～笹塞峠	10
21	2月24日	黒森山	深沢コース	5
22	3月10日	東根山	ラフランス口往復	7
23	3月13日	岩手山麓相ノ沢牧野	相ノ沢駐車場～牧野周遊	4
24	3月16日	太田山、大森山	笹塞峠～太田山～大森山～剣持峠	10
25	3月16日	栗駒山	いこいの村～山頂往復	11
26	3月23日	姫神山	一本杉～山頂～こわ坂	11
27	3月30日	乳頭山	孫六温泉ピストン	5
28	3月30日	八幡平	八幡平スキー場付近	13
29	4月6日	乳頭山	孫六コース	7
30	4月6日	桐ノ木沢山	去石地区～山頂～1216mピーク往復	7
31	4月6日	岩手山	馬返しコース	4
32	4月12日	岩手山	馬返しコース	4
33	4月13日	大黒森、屋棟岳、西森山	八幡平スキー場～安比スキー場	4
34	4月13日	宮古重茂半島とどが崎	姉吉キャンプ場～とどが崎灯台往復	5
35	4月13日	岩神山、兜明神岳	ウオーキングセンター～兜明神岳～岩神山往復	7
36	4月20日	阿部館山	とどまつ沢橋～阿部館山往復	7
37	4月20日	八甲田(田茂菴岳、赤倉岳)	ロープウェイ～赤倉岳～箒場岱	12
38	4月20日	国見山	周回コース	3
39	4月29日	眺望山、梵珠山(青森県)	東口～眺望山～西口、サワグルミ登山口～梵珠山往復	4

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
40	5月2日 ～5月5日	蓼科山・霧ヶ峰・美ヶ原・ 上高地	七合目登山口～蓼科山往復、車山肩～車山～ 蝶々深山～車山肩、山本小屋～王ヶ鼻往復、上 高地散策	7
41	5月3日	白神岳	マテ山コース	7
42	5月5日	男助山	高森山林道口～頂上往復	4
43	5月5日	仙人峠 観音岩		6
44	5月6日	黒石山(紫波町)	国道456号口～山頂往復	6
45	5月10日 ～5月11日	鳥海山	祓川コース	6
46	5月11日	白木峠、羽山	湯田側～白木峠往復、岩沢口～羽山周回コー ス	3
47	5月11日	栗駒山	須川温泉～昭和湖～頂上～県境～龍泉ヶ原～ 須川温泉	12
48	5月18日	折爪岳、馬仙峡	コロボックルランド～折爪岳～折爪岳登山口	7
49	5月18日	月山	姥沢口～山頂往復	4
50	5月18日	駒頭山	鉛温泉スキー場～山頂往復	7
51	5月22日	岩手山	御神坂コース	5
52	5月24日	アポイ岳	アポイ山麓自然公園～山頂～幌満花畑～八合 目～アポイ山麓自然公園	4
53	6月8日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース	9
54	6月8日	大荒沢岳	貝沢口～山頂往復	12
55	6月8日	早池峰	小田越コース	2
56	6月15日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース	19
57	6月21日	早池峰	小田越コース	4
58	6月22日	岩手山	柳沢コース	14
59	6月28日	早池峰	河原ノ坊～早池峰～鶏頭山～岳	6
60	6月29日	八甲田山	酸ヶ湯～八甲田大岳～毛無岱～酸ヶ湯	10
61	7月5日 ～7月6日	岩手山	柳沢コース	5
62	7月5日 ～7月6日	岩手山	柳沢コース	6
63	7月5日 ～7月6日	岩手山	馬返し～山頂～網張	3
64	7月6日	岩手山	柳沢コース	17
65	7月6日	岩手山	上坊コース	6
66	7月13日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	9
67	7月18日 ～7月21日	利尻山	利尻北麓野営場～長官山～頂上往復	4
68	7月19日 ～7月21日	四阿山、苗場山、皇海山	バルコール口、小赤沢口、不動沢口	9
69	7月20日	和賀山塊	高畑口～高下岳～大荒沢岳～沢尻岳～貝沢口	7
70	7月21日	葛根田川流域	南白沢	6
71	7月25日 ～7月26日	鳥海山	鉾立コース(帰路外輪山)	8
72	7月27日	和賀岳	真木溪谷～薬師岳～小杉山～和賀岳	8
73	7月27日	焼山	後生掛温泉～焼山～玉川温泉	16
74	8月2日 ～8月3日	鳥海山	祓川コース	3
75	8月2日 ～8月5日	白馬岳	猿倉～白馬岳～杓子岳～鍮ガ岳～鍮温泉～猿 倉	11
76	8月9日	八幡平	八幡平駐車場～頂上往復	3
77	8月17日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	9

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
78	9月7日	岩手山	上坊コース	10
79	9月7日	岩手山	柳沢コース(かもしかチーム)	8
80	9月7日	姫神山	一本杉コース	5
81	9月7日	岩手山	柳沢コース(熊さんチーム)	7
82	9月10日	七折の滝	嫁ガ淵登山口～折合沢～七折の滝～岳	4
83	9月13日 ～9月15日	裏岩手	八幡平見返り峠～大深岳～大白森～蟹場	4
84	9月14日	愛染山	箱根峠～頂上往復	3
85	9月20日	七時雨山	七時雨山荘～南峰往復	3
86	9月23日	磐梯山	八方台コース	23
87	9月28日	森吉山	様田コース	23
88	9月28日	五葉山	赤坂峠コース	3
89	10月5日	小岳(1,042m、白神山地)	素波里湖～小岳林道～山頂往復	2
90	10月5日	三ツ石山	松川温泉奥産道～山頂往復	4
91	10月12日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	10
92	10月18日	姫神山	一本杉コース	3
93	10月18日	七折の滝	岳～嫁ヶ淵口～七折の滝～岳	8
94	10月26日	岩手山	柳沢コース	17
95	11月2日	岩手山	柳沢コース	9
96	11月15日 ～11月16日	三ツ石山	奥産道網張口～三ツ石山荘～三ツ石山～小畚 ～三ツ石小屋～奥産道～網張	15
97	11月16日	八方山	長根崎コース	16
98	11月23日	角ノ浜、階上岳山麓	角ノ浜県境～階上岳山麓～階上岳牧場	15
99	11月24日	宇霊羅山	金山コース	11
100	12月7日	田沢山	田沢山登山口～田沢山～東根山～ラフランス温泉	23
101	12月7日	鯨山	大沢川コース	3
102	12月13日 ～12月14日	早池峰小田越	岳～うすゆき山荘～小田越往復	5
103	12月13日 ～12月14日	鶏頭山	岳コース	14
104	12月17日	鬼ヶ瀬山	鬼ヶ瀬山登山口～山頂往復	5
105	12月21日	網張スキー場	駐車場～第三リフト上尾根往復	7
106	12月21日	階上岳	ソウケ峠～階上岳～階上牧場	13

【2009年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月3日	鞍掛山	時計廻りルート	20
2	1月4日	岩神山	ウォーキングセンター～市境ルート～岩神山～ 兜山荘～ウォーキングセンター	7
3	1月4日	東根山	ラフランスロピストン	8
4	1月11日	砥森山	大平口～山頂往復	11
5	1月11日 ～1月12日	岩手山	柳沢コース	14
6	1月17日 ～1月18日	三ツ石山	網張スキー場～山頂往復	13
7	1月18日	剣持峠	剣持峠～国道18号出合～大岳～林道出合	15
8	1月25日	桐ノ木沢山	国道106号口～桐ノ木沢山～区界牧場	11
9	1月25日	七ツ森	勘十郎森～鉢森～石倉森～生森～七ツ森小学 校	11
10	2月7日 ～2月8日	八幡平	秋田八幡平スキー場～八幡平山頂往復	8

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
11	2月8日	青麻山	蔵王町口～青麻山往復	8
12	2月8日	箱ヶ森	猪去沢コース	11
13	2月8日	八幡平	秋田八幡平スキー場～八幡平頂上往復	6
14	2月11日	長崎山、愛宕山	林道口～長崎山～愛宕山下林道～極道346号	8
15	2月15日	兜明神岳	兜神社～兜明神岳往復	5
16	2月22日	高洞山	上米内駅～高洞山往復	4
17	2月22日	山形蔵王(熊野岳)	蔵王温泉スキー場～パラダイスリフト～地蔵山往復	18
18	2月22日	岩神山	区界ウォーキングセンター～兜山荘～岩神山往復	5
19	3月1日	神宮寺山	岳見口～尾根道～神宮寺山往復	4
20	3月8日	姫神山	一本杉～姫神山～こわ坂	12
21	3月8日	八幡平	八幡平スキー場周辺	14
22	3月15日	笹倉山	伊達山林道口～笹倉山往復	5
23	3月15日	高下岳	高畑コース	8
24	3月21日 ～3月22日	岩手山	網張コース	4
25	3月22日	論山、大籠	国道346号～論山～国道346号～大籠	11
26	4月4日 ～4月5日	和賀岳	貝沢コース	7
27	4月5日	経塚山、東稲山	木工芸館～経塚山～東稲山往復	9
28	4月5日	大黒森、屋棟岳、西森山	八幡平スキー場～大黒森～屋棟岳～西森山～安比高原スキー場	4
29	4月11日 ～4月12日	和賀山塊(和賀岳)	高畑口～高下岳～根菅分岐～和賀岳～根菅分岐～大荒沢岳～貝沢口	4
30	4月11日 ～4月12日	白神岳登山と十二湖周辺散策	マテ山コース	7
31	4月12日	御駒山、大土ガ森(宮城県)	国立少年自然の家～御駒山往復、登山口～大土ガ森往復	4
32	4月12日	秋田駒ヶ岳	アルパこまくさ～八合目～女目岳往復	8
33	4月19日	岩手山(五合目付近)	柳沢コース	15
34	4月19日	乳頭山	孫六温泉～田代岱～乳頭山～孫六温泉	3
35	4月29日	八幡平	八幡平頂上～ふけの湯～頂上～源太森往復	4
36	4月29日	岩岳、夫婦岩	第一登山口～岩岳～第二登山口、登山口～夫婦岩往復	3
37	4月29日	仙岩峠、貝吹山、ひや瀉	仙岩トンネル～仙岩峠～貝吹山～ひや瀉往復～仙岩トンネル	9
38	5月2日 ～5月6日	伊吹山、荒島山、赤城山	伊吹山登山口～伊吹山頂上～頂上駐車場、カドハラススキー場～荒島岳往復、赤城山駐車場～駒ヶ岳～黒檜山～湖畔	8
39	5月3日	大森	花山村登山口～大森往復	5
40	5月9日 ～5月10日	鳥海山	祓川コース	5
41	5月10日	八幡平	見返り峠付近	19
42	5月10日	矢越山、大森山	矢越神社～矢越山往復、赤金台見晴所口～大森山往復	4
43	5月10日	増川岳	増川川口～頂上往復	5
44	5月13日 ～5月14日	五葉山	あすなろ山荘～大松コース付近	2
45	5月16日	五葉山	赤坂峠～大松コース付近	4
46	5月16日	五葉山	あすなろ山荘～桧山コース&大松コース	16
47	5月17日	五葉山	あすなろ山荘～大松コース付近	12
48	5月24日	五葉山	黒岩コース周回、桧山コース～黒岩往復	17

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
49	5月24日	五葉山	大松コース(コウベゴウリ沢、登山道周辺)	8
50	5月28日 ～5月29日	アポイ岳	冬島口～馬ノ背～アポイ岳～幌満お花畑～冬島口	9
51	5月30日 ～5月31日	礼文岳	内路口～礼文岳往復	6
52	5月31日	片羽山・雄岳	青ノ木橋コース	11
53	6月9日	紫波三山	ラフランス口～東根山～南昌山～赤林山～矢巾温泉	11
54	6月14日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース	11
55	6月14日	国見温泉周辺の県境	国見温泉口～ヒヤ瀧～笹森山～横長根への途中で引返し	6
56	6月14日	ナメコ山	西又沢～ナメコ山～権現神社	7
57	6月21日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース	22
58	6月28日	岩手山	柳沢コース(4合目付近まで)	22
59	7月3日 ～7月5日	志津倉山	登山口～三本松～志津倉山～大辺峠分岐～登山口	5
60	7月5日	岩手山	上坊コース	5
61	7月5日	岩手山	柳沢コース	10
62	7月12日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	12
63	7月17日 ～7月20日	雌阿寒岳(五合目まで)	雌阿寒温泉口ピストン	3
64	7月18日 ～7月20日	八ヶ岳(赤岳)	美濃戸口～行者小屋～赤岳～横岳～硫黄岳～赤岳鉱泉～美濃戸口	7
65	8月1日	鳥海山	鉾立コース	4
66	8月1日 ～8月2日	秋田駒ヶ岳	小柳沢	14
67	8月1日 ～8月2日	鳥海山	湯の台コース	6
68	8月9日	乳頭山～千沼ヶ原	滝ノ上温泉～乳頭山～千沼ヶ原～滝ノ上温泉	9
69	8月22日	女神山麓	女神山登山口～白糸の滝～降る滝～登山口	7
70	8月23日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	18
71	8月28日 ～8月29日	摩耶山	越沢口～夫婦滝～摩耶山～追分分岐～越沢口	4
72	8月29日	三ツ石山	松川温泉コース	7
73	8月29日	八幡平	八幡平頂上～源太森～茶臼岳～茶臼口	6
74	8月30日	薬師岳、大甲、甲	薬師岳登山口～ぶな台～滝倉～倉方～薬師岳～大甲～甲～登山口	6
75	9月4日 ～9月6日	木曾駒ヶ岳、御嶽山	千畳敷コース、大滝口～御嶽山～黒沢口	9
76	9月5日	岩手山	柳沢コース	6
77	9月5日	姫神山	一本杉コース	4
78	9月6日	岩手山	柳沢コース	17
79	9月6日	姫神山	一本杉コース	7
80	9月6日	岩手山	上坊コース	7
81	9月13日	裏岩手	網張～大松倉山～三ツ石山～小畚山往復～三ツ石小屋～奥産道～網張	5
82	9月19日 ～9月22日	恵那山、御嶽山、乗鞍岳	広川原～恵那山往復、田ノ原～御嶽山(剣ヶ峰)往復、豊平～乗鞍岳(剣ヶ峰)往復	4
83	9月20日	八幡平(中ノ又沢)	宝仙湖～林道車止～取水堰堤～作業道下山	4
84	9月20日 ～9月21日	那須岳、二岐山	那須登山口～峰の茶屋～朝日岳往復～茶臼岳～ロープウェイ、御鍋神社～二岐山往復	4
85	9月23日	女神山	県境周回コース	8
86	9月23日	片羽山(雄岳)	金山口～大平コース出合～雄岳往復	9

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
87	9月26日	岩山	漆芸美術館～頂上往復	5
88	9月26日 ～9月27日	横長根、烏帽子岳	国見温泉～横長根～横岳～湯森山～烏帽子岳 ～蟹場温泉	5
89	9月27日	裏岩手	網張～大松倉～三ツ石山～小畚往復～松川温泉	21
90	10月3日 ～10月4日	薬師岳	小田越コース(タイマグラ泊)	4
91	10月4日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	10
92	10月11日	大白森	鶴の湯温泉～大白森往復	9
93	10月11日 ～10月12日	吹越烏帽子岳、縫道石山	二又川口～吹越烏帽子岳往復、野平林道口～ 縫道石山往復	7
94	10月17日	姫神山	一本杉コース	4
95	10月17日	安比高原	安比高原ブナの駅～ブナ二次林散策	14
96	10月24日 ～10月25日	三ツ石山、八幡平	奥産道(松川)～三ツ石小屋往復、見返り峠～大 深岳～松川温泉	9
97	10月25日	岩手山	柳沢コース	8
98	10月25日	一切経山、東吾妻山	浄土平～一切経山～東吾妻山～浄土平	19
99	10月31日	駒頭山	鉛温泉口～山頂往復	10
100	11月1日	羽山(599.9m)	取水地～展望台～羽山～取水地	8
101	11月14日	東根山	ラフランスコース	7
102	11月14日 ～11月15日	金華山	沢コース	6
103	11月29日	六角牛山	峠登山口～山頂往復	12
104	11月29日	岩手山	柳沢コース	17
105	12月5日 ～12月6日	岩手山	柳沢コース(八合目まで)	7
106	12月6日	氷上山	玉山高原センター～山頂往復	5
107	12月12日 ～12月13日	鶏頭山	岳コース	18
108	12月20日	ノウケ峠、売井坂(青森 県境)	ノウケ峠～売井坂	6
109	12月23日	姫神山	城内コース	16
110	12月23日	網張スキー場	スキー場内	7
111	12月26日	姫神山	一本杉～山頂～城内	9

【2010年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月3日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	24
2	1月10日	黒森山	深沢コース	6
3	1月10日	三ツ石山	網張コース	5
4	1月10日 ～1月11日	三ツ石山	網張コース	8
5	1月10日 ～1月11日	岩手山	柳沢コース	9
6	1月17日	岩神山	区界ウオーキングセンター～岩神山往復	6
7	1月17日	青森県境	売井坂～国道340号出合	7
8	1月24日	黒石山	あらえびす～登山口～山頂往復	5
9	1月25日	生藤山(神奈川県)	佐野川峠～生藤山～連行山～和田峠	4
10	2月6日	奥入瀬		4
11	2月7日	岩神山、安倍館山	区界～岩神山～安倍館山手前P1174往復	5
12	2月7日	兜明神岳	兜神社～山頂往復	6

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
13	2月7日	箱ヶ森(865.5m)	猪去沢コース	8
14	2月11日	奥入瀬	氷柱、グリーンミレット	8
15	2月11日	青森県境	青葉湖～260P～売井坂	10
16	2月13日 ～2月14日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	7
17	2月14日	奥入瀬	氷柱、グリーンミレット	6
18	2月14日	高洞山	上米内駅～山頂往復	8
19	2月20日	霊山(福島県)	左回り周回コース	10
20	2月20日 ～2月21日	東根山	ラフランスコース	5
21	2月21日	奥入瀬	氷柱、グリーンミレット	4
22	2月21日	森吉山	阿仁スキー場～山頂往復	15
23	2月21日	東根山	ラフランスコース	3
24	2月27日 ～2月28日	山形蔵王(熊野岳)	ロープウェイ～熊野岳往復	5
25	2月28日	姫神山	こわ坂～山頂～一本杉	11
26	3月7日	赤林山	矢巾温泉～山頂往復	3
27	3月7日	男助山	鶯宿温泉～峠坂まで	4
28	3月13日 ～3月14日	乳頭山	孫六～山頂往復	4
29	3月14日	青森県境	青葉湖～笹目～260P	8
30	3月20日	三陸海岸	浄土ヶ浜自然歩道	8
31	3月20日	黒森山	峠口～黒森山～深沢口	3
32	3月22日	鎌倉森	網張温泉ビジターセンター～山頂往復	10
33	3月28日	中倉山	下倉スキー場～下倉～中倉～上倉～松川温泉	3
34	4月4日	鯨山(大槌町)	大槌青少年の家～大沢川コース～鯨山～リアスの丘～青少年の家	6
35	4月11日	八甲田(田茂泡岳、赤倉岳)	ロープウェイ～赤倉岳～箒場岱	4
36	4月11日	御駒山、大土ガ森	国立少年自然の家～分岐～御駒山～林道出合、細倉マイクパーク側登山口～大土ガ森往復	3
37	4月11日	秋田駒ヶ岳付近(県境)	国見温泉～横長根～笹森山～国見温泉	10
38	4月17日	男助山、女助山	ケツパレランド～男助山往復、女助山登山口～山頂往復	6
39	4月17日 ～4月18日	金華山、硯上山	金華山神社～沢コース～金華山～千畳敷、雄勝峠口～硯上山往復	6
40	4月18日	源太ヶ岳	松川～源太ヶ岳～大部岳下部往復	6
41	4月18日	岩手山(五号目付近まで)	柳沢コース	22
42	4月18日	岩手山	柳沢コース(6合目まで)	6
43	4月24日 ～4月25日	八幡平(陵雲荘泊)	八幡平P～陵雲荘～源太森往復	7
44	4月25日	焼石岳	つぶ沼スキーツアーコース	6
45	4月25日	羽山、羽黒山	取水地登山口～羽山～羽黒山～和賀スキー場	5
46	5月2日 ～5月4日	大台ヶ原(1695m)、大峰山(1915m)、御在所岳(1212m)	大台ヶ原駐車場～日出ヶ岳～大蛇岨周回、行者環トンネル口～八経ヶ岳往復、御在所ロープウェイ～御在所岳往復	4
47	5月2日 ～5月6日	屋久島(宮之浦岳、縄文杉)、開聞岳、韓国岳	淀川口～宮之浦岳往復、荒川口～大株歩道～縄文杉往復、ふれあい公園～開聞岳往復、えびの高原口～韓国岳往復	10
48	5月3日	泉ガ岳(1172m)	表コース～山頂～水神コース	6
49	5月9日	八幡平	八幡平第2駐車場付近	15
50	5月16日	安家森、遠別岳、平庭岳	袖山高原口～安家森～遠別岳～平庭岳～平庭峠	6

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
51	5月16日	青森県境	軽米～小手屋森～市民の森～金田一	8
52	5月20日 ～5月21日	白神岳	鱈山(まてやま)コース	5
53	5月22日 ～5月23日	七時雨山、稲庭岳	田代平コース、高曲原コース	8
54	5月23日	早池峰	河原ノ坊～早池峰～小田越	12
55	5月29日 ～5月30日	天狗岳(白神山地)	天狗峠～天狗岳往復	11
56	5月30日	高森(700.4m)	砂子沢～林道分岐～滝～登山口～高森往復	5
57	6月6日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース	4
58	6月6日	志和三山(東根山、南昌山、赤林山)	ラフランス～東根山～南昌山～赤林山～矢幅温泉	8
59	6月8日	六角牛山	峠口～休石～六角牛山～中沢口	5
60	6月8日	秋田駒ヶ岳	秋田八合目コース	3
61	6月12日	七時雨山	七時雨山荘～山頂往復	4
62	6月13日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース、秋田八合目コース	25
63	6月13日	真昼岳	兎平コース	6
64	6月13日	真山、本山、毛無森(秋田・男鹿)	真山神社～真山～本山～毛無森～門前	3
65	6月26日	岩神山	区界・白樺ホール～山頂往復	3
66	6月27日	栗駒山(1627.7m)	須川コース	5
67	6月27日	早池峰	小田越～早池峰～鶏頭山～岳	8
68	7月4日	岩手山	上坊コース	8
69	7月4日	岩手山	御神坂コース	6
70	7月4日	岩手山	柳沢コース	11
71	7月11日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	5
72	7月11日	南本内岳	新倉沢周回コース	5
73	7月17日 ～7月19日	白馬岳	猿倉～白馬岳～乗鞍岳～樽池	3
74	7月18日	秋田駒ヶ岳	秋田八合目コース(周回)	3
75	7月18日	雌阿寒岳	雌阿寒温泉～雌阿寒岳往復	4
76	7月18日	和賀岳	秋田甘露水口～薬師岳～小杉山～和賀岳往復	4
77	7月24日 ～7月25日	五葉山	赤坂コース(ジャクナゲ山荘まで)	3
78	7月25日	南蔵王(屏風岳)	刈田峠～屏風岳往復	38
79	7月31日 ～8月1日	会津駒ヶ岳	滝沢ロピストン	4
80	8月1日	秋田駒ヶ岳	秋田駒ヶ岳八合目～笹森山～湯森山往復	20
81	8月7日 ～8月8日	鳥海山(2,286m)	湯の台コース～山頂～千蛇谷～鳥海湖～湯の台口	7
82	8月8日	和賀岳	高下コース	6
83	8月10日	三ツ石山	網張コース	3
84	8月21日 ～8月23日	鹿島槍ヶ岳	柏原新道口～爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳往復	8
85	8月22日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	12
86	8月22日	虎毛山	赤倉橋口～山頂往復	4
87	8月29日	和賀山塊(和賀岳、薬師岳)	甘露水～薬師岳～小杉山～和賀岳往復	7
88	8月29日	裏岩手(源太ヶ岳、大深岳、三ツ石山)	松川～源太ヶ岳～三ツ石山～松川	8
89	8月29日	八幡平(大沢森)	大沢	11
90	8月31日	片羽山(雄山)	金山登山口～片羽山往復	4

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
91	9月5日	岩手山	上坊コース	12
92	9月5日	岩手山	柳沢コース	11
93	9月5日	岩手山	松川温泉～姥倉山～お花畑～岩手山～馬返し	5
94	9月5日	岩手山	御神坂コース	10
95	9月5日	姫神山	田代コース	8
96	9月17日 ～9月23日	宮島、大山	宮島アイランドトレッキング、大山キャンプ場～大山往復	3
97	9月18日 ～9月19日	大朝日岳(1870m)	日暮沢～竜門岳～大朝日岳	3
98	9月18日 ～9月20日	立山・奥大日岳	室堂～雄山～真砂岳～別山～雷鳥沢ヒュッテ～室堂	4
99	9月19日 ～9月20日	大朝日岳	日暮沢～古寺山～大朝日岳～西朝日岳～竜門山～日暮沢	4
100	9月25日	大平山(奥岳)	旭又コース	8
101	9月25日 ～9月26日	秋田県境(峰越峠～甲山分岐)	峰越峠～鹿の子山～風鞍～中ノ沢岳～甲山分岐～登山口	8
102	10月2日	大空滝	中山峠コース	11
103	10月3日	栗駒山(1627.4m)	須川温泉～山頂～イワカガミ平	19
104	10月3日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	7
105	10月9日	八甲田山	酸ヶ湯～仙人岱～大岳～毛無岱～酸ヶ湯	4
106	10月11日	岩手山	上坊～平笠～頂上往復～七滝	8
107	10月16日	姫神山	一本杉コース	3
108	10月17日	金ヶ崎駒ヶ岳	藩境コース	7
109	10月23日	堺の神岳、害鷹森	和井内～境の神岳～害鷹森～夏屋	7
110	10月24日	岩手山	柳沢コース	10
111	10月24日	女神山(秋田県境)	女神山登山口～女神山～県境尾根～P870m～尾根分岐～登山口	6
112	10月26日	東根山	ラフランス～東根山～ヘッタクレ～南昌山口	4
113	10月30日	八幡平、三ツ石山	松川奥産道～三ツ石山往復、見返り峠～八幡平陵雲荘往復	16
114	10月31日	大白森	鶴の湯～小白森～大白森往復	13
115	11月7日	白木峠から巢郷(秋田県境)	白木峠口～白木峠～県境～巢郷	6
116	11月7日	岩手山	柳沢コース	11
117	11月13日 ～11月14日	白神山地	マテ山コース～山頂～十二湖コース	9
118	11月13日 ～11月14日	遠島山	内間木洞コース	8
119	11月14日	稲庭岳	高原コース～稲庭岳～駒形神社コース	6
120	11月20日 ～11月21日	遠島山	内間木洞コース	11
121	11月23日	霞露ヶ岳(508.5m)	澁磯海岸周回コース(左回り)	20
122	11月29日	氷上山	玉山コース	4
123	12月4日 ～12月5日	岩手山	柳沢コース	11
124	12月5日	氷上山	玉山高原コース	4
125	12月11日 ～12月12日	鶏頭山	岳コース	16
126	12月18日 ～12月19日	五葉山	赤坂峠コース	4
127	12月19日	姫神山	城内コース	11
128	12月19日	高城山、蚕飼山	大籠～七曲峠	8

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
129	12月25日 ～12月26日	朝島山、太田薬師、鞍掛山	三山とも一般コース	16

【2011年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月3日	鞍掛山	相ノ沢コース	19
2	1月9日	網張スキー場		11
3	1月9日	赤林山	矢巾温泉コース	4
4	1月9日 ～1月10日	岩手山	柳沢コース	8
5	1月9日 ～1月10日	岩手山	柳沢コース	7
6	1月10日	東根山	ラフランスコース	5
7	1月10日	岩神山	区界ウオーキングセンター～岩神山往復	6
8	1月15日 ～1月16日	三ツ石山	網張コース	8
9	1月16日	朝島山	中央コース	3
10	1月16日	宮城県境	七曲峠～北上川出合	8
11	1月23日	桐ノ木沢山	桐ノ木沢口～桐ノ木沢山往復	6
12	1月23日	黒森山	深沢コース	3
13	2月1日	志賀来山	スキー場コース	3
14	2月5日 ～2月6日	八幡平	秋田八幡平スキー場～陵雲荘往復	9
15	2月5日 ～2月6日	奥入瀬	氷柱、グリーンミレット	5
16	2月6日	兜明神岳	兜神社～山頂往復	6
17	2月6日	箱が森(865.5m)	猪去沢コース～山頂～マクラヤマコース	11
18	2月11日	大峠		4
19	2月11日	志賀来山(563.5m)	スキー場コース	8
20	2月11日	秋田八幡平	秋田八幡平スキー場ピストン	6
21	2月13日	三ツ石山(1466m)	網張コース	4
22	2月13日	大峠		4
23	2月13日	七ツ森	清掃センター～鉢森～石倉森～生森～林道出合	10
24	2月19日	種山が原〔物見山(870.6m)〕	遊林ランドコース	9
25	2月20日	大峠		6
26	2月20日	宮城県境(花泉／金成)	北上川(花泉)～東北線石越駅北側	9
27	2月20日	大深岳	下倉スキー場～中倉～大深岳往復	4
28	2月22日	黒森山	深沢コース	3
29	2月27日	姥倉山周辺	網張～姥倉山～県民の森	12
30	2月27日	高洞山	上米内駅～山頂往復	3
31	3月5日	小白森	岳～笠詰沢林道～小白森往復	3
32	3月6日	宰郷山	友愛の里～山頂往復	3
33	4月3日	釜石市大町	(木皿宏子さん土蔵)	5
34	4月3日	釜石市大町	(田丸スポーツ)	10
35	4月10日	釜石市大町	(宮田ミワ宅)	11
36	4月16日 ～4月17日	釜石、大槌	(鈴木園子さん宅、木皿宏子さん宅、三浦勝男さん宅、三浦さん友人宅)	20
37	4月28日 ～5月3日	石鎚山、剣山、大山	石鎚ロープウェイ～石鎚山往復、見ノ越～剣山往復、大山寺口～大山往復	8

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
38	5月2日 ～5月6日	祖母山(1756m)、九重山、阿蘇山	尾平～祖母山往復、牧ノ戸峠～久住山～中岳～雨ヶ池越～くじゅう登山口、仙酔峡～高岳～中岳～火口東	9
39	5月8日	八幡平	見返り峠付近	13
40	5月15日	花輪峠、皮投岳	花輪峠～皮投岳～大森	8
41	5月15日	男助山	ケツパレランド口～山頂往復	6
42	5月15日	三ツ石山	松川温泉コース	13
43	5月19日	男助山、女助山	女助山登山口～女助往復、ケツパレランド～男助山往復	3
44	6月4日	秋田駒ヶ岳	国見温泉～横長根～男女岳～男岳～小岳谷～国見温泉	7
45	6月4日	釜石地域	労山会員宅(2人)	5
46	6月5日	いこいの森	研修室、野外	30
47	6月11日	七時雨山	七時雨山荘～山頂往復	7
48	6月11日 ～6月12日	観音岩(遠野)		12
49	6月12日	秋田駒ヶ岳	国見温泉～横長根～御坪分岐～水沢分岐～男岳～横岳～横長根～国見温泉	10
50	6月12日	岩手山	御神坂コース	8
51	6月18日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	22
52	6月19日	早池峰	小田越コース	2
53	6月19日	四角岳、中岳	田子登山口～四角岳～中岳往復	7
54	6月19日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	12
55	7月2日 ～7月3日	岩手山	柳沢コース	5
56	7月3日	岩手山	上坊コース	5
57	7月3日	岩手山	御神坂コース	4
58	7月3日	岩手山	柳沢コース	9
59	7月3日	姫神山	一本杉コース	5
60	7月10日	八甲田山 大岳	酸ヶ湯温泉～仙人岱～大岳～毛無岱～酸ヶ湯温泉	22
61	7月15日 ～7月17日	後立山(唐松岳、五竜岳)	八方尾根～唐松岳～五竜岳～遠見尾根	3
62	7月16日 ～7月18日	朝日連峰(以東岳)	泡滝ダム～以東岳～日暮沢	5
63	7月17日	源太ヶ岳	松川口～源太ヶ岳～大深山荘～松川口	7
64	7月23日	秋田県境	湯川温泉～浮島～巢郷温泉	7
65	7月24日	牛形山、鷲ヶ森山	夏油温泉～牛形山～鷲ヶ森山～夏油温泉	10
66	7月24日	八幡平(小和瀬川)	中ノ又沢	15
67	7月26日	五葉山	赤坂峠コース	5
68	7月31日	秋田駒ヶ岳	秋田八合目コース	19
69	7月31日	大雪山	姿見の池～旭岳～北鎮岳～黒岳～層雲峡温	6
70	8月6日 ～8月7日	葛根田川	滝ノ上温泉～葛根田川～八瀬森山荘～滝ノ上温泉	6
71	8月7日	岩手山	松川～山頂～上坊	7
72	8月21日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	3
73	8月21日	秋田県境(三森山)	横手市三森山登山口～三森山往復	6
74	8月25日	朝島山	中央コース～山頂～鉱石跡コース	7
75	8月28日	経塚山	夏油温泉コース	6
76	8月29日	八幡平	茶臼口～八幡平～見返峠	7
77	9月10日 ～9月12日	北アルプス(五竜岳、唐松岳)	八方尾根～唐松岳～五竜岳～遠見	14

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
78	9月11日	岩手山	柳沢コース	8
79	9月11日	姫神山	一本杉コース	3
80	9月12日	大槌町	災害ボランティアセンター	3
81	9月13日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	3
82	9月13日	八幡平(大沢森)	大沢	3
83	9月17日 ～9月19日	白山	別当出合～甚之助小屋～山頂往復	2
84	9月18日	月山	姥沢口～山頂往復	3
85	9月23日	岩手山(四合目まで)	柳沢コース	16
86	9月25日	空雲山(902.3m)、送仙山	陸中穴沢・牧草地～空雲山往復、川口～浮島古墳群～送仙山	8
87	9月25日	三ツ石山(1466m)	松川温泉コース	21
88	9月27日	砥森山、石上山	国道107号口～砥森山往復、石上神社口～石上山往復	5
89	10月1日	八甲田山	酸ヶ湯～上毛無岱往復	6
90	10月1日	女神山	女神山登山口～女神山～県境コース～ブナ見平～登山口	11
91	10月2日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	10
92	10月2日	乳頭山、千沼ヶ原	孫六～田代平～乳頭山～千沼ヶ原往復	6
93	10月5日	黒倉山	網張コース	4
94	10月9日	安達太良山	奥岳温泉～ゴンドラ～安達太良山～くろがね小屋～奥岳温泉	18
95	10月10日	姫神山	田代口～姫神山～一本杉	7
96	10月10日	岩手山	柳沢コース	9
97	10月10日	岩手山	御神坂コース	6
98	10月23日	金ヶ崎駒ヶ岳	藩境ルート	9
99	10月29日	八幡平	黒谷地コース	9
100	10月30日	秋田県境(巢郷温泉から北部)	巢郷温泉～(北上)～白木峠登山口	14
101	11月3日	七時雨山	七時雨山荘～南峰ピストン	9
102	11月10日	源太ヶ岳	松川～源太ヶ岳～大深岳往復	4
103	11月12日 ～11月13日	北上・展勝地		9
104	11月13日	愛染山	箱崎峠コース	14
105	11月13日	岩手山	柳沢コース(八合目まで)	4
106	11月16日	赤林山	矢巾温泉口～赤林山往復	4
107	11月27日	岩手山(五合目付近)	柳沢コース	14
108	11月29日	朝島山	中央コース～山頂～立岩神社コース	6
109	12月3日	岩手山	柳沢コース	8
110	12月3日 ～12月4日	岩手山	柳沢コース	8
111	12月4日	砥森山	向田瀬バス停～山頂往復	9
112	12月10日 ～12月11日	鶏頭山	岳コース	14
113	12月11日	姫神山	城内コース	6
114	12月18日	青森県境(二戸市民の森～名久井岳肩)	市民の森～名久井岳分岐～山屋	7

【2012年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月3日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	7
2	1月7日	東根山	ラ・フランスコース	5

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
3	1月7日	犬倉、姥倉	網張～犬倉～姥倉往復	10
4	1月8日	岩神山	区界ウオーキングセンター～兜山荘ピストン	11
5	1月8日 ～1月9日	岩手山	柳沢コース	7
6	1月14日 ～1月15日	三ツ石山(1466m)	網張～三ツ石山往復	10
7	1月15日	赤林山	矢巾温泉コース	7
8	1月15日	朝島山	中央コース～朝島山～立石神社	3
9	1月15日	赤林山	矢巾温泉コース	8
10	1月21日	桐ノ木沢山	桐ノ木沢口～山頂往復	8
11	1月21日 ～1月22日	鶏頭山	岳コース	5
12	1月22日	八幡平 茶臼岳	旧スキー場～恵比寿森～茶臼岳～前山～アスピーテゲート	4
13	1月22日	名久井岳山麓(青森県境)	名久井岳肩～国道4号	6
14	1月26日	黒森山	深沢コース	4
15	2月5日	兜明神山	兜神社鳥居～山頂往復	5
16	2月5日	森吉山	阿仁スキー場～山頂往復	6
17	2月11日 ～2月12日	薬師岳	小田越コース	8
18	2月11日 ～2月12日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	10
19	2月12日	箱が森	猪去沢コース	6
20	2月19日	青森県境(名久井岳山麓)	名久井岳肩～国道4号	7
21	2月19日	大峠		5
22	2月23日	姫神山	一本杉コース	3
23	2月25日	網張、姥倉山、県民の森	網張スキー場～姥倉山北斜面～県民の森	9
24	2月26日	東根山	ラ・フランスコース	3
25	3月3日	秋田八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	5
26	3月4日	栗駒山	いこいの村～山頂往復	5
27	3月10日	鞍掛山	相ノ沢コース	7
28	3月10日 ～3月11日	早池峰(河原ノ坊付近)	岳～河原ノ坊往復	10
29	3月17日 ～3月18日	刈田岳	澄川スキー場～刈田岳往復	11
30	3月18日	氷上山	玉山高原～山頂往復	7
31	3月18日	岩神山、兜明神岳	区界高原ウオーキングセンター～岩神山～兜明神岳～ウオーキングセンター	5
32	3月20日	秋田駒ヶ岳	アルパこまくさ～八合目～男女岳往復	5
33	3月20日	鎌倉森	網張ビジターセンターコース	10
34	3月24日 ～3月25日	乳頭山	孫六温泉コース	6
35	3月25日	乳頭山	孫六温泉コース	4
36	4月1日	岩手山	御神坂コース	9
37	4月8日	秋田駒ヶ岳	仙岩峠～横長根～横岳往復	9
38	4月8日	岩手山	焼走り口～第1噴火口往復	10
39	4月14日 ～4月15日	八幡平(茶臼岳)	旧八幡平スキー場～恵比寿森～黒谷地往復～茶臼岳～八幡平スキー場	5
40	4月14日 ～4月15日	大崩・十二湖 白神岳	十二湖～大崩手前～日本キャニオン、マテ山コース	9

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
41	4月15日	焼石岳	つぶ沼コース(冬ルート)	6
42	4月22日	宮城県境	石越駅西側～県道48号出合	6
43	4月22日	万寿山、八方山	台温泉コース(右回り)、長根崎コース	5
44	4月22日	阿部館山	御大堂側からピストン	4
45	4月27日 ～5月4日	九州地方(祖母山・九重山・阿蘇山・開聞岳)	尾平口、牧ノ戸峠口、仙酔峡口、開聞岳口	7
46	4月29日	八幡平	八幡平頂上～黒谷地～茶臼～アスピーテ	5
47	4月29日	仙人山(882.2m)	仙人峠コース	11
48	5月3日 ～5月6日	剣山(1955m)、石鎚山(1982m)、大山(1711m)	見ノ越コース、山頂成就駅コース、大山寺コース	10
49	5月6日	高洞山	上米内駅口～山頂往復	7
50	5月12日 ～5月13日	八幡平	八幡平見返峠付近	5
51	5月13日	八幡平	見返峠付近	15
52	5月19日 ～5月20日	月山、鳥海山	月山リフト～姥ヶ岳往復、吹浦口～山頂往復	4
53	5月20日	櫃取湿原、早坂高原	散策ルートほか、早坂高原～巨木「シナノキ」	10
54	5月20日	男助山	ケツパレランド口～山頂往復	2
55	5月20日	岩手山	柳沢コース	2
56	5月20日	秋田県境(皮投岳～兄畑)	花輪峠～皮投岳～P873～林道南又沢	7
57	5月20日	北川目		7
58	5月24日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース	2
59	5月27日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	13
60	5月28日	田代平	七時雨口～三方沢山往復	6
61	6月3日	都南つどいの森		25
62	6月7日	西岳	奥中山スキー場コース	4
63	6月9日	北上展勝地	展勝地岩場	6
64	6月10日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	17
65	6月17日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース	4
66	6月17日	安家森、遠別岳	袖山口～安家森～遠別岳往復	6
67	6月24日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース	23
68	6月30日 ～7月1日	鎌倉山の岩場	西壁	5
69	7月1日	焼石岳	中沼コース	6
70	7月1日	焼石岳	中沼コース	7
71	7月1日	鎌倉山の岩場(宮城県作並)	左カンテ	4
72	7月8日	岩手山	上坊コース	8
73	7月8日	岩手山	御神坂コース	9
74	7月8日	姫神山	田代口～山頂～一本杉	9
75	7月8日	岩手山	柳沢コース	16
76	7月12日 ～7月17日	石鎚山、剣山、吉野川ラフティング	土小屋～石鎚山往復、見ノ越～剣山往復、大歩危ラフティング	6
77	7月13日 ～7月16日	鹿島槍ヶ岳、草津白根山	柏原新道ピストン、本白根周回コース(左回り)	2
78	7月14日	八幡平(松沢)	滝ノ上温泉～入溪～栗木が原～林道	4
79	7月14日 ～7月16日	小朝日岳、鳥原山	古寺鉱泉～古寺山～小朝日岳～鳥原山～古寺鉱泉	4
80	7月15日	斜里岳	清岳荘～旧道コース～斜里岳～新道コース～清岳荘	6
81	7月16日	雌阿寒岳	雌阿寒温泉コース	4

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
82	7月21日 ～7月22日	白神岳	鯉山コース	8
83	7月22日	千沼ヶ原	秋田駒八合目～湯森～笹森～千沼ヶ原～乳頭山～黒湯	7
84	7月22日	早池峰、鶏頭山	小田越～早池峰～鶏頭山～岳	10
85	7月22日	八幡平・大沢森	小和瀬川(大沢)	11
86	7月28日	五葉山	赤坂峠コース	7
87	7月28日	秋田県境	湯川沼から三森山(1162m)	7
88	7月29日	月山	姥沢～月山～八合目	24
89	8月5日	岩手山	御神坂コース～山頂～網張コース(鬼ヶ城)	8
90	8月5日	秋田駒ヶ岳	秋田八合目～男岳～男女岳～焼森～八合目	9
91	8月11日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	5
92	8月17日 ～8月19日	至仏山	鳩待峠～山ノ鼻～至仏山～鳩待峠	5
93	8月19日	和賀岳	真木溪谷コース	12
94	8月25日 ～8月26日	八幡平(葛根田川)	滝ノ上温泉～入溪～滝の又出合～八瀬森山荘～大深岳経由～滝の上温泉	11
95	8月26日	栗駒山	イワカガミ平～栗駒山～須川温泉	24
96	9月2日	岩手山	御神坂コース	7
97	9月2日	岩手山	網張コース	6
98	9月2日	岩手山	柳沢コース	10
99	9月2日	姫神山	田代コース～山頂～こわ坂コース	8
100	9月2日	岩手山	上坊コース	5
101	9月8日 ～9月10日	槍ヶ岳	上高地～横尾～槍ヶ岳～新穂高温泉	5
102	9月9日	岩手山	柳沢コース(馬返しキャンプ場)	16
103	9月16日	西吾妻山	吾妻国際スキー場リフト～西吾妻山往復	9
104	9月20日	三ツ石山	滝ノ上温泉コース	3
105	9月21日 ～11月3日	ネパール・クーンブ山群 バルンツェ(7,129m)	ルクラ～カーレ～セト・ポカリ～BC～バルンツェ往復	4
106	9月22日	大白森	鶴の湯～小白森～大白森往復	3
107	9月22日 ～9月23日	男体山	志津峠ピストン	8
108	9月23日	秋田県境(焼石大森山、 三界山)	焼石岳秋田側登山口～大森山～黒カッチ展望台～三界山手前～登山道～秋田側登山口	4
109	9月29日	焼石岳	中沼コース	4
110	9月29日	砥森山、石上山	向田瀬口～砥森山往復、石上神社口～石上山往復	8
111	9月30日	真昼岳	赤倉コース	10
112	10月7日	岩手山	七滝コース	5
113	10月7日	岩木山	百沢コース～山頂～嶽コース、嶽リフトコース往復	13
114	10月8日	八幡平 焼山	後生掛温泉～焼山～玉川温泉	11
115	10月20日	六角牛山	峠コース	4
116	10月20日	岩手山	御神坂～山頂～鬼ヶ城～網張	3
117	10月20日 ～10月21日	経塚山、焼石岳	中沼口～金明水小屋～経塚山往復～焼石岳～銀明水小屋～中沼口	4
118	10月27日	八幡平	黒谷地～陵雲荘	11
119	10月28日	飛竜山(598.8m)	旧宮守村登山口～飛竜山～三郡塚山往復	3
120	10月29日	階上岳、久慈平岳	階上岳登山口ピストン、久慈平岳キャンプ場～山頂～久慈平神社～体内くぐり～大和の丘森林公園	8

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
121	11月3日	南昌山	五合目登山口ピストン	12
122	11月4日	岩手山	柳沢コース	9
123	11月11日	宇霊羅山、音床山	金山林道登山口ピストン	11
124	11月11日	岩手山(五合目付近まで)	柳沢コース	20
125	11月23日 ～11月24日	遠島山、安家森、遠別岳	遠島山荘～遠島山往復、安家森口～安家森～安家森平～遠別岳～安家森口	6
126	11月25日	八方山(716.6m)	長根崎登山口～八方山往復	5
127	11月25日	青森県境	国道4号青岩大橋～県道32号出合	6
128	12月1日 ～12月2日	岩手山	柳沢コース	13
129	12月2日	氷上山	玉山コース	4
130	12月8日 ～12月9日	鶏頭山	岳コース	18
131	12月15日	青森県境	県道32号～十文字川出合～県道181号出合	7
132	12月16日	石上山	遠野登山口～馬留～アンドロメダ岩往復	6
133	12月23日 ～12月24日	五葉山	赤坂峠コース	9

【2013年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月6日	岩神山	区界ウオーキングセンター～山頂往復	14
2	1月6日	兜明神岳	区界ウオーキングセンター～山頂往復	16
3	1月10日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	3
4	1月12日	三ツ石山(1,466m)	網張スキー場～三ツ石山往復	6
5	1月12日 ～1月13日	三ツ石山(1,466m)	網張スキー場～三ツ石山往復	4
6	1月13日 ～1月14日	鶏頭山(1,445.1m)	岳コース	12
7	1月13日 ～1月14日	岩手山	柳沢コース	11
8	1月20日	朝島山	中央コース～山頂～立石神社	3
9	1月20日	志賀来山(563.5m)	スキー場コース	6
10	1月20日	宮城県境	県道48号～国道4号	7
11	1月20日	桐ノ木沢山	桐ノ木沢口～山頂～区界	8
12	1月29日	相ノ山	浮島経由コース	5
13	2月2日	薬師岳	岳～うすゆき山荘～西尾根～山頂往復	2
14	2月3日	太田薬師	太田薬師案内図～山頂往復	3
15	2月3日	箱ヶ森	猪去コース(周回)	10
16	2月9日 ～2月10日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	5
17	2月10日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	5
18	2月10日 ～2月11日	乳頭山	孫六温泉～山頂往復	8
19	2月14日	室根山	蟻塚公園～第二鳥居～山頂往復	3
20	2月17日	宮城県境	一関国道4号～萩荘	6
21	2月17日	高洞山	上米内駅～山頂往復	3
22	2月17日	大深岳	下倉スキー場～中倉往復	8
23	2月24日	赤林山	矢巾温泉コース	14
24	2月28日	小松倉山	網張スキー場駐車場～山頂往復	4
25	3月3日	栗駒山	いこいの村～山頂往復	6

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
26	3月16日 ～3月17日	三ツ石山	松川コース	9
27	3月17日	貝吹岳	仙岩トンネル入口～山頂往復	11
28	3月20日	金ヶ崎駒ヶ岳	正面コース	3
29	3月23日	高洞山	上米内駅～山頂往復	7
30	3月24日	宮城県境	一関日向～国道457号	7
31	3月24日	乳頭山、秋田駒ヶ岳	黒湯～乳頭山～笹森～湯森～焼森～八合目	7
32	3月25日	茶臼岳	八幡平スキー場～恵比寿森～茶臼岳往復	7
33	3月31日	鎌倉森(1316.9m)	網張ビジターセンター～鎌倉森～犬倉山～網張スキー場	11
34	3月31日	秋田駒ヶ岳	仙岩トンネル～横長根～横岳往復	13
35	4月10日	三ツ石山	秋張スキー場～山頂往復	3
36	4月13日 ～4月14日	和賀岳(高下岳まで)	高畑口～高下岳～根菅岳～和賀岳往復	5
37	4月13日 ～4月14日	和賀岳(高下岳まで)	高畑口～高下岳往復	7
38	4月13日 ～4月14日	岩手山	焼走コース	3
39	4月14日	焼石岳	ツブ沼冬ルート	13
40	4月14日	御駒山(522m)、大土ガ森(580m)／宮城県	少年自然の家～御駒山往復、細倉口～大土ガ森往復	3
41	4月20日	氷上山	玉山高原センターコース	4
42	4月25日	国見山	陣ヶ丘～国見山～珊瑚岳～陣ヶ丘	5
43	4月28日	裏岩手	松川温泉～丸森～上倉往復	7
44	4月27日 ～4月28日	三ツ石山	松川～三ツ石山荘往復	6
45	4月29日	小鯨山、鯨山	沢山口～小鯨山～電波塔管理道路～鯨山～青少年の家	11
46	5月2日	黒石山	あらえびす口(紫波町)～山頂往復	4
47	5月3日	鞍掛山	相ノ沢コース	3
48	5月3日 ～5月4日	岩木山、八甲田山	八合目～岩木山リフト～長平コース～ナクア白神、八甲田ロープウエー～大岳付近～酸ヶ湯	6
49	5月4日	八甲田山	ロープウエー～赤倉岳～箒場岱～レストハウス	4
50	5月5日	東根山	ラフランス温泉口～山頂往復	5
51	5月6日	黒森山	重石口～黒石山～深沢口	3
52	5月9日	朝島山	中央口～鉾石跡コース出合～朝島山～立岩神社口	6
53	5月12日	八幡平	第二駐車場前の斜面	24
54	5月12日	男助山	ケツパレランド～作業道口～山頂往復	5
55	5月18日	鳥海山	祓川コース	5
56	5月19日	駒頭山	鉛温泉スキー場～山頂往復	3
57	5月19日	鳥海山	祓川コース	13
58	5月19日	川目(岩場)		23
59	5月19日 ～5月20日	大峰山(1,915m)、大台ヶ原山(1,695m)	行者還コース、東大台周回(大台ヶ原ビジターセンター～右回コース)	5
60	5月23日	万寿山(410m)	台温泉周回コース(右回り)	3
61	5月25日	鳥海山	湯の台コース	4
62	6月2日	都南つどいの森		26
63	6月6日	薬師岳	小田越～薬師岳～小田越山荘～小田越	6
64	6月9日	中岳(1024.2m)、四角山(1003m)	切通林道コース	8
65	6月9日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	19

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
66	6月16日	秋田駒ヶ岳	国見コース	7
67	6月16日	秋田県境	三本岳山麓～兄畑	7
68	6月16日	千沼ヶ原	地熱造成口～千沼ヶ原往復	3
69	6月17日	薬師岳(1644.9m)	又一の滝コース～山頂～小田越山荘	6
70	6月23日	岩手山	七滝コース	5
71	6月23日	秋田駒ヶ岳	国見コース	24
72	6月23日	焼石岳	中沼コース	5
73	6月24日	愛染山	箱根峠コース～山頂～尾根コース	6
74	6月27日	七時雨山	七時雨山荘～南峰往復	4
75	6月29日	鎌倉山(岩場)	西壁	15
76	6月30日	七時雨山	田代平～山頂～寺田口	6
77	7月7日	岩手山(2038.2m)	柳沢コース	6
78	7月7日	岩手山(2038.2m)	柳沢コース	9
79	7月7日	姫神山	城内コース	5
80	7月7日	岩手山(2038.2m)	御神坂コース	7
81	7月7日	岩手山(2038.2m)	上坊コース	9
82	7月13日	富良野岳	十勝岳温泉～富良野岳往復	4
83	7月14日	十勝岳、美瑛山	望岳台～十勝岳～美瑛山～望岳台	6
84	7月17日	焼山(毛せん峠)	後生掛温泉～毛せん峠往復	5
85	7月21日	南本内岳(1,486m)	湿原コース～山頂～稜線コース	10
86	7月21日	八幡平・小和瀬川	中ノ又沢	18
87	7月27日	トムラウシ山	トムラウシ温泉コース(短縮コース)	6
88	8月4日	秋田駒ヶ岳、湯森山、烏帽子岳	秋田八合目～笹森山～湯森山～笹森山～烏帽子岳～黒湯	4
89	8月4日	沢尻岳、大荒沢岳	貝沢ルート往復	8
90	8月10日 ～8月11日	岩手山	柳沢コース	4
91	8月10日	秋田駒ヶ岳	秋田八合目周回コース(左回り)	4
92	8月12日 ～8月21日	ノルウェー ガルホピッケン峰(2,469m)		9
93	8月18日	奥羽山脈(秋田県境)	南本内林道880mP～蟻巣山往復	6
94	8月18日	高下岳	高畑コース	3
95	8月24日	八幡平(源太森)	見返峠～陵雲荘～源太森往復	4
96	8月24日 ～8月25日	八幡平(葛根田川)	滝ノ上温泉～葛根田本流～北ノ又沢～八瀬森山荘～大深岳～三ツ石山～滝ノ上温泉	13
97	8月25日	秋田駒ヶ岳、烏帽子岳	秋田駒8合目～笹森～湯森～笹森～烏帽子岳～黒湯	26
98	8月25日	岩手山	松川～山頂～上坊	6
99	9月1日	岩手山	網張～山頂～御神坂	16
100	9月1日	姫神山	一本杉コース	4
101	9月1日	岩手山	柳沢コース	10
102	9月4日	八幡平	見返りP～八幡平山頂～長沼～大沼	5
103	9月5日	折爪岳	江刺家周回Tkdコース	6
104	9月8日	馬返しキャンプ場		25
105	9月10日	早池峰、鶏頭山	小田越～早池峰～中岳～鶏頭山～岳	5
106	9月12日	鯨山	波板駅～山頂往復	4
107	9月14日 ～9月16日	笠ヶ岳(2,897m)	新穂高温泉～鏡平～笠ヶ岳～新穂高温泉	5
108	9月22日	三ツ石山	網張～三ツ石山～奥産道ゲート	8
109	9月22日	鎌倉山の岩場	西壁	7
110	9月28日	南本内岳	南本内沢～山頂往復	4

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
111	9月29日	展勝地		18
112	9月29日	八幡平	見返り峠～草の湯分岐～長沼～大沼	10
113	10月3日	石上山	登山口～籠堂小屋～山頂往復	5
114	10月5日 ～10月6日	観音岩(遠野)、展勝地 (北上)		12
115	10月6日	経塚山	夏油温泉コース	5
116	10月6日	栗駒山	東栗駒コース～山頂～中央コース	8
117	10月6日	宮城県境	自鏡山下～三日月山～一般道出合	5
118	10月10日	薬師岳、又一ノ滝	小田越～薬師岳～又一ノ滝～薬師堂～小田越	6
119	10月13日	森吉山	阿仁ゴンドラ～山頂～ヒバクラ登山口	11
120	10月19日	鳥海山	祓川コース	6
121	10月24日	鑪(たたら)山	鑪山公民館～鑪山～殿ヶ武士山～鑪山公民館	5
122	10月26日	三ツ石山	奥産道(網張口)～三ツ石山荘往復	19
123	11月2日 ～11月3日	恵山	高原コース～恵山～楳法華	2
124	11月9日	折爪岳、ニッ森	折爪口(二戸)～山頂往復、ニッ森口(一戸)～ 山頂往復	5
125	11月10日	七座山(287.4m)	天神口～七座山～松倉口	5
126	11月14日	八方山(716.6m)	尻平川コース～山頂～長根崎コース	6
127	11月16日	鑪山(たたらやま)	鑪山公民館～鑪山～殿ヶ武士山～鑪山公民館	4
128	11月16日	鎌倉山(岩場)	西壁	5
129	11月16日	宮城県境	三日月山下～枯木立山～県道49号	8
130	11月23日	岩手山(2038.2m)	柳沢コース	13
131	11月24日	砥森山	向田瀬～頂上往復	6
132	11月30日 ～12月1日	岩手山	柳沢コース	9
133	12月1日	矢越山(520m)、大森山 (760m)	ひこばえの森口～矢越山往復、太田清水口～大 森山往復	10
134	12月5日	遠島山	内間木コース	6
135	12月7日 ～12月8日	鶏頭山	岳コース	17
136	12月8日	堂ヶ沢山(364.5m)	花巻温泉～山頂往復	8
137	12月12日	太田薬師	猪去沢林道～山頂～表参道	4
138	12月15日	青森県境	十文字川出合い～漆沢林道出合い	8
139	12月22日	網張スキー場	第2リフト付近	17
140	12月23日	五葉山	赤坂峠コース	6
141	12月29日	黒石山	登山口(紫波町)～山頂往復	5
142	12月29日 ～12月30日	早池峰	河原ノ坊コース	12

【2014年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月4日 ～1月5日	兜明神岳	区界ウォーキングセンター～山頂往復	9
2	1月5日	岩神山	区界ウォーキングセンター～山頂往復	18
3	1月5日	兜明神岳	区界ウォーキングセンター～山頂往復	16
4	1月11日	三ツ石山(1,466m)	網張スキー場～三ツ石山往復	3
5	1月11日 ～1月12日	三ツ石山(1,466m)	網張スキー場～三ツ石山往復	6
6	1月12日	太田薬師	参道入口～頂上往復	3

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
7	1月12日 ～1月13日	兜明神岳、岩神山	ウォーキングセンター～兜明神岳～岩神山往復	6
8	1月16日	鶏頭山	岳コース	6
9	1月18日	宮城県境	枯木立山～県道49号	7
10	1月18日	八幡平	旧スキー場～恵比寿森～茶臼小屋往復	4
11	1月18日	姫神山	一本杉コース	4
12	1月19日	朝島山	中央コース～山頂～立岩神社コース	3
13	1月21日	高洞山	米内駅～山頂往復	6
14	2月2日	赤林山	箱根峠コース	5
15	2月2日	奥入瀬溪流	グリーンミレット、氷柱	3
16	2月6日	黒森山	深沢コース	4
17	2月11日	白神山地 田代岳 (1,178m)	林道五色滝～山頂往復	3
18	2月11日	鞍掛山(897.1m)	相ノ沢コース(右回り)	13
19	2月21日 ～2月25日	層雲峡	銀河、雲井など	5
20	2月22日 ～2月23日	乳頭山	孫六温泉～山頂往復	8
21	2月23日	森吉山	阿仁スキー場ゴンドラ～森吉山～旧森吉スキー場～テレマーク山荘	7
22	2月23日	高洞山	上米内駅～山頂往復	4
23	2月24日	月山(御殿山455.9m)	白浜口～頂上往復	5
24	3月1日 ～3月2日	西吾妻山、安達太良山	グランデコススキー場～西大顛～西吾妻小屋往復、安達太良高原スキー場周回	5
25	3月8日	網張周辺	網張～三ツ石山ツアーコース周辺	11
26	3月8日 ～3月9日	岩手山	柳沢コース	8
27	3月9日	網張周辺	網張スキー場～三ツ石山ツアーコース周辺	5
28	3月13日	鎌倉森	網張ビジターセンター～鎌倉森～犬倉山～スキー場レストハウス	7
29	3月15日 ～3月16日	早池峰うすゆき荘周辺	岳～県道コース	6
30	3月16日	貝吹岳	仙岩トンネル口～山頂往復	8
31	3月21日 ～3月22日	早池峰	岳～鶏頭山～中岳～早池峰～河原ノ坊～岳	6
32	3月23日	貝吹岳	仙岩トンネル口～山頂往復	11
33	3月29日	岩手山	相ノ沢から直登コース	4
34	4月6日	経塚山、東稲山	木工芸館～経塚山～東稲山往復	6
35	4月6日	赤林山(855m)	矢巾温泉～山頂往復	4
36	4月13日	焼石岳	ツブ沼コース(冬ルート)	7
37	4月19日	金ヶ崎駒ヶ岳、経塚山	金駒口～金ヶ崎駒ヶ岳～経塚山往復	6
38	4月19日	宮城県境	県道49号～鞍掛沼～岩目沢往復	9
39	4月20日	阿部館山(1,218m)	櫃取コース	15
40	4月20日	焼山	後生掛温泉～焼山往復	9
41	4月24日	鬼ヶ瀬山、黒森山、朝島山	鬼ヶ瀬登山口ピストン、キャンプ場コース、中央コース	9
42	4月26日 ～4月27日	丸森(宮城県)		12
43	4月27日	早池峰	門間林道～アイオン沢～山頂往復	2
44	4月29日	金華山(445.2m)	金華山港～金華山～二の御殿跡～金華山港	6
45	4月30日	経塚山、東稲山	月山口～経塚山～東稲山往復	5

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
46	5月3日 ～5月4日	八幡平、裏岩手	見返り峠～源太森～黒谷地～見返り峠P、陵雲 荘～蒸の湯方面1,490m往復	4
47	5月3日 ～5月5日	侍浜、白神岳	マテヤマコース(白神岳)	7
48	5月4日	八方山	長根崎コース	5
49	5月5日 ～5月6日	岩木山／八甲田山	長平コース、弥生コース／大岳～篝場岱、宮様 コース	11
50	5月6日	たたら山、鬼ヶ瀬山	たたら山公民館～山頂往復、根田茂口～山頂往 復	4
51	5月8日	朝島山	中央コース～鉱石跡コース～山頂～立岩神社 口	3
52	5月10日 ～5月11日	八幡平	見返峠周辺	8
53	5月11日	八幡平	見返り峠付近	28
54	5月11日	月山	姥沢コース	3
55	5月18日	川目		24
56	5月18日	岩手山	御神坂コース	4
57	5月24日	白木峠	国道107号～西和賀口～山頂往復	3
58	5月24日	秋田県境(三界山 1,381.1m)	焼石登山道(東成瀬村側)～三界山往復	6
59	5月25日	田代山	田代登山口～駒木立～田代山～登山口	6
60	5月31日	五葉山	黒岩コース～山頂～桧山コース	9
61	6月5日	西岳	奥中山自然休養村コース	5
62	6月8日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	17
63	6月14日	秋田・青森県境(四角岳)	田子町側～P834～四角岳～田子町側林道	8
64	6月14日 ～7月12日	ペルーアンデス ブランカ 山群 ワスカラン峰 (6,768m)、イシンカ峰 (5,530m)、トクラヤフ峰 (6,032m)	パシユパ～トクラヤフ&イシンカ、ムシヨ～ワスカ ラン	4
65	6月15日	岩手山(2038.2m)	柳沢コース(旧道～頂上～新道)	9
66	6月16日	秋田駒ヶ岳	国見温泉～男女岳(男岳)～八合目小屋	9
67	6月19日	七時雨山	田代平高原コース	3
68	6月22日	秋田駒ヶ岳	国見温泉コース、秋田八合目コース	23
69	6月28日	八幡平	松尾鉱山跡地	11
70	6月30日	五葉山(1,341.3m)	赤坂峠コース	4
71	7月3日	七折れの滝	岳口～七折れの滝～嫁ヶ淵口	4
72	7月5日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	5
73	7月6日	岩手山	柳沢コース	9
74	7月6日	岩手山	上坊コース	5
75	7月6日	姫神山	田代口～山頂～一本杉口	6
76	7月6日	岩手山	御神坂コース	5
77	7月6日	岩手山(2,038.2m)	柳沢コース	7
78	7月13日	焼石岳	中沼コース	9
79	7月13日	岩手山	柳沢コース	6
80	7月19日	四角岳周辺	道前田山林道(県境地点)～大倉森手前往復	5
81	7月19日 ～7月21日	大雪山旭岳・十勝岳	旭岳温泉コース・白金温泉コース	2
82	7月21日	岩手山	柳沢コース	4
83	7月26日	乳頭山・千沼ヶ原	滝ノ上温泉～乳頭山～千沼ヶ原～平ヶ倉沼	5
84	7月27日	西吾妻山	天元台コース	20
85	7月30日	月山(御殿山)455.7m	白浜口～山頂～白浜峠～白浜口	5

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
86	8月2日 ～8月3日	八甲田 逆川	逆川遡行～バツカイ沢下降	11
87	8月2日 ～8月3日	鳥海山	滝ノ小屋～河原宿～七高山～新山～七五三掛 ～御田ヶ原分岐～河原宿～滝ノ小屋	6
88	8月20日	七時雨山	田代平高原口～山頂往復	8
89	8月23日	青森県境(二戸市/田子町)	漆沢牧野～黒森山登山道出合～大倉森方面の 小ピーク往復	5
90	8月24日	早池峰	門馬コース	13
91	8月24日	姫神山	城内コース～山頂～コワ坂コース～一本杉	16
92	8月28日	田代岳	薄市沢口～烏帽子岳～田代岳～薄市沢口	5
93	9月4日	秋田駒ヶ岳	国見温泉～横長根分岐～水沢分岐～男岳～横 岳～横長根～国見温泉	5
94	9月7日	岩手山	網張コース(A班)	8
95	9月7日	岩手山	網張コース(B班)	8
96	9月7日	岩手山	柳沢コース	7
97	9月7日	岩手山	柳沢コース	12
98	9月7日	姫神山	一本杉コース	6
99	9月12日 ～9月15日	劔岳	源次郎尾根	7
100	9月13日 ～9月16日	笠ヶ岳	笠新道～笠ヶ岳～小池新道	4
101	9月15日	東根山	あづまね温泉口ピストン	4
102	9月20日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	11
103	9月20日 ～9月21日	猿岩	KGカンテor右ルート	6
104	9月21日	真昼岳	兔平コース	6
105	9月21日	秋田県境(蟻巣山付近～ 三森山)	蟻巣林道峠～三森山往復	6
106	9月22日	八幡平	松尾鉦山跡～黒谷地口～黒谷地湿原～八幡平	6
107	9月23日	早池峰	劔ヶ峰コース	13
108	9月25日	姫神山	こわ坂コース	5
109	9月28日	八甲田山	酸ヶ湯～仙人岱～大岳～毛無岱～酸ヶ湯	23
110	10月4日 ～10月5日	鳥海山	祓川コース	7
111	10月4日 ～10月6日	乗鞍岳(3025.6m)、焼岳 (2393m)、独鈷山 (1266.3m)	豊平ピストン、中の湯温泉ピストン、宮沢口～独 鈷山～独鈷温泉口	8
112	10月5日	三ツ石山	網張奥産道コース	14
113	10月9日	泥湯三山(小安岳、高松 岳、山伏岳)	泥湯温泉～小安岳～高松岳～山伏岳～泥湯温 泉	5
114	10月12日	岩手山	柳沢コース	15
115	10月12日	栗駒山	須川温泉コース	7
116	10月13日	焼山	後生掛温泉～焼山往復	6
117	10月18日	秋田県境	南本内林道口～山頂南側尾根～三森山往復	4
118	10月18日 ～10月19日	鎌倉山	西壁	5
119	10月19日	片羽岳(雄岳)1,313.2m	青ノ木～山頂往復	8
120	10月23日	志賀来山	志賀来キャンプ場～周回コース	5
121	10月26日	栗駒山	須川温泉～昭和湖～栗駒山～秣岳～須川温泉	9
122	10月26日	白石岳(1,177m)	入角沢林道口～シシ小屋跡～白岩岳～白岩薬 師往復	6

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
123	11月3日	露霞ヶ岳	澁磯海岸口～赤平～山頂～参道コース口～澁磯海岸口	13
124	11月16日	岩手山(五合目付近)	柳沢コース	26
125	11月22日	北見山地(夏虫山周辺)	国道45号の羅生トンネル南口手前から夏虫山方面	5
126	11月23日	砥森山	向田瀬バス停～山頂往復	8
127	11月23日 ～11月24日	三ツ石山	松川コース	4
128	11月30日	七座山	天神登山口～七座山～松倉登山口	10
129	12月6日 ～12月7日	鶏頭山	岳コース	17
130	12月11日	平庭岳	平庭岳口～平庭岳往復	5
131	12月14日	宇霊羅山(604m)、音床山(716m)	和山林道口～宇霊羅山～音床山往復	5
132	12月20日	高畑山(667.1m 秋田県境)	兄畑登山口～高畑山～P609～岩手県側車道	5
133	12月20日 ～12月21日	五葉山(1,341.3m)	赤坂峠コース	3
134	12月23日	姫神山(1,123.8m)	城内コース	5
135	12月28日	黒石山	工芸社駐車場～山頂往復	4

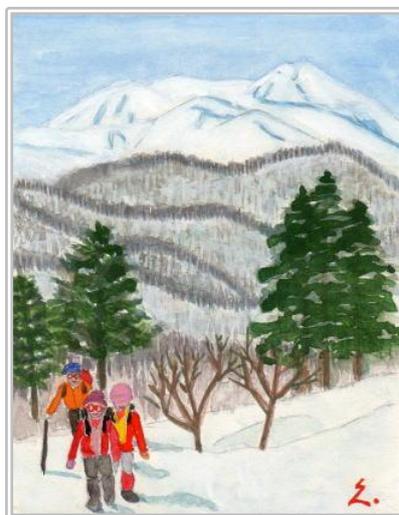
【2015年】

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
1	1月3日 ～1月4日	兜明神岳	ウォーキングセンター～山頂往復	10
2	1月4日	兜明神岳	ウォーキングセンター～頂上往復	10
3	1月4日	岩神山	ウォーキングセンター～山頂往復	6
4	1月9日 ～1月12日	八ヶ岳	ジョーゴ沢、赤岳西壁主稜	5
5	1月10日	下倉山、中倉山	下倉スキー場周辺	10
6	1月11日	三ツ石山	網張～山頂往復	7
7	1月11日	太田薬師	上猪去口～山頂往復	7
8	1月18日	秋田県境(兄畑周辺)	一般道兄畑口～P610～兄川一般道出合	9
9	1月18日	赤林山	つどいの森コース	4
10	1月18日	姫神山	天峰山～姫神山往復	8
11	1月22日	鞍掛山(897.1m)	相ノ沢コース(右回り)	5
12	1月29日	東根山	ラ・フランス口～山頂往復	4
13	2月7日	鎌倉森、姥倉山	網張スキー場～姥倉山～犬倉山～鎌倉森～網張温泉館	6
14	2月8日	小松倉山	網張スキー場～小松倉山～奥産道ゲート	9
15	2月8日	黒森山(837.3m)	深沢コース	5
16	2月11日	貝吹岳	仙岩トンネル口～仙岩峠往復	9
17	2月11日	桐ノ木沢山(1,209m)	桐ノ木沢コース	6
18	2月14日	烏泊山(387m)	大釜高森コース	8
19	2月14日 ～2月15日	桐ノ木沢山、兜山荘	桐ノ木沢口コース、区界ウォーキングセンターコース	5
20	2月19日	高洞山(522m)	上米内駅～なめこ平～山頂往復	5
21	2月21日 ～2月22日	赤林山(855m)	矢巾温泉コース	7
22	2月22日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	4
23	2月23日	黒森山	万寿抗口～ガロの滝～黒森山往復	4

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
24	3月8日	栗駒山	いこいの村～イワカガミ平～山頂往復	7
25	3月14日	秋田駒ヶ岳	アルパコマクサ～男女岳往復	4
26	3月14日 ～3月15日	早池峰	岳～うすゆき山荘周辺	14
27	3月15日	鎌倉森、犬倉山	ビジターセンター～鎌倉森～犬倉山～スキー	5
28	3月21日	秋田県境(兄畑周辺)	兄畑登り口～県境取付き～P830～P838～折合沢出合い	8
29	3月21日	秋田駒ヶ岳(横長根)	仙岩トンネル口～横長根往復	6
30	3月21日	乳頭山	孫六コース	4
31	3月21日 ～3月22日	早池峰	岳～鶏頭山～早池峰～河原ノ坊～岳	6
32	3月26日	室根山(895.4m)、矢越山(516.8m)	蟻塚～室根山往復、矢越神社～矢越山往復	4
33	3月28日	穴目ヶ岳	大石沢集落～山頂往復	10
34	3月29日	岩手山	馬返し～ハート沢右岸尾根～二本松展望所往復	8
35	4月4日	和賀岳	高畑口～高下岳～根菅分岐～和賀岳往復	5
36	4月4日 ～4月5日	八幡平・陵雲荘	旧八幡平スキー場～茶臼山荘～源太森～山頂～陵雲荘～旧八幡平スキー場	4
37	4月12日	笹倉山、薬菜山	御門杉口～笹倉山往復、鳥居口～薬菜山往	5
38	4月12日	栗駒山周辺	いこいの村～栗駒山～県境～鞍掛沼上部(県道49号出合)	5
39	4月12日	焼石岳	ツブ沼～第2ゲート～銀明水小屋～山頂往復	8
40	4月18日	国見山(北上)	極楽寺登山口～山頂往復	5
41	4月18日	焼山	後生掛温泉～梅森～焼山往復	2
42	4月19日	貝吹岳	仙岩トンネル口～山頂往復	4
43	4月23日	岩手山	柳沢コース(八合目まで)	5
44	4月25日	八幡平(秋田県境)	見返り峠～八幡平～ふけの湯分岐～寒ノ背峠～国道341号	4
45	4月25日	鎌倉山	西壁	8
46	4月25日 ～4月26日	湯殿山、月山	姥沢～姥ヶ岳～湯殿山～姥沢、姥沢～姥ヶ岳～月山～姥沢	4
47	4月25日 ～4月26日	金ヶ崎駒ヶ岳(1,130m)、 経塚山(1,373m)	うがい清水コース	7
48	4月29日	金華山	金華山港～金華山～二の御殿跡～金華山港	4
49	5月2日 ～5月3日	猿岩	右ルート他	3
50	5月3日	蛤山	南蔵王青少年旅行村先(登山口)～蛤山往復	3
51	5月3日 ～5月4日	秋田県境(桑原岳)	東山コース～上東山往復	6
52	5月3日 ～5月4日	秋田県境(桑原岳)	須川温泉～大薊山往復	7
53	5月6日	鎌倉山	西壁	3
54	5月9日	秋田県境(寒ノ背峠、竹ノ子平)	坂比平口(鹿角市)～寒ノ背峠～竹ノ子平～角麓平～P763往復	6
55	5月17日	箱が森	猪去沢周回コース(右回り)	3
56	5月28日	稲庭岳(1,078.0m)	稲庭高原～頂上～駒形登山口	7
57	5月30日 ～5月31日	丸森(宮城県)	岩場	6
58	5月31日	秋田県境(蟻巣山、三界山)	蟻巣林道峠～蟻巣山～三界山往復	4
59	5月31日	早池峰	河原ノ坊～山頂～小田越	7

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
60	5月31日	ナメコト山	豊沢権現口～山頂往復	4
61	6月6日	秋田県境(ニッ森、独鈷森)	県道195号県境～対岸県境～ニッ森～独鈷森～	6
62	6月6日	礼文岳	内路口～山頂往復	3
63	6月7日	五葉山(1341.3m)	黒岩コース	7
64	6月7日	鞍掛山	相ノ沢コース	17
65	6月13日	姫神山	一本杉コース	1
66	6月13日	姫神山	一本杉コース	9
67	6月14日	紫波三山(東根山、南昌山、赤林山)	ラ・フランス口～東根山～南昌山～赤林山～矢巾温泉	4
68	6月14日	秋田県境(独鈷森)	茂谷地林道～P644m～独鈷森～茂谷地林道	5
69	6月20日 ～6月21日	三ツ石山	松川コース	7
70	6月21日	岩手山	柳沢コース	7
71	6月21日	三ツ石山	松川コース	17
72	6月23日	早池峰	門馬コース	4
73	7月5日	岩手山	柳沢コース	18
74	7月5日	岩手山	上坊コース	7
75	7月5日	姫神山	一本杉コース	11
76	7月8日	焼山	後生掛温泉～焼山～玉川温泉	4
77	7月12日	秋田県境	奈良助沢林道～独鈷森～中岳～登山道下山	7
78	7月12日	八幡平	茶臼口～黒谷地～八幡平～見返峠	9
79	7月12日	乳頭山・千沼ヶ原	黒湯～乳頭山～千沼ヶ原～乳頭山～孫六温	7
80	7月18日	三陸潮風トレイル	大久喜駅～館神社～角の浜駅	5
81	7月18日 ～7月20日	ニセコアンヌプリ、後方羊蹄山	五色温泉コース、倶知安コース	4
82	7月18日 7月20日	駒ヶ岳、ニセコアンヌプリ	六合目口～駒ヶ岳往復、ニセコ山の家～ニセコアンヌプリ往復	4
83	7月30日	五葉山	赤坂コース	6
84	8月6日	姫神山	一本杉コース	4
85	8月25日	岩手山	柳沢コース	5
86	9月3日	早池峰	平津戸コース	5
87	9月3日 ～9月6日	北岳	広河原～左俣コース～北岳～右俣コース～広河原、クライミング:第四尾根主稜	5
88	9月6日	姫神山	田代コース	9
89	9月6日	岩手山	柳沢コース	25
90	9月12日	裏岩手	畚口～畚岳～嶮岨森～大深岳～源太ヶ岳～松川温泉	8
91	9月19日 ～9月21日	飯豊連峰(地蔵岳・飯豊山・御西岳・烏帽子岳・北股岳・門内岳・地神)	中津川口～本山～北股岳～天狗平	4
92	9月22日	金ヶ崎駒ヶ岳(1,129.8m)	うがい清水コース	9
93	9月27日	牛形山・鷲ヶ森山	夏油温泉～牛形山～鷲ヶ森山～夏油温泉	7
94	10月1日	栗駒山(1,627.4m)	須川温泉コース	7
95	10月4日	森吉山	阿仁スキー場～山頂往復	4
96	10月4日	三ツ石山	滝ノ上コース	7
97	10月10日	早池峰	小田越コース(1合目まで)	8
98	10月11日	泉ヶ岳	青年の家～表コース～山頂～水神コース～青年の家	8
99	10月11日	青森県境(四角岳周辺)	市境～P961～P896往復～杉倉沢林道	9
100	10月15日	駒頭山	鉛温泉コース	4

No.	山行期間	山域	ルート	会員数
101	10月18日	岩手山	柳沢コース(八合目まで)	19
102	10月25日	秋田県境(女神山周辺)	女神山登山口～ブナ平～県境南下～笹峠～子規古道下山口	10
103	10月29日	箱が森	猪去沢周回コース	5
104	10月31日	潮風トレイル	角の浜駅～玉川駅	5
105	11月1日	秋田県境(女神山周辺)	女神山登山口～ブナ見平～県境南下～子規古道口	12
106	11月3日	女神山	尾根コース～山頂～県境コース	7
107	11月5日	石上山	石上山駐車場～籠堂小屋～山頂往復	6
108	11月14日	秋田県境(沢尻岳・大荒沢岳・高下岳)	高畑口～高下岳～根菅岳～大荒沢岳～沢尻岳～郡境分岐～貝沢口	9
109	11月22日 ～11月23日	岩手山	柳沢コース	6
110	11月23日	三森山(1,102.2m)	三森山登山口(秋田側)～三森山～県境南下(前回到達点まで)往復	7
111	11月29日	岩手山(五合目付近まで)	柳沢コース	18
112	11月29日	潮風トレイル(玉川駅、有家駅)	玉川駅～有家駅	5
113	12月3日	砥森山(670m)	向田瀬口～山頂往復	7
114	12月12日 ～12月13日	鶏頭山	岳コース	20
115	12月19日	白木峠	越中畑～白木峠口～曾呂木峠～P650往復	7
116	12月20日	姫神山	城内コース～山頂～田代コース往復	6
117	12月23日	赤林山	矢巾温泉コース	6
118	12月26日	潮風トレイル	陸中中野駅～麦生集落(約13km)	8
119	12月27日	黒石山	工芸社～登山口～山頂往復	4



「あかげら」2011年1月号 表紙 熊谷久美子

□ 過去1年の山行実績〔会山行〕

[2015年10月～2016年9月]

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
1	10月1日	栗駒山(1,627.4m)	須川温泉コース	L菅原(秀)・S小川(優)・太田代・吉田(成)・土屋(ひ)・岡(義)・三澤	7	会
2	10月4日	森吉山	阿仁スキー場～山頂往復	L府金(志)・S木村(三)・柚澤・土屋(ひ)	4	会
3	10月4日	三ツ石山	滝ノ上コース	L加藤(桂)・S熊谷(久)・三澤・工藤(敬)・北田・本間(典)・高橋(陽)	7	会
4	10月10日	早池峰	小田越コース(1合目まで)	L岡(義)・中村(美)・日比野・太田代・吉田(成)・千葉(和)・佐藤(妙)・三澤	8	会
5	10月11日	泉ヶ岳	青年の家～表コース～山頂～水神コース～青年の家	L千田(勝)・S遠藤(千)・府金(志)・太田代・三澤・小川(優)・三戸・吉田(菊)	8	会
6	10月11日	青森県境(四角岳周辺)	市境～P961～P896往復～杉倉沢林道	L中村(数)・S本間(典)・S小田(嘉)・塚本・加藤(桂)・高橋(陽)・大倉・小田(春)・中松(明)	9	会
7	10月15日	駒頭山	鉛温泉コース	L工藤(敬)・S中村(美)・級木・本間(典)	4	会
8	10月18日	岩手山	柳沢コース(八合目まで)	【A班】L木村(一)・S小島・田中(均)・石澤・日比野・小田(嘉)・齋藤(睦)・大倉・舟越・中村(篤) 【B班】L長谷川・S中村(数)・S成瀬・工藤(敬)・高橋(陽)・中松(祐)・中松(明)・柚澤・金子	19	会
9	10月25日	三ツ峠	金ヶ窪コース	S加藤(桂)〔会員外〕5名	1	全国連
10	10月25日	秋田県境(女神山周辺)	女神山登山口～ブナ平～県境南下～笹峠～子規古道下山口	L小田(嘉)・S中村(数)・S日比野・中根・工藤(敬)・熊谷(久)・級木・塚本・高橋(陽)・小田(春)	10	会
11	10月29日	箱が森	猪去沢周回コース	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・北田・本間(典)	5	会
12	10月31日	潮風トレイル	角の浜駅～玉川駅	L小田(嘉)・S加藤(桂)・石澤・小田(春)・岡(義)	5	会
13	11月1日	秋田県境(女神山周辺)	女神山登山口～ブナ見平～県境南下～子規古道口	L小田(嘉)・S中村(数)・S日比野・中根・工藤(敬)・級木・塚本・府金(志)・本間(典)・高橋(陽)・小田(春)・大倉	12	会
14	11月3日	女神山	尾根コース～山頂～県境コース	L千田(勝)・S武田(秀)・工藤(敬)・北田・級木・石川・吉田(菊)	7	会
15	11月5日	石上山	石上山駐車場～籠堂小屋～山頂往復	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・北田・三澤・吉田(菊)	6	会
16	11月14日	秋田県境(沢尻岳・大荒沢岳・高下岳)	高畑口～高下岳～根菅岳～大荒沢岳～沢尻岳～郡境分岐～貝沢口	L本間(典)・S石川・S小田(嘉)・級木・高橋(陽)・小田(春)・岡(義)・大倉・辰巳	9	会
17	11月22日～11月23日	岩手山	柳沢コース	L畑中・S中村(美)・日比野・工藤(敬)・級木・齋藤(睦)	6	会
18	11月23日	三森山(1,102.2m)	三森山登山口(秋田側)～三森山～県境南下(前回到達点まで)往復	L小田(嘉)・S岡(義)・府金(志)・本間(典)・辰巳・高橋(陽)・小田(春)	7	会
19	11月29日	潮風トレイル(玉川駅、有家駅)	玉川駅～有家駅	L小田(嘉)・S加藤(桂)・熊谷(久)・小田(春)・岡(義)	5	会
20	11月29日	岩手山(五合目付近まで)	柳沢コース	総括L下机・総括S田中(均)・総括S中村(数) 【1班】L小島・工藤(敬)・高橋(陽)・舟越・金子〔下机・田中(均)〕 【2班】L橋本(久)・S藤本・中松・中村(篤) 【3班】L木村(一)・石澤・府金(志)・齋藤(睦)・圓子・柚澤〔中村(数)〕	18	会
21	12月3日	砥森山(670m)	向田瀬口～山頂往復	L岡(義)・S吉田(成)・中村(美)・工藤(敬)・北田・佐藤(妙)・三澤	7	会

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
22	12月12日 ～12月13日	鶏頭山	岳コース	L下机・S田中(均)・S中村(数)・S小島・S和田・新田・安井・石澤・工藤(敬)・小田(嘉)・鶴田・齋藤(睦)・成瀬・中松(明)・圓子・舟越・杣澤・中村(篤)・本間(総)・金子	20	会
23	12月19日	白木峠	越中畑～白木峠口～曾呂木峠～P650往復	L小田(嘉)・S本間(典)・工藤(敬)・中村(数)・級木・府金(志)・小田(春)	7	会
24	12月20日	姫神山	城内コース～山頂～田代コース往復	L熊谷(久)・S高橋(陽)・遠藤(千)・工藤(敬)・級木・本間(典)	6	会
25	12月23日	赤林山	矢巾温泉コース	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・北田・本間(典)・舟越	6	会
26	12月26日	潮風トレイル	陸中中野駅～麦生集落(約13km)	L小田(嘉)・S岡(義)・吉田(菊)・太田代・小田(春)・三澤・工藤(敬)・高橋(恵)	8	会
27	12月27日	黒石山	工芸社～登山口～山頂往復	L千田(勝)・S太田代・吉田(成)・小田(春)	4	会
28	1月9日	兜明神岳	ウォーキングセンター～山頂往復	L高橋(陽)・S小田(春)・中村(美)・工藤(敬)・高橋(恵)・加藤(桂)・岡(義)・大倉・小田(春)	9	会
29	1月9日	岩神山	ウォーキングセンター～山頂往復	L古川・S三浦(明)・渡邊(健)・府金(志)・本間(典)・大峠・福山(茂)・徳永・中松(明)	9	会
30	1月10日	太田薬師	参道入口～山頂往復	L千田(勝)・S吉田(成)・池端	3	会
31	1月10日 ～1月11日	鶏頭山	岳コース	L工藤(敬)・S級木・中村(美)・遠藤(千)・日比野・熊谷(久)	6	会
32	1月10日 ～1月11日	三ツ石山(1,466m)	網張スキー場～三ツ石山荘～頂上往復	L山田(潔)・S小泉・中松(明)・石川・藤本・徳永・小原(耕)	7	会
33	1月11日	三ツ石山(1,466m)	網張スキー場～山頂往復	L大峠・S木村(三)・府金(志)・本間(典)・武田(秀)・杣澤・齋藤(睦)・福山(茂)	8	会
34	1月14日	東根山	ラ・フランスコース	L工藤(敬)・S日比野・中村(美)・級木・本間(典)	5	会
35	1月16日	黒倉山、姥倉山、鎌倉森	網張スキー場～黒倉～姥倉～鎌倉森～網張温泉	L大峠・S古川・齋藤(睦)・山田(潔) [会員外] 1名	4	会
36	1月17日	下倉山、中倉山	下倉スキー場～中倉山往復	L大峠・S徳永・府金(志)・武田(秀)・杣澤	5	会
37	1月17日	黒森山	深沢コース	L高橋(陽)・S級木・工藤(敬)・本間(典)・岡(義)・小田(春)・中村(美)	7	会
38	1月30日	貝吹岳	仙岩トンネル口～山頂往復	L本間(典)・S岡(義)・S高橋(陽)・工藤(敬)・小田(嘉)・級木・中村(美)・日比野	8	会
39	1月31日	網張スキー場(小松倉山周辺)	小松倉山周辺樹林帯ほか	L三浦(明)・S木村(一)・石川・古川・山田(潔)・松田(幸)・松田(希)・徳永・武田(秀)・和田・大峠・木村(三)・菅原(富)・福山(茂)・大森・高橋(英)・杣澤	17	会
40	2月7日	貝吹岳	仙岩トンネル口～山頂往復	L大峠・S徳永・S小泉・安井・舟越・武田(秀)・村田・大森	8	会
41	2月11日	黒石山(280m)	工芸社口～山頂往復	L千田(勝)・S太田代・吉田(成)・岡(義)・北田	5	会
42	2月11日	赤林山	つどいの森コース	L本間(典)・S級木・中村(美)・遠藤(千)・工藤(敬)・日比野・熊谷(久)・高橋(陽)	8	会
43	2月11日	奥入瀬溪流		L下机・S大林・新田・石澤・和田・小島・成瀬	7	会
44	2月21日	箱が森(865.5m)	猪去沢コース	L熊谷(久)・S高橋(陽)・工藤(敬)・日比野・級木	5	会
45	2月25日	姫神山	城内口～積雪期限定コース往復	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・級木	4	会
46	2月27日	潮風トレイル(久慈地区)	麦生集落～小袖海女センター	L小田(嘉)・S吉田(菊)・S岡(義)・工藤(敬)・級木・加藤(桂)・小田(春)	7	会
47	2月27日	大深岳・源太ヶ岳	下倉スキー場～源太ヶ岳～大深岳往復	L安井・S小泉	2	会
48	2月28日	黒倉山・姥倉山	網張スキー場～黒倉山～姥倉山～網張スキー場	L武田(秀)・S府金(志)・齋藤(睦)・本間(典)・安井・舟越	7	会
49	3月5日	稲庭岳	天台の湯～稲庭岳往復	L徳永・S小泉・三浦(良)・府金(志)・木村	5	会

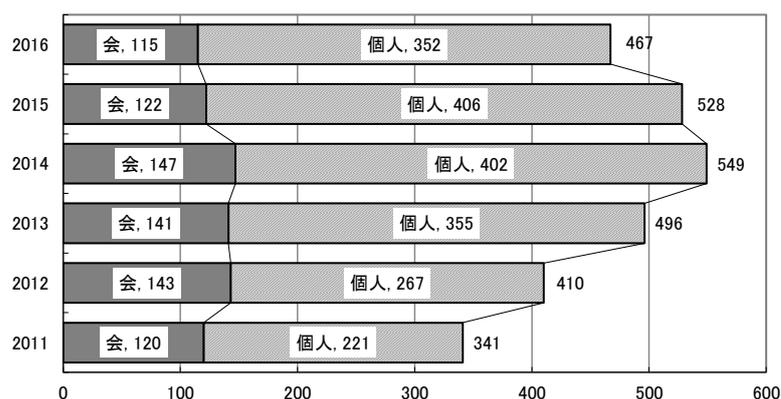
No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
50	3月6日	黒森山、朝島山	百石コース、中央コース ～朝島山～中継所コース	L小田(嘉)・S中村(数)・級木・本間(典)・高橋(陽)・小田(春)	6	会
51	3月10日	鑪山周辺(金勢山、蝶ヶ森山、殿ヶ武士山、鑪山)	鑪山公民館P～金勢山～蝶ヶ森山～殿ヶ武士山～鑪山～鑪山公民館P	L本間(典)・S級木・中村(美)・日比野・北田	5	会
52	3月12日	網張スキー場サイドカントリーエリア	第3リフト降り場～犬倉～鎌倉森～網張温泉館～網張スキーセンター	L三浦(明)・S石川・三浦(良)・木村(三)・小田(嘉)・大森・小原(耕)・舟越・柚澤・久保・松田(幸)〔会員外〕1名	11	会
53	3月21日	掘米頭山(979.1m)	国道455号藪川作業道登り口～山頂往復	L中村(数)・S本間(典)・小田(嘉)・小田(春)・加藤(桂)・大倉・高橋(陽)	7	会
54	3月21日	秋田駒ヶ岳	仙岩トンネル口～横長根往復	L三浦(明)・S徳永・府金(志)・齋藤(睦)	4	会
55	3月26日～3月27日	秋田県境(沢尻岳、畚岳、貝吹岳、仙岩峠)	貝沢～沢尻岳～モッコ岳～五番森～貝吹岳～仙岩峠～仙岩トンネル口	L古川・S・小泉・藤本・舟越・三浦(明) 【サポート】L小田(嘉)・S本間(典)・S中村(数)・工藤(敬)・日比野・級木・高橋(陽)・松田(徹)・岡(義) ※三浦(明)とサポート隊は初日帰り	15	会
56	3月29日	砥森山	向田瀬口～山頂往復	L岡(義)・S太田代・中村(美)・工藤(敬)・高橋(恵)・北田・吉田(成)・三澤	8	会
57	4月3日	室根山	蟻塚公園～山頂往復	L千田(勝)・S千葉(和)・村上・中松(祐)・三戸	5	会
58	4月9日	青松葉山	県道171登山口～山頂往復	L木村(一)・S木村(三)・府金(志)・三浦(良)	4	会
59	4月9日～4月10日	秋田県境(蟻巣山1,162m、三界山1,380.8m)	入道～合居砂利～県境～蟻巣山～三界山往復	L辰巳・S中村(数)・中根・本間(典)・高橋(陽)・小田(嘉)・岡(義)・小田(春)	8	会
60	4月12日	羽山(599.9m)	岩沢取水(新道)～頂上往復	L石川・S工藤(敬)・川村(雅)・北田・吉田(成)・小川(優)・岡(義)・佐藤(妙)	8	会
61	4月14日	岩手山	柳沢コース	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・日比野・北田・級木	6	会
62	4月16日	秋田県境(割倉山～白木峠)	芦ヶ沢戸～割倉山～白木峠～白木峠下山口	L高橋(陽)・S中村(数)・工藤(敬)・級木・小田(嘉)・小田(春)・大倉・加藤(桂)	8	会
63	4月16日～4月17日	八幡平、焼山	見返り峠～陵雲荘～黒谷地散策、後生掛温泉～樺森往復	L藤本・S山田(潔)・徳永・柚澤・石川	5	会
64	4月21日	万寿山(410.1m)	台温泉口～右回りコース	L太田代・S吉田(成)・中村(美)・工藤(敬)・高橋(恵)・石川・岡(義)・佐藤(妙)	8	会
65	4月23日～4月24日	上東山(1,116m)～大森山トンネル方向	天江～上東山～大森山トンネル方面往復	L辰巳・S中村(数)・小田(嘉)・工藤(敬)・本間(典)・大倉・高橋(陽)	7	会
66	4月24日	万寿山、六郎山	台温泉～万寿山、台温泉～六郎山	L千田(勝)・S武田(秀)・遠藤(千)・山田(純)・小川(優)・三戸・亀ヶ森・中松(祐)	8	会
67	5月8日	八幡平	第2駐車場付近	【受講者】千田(勝)・遠藤(千)・工藤(敬)・日比野・高橋(恵)・北田・級木・太田代・高橋(陽)・三浦(明)・小田(嘉)・小田(春)・小川(優)・萩谷・小原・大倉・中村(篤)・高橋(豊)・吉田(成)・佐藤(妙) 【スタッフ】下机・中村(数)・木村(一)・藤本・小島	25	会
68	5月17日	八方山(716.6m)	長根崎コース	L岡(義)・S高橋(恵)・浦部・川村(雅)・北田・太田代・吉田(成)・小川(優)・佐藤(妙)	9	会
69	5月21日	七時雨山	七時雨山荘～北峰～南峰往復	L木村(三)・S徳永・小原・川村(雅)	4	会
70	5月22日	秋田県境(割倉山、萱峠)	芳ヶ沢地区～割倉山～萱峠～左草地区	L本間(典)・S中村(数)・工藤(敬)・日比野・熊谷(久)・北田・加藤(桂)・高橋(陽)・小田(春)	9	会
71	5月22日	高洞山、白木峠	上米内～高洞山往復、越中畑～白木峠往復	L千田(勝)・S武田(秀)・三戸〔会員外〕1名	3	会
72	5月28日	駒木立(987m)・田代山(945.4m)	高原口～田城山往復	L太田代・S吉田(成)・浦部・北田・岡(義)・三澤	6	会

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
73	5月29日	徳仙丈山、大森山	各登山口(気仙沼)～山頂往復	L千田(勝)・S三戸・村上	3	会
74	5月31日	田代平	田代高原サン燦道口～三曲山～田代山～駒立山～田代山口	L工藤(敬)・S級木・中村(美)	3	会
75	6月4日	秋田県境(大森山トンネル付近)	東成瀬村椿川地区林道～P939.5m～大森山トンネル	L本間(典)・S中村(数)・S高橋(陽)・工藤(敬)・北田・級木・加藤(桂)・小田(嘉)・小田(春)・柚澤	10	会
76	6月4日	黒石山(279.9m)	丸ノ内工芸P～登山口～山頂往復	L岡(義)・S日比野・中村(美)・川村(雅)・三澤	5	会
77	6月5日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	【A班】L中村(数)・S遠藤(千)・小川(優)・岡(義)・中村(美)〔会員外〕5名 【B班】L古川・S吉田(成)・戸田・柚澤・高橋(豊)・鎌田〔会員外〕1名 【総括】L渡邊(健)・S福山	13	会
78	6月10日	茶臼岳	茶臼口コース	L工藤(敬)・S級木・北田	3	会
79	6月12日	岩手山	柳沢コース	L渡邊(健)・S級木・中村(美)・工藤(敬)・熊谷(久)・北田・加藤(桂)・高橋(陽)・大倉	9	会
80	6月18日	早池峰	門馬コース	L工藤(敬)・S舟越・日比野・北田・級木・小田(春)	6	会
81	6月19日	三ツ石山	松川コース	【総括】L渡邊(健)・S三浦(明) 【A班】L中村(数)・S遠藤(千)・小川(優)・戸田〔会員外〕5名 【B班】L古川・S福山・高橋(豊)・鎌田・柚澤〔会員外〕1名	11	会
82	6月24日～6月26日	尾瀬(燧ヶ岳)	長英新道コース	L千田(勝)・S柚澤・級木・大倉	4	会
83	6月26日	五葉山(1,340.4m)	檜の木平コース	渡邊(健)〔会員外〕19名	1	県連
84	6月26日	秋田県境	三森山登山口～三森山～県境北上(前回到達点)引返し～林道デボ地	L小田(嘉)・S中村(数)・工藤(敬)・日比野・北田・加藤(桂)・本間(典)・高橋(陽)・小田(春)	9	会
85	6月27日	薬師岳(1,644.9m)	小田越コース	L岡(義)・S中村(美)・高橋(恵)・北田・吉田(成)・三澤	6	会
86	7月3日	岩手山	上坊～山頂～焼走り	L大峠・S古川・野中・舟越・小原(耕)	5	会
87	7月7日～7月20日	シャモニー+ツェルマット	ヴァレーブランシェ、プライトホルン	L福山(茂)・S山田(潔)	2	会
88	7月10日	南本内岳(1,486m)	中沼コース～姥石平分岐～南本内岳往復	L熊谷(久)・S工藤(敬)・中村(美)・遠藤(千)・中根・日比野・級木・加藤(桂)・木村(三)・吉田(菊)	10	会
89	7月16日	秋田県境	萱峠(林道602地点)～笹峠～子規古道口	L本間(典)・S中村(数)・S大倉・工藤(敬)・北田・級木・加藤(桂)・高橋(陽)・小田(嘉)・小田(春)・岡(義)	11	会
90	7月16日～7月17日	朝日連峰(竜門山、大朝日岳)	日暮沢小屋～竜門山～大朝日岳～小朝日岳～日暮沢小屋	L古川・S小原(耕)	2	会
91	7月19日	二ッ森(621.3m)	根反公民館～登山口～頂上往復	L吉田(成)・S岡(義)・中村(美)・三澤	4	会
92	7月23日	五葉山	赤坂峠コース	L中村(美)・S工藤(敬)・千葉(和)・藤澤	4	会
93	7月24日	秋田駒ヶ岳(1,637m)	国見温泉～お花畑コース～男岳～横岳～国見温泉	L日比野・S熊谷(久)・小原(耕)・三澤	4	会
94	7月24日	秋田県境	西和賀・三森山林道中間点～前回終了点(湯川沼方面)往復	L小田(嘉)・S中村(数)・S高橋(陽)・川村(雅)・工藤(敬)・松田(徹)・北田・加藤(桂)・本間(典)・小田(春)・大倉	11	会
95	7月26日	大深岳(大深山荘)	松川温泉～大深山荘往	L工藤(敬)・S中村(美)・北田・級木	4	会
96	7月30日～8月1日	富士山	富士吉田コース(馬返しから)	【A班】総括L渡邊(健)・S遠藤(千)・中村(美)・工藤(敬)・山崎(祐)・北田・大倉 【B班】L中村(数)・S本間(典)・級木・加藤(桂)・府金(志)・高橋(陽)・萩谷	14	会
97	8月4日	嶮岨森	藤七温泉～嶮岨森往復	L工藤(敬)・S中村(美)・北田・級木・三澤	5	会

No.	山行期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
98	8月7日	月山	月山八合目ピストン	L古川・S工藤(敬)・中村(美)・日比野・熊谷(久)・北田・三澤・川村(雅)	8	会
99	8月11日	栗駒山(1,627m)	裏掛けコース～山頂～中央コース	【A班】総括L渡邊・S工藤(敬)・石澤・日比野・北田・大森・阿部(好) 【B班】L中村(美)・S級木・加藤(桂)・石原・三澤・杣澤	13	全国連
100	8月21日	室根山	蟻塚公園～山頂往復	L千田(勝)・S三澤・村上・高橋(英)・三戸	5	会
101	8月22日	境ノ神岳(1,319.0m)	和井内口～山頂往復	L岡(義)・S山崎(祐)・中村(美)・川村(雅)・太田代・吉田(成)・佐藤(妙)・三澤	8	会
102	8月28日	和賀岳	高下口コース	L級木・S新田・S中村(数)・石澤・工藤(敬)・日比野・北田・高橋(陽)・小原(耕)	10	会
103	9月4日	岩手山	七滝コース～山頂～上坊コース	L古川・S辰巳・高橋(陽)・中村(篤)・野中・小田(春)・工藤(敬)	7	会
104	9月4日	岩手山	柳沢コース	L熊谷(久)・S遠藤(千)・S木村(三)・大倉・婁地・吉田(菊)・佐々木(テ)・北田・加藤(桂)・中村(美)・山崎(祐)・久保・三澤・級木	14	会
105	9月4日	岩手山	焼走りコース	L渡邊(健)・S中村(数)・松田(幸)・松田(希)・杣澤	5	会
106	9月4日	姫神山(1,123.8m)	一本杉～山頂～こわ坂	L千田(勝)・S府金(志)・浦部・川村(雅)・高橋(恵)・太田代・吉田(成)・佐藤(妙)・三戸	10	会
107	9月9日	八幡平～安比スキー場	茶臼口～茶臼岳～大黒森～屋棟岳～西森山～まえ森山～安比ゴンドラ	L加藤(桂)・S石川・日比野・高橋(恵)・太田代・吉田(成)・岡(義)・三澤	8	会
108	9月10日	中岳、四角岳	岩手側林道～P830～四角岳～十文字出合～四角岳登山口	L本間(典)・S中村(数)・S大倉・工藤(敬)・加藤(桂)・高橋(陽)・級木・小田(嘉)・小田(春)・中村(篤)	10	会
109	9月11日	裏岩手(源太ヶ岳、大深岳、三ツ石山)	松川温泉～源太ヶ岳～大深岳～三ツ石山～松川温泉	中村(美)・大倉・村上〔会員外〕18人 ※ 県連企画の交流山行	3	県連
110	9月13日	安比岳、茶臼岳	赤川治水ダム～安比岳～黒谷地湿原～茶臼岳～治水ダム口	L工藤(敬)・S本間(典)・中村(美)・阿部(好)・北田・級木・小田(嘉)・小田(春)	8	会
111	9月16日～9月19日	本白根山、四阿山	白根火山ロープウェイ～左回りコース、菅平牧場～四阿山～鳥居峠	L渡邊(健)・S工藤(敬)・S加藤(桂)・佐々木(テ)・遠藤(千)・川村(雅)・北田・級木	8	県連
112	9月17日	青森県境(四角岳)	田子口～四角岳～県境～岩手側登山口	L本間(典)・S中村(数)・S大倉・小田(嘉)・小田(春)・中村(篤)	6	会
113	9月22日	焼山(1,366m)	後生掛温泉～焼山～ベコ谷地	L熊谷(久)・S級木・中村(美)・工藤(敬)・阿部(好)・吉田(菊)・三澤	7	会
114	9月24日	大倉森	黒倉沢林道～県境～大倉森往復	L本間(典)・S中村(数)・S大倉・加藤(桂)・高橋(陽)・小田(嘉)・小田(春)・中村(篤)	8	会
115	9月25日	八幡平	見返り峠～八幡平頂上～フジ谷地～大沼～大湯	L福山(茂)・S遠藤(千)・S杣澤・戸田・吉田(成)・小川(優)・柏木・藤澤・菅原(富)・新田〔会員外〕2名	10	会

企画主体別の山行回数(11月～10月期)

※2016は10月～9月期



□ 過去 10 年間の海外山行一覧

[2006年4月～2016年9月]

No.	年度	実施期間	山域	ルート	参加者名	会員数	企画主体
1	2006	1月2日 ～1月6日	キナバル山(マレーシア) 4,095.2m	コタキナバル～パークヘッドクオーター～山小屋(泊)～山頂往復	L長谷川・S中根・川村(雅)・久保田・熊谷(久)・北田・緞木・横山	8名	会
2	2007	11月22日 ～11月26日	キナバル山	ラパンラロッジ～山頂往復	泉 ※コープトラベル企画	1名	ツアー会社
3	2007	3月24日 ～6月3日	マカルー(8463m)	ノーマルルート	橋本(久) [会員外]6名 ※全国連隊	1名	全国連
4	2009	7月2日 ～7月28日	ネパール・クーンブヒマール	ジリ～ナムチェ～ゴキョ・リ～カラパタール～ナムチェ～ジリ	L上野	1名	個人
5	2009	8月2日 ～8月8日	モンブラン		菊地(広)・菊地(良) ※アルティテュウド・モン・ブラン主催	2名	個人
6	2010	4月16日 ～5月9日	メラピーク(6476m)	ルクラ～カーレ～メラ・ラ～メラピーク往復	L橋本(久)・中根・塚本 [会員外]1名	3名	個人
7	2010	7月13日 ～8月1日	ネパール/ティリチョレイク	ポカラ～タトパニ～トロンパス(5,416m)～マナン～ティリョレイク(4,900m)往復	L上野	1名	個人
8	2011	10月25日 ～11月6日	ネパール・ジョムスン街道トレッキング	ポカラ～ツクチェ～カロパニ～ゴラパニ～ブーンヒル～ナヤプール～ポカラ	三浦(明)・山田(純)・菊地(広)・菊地(良) [会員外] 1名	4名	個人
9	2011	12月26日 ～1月5日	キリマンジャロ	ホロンボハット～キボハット～キリマンジャロ往復	熊谷(久) [会員外]5名 ※アルバインツアー主催	2名	ツアー会社
10	2012	4月23日 ～5月11日	ネパール クーンブ山峰ポカルデ(5,806m)	ルクラ～ナムチェバザール～ディンボチェ～ポカルデ山頂往復、パロ～ティンプー～ワンデュ・ボダン～ティンプー～パロ	藤本 [会員外] 3名(札幌バビシエ・マウンテンクラブ)	1名	個人
11	2012	9月21日 ～11月3日	ネパール・クーンブ山群バルンツェ(7,129m)	ルクラ～カーレ～セト・ポカリ～BC～バルンツェ往復	L橋本(久)・中根・塚本・藤本 [会員外] 2名	4名	会
12	2013	6月27日 ～7月18日	スイス・アルプス	グリンデルワルト・レッチェンタル・ツェルマット・アレッチのトレッキングルート	L福山 [会員外] 1名	1名	個人
13	2013	8月12日 ～8月21日	ノルウェー ガルホピッケン峰(2,469m)		L三浦(明)・S下机・石澤・小田(嘉)・小田(春)・高橋(英)・齋藤(睦)・小島・長谷川 [会員外] 1名	9名	会
14	2013	12月24日 ～12月31日	ヒマラヤ・アンナプルナ	アンナプルナBCコース	館澤	1名	個人
15	2014	3月5日 ～3月15日	モンブラン山塊	エイギュ・ド・ミディ～ヴァレー・ブランシュ～モンタレパール	千葉(喜) ※現地ガイド付きスキー滑走(1日のみ)	1名	個人
16	2014	6月14日 ～7月12日	ペルーアンデス ブランカ山群 ワスカラン峰(6,768m)、イシンカ峰(5,530m)、トクラヤフ峰(6,032m)	バシュバ～トクラヤフ&イシンカ、ムシヨ～ワスカラン	L橋本(久)・藤本・塚本・中根	4名	会
17	2016	4月28日 ～5月5日	雪山(3,886m)、玉山(3,952m) [台湾]	武陵農場～雪山往復、上東埔～玉山往復	L橋本(久)・S中根・日比野・熊谷(久)・加藤(桂) [会員外] 1名	5名	個人
18	2016	7月7日 ～7月20日	シャモニー+ツェルマット	ヴァレーブランシエ、ブライツホルン	L福山(茂)・S山田(潔)	2名	会



キヌガサソウ

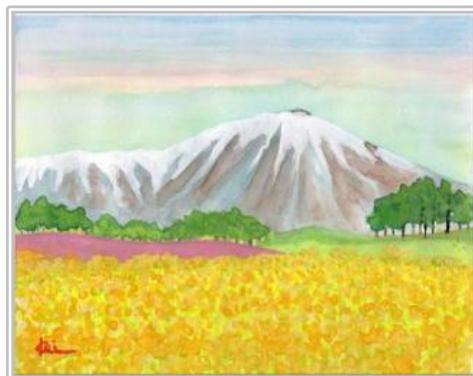
盛岡山友会会員名簿

1～13：創立会員 2016（H28）年10月末現在

会員番号	区分	氏名	入会年月	退会年月	在会期間	会員番号	区分	氏名	入会年月	退会年月	在会期間
1986(S61)年度 創立年						2000(H12)年度					
1		五嶋十三	1986.9	1988.3	9年2ヶ月	243		酒井くに子	2000.6	—	16年5ヶ月
			2009.4	—		2001(H13)年度					
2		渡邊 健治	1986.9	—	30年2ヶ月	250		日比野 保子	2001.4	—	15年7ヶ月
5		白藤 力	1986.9	—	30年2ヶ月	252		高橋 恵美子	2001.4	—	15年7ヶ月
6		千田 勝則	1986.9	—	30年2ヶ月	261	会友	亀ヶ森 貴子	2001.8	2006.11	9年7ヶ月
8		佐々木 テイ子	1986.9	—	30年2ヶ月				2012.1	2016.3	
11		吉田 聡	1986.9	2001.3	24年10ヶ月	267		中村 数博	2002.2	—	14年9ヶ月
			2006.8	—		268		熊谷 久美子	2002.3	—	14年8ヶ月
19		中村 美栄子	1986.10	—	30年1ヶ月	2002(H14)年度					
1987(S62)年度						271		西 一雄	2002.4	—	14年7ヶ月
35		石原 房子 (旧姓 佐藤)	1987.7	1988.3	1年2ヶ月	277		松田 徹	2002.6	—	14年5ヶ月
			2016.6	—		279		松田 幸久	2002.7	—	14年4ヶ月
1988(S63)年度						281		北田 絹恵	2002.8	—	14年3ヶ月
47		橋本 久	1988.11	—	28年	2003(H15)年度					
52		国久 重徳	1989.3	—	27年8ヶ月	288		級木 信子	2003.4	—	13年7ヶ月
1989(H元)年度						294		松田 希	2003.7	—	13年4ヶ月
63	会友	村中 健太	1989.10	1997.3	7年6ヶ月	301		久保 加世子	2003.8	—	13年3ヶ月
66		江刺家 誠	1989.11	—	27年	305		山田 潔	2003.11	—	13年
67		上野 幸人	1990.3	—	26年8ヶ月	307		加藤 桂子	2004.3	—	12年8ヶ月
1990(H2)年度						2004(H16)年度					
70		遠藤 千鈴子	1990.6	—	26年5ヶ月	310		菊地 広子	2004.4	—	12年7ヶ月
71		近藤 康	1990.6	—	26年5ヶ月	323		三浦 良夫	2005.2	—	11年9ヶ月
76		新田 俊博	1991.3	—	25年8ヶ月	2005(H17)年度					
1991(H3)年度						327		斉藤 重雄	2005.4	—	11年7ヶ月
85		山本 光子	1991.4	—	25年7ヶ月	2006(H18)年度 20周年					
89		吉田 良子	1991.5	—	25年6ヶ月	341		武田 秀雄	2006.7	—	10年4ヶ月
98		小林 喜恵	1991	1993	20年	345		山崎 祐三	2006.8	—	10年3ヶ月
			1998.7	—		350		木村 一	2006.10	—	10年1ヶ月
99		高橋 尚子	1992.2	—	24年9ヶ月	2007(H19)年度					
1992(H4)年度						354		菊地 良夫	2007.4	—	9年7ヶ月
109		浦部 光生	1992.5	—	24年6ヶ月	356		木村 三	2007.5	—	9年5ヶ月
118	会友	多田 昭久	1992.8	2003.3	10年8ヶ月	357		渡部 彩子	2007.7	—	9年4ヶ月
1993(H5)年度						358		石川 享子	2007.9	—	9年2ヶ月
125		中根 和子	1993.6	—	23年5ヶ月	362		戸田 新	2008.1	—	8年10ヶ月
128		川村 雅子	1993.6	—	23年5ヶ月	363		小野寺 健一	2008.1	—	8年10ヶ月
140		石澤 妙子	1993.10	—	23年1ヶ月	2008(H20)年度					
1994(H6)年度						364		吉田 菊男	2008.4	—	8年7ヶ月
150		袈地 則子	1994.9	—	22年2ヶ月	365		府金 志磨子	2008.8	—	8年3ヶ月
1995(H7)年度						367		太田代 恵久子	2008.8	—	8年3ヶ月
161		田中 弘美	1995.9	—	21年2ヶ月	369		斉藤 良三	2008.8	—	8年3ヶ月
1996(H8)年度 10周年						370		本間 典	2008.8	—	8年3ヶ月
178		山田 純	1996.7	—	20年4ヶ月	372		辰巳 和司	2008.12	—	7年11ヶ月
1997(H9)年度						2009(H21)年度					
196		工藤 敬子	1997.6	—	19年5ヶ月	373		高橋 陽子	2009.5	—	7年6ヶ月
204		村上 明枝	1997.11	—	19年	377		菊池 重顕	2009.6	—	7年5ヶ月
1998(H10)年度						378		高橋 英里子	2009.7	—	7年4ヶ月
223		阿部 好晴	1998.12	2008.3	9年11ヶ月	380		大峠 茂喜	2009.12	—	6年11ヶ月
			2016.4	—		2010(H22)年度					
1999(H11)年度						382		三浦 明夫	2010.4	—	6年7ヶ月
226	会友	山田 徹生	1999.4	2006.3	7年	385		小田 嘉洋	2010.7	—	6年4ヶ月
233		野中 尚之	1999.7	—	17年4ヶ月	386		堀間 慶子	2010.7	—	6年4ヶ月
234		古川 孝	1999.8	—	17年3ヶ月						

会員	区分	氏名	入会年月	退会年月	在会期間
		2011(H23)年度			
393		吉田 成子	2011.5	—	5年6ヶ月
401		松橋 貴子	2011.1	—	5年
		2012(H24)年度			
410	会友	中松 祐子 (旧姓 高橋)	2012.6	2016.3	3年10ヶ月
413		鶴田 俊郎	2012.6	—	4年5ヶ月
414		齋藤 睦男	2012.7	—	4年4ヶ月
416		福山 茂和	2012.1	—	4年
417		村田 真司	2012.1	—	3年11ヶ月
419		小泉 岳央	2013.2	—	3年9ヶ月
420		徳永 光保	2013.2	—	3年9ヶ月
		2013(H25)年度			
421		小田 春美	2013.4	—	3年7ヶ月
423		小川 優子	2013.5	—	3年6ヶ月
433		岡 義博	2013.8	—	3年3ヶ月
436		岡 春美	2013.8	—	3年3ヶ月
437		成瀬 寛	2013.9	—	3年2ヶ月
		2014(H26)年度			
441		萩谷 義久	2014.4	—	2年7ヶ月
444		大森 信慈	2014.4	—	2年7ヶ月
447		千葉 和佳子	2014.5	—	2年6ヶ月
450		佐藤 妙子	2014.7	—	2年4ヶ月
452		大木 由里	2014.9	—	2年2ヶ月
454		小原 耕	2014.1	—	2年
455		大倉 博	2015.1	—	1年10ヶ月
		2015(H27)年度			
458		舟越 茂雄	2015.4	—	1年7ヶ月
459		三澤 信裕	2015.5	—	1年6ヶ月
460		杣澤 瑠実子	2015.5	—	1年6ヶ月
461		中村 篤	2015.5	—	1年6ヶ月
462		金子 紘野	2015.5	—	1年6ヶ月
463		菅原 富士夫	2015.6	—	1年5ヶ月
465		三戸 紀子	2015.7	—	1年4ヶ月
466		高橋 豊	2016.3	—	8ヶ月
		2016(H28)年度 30周年			
467		鎌田 今代	2016.4	—	7ヶ月
468		関 由美子	2016.4	—	7ヶ月
470		藤澤 幸恵	2016.7	—	4ヶ月
471		柏木 幸代	2016.8	—	3ヶ月
472		小野 由理	2016.10	—	1ヶ月
会員		103			
会友		5			

「あかげら」2014年6月号 表紙 工藤敬子



【 編集後記 】

歳を重ねて役に立つことってあるものですね。会の古い資料を借りたい、古い写真を見せてほしいと編集担当の会報部から連絡があり、出番とばかりにニンマリ、わくわく…。長年ためておいた「あかげら」、「山友」、総会資料、アルバム等々家の中のあっちにもこっちにも拵げては座り込み、時間のたつのも忘れて思い出に浸ってしまいました。記憶は定かではないものの、記録は大丈夫、少しは役にたったかな？と思います。それを緻密に美しく上手にまとめてもらえ、脱帽です。会の歴史は私の歴史と今更ながら思います。人生後半の私を作ってくれた大事な大事な盛岡山友会です。ありがとうございました。

(No.19 中村 美栄子)

20周年記念誌は編集委員長に村山さん、印刷は「興版社」となっています。初めての外注印刷で、今までの会内印刷と違い何度も興版社に足を運び、原稿のレイアウトから写真貼り付けなど、すべてタイプ打ちされ出来上がったものです。

翌年の11月「会報活動功労賞」を戴きました。今回の30周年記念誌も外注と思われませんが、何も会報部に協力出来ず残念です。

(No.109 浦部 光生)

初めて記念誌編集に携わりました。会員のひとこと原稿と寄稿を担当させていただきましたが、会員の皆様のご協力ですmoothに進めることができました。ありがとうございました。20周年記念誌を10年経った今読むと、当時とは違う面白さを感じます。30周年記念の「山友」が5年後、10年後に開かれたときに、皆様に懐かしく楽しんでいただける記念誌でありますように…。

(No.294 松田 希)

この編集後記を書いている今は、実はまだ編集作業の真っ盛りです…。編集作業をしながら特権

で発行前に原稿を読むことができ、会員の皆様の山への想いに触れ、すばらしい記念誌になるに違いないと確信しています。写真や原稿をお寄せいただき、どうもありがとうございました。

(No.301 久保 加世子)

今回の記念誌作成の中で、記念山行の部分を担当させていただきました。会員の皆さんが県内、県外、海外の色々な山行に参加されており、編集してみて改めて盛岡山友会の多様性を感じました。快く山行報告の原稿の作成を引き受けていただきました会員の皆様にお礼申し上げますとともに、編集の至らない点を補っていただいた部員に感謝いたします。

(No.323 三浦 良夫)

今回30周年記念誌の参考のために、10周年、20周年記念誌の抜粋をデジタルデータで読ませていただく事が出来ました。興味深い写真や原稿が多かったです。30周年記念誌が、10年後の会員の皆さんに楽しく読んでいただければと思います。

(No.357 渡部 彩子)

創立30周年の年に会報部長を引き受ける事となりました。記念誌は会報部が担当でしたが、10数名という少ない部員数で分担して作業を行い、今は、部員のみんでやっとなりあげの事ができたという気持ちです。私は山行回数も少なく会員の方々とつながりが薄い中、記念誌作業で多くの会員や旧会員の方々と電話で様々連絡させていただきお話しする事ができ、とてもよかったと思います。仙台では、若い頃同じ会に所属した事がある第二代会長の扇さんと久しぶりにお会いして祝文をお願いし、お酒も交えてゆっくりお話しする事ができました。ここに、記念誌編集にあたって御協力いただいたすべての方々にお礼申し上げます。

(No.372 辰巳 和司)

「山友」30周年記念誌編集担当

渡邊 健治 中村 美栄子
(以下会報部)

浦部 光生 田中 弘美 松田 幸久 松田 希
久保 加世子 三浦 良夫 渡部 彩子 石川 享子
辰巳 和司 菊池 重顕 三浦 明夫 小泉 岳央

(イラスト)

中村 美栄子 工藤 敬子 熊谷 久美子

(会員番号順)



「あかげら」2016年7月号 表紙 中村篤

山友 第28号

2016年11月26日

発行者 岩手県勤労者山岳連盟 盛岡山友会
 会長 渡邊 健治

編集責任者 会報部長 辰巳 和司

印刷／製本 (有)小松茂印刷所
 盛岡市大沢川原 2-5-37

